山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第59集

上の平遺跡

UENODAIRA　SITE

（第１・２・３次調査）

１９９１．３

山梨県教育委員会

上の平遺跡

1991.3

序

本報告書は、昭和55、56、57年度にわたり実施された曾根丘陵公園整備事業に伴う発掘調査の結果をまとめたものであります。

山梨県では、4世紀代での東日本で最大級の規模をもつ銚子塚古墳、全国的にもまれな二重石棺の内部構造をもつ大丸山古墳、さらに5世紀代の古式馬具を副葬する茶塚古墳等が立地する40haの地を「山梨県甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園」に設定し、その整備事業計画を進めておりますが、その事前発掘調査の一環として行われまして3ヵ年に及ぶ調査は、およそ3万㎡の大規模なものとなりました。

検出された遺構は、弥生時代後半から古墳時代にかけての方形周溝墓117基、弥生時代後半の住居址1軒、平安時代以降の住居址3軒であります。

特に、調査面積の全域から方形周溝墓が検出されたことで、当地域が弥生時代後半から古墳時代初頭にかけての墓域としての位置づけが可能となりました。

方形周溝墓から出土する遺物の大部分は構内からの土器が大半でありますが、この中には高さが70㎝以上にも達する大型なものがあり、又器面の表面に赤色塗彩等が施される例が多く認められ、実用器具を越えて供献用としての性格が想定されるものであります。土器以外の遺物は極端に少なく、第74号方形周溝墓より本県最古の鉄製品とされる鉄楔が出土しております。

先にも若干ふれましたが、この調査地区の1㎞の至近距離には、4世紀中葉の本県最古の小平沢古墳（前方後方墳）やこれに続く4世紀代の銚子塚古墳、大丸山古墳等、やや遅れて丸山塚古墳さらに5世紀後半の茶塚古墳と首長墓に関連した古墳が連綿と認められております。

今回の弥生後半～4世紀初頭にかけての方形周溝墓の検出によって山梨県における古墳発生前の墓制が明らかになるものと考えられます。

他県においても、風土記の丘公園内には、墓である古墳を主にオープン展示する例が少なくありませんが、本県例のように方形周溝墓から古墳に連綿と続く例は、希少であると思われます。

旧石器時代では、層位関係、遺構等は確認できませんでしたが、終末期頃のナイフ形石器等が5点確認されておりまして、周辺地域では層位的に同時代遺物が確認されていることより、それらの広がりがうかがえます。また縄文時代では、遺構等の確認はされませんでしたが、報告にもあるように調査の初年度1万㎡では調査区の全体から縄文土器の出土が確認されており、当台地が、大規模な縄文集落地として考えられるところであります。

こうした調査の成果は、学校教育、学術研究に資するとともに、郷土の歴史を知るうえでも貴重な記録となることを念じております。

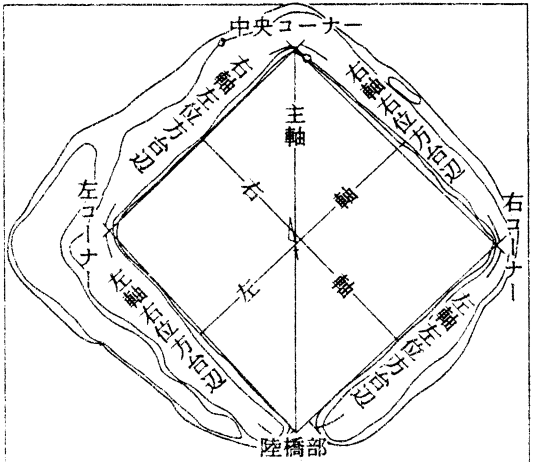
なお、本報告書が刊行されるまでには多くの方々からご支援、ご協力を賜わりました。関係機関各位、並びに直接調査に当たられた皆様方に、末筆ながら改めて厚く御礼申し上げます。

1991年3月

山梨県埋蔵文化財センター

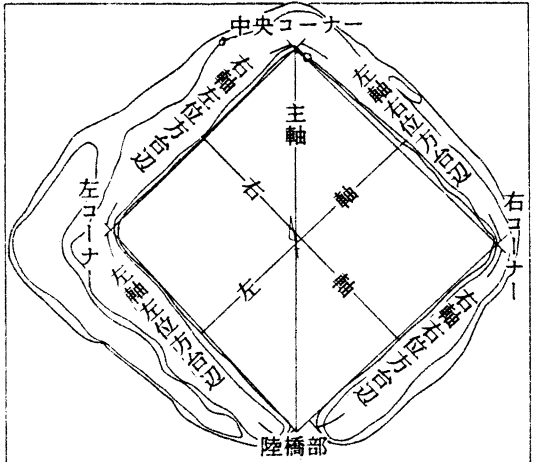
所長　**磯　貝　正　義**

正誤表



方形周溝墓・測点位置と名称

（誤）



方形周溝墓・測点位置と名称

（正）

例　　言

1　本書は、山梨県甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園建設にともなう、東八代郡中道町上の平遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、山梨県教育庁文化課が調査主体となって実施した。

3　発掘調査は昭和54年度、昭和55年度、昭和56年度の３カ年にわたって実施し、発掘調査にあたっては、小林広和（昭和５４年～昭和56年度）、出月洋文（昭和54年度）、中山誠二（昭和55、56年度）、が担当した。

4　写真撮影は、遺構は里村晃一が担当し、遺物は清水守が担当した。

5　本報告書にかかわる出土品および記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

6　遺物の実測は、菱山かつよ、保坂岳志、川住みち子、大沼美佐江、弦間千鶴、柏木まつえが行い、遺物、遺構のトレースは、弦間、柏木、野中はるみが行った。

7　出土品の整理には、以下の者が従事した。

河上幸二、内藤章、大塚一芳、山之内龍雄、富田政美、山本裕子、望月裕子、小林智夫、石原和人、内藤和久、辻村明宣、鈴木良弥、中西浩、宮川東が行った。

8　本書は、小林広和、里村晃一が編集、執筆した。

9　本分中の、方形周溝墓計測基準は次のとおりである。

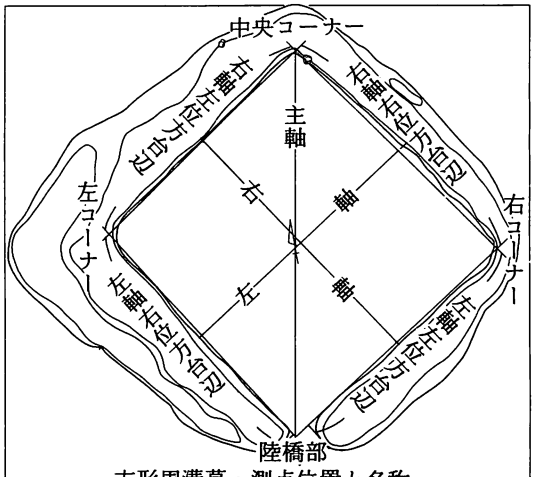
(1)左右の位置関係は陸橋部を基準とする。

(2)対応する方台部辺の中間点を結んだ線上を方台部軸と呼ぶ。

(3)各方台部辺名称は方台部軸の左側を左位方台辺、右側を右位方台部辺として、○軸○位方台辺と呼ぶ。

(4)陸橋部の対角に位置するコーナーを中央コーナーと呼び、両側コーナーをそれぞれ左、右コーナーとする。

(5)主軸は、中央コーナー中心部と、右軸右位方台辺と左軸左位方台辺を図上で陸橋部よりに延長してその接点とを結んだ線上を呼ぶ。



方形周溝墓・測点位置と名称

目　　次

序
例　　言
第１章　調査の概要……1
　第１節　調査の経緯と経過……1
　第２節　調査の概要……2
第２章　遺跡概況……3
　第１節　遺跡の位置及び周辺遺跡……3
第３章　発掘調査（第１年次）……5
　第１節　遺構の検出状況……5
　第２節　旧石器時代の遺物……5
　第３節　縄文時代の遺構と遺物……8
　第４節　弥生時代の遺構と遺物……10
　　１　方形周溝墓……10
　　第１年次（昭和54年度）小結……44
第４章　発掘調査（第２年次）……45
　第１節　遺構と検出状況……45
　第２節　弥生時代の遺構と遺物……45
　　１　方形周溝墓……45
　　第２年次（昭和55年度）小結……52
第５章　発掘調査（第３年次）……52
　第１節　遺構と検出状況……52
　第２節　弥生時代の遺構と遺物……53
　　１　方形周溝墓……53
　　２　住居址……60
　第３節　平安時代の遺構と遺物……61
　　第３年次（昭和56年度）小結……61
第６章　発掘調査のまとめ……176
　第１節　方形周溝墓出土土器……176
　第２節　墓群の設定……178
　第３節　墓群の構造……179
　第４節　上の平遺跡と古墳群……180
総　　括……181

挿　図　目　次

第１図　上の平遺跡位置図
第２図　上の平遺跡全景
第３図　上の平・出土遺物（旧石器時代）
第４図　上の平・方形周溝墓配置図
第５図　第１号方形周溝墓実測図
第６図　第１号・大形壺出土状況
第７図　第２号方形周溝墓実測図
第８図　第３号方形周溝墓実測図
第９図　第４号方形周溝墓実測図
第10図　第５号方形周溝墓実測図
第11図　第６号方形周溝墓実測図
第12図　第７号方形周溝墓実測図
第13図　第８号方形周溝墓実測図
第14図　第９、14号方形周溝墓実測図
第15図　第10号方形周溝墓実測図
第16図　第11号方形周溝墓実測図
第17図　第12号方形周溝墓実測図
第18図　第13号方形周溝墓実測図
第19図　第15号方形周溝墓実測図
第20図　第16号方形周溝墓実測図
第21図　第17号方形周溝墓実測図
第22図　第18号方形周溝墓実測図
第23図　第19号方形周溝墓実測図
第24図　第20号方形周溝墓実測図
第25図　第21号方形周溝墓実測図
第26図　第22号方形周溝墓実測図
第27図　第23号方形周溝墓実測図
第28図　第24号方形周溝墓実測図
第29図　第25号方形周溝墓実測図
第30図　第26号方形周溝墓実測図
第31図　第27号方形周溝墓実測図
第32図　第28号方形周溝墓実測図
第33図　第29号方形周溝墓実測図
第34図　第30号方形周溝墓実測図
第35図　第31号方形周溝墓実測図
第36図　第32、46号方形周溝墓実測図
第37図　第33号方形周溝墓実測図
第38図　第34号方形周溝墓実測図
第39図　第35号方形周溝墓実測図
第40図　第36号方形周溝墓実測図
第41図　第37号方形周溝墓実測図
第42図　第38号方形周溝墓実測図
第43図　第39号方形周溝墓実測図
第44図　第40号方形周溝墓実測図
第45図　第41号方形周溝墓実測図
第46図　第42号方形周溝墓実測図
第47図　第43、44号方形周溝墓実測図
第48図　第45号方形周溝墓実測図
第49図　第47号方形周溝墓実測図
第50図　第48、49、53号方形周溝墓実測図
第51図　第50号方形周溝墓実測図
第52図　第51、52号方形周溝墓実測図
第53図　第54、55号方形周溝墓実測図
第54図　第56、60、61、67、68、71号方形周溝墓実測図
第55図　第57号方形周溝墓実測図
第56図　第58号方形周溝墓実測図
第57図　第59号方形周溝墓実測図
第58図　第62号方形周溝墓実測図
第59図　第63号方形周溝墓実測図
第60図　第64、65、66号方形周溝墓実測図
第61図　第69号方形周溝墓実測図
第62図　第70号方形周溝墓実測図
第63図　第72、73号方形周溝墓実測図
第64図　第74号方形周溝墓実測図
第65図　第80号方形周溝墓実測図

第66図　第106号方形周溝墓実測図
第67図　第107、108号方形周溝墓実測図
第68図　第109号方形周溝墓実測図
第69図　第110号方形周溝墓実測図
第70図　第111号方形周溝墓実測図
第71図　第112号方形周溝墓実測図
第72図　第113号方形周溝墓実測図
第73図　第114号方形周溝墓実測図
第74図　第115号方形周溝墓実測図
第75図　第116号方形周溝墓実測図
第76図　第117号方形周溝墓実測図
第77図　Ｙ１号住居址実測図
第78図　Ｈ１号住居址実測図
第79図　Ｈ２号住居址実測図
第80図　Ｈ３号住居址測図
第81図　上の平・遺構外出土土器(縄文時代)
第82図　上の平・遺構外出土土器(縄文時代)
第83図　上の平・遺構外出土土器(縄文時代)
第84図　上の平・遺構外出土土器(縄文時代)
第85図　第１号方形周溝墓出土土器
第86図　第１、２、５、７号方形周溝墓出土土器
第87図　第８、10、11号方形周溝墓出土土器
第88図　第15号方形周溝墓出土土器
第89図　第15号方形周溝墓出土土器
第90図　第17、18、19号方形周溝墓出土土器
第91図　第17、20、21号方形周溝墓出土土器
第92図　第23、24号方形周溝墓出土土器
第93図　第23、25、26号方形周溝墓出土土器
第94図　第27号方形周溝墓出土土器
第95図　第27、34号方形周溝墓出土土器
第96図　第28号方形周溝墓出土土器
第97図　第28、29、31号方形周溝墓出土土器
第98図　第33、34、37号方形周溝墓出土土器
第99図　第38、39、40、41、43、51号方形周溝墓出土土器
第100図　第47、50号方形周溝墓出土土器
第101図　第50号方形周溝墓出土土器
第102図　第50号方形周溝墓出土土器
第103図　第50号方形周溝墓出土土器
第104図　第58、60号方形周溝墓出土土器
第105図　第70、73、74、109号方形周溝墓出土土器
第106図　第74、117号方形周溝墓出土土器
第107図　第78、80、104号方形周溝墓出土土器
第108図　第106、108号方形周溝墓出土土器
第109図　第109号方形周溝墓出土土器
第111図　第110号方形周溝墓出土土器
第112図　第110号方形周溝墓出土土器
第113図　第110号方形周溝墓出土土器
第114図　第111、112号方形周溝墓出土土器
第115図　第113、114、116号方形周溝墓出土土器
第116図　第116号方形周溝墓出土土器
第117図　Ｙ１号住居址出土土器
第118図　土器の分類

図 版 目 次

図版１　第１号方形周溝墓全景
第１号方形周溝墓全景、
（セクション付）
図版２　第１号方形周溝墓遺物出土状況
第１号方形周溝墓堆積状況
図版３　第２、３号方形周溝墓
第２号方形周溝墓セクション
第３号方形周溝墓セクション
図版４　第４号方形周溝墓全景
第４号方形周溝墓セクション付全景
第４号方形周溝墓セクション
図版５　第５、６号方形周溝墓全景
第５号方形周溝墓セクション
第６号方形周溝墓セクション
図版６　第７号方形周溝墓平面
第７号方形周溝墓セクション
第７号方形周溝墓遺物出土状況
図版７　第８号方形周溝墓全景
第８号方形周溝墓遺物出土状況
第８号方形周溝墓セクション
第９号方形周溝墓全景
図版８　第10号方形周溝墓全景
第10号方形周溝墓遺物出土状況
第10号方形周溝墓セクション
図版９　第11号方形周溝墓全景
第11号方形周溝墓セクション
図版10　第12号方形周溝墓全景
第13号方形周溝墓全景
第13号方形周溝墓セクション
図版11　第14号方形周溝墓全景
第14号方形周溝墓セクション付
第15号方形周溝墓全景
第15号方形周溝墓セクション
第15号方形周溝墓遺物出土状況
図版12　第16号方形周溝墓全景
第16号方形周溝墓セクション
図版13　第17号方形周溝墓全景
第17号方形周溝墓遺物出土状況
第17号方形周溝墓セクション
図版14　第18号方形周溝墓全景
第18号方形周溝墓遺物出土状況
第18号方形周溝墓セクション
図版15　第19号方形周溝墓全景
第19号方形周溝墓セクション
図版16　第20号方形周溝墓全景
第20号方形周溝墓セクション
図版17　第21号方形周溝墓全景
第21号方形周溝墓セクション
図版18　第22号方形周溝墓全景
第22号方形周溝墓セクション
図版19　第23号方形周溝墓全景
第23号方形周溝墓遺物出土状況
第23号方形周溝墓セクション
図版20　第24号方形周溝墓全景
第24号方形周溝墓セクション
図版21　第25号方形周溝墓全景
第26号方形周溝墓全景
図版22　第27号方形周溝墓全景
第27号方形周溝墓遺物出土状況
図版23　第28号方形周溝墓全景
第28号方形周溝墓セクション
図版24　第29号方形周溝墓全景
第29号方形周溝墓セクション
図版25　第30号方形周溝墓全景
第30号方形周溝墓セクション
図版26　第31号方形周溝墓全景

第31号方形周溝墓セクション
図版27　第32号方形周溝墓全景
第33号方形周溝墓全景
第33号方形周溝墓セクション
図版28　第34号方形周溝墓全景
第34号方形周溝墓遺物出土状況
第34号方形周溝墓セクション
図版29　第35号方形周溝墓全景
第35号方形周溝墓セクション
図版30　第36号方形周溝墓全景
第36号方形周溝墓セクション
図版31　第37号方形周溝墓全景
第37号方形周溝墓遺物出土状況
第37号方形周溝墓セクション
図版32　第38号方形周溝墓全景
第38号方形周溝墓セクション
第39号方形周溝墓全景
図版33　第40号方形周溝墓全景
第40号方形周溝墓セクション
図版34　第41号方形周溝墓全景
第41号方形周溝墓セクション
第42号方形周溝墓全景
第42号方形周溝墓セクション
図版35　第43号方形周溝墓全景
第43号方形周溝墓セクション
図版36　第44号方形周溝墓全景
第44号方形周溝墓セクション
図版37　第45号方形周溝墓全景
第46号方形周溝墓全景
第46号方形周溝墓セクション
図版38　第47号方形周溝墓全景
第47号方形周溝墓セクション
図版39　第49号方形周溝墓全景
第50号方形周溝墓全景
第50号方形周溝墓セクション
第50号方形周溝墓遺物出土状況
図版40　第51号方形周溝墓全景
第51号方形周溝墓セクション
図版41　第52号方形周溝墓全景
第52号方形周溝墓セクション
第53号方形周溝墓全景
図版42　第54号方形周溝墓全景
第55号方形周溝墓全景
第55号方形周溝墓セクション
図版43　第56号方形周溝墓全景
第56号方形周溝墓セクション
図版44　第57号方形周溝墓全景
第57号方形周溝墓セクション
図版45　第58号方形周溝墓全景
第58号方形周溝墓遺物出土状況
図版46　第58号方形周溝墓セクション
第59号方形周溝墓全景
図版47　第60号方形周溝墓全景
第61号方形周溝墓全景
図版48　第62号方形周溝墓全景
第63号方形周溝墓全景
図版49　第64号方形周溝墓全景
第64号方形周溝墓セクション
第65号方形周溝墓セクション
図版50　第68号方形周溝墓セクション
第71号方形周溝墓セクション
第73号方形周溝墓遺物出土状況
図版51　第67号方形周溝墓全景
第67号方形周溝墓セクション
第70号方形周溝墓セクション
第70号方形周溝墓全景
図版52　第72号方形周溝墓全景
第74号方形周溝墓確認状況
第74号方形周溝墓全景
図版53　第74号方形周溝墓鉄楔出土状況
第74号方形周溝墓土器出土状況
第74号方形周溝墓セクション
図版54　第106号方形周溝墓・Ｙ１号住居址
切合い

Ｙ１号住居址・セクション・遺物出土状況
第106号方形周溝墓セクション
図版55　第106、107号方形周溝墓
第107号方形周溝墓全景
図版56　第107号方形周溝墓遺物出土状況
第107号方形周溝墓セクション
図版57　第108号方形周溝墓全景
第108号方形周溝墓セクション
図版58　第109号方形周溝墓全景
第109号方形周溝墓遺物出土状況
第109号方形周溝墓セクション
図版59　第110号方形周溝墓全景
第110号方形周溝墓大形壺出土状況
図版60　第110号方形周溝墓大形壺出土状況
南溝出土状況
第110号方形周溝墓遺物出土状況
図版61　第111号方形周溝墓全景
第111号方形周溝墓セクション
図版62　第112号方形周溝墓全景
第112号方形周溝墓セクション
図版63　第112号方形周溝墓全景
第112号方形周溝墓セクション
図版64　第113号方形周溝墓全景
第113号方形周溝墓セクション
図版65　第114号方形周溝墓全景
第114号方形周溝墓セクション
図版66　第115号方形周溝墓全景
第115号方形周溝墓セクション
図版67　第116号方形周溝墓全景
第116号方形周溝墓遺物出土状況
図版68　第116号方形周溝墓遺物出土状況
第116号方形周溝墓セクション
図版69　第117号方形周溝墓全景
第80号方形周溝墓全景
図版70　第１号方形周溝墓出土・大形壺
第７号方形周溝墓出土・小形壺
第８号方形周溝墓出土・壺
図版71　第10号方形周溝墓出土・小形壺
第18号方形周溝墓出土・小形甕
第15号方形周溝墓出土・壺
図版72　第15号方形周溝墓出土・台付甕
第23号方形周溝墓出土・台付甕
第23号方形周溝墓出土・片口土器
（正面）
第23号方形周溝墓出土・片口土器
（側面）
図版73　第20号方形周溝墓出土・壺
第27号方形周溝墓出土・壺
第28号方形周溝墓出土・壺
図版74　第24号方形周溝墓出土・台付甕
第29号方形周溝墓出土・壺
第34号方形周溝墓出土・台付鉢形土器
第34号方形周溝墓出土・台付甕
図版75　第37号方形周溝墓出土・長頸壺
第47号方形周溝墓出土・小形鉢形土器
第51号方形周溝墓出土・高坏
第58号方形周溝墓出土・甕
図版76　第50号方形周溝墓出土・壺
図版77　第74号方形周溝墓出土・壺
第74号方形周溝墓出土・鉄楔
図版78　第106号方形周溝墓底部穿孔土器
第106号方形周溝墓出土土器
（左図の底部）
第106号方形周溝墓出土・壺
図版79　第110号方形周溝墓出土・大形壺
第110号、109号方形周溝墓出土・壺
（接合資料）
第110号方形周溝墓出土・壺
図版80　第110号方形周溝墓出土・大形壺
図版81　第116号方形周溝墓出土土器

第１章　調査の概要

第１節　調査の経緯と経過

（第１年次調査）調査期間　昭和54年６月13日～54年11月30日

公園整備に先立ち、『風土記の丘基本構想』が昭和50年３月に山梨県によりまとめられ、上の平遺跡を中心に立石遺跡、宮の上遺跡、東山南遺跡が立地する地域一帯に芝生広場、植物園が計画された。

同年５月の『基本構想』には、当該遺跡を含む周辺地域は、サッカーコート、テニスコート、移築民家の建設が計画された。翌年の51年３月の『風土記の丘基本設計』では上の平遺跡の中心地は運動広場があてられ、その周辺はバレーボールコート、テニスコートが計画された。

その後、計画進行のため山梨県と県教育委員会とが協議を行い、昭和54年度分の１万㎡を対象として運動広場建設工事計画が発表された。

県教育委員会では、運動広場建設に先立ち発掘調査通知を文化庁に昭和54年６月13日に提出した。

発掘調査は同年11月30日まで実施し、一辺が30ｍを越す大形の方形周溝墓を含む、弥生時代終末から古墳時代初頭期の方形周溝墓55基を検出した。

その結果は長野、東京、神奈川、埼玉県と周辺地域において方形周溝墓の確認が多く知られる中で、山梨県のそれまでの検出例は少なく、空白部となっていたのが、上の平遺跡の方形周溝墓群の発見の意義は大きく、一挙に空白を埋めるものであった。

また、この上の平遺跡の周囲の半径約１㎞の中には東日本でも最大級を誇る銚子塚古墳をはじめ、大丸山古墳、丸山塚古墳、茶塚古墳などの古代山梨の首長墓が４世紀～５世紀後半まで連綿と営まれる事実が知られており、限られた一定地域の範囲内において弥生終末の方形周溝墓から前期古墳につながるという例は全国でも希少であり、このような環境下の中で古代山梨の首長墓以前と以後を考える上で当遺跡は重要な問題点を含んでいるということが判明した。併せて学術上重要な遺跡、かつ大規模な遺跡群であるという観点から、１万㎡の発掘区は、ビニール・シートで覆い、埋めもどされた。

（第２年次調査）調査期間　昭和55年６月15日～55年12月20日

前年に確認された調査区の拡張確認調査のため、昭和55年５月26日に発掘調査通知を文化庁に提出した。調査は昭和55年６月15日から同年12月20日まで行った。

初年度の調査区を西北部に拡張して調査し、合計50基を確認し、そのうち初年度に隣接する20基を掘り下げた。方形周溝墓出土の遺物で特記されるものには、第74号方形周溝墓の北側溝底部より県内で初の弥生終末から古墳初頭の鉄製の楔が検出されている。

（第３年次調査）調査期間　昭和56年６月15日～56年12月22日

上の平遺跡範囲確認のため、遺跡の西部地域と東山南遺跡の確認のため、昭和56年５月28日に

発掘調査通知を文化庁に提出する。遺跡西部では面積が狭く、方形周溝墓12基の追加にとどまったが、遺跡全体では合計117基の確認がなされ台地全域に及ぶことが確認された。しかし集落は検出されず、墓域のみが突出する特殊な遺跡であることも併せて確認されるにいたったのである。

第２節　調査の概要

本遺跡の発掘調査は昭和54年６月より56年11月までの３年度にわたり実施された。

（第１年次調査）

調査は、54年６月15日に公園建設予定地10000㎡対象に開始した。まず調査地域の表土除去を重機により行った。表土の20～30㎝の除去を行うと、ハードローム面が現れ、そのローム面を切り込んだ状態で方形区画の溝が確認される。

遺構確認、精査と並行して杭打ちを行い、杭番号を設定し、東西（Ｘ軸）をアルフアベットＡ～Ｚ，ａ～ｚ、南北（Ｙ軸）を算用数字１～100とした。本年度はGrid,M～n－（－3,30）までを設定した。方形周溝墓は確認段階では調査対象区の全面に検出された。

出土遺物は、縄文土器を中心に、弥生土器、旧石器が認められ、調査区全面に認められる。遺構掘り下げは一辺30m級の大形方形周溝墓より行った。調査が進むにつれて、方形周溝墓は、密集して存在するため、隣接する溝が切り合う、重復関係を示す例が多いことが判明し、方形周溝墓の構築順をとらえるため、セクション・ベルトを設け観察を行った。また、縄文時代の遺構も多く、１号方形周溝墓では、方台部に５軒の遺構が重複する箇所も溝壁より確認されており、他の方形周溝墓の掘り下げ時にも多くの石組炉等が検出されていることや、土器の分布も調査区全域に及ぶため大集落が想定されるが、調査は方形周溝墓のみ重点を置いたため、下部遺構の縄文住居は未発掘である。54年10月末終了までに55基を掘り下げ、11月上旬には航空撮影を行い、埋め戻した。

（第２年次調査）

前年度に引き続き、遺跡内の遺構確認調査を行うべく、杭打ち及びグリッット設定をおこなう。前年度はGrid・L～K－(4～30）であったが、本年度はこれを、北、西に調査区を広げGrid・E～２Ｃ－（14～69）とした。前年度同様重機により、表土を削平し、遺構確認を行った。50基を確認して、その内20基を掘り下げた。

この地区は遺跡の削平が最も進んでおり、方形周溝墓の幾つかは、溝が消失していた。方形周溝墓は前年同様に台地平坦部に全面に存在している。縄文時代遺構は第58号方形周溝墓の方台部に１基確認されたのみで、極端に少なくなる。

また、方形周溝墓の遺物は前年同様少ないが、第74号方形周溝墓では、北溝底より鉄製楔１点が検出されたのが注目される。

調査は11月上旬まで行い、冬にそなえ埋め戻した。

（第３年次調査）

第１・２年度に引き続き、遺跡西端部の遺構確認調査を行う。やはり重機による表土剝ぎを行った後、杭打ち、杭設定を行う。調査範囲は、未買収区や地形の制約を受けるために、前年度等に

比較して、極端にせまくGrid・p～２A－（75～90）の範囲にとどまった。

調査は、昭和56年６月15日より開始して、同年11月末日まで行った。その後、遺跡保護のため埋め戻しを行っている。

地形は台地の端部に近く谷部が迫りやや北斜面上に位置しており、斜面なりに大幅な削平を受けている箇所も認められた。方形周溝墓以外では、弥生時代住居１軒、平安以降住居３軒が検出された。縄文時代では、遺物が僅かに認められたが、遺構等は確認されない。

第２章　遺跡概況

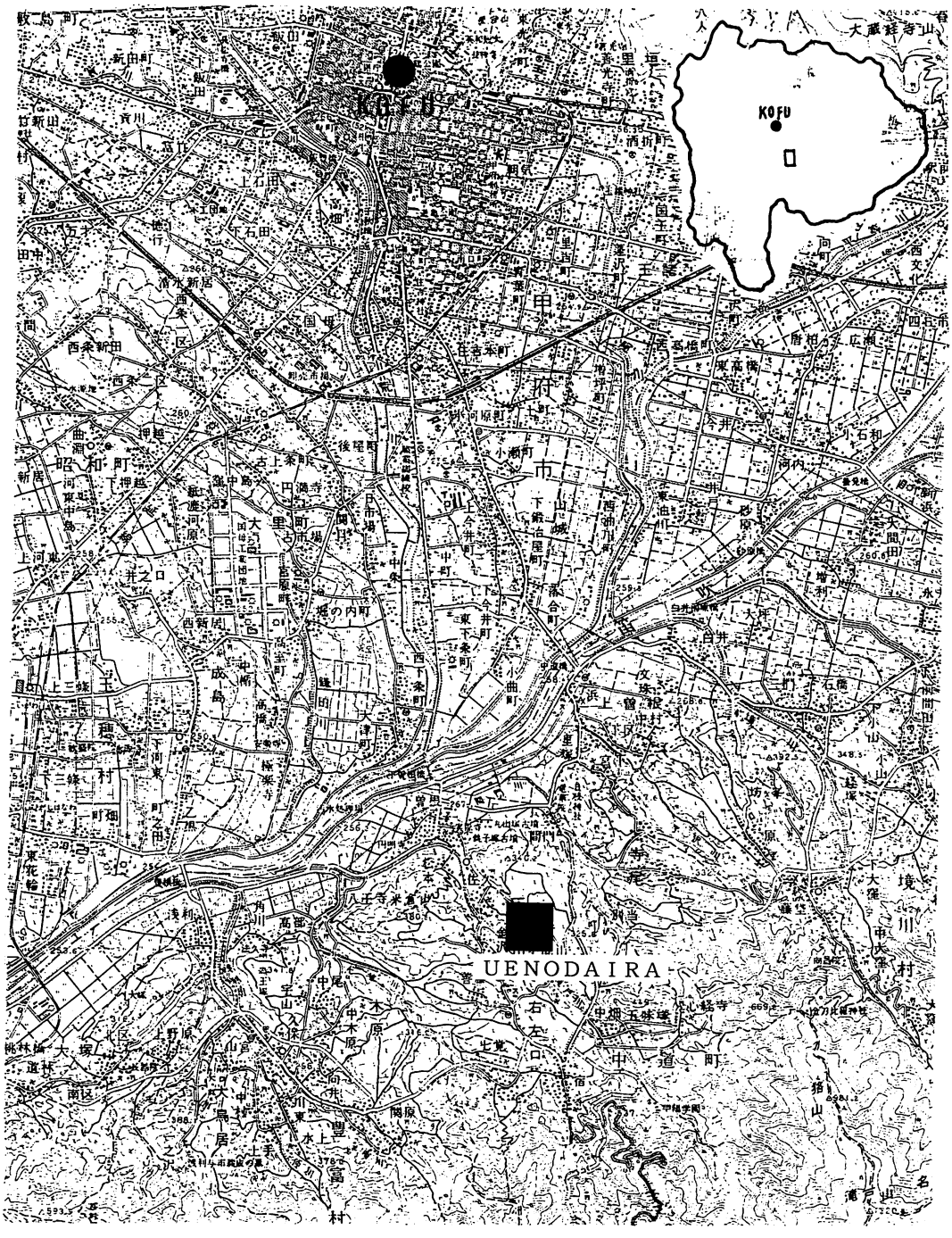
第１節　遺跡の位置及び周辺遺跡

上の平遺跡の属する中道町は甲府盆地の東南部に位置している。甲府盆地は山梨県の中央部に当たり、盆地内を流れる釜無川、笛吹川の流れに沿って広がっている。両河川の合流点の鰍沢町付近より釜無川に沿って北上すると釜無川は八ケ岳南麓を経て諏訪湖に至り、続く松本平を含めて、一構造盆地をなしている。しかし、韮崎を過ぎると平坦地は少なくなり、丘陵地帯が河川の両岸に続いている。一方、笛吹川は東北方向に上流部が伸び、多くの支流に分かれながら秩父山地に至るが、平地が広がっているのは塩山までである。このように甲府盆地は２本の主要河川の流域によって形成されるため、中心部は三角形を呈し、上流部に向かって更に広がり「Ｙ字状」となる。

甲府盆地の外部は、北西の八ケ岳、南東の富士山を両極として、西に駒ヶ岳、白根山などの赤石山脈の山々が標高3000ｍの壁をなして連なっている。東は秩父山地より続く山々が大菩薩嶺付近まで標高2000ｍ前後で続くが、その南は富士東麓まで標高1500ｍ前後で、極端に高い山は見当たらない。

富士山麓と甲府盆地を隔てる御坂山地は東より黒岳、節刀カ岳、王岳と続くが、富士山の雄大さの前には目立たない。これら御坂山地の山々に沿って、芦川が流れ、甲府盆地に至るには再度釈迦ヶ岳、春日山、滝戸山等の標高1200～1500ｍの山々を越えなければならない。これらの山々は東西方向に続き山裾は傾斜が緩くなり、上の平遺跡が位置する曾根丘陵と総称される丘陵地帯が東西に広がっている。

曾根丘陵の先端は東より坊ヶ峰、東山、米倉山、王塚等の高位段丘が位置して、東西12.5㎞、南北３㎞の広がりが認められる。背後の山々から緩く下った斜面は高位段丘の先で急傾斜となって盆地底部に至り、距離を置かず笛吹川が流れている。曾根丘陵直下を流れる笛吹川の支流は南北の方向の本流に流れ込み、左岸の支流は曾根丘陵の背後を流れる芦川を除くと、いずれも小河川である。右岸の支流は盆地を南下するため下流ほど支流の長さが長く荒川は盆地中央部を釜無川と平行している。上の平遺跡が立地する曾根丘陵、東山台地は、南北を滝戸川、間門川が流れ、幅２㎞、長さ５㎞の台地で台地先端部は急斜面となり、扇状地は形成しない。また台地傾斜は先端部側が高くなり、山よりに緩やかな傾斜をなしている。



第１図　上の平遺跡位置図

上の平遺跡の乗る曾根丘陵台地以外は先に述べたとおり、大小河川の氾濫原であり、台地以下での遺跡発見は困難で、今日までのところ、この曾根丘陵に集中して、県内でも密集する地域として著名である。遺跡付近をみても、弥生関係では、宮ノ上、立石、熊久保、東山南等が同一台地に密集して立地し、いずれも弥生終末から古墳時代前半期に位置付けられることから、遺跡間における研究を進める中で居住地と墓域が構造的にとらえられる可能性をもっている。旧石器関係では、立石、宮ノ上で、武蔵野台地第Ⅳ、Ⅶ、Ⅸ層に対比されると考えられる石器群が小規模ながら層位的に認められており、上の平遺跡にも遺跡確認作業中に少量認められることから、台地全域に広がる可能性をも思慮している。縄文時代では、立石、上野原、城ノ越、村上遺跡が知られ、台地ではほぼ全域に縄文土器が認められ、大遺跡群が想定される。古墳では、上の平遺跡を下った東山古墳群が著名で、前方後円墳の銚子塚古墳、大丸山古墳、円墳の丸山塚古墳、茶塚古墳の有力古墳が集中している。

第３章　発掘調査（第１年次）

第１節　遺構の検出状況

第１年度運動広場予定地１万㎡を対象に、表土20～30㎝を削平した状態で、方形周溝墓の溝への落ち込み土である黒色土が検出される。合計55基を確認し、55基を完掘した。このうち、南端の51、52号、東端の49、53、48、50号等は区画外に一部がはみ出すため一部は未発掘である。方形周溝墓の保存状態であるが、削平が相当進んでいるものと考えられ、主体部等は検出されず小形方形周溝墓では溝の一部を消失するものさえ認められた。方形周溝墓の下部には、縄文時代集落が方形周溝墓調査の際に認められ、その範囲も今回の調査区全域に及び大規模なものが想定されたが、今回の調査は方形周溝墓のみに限定したため、詳細な数、位置等は不明である。また、旧石器時代の石器類も数点検出されたが、ローム層の掘り下げは、方形周溝墓保存のため行わず、採集のみに止めた。

第２節　旧石器時代の遺物

今回の調査では、包含層からの検出はなく、いずれも遺構の確認作業や遺構の掘り下げ作業時の際に遺構の覆土等から偶然発見されたものである。これら、ナイフ形石器３点を含む、剥片類は上の平遺跡内で発見される多くの縄文期の石器とは明らかに異なり、旧石器時代の産物として特徴づけるものであり、東京・武蔵野台地の編年でいうと、第ⅡＢ期に相当するものと思われる。それでは以下にこれら石器の特徴を記することにする。

ナイフ形石器（第３図１、２、３）：合計３点が検出された。

１は、石材に黒燿石を用いる。素材は比較的整った石刃を用いており、表面の観察からは５回以上の剥片剥離作業が行われた後、素材が剥離されたものである。ナイフ製作時での剥片の用い方は、縦方向に素材を用い、打面の方向を基部としている。形態は二側辺加工であり鋭い先端部

とそれに続く身の長さの$\frac{1}{2}$以上の刃部をもつ。全長4.4㎝、幅1.3㎝、厚さ0.6㎝、先端角度39°で刃部は右位にとる。形状は三角形となる。基部の形状は基部の調整剝離がほぼ直線上に施されるもので、鋭角に突出する。調整剝離は、急斜な刃潰加工を施した後、厚さの$\frac{1}{4}$に及ばない微調整による剝離痕が認められる。調整方向は裏面から表面のものが大部分であるが中央よりやや上部では表面よりの刃潰加工が１カ所認められる。重量2.3ｇ。

２は、石材に黒燿石を用いる。素材は平行稜線が認められる整った石刃である。ナイフ製作時での剝片の用い方は縦方向に素材を用い、打面の方向を先端に用いる。形態は二側辺加工で刃部が身の上部に限られ、先端の角度が大きい。全長3.75㎝、幅1.3㎝、厚さ0.4㎝、先端角度32°、刃部位は左位をとる。基部の形状は急斜な刃潰加工により円形に認められる。調整剝離は急斜な刃潰加工により表裏両方より施され、さらに微調整を繰り返される。また裏面においては基部から胴部付近において平坦剝離に近い調整剝離痕が認められる。重量2.3ｇ。

３は、分厚いが整った小形剝片を用いる。器体の一側縁にのみ急斜な調整剝離を表裏より施し、さらに微調整を施したナイフ形石器である。石材は頁岩であり、剝片の利用法は縦に用いて打面を残し、打面の方向を基部としている。全長3.3㎝、幅1.0㎝、厚さ0.7㎝、重量2.9ｇを計測する。

縦長剝片（第４図４）：材質は黒燿石で、長さ7.2㎝、幅3.95㎝、厚さ1.9㎝、重量19.2ｇで剝離角度113°を測る。礫表を残し３回以上の一定方向からの剝離痕が残る。分厚いが比較的整っている大形剝片である。

削器　（第４図５）：二本の平行稜線をもつ整った石刃を素材とする。縁辺に集中して交互剝離に近い技法が施されるが、剝片の現状は変えない。裏面は平坦剝離面が発達する。

第３節　縄文時代の遺構と遺物

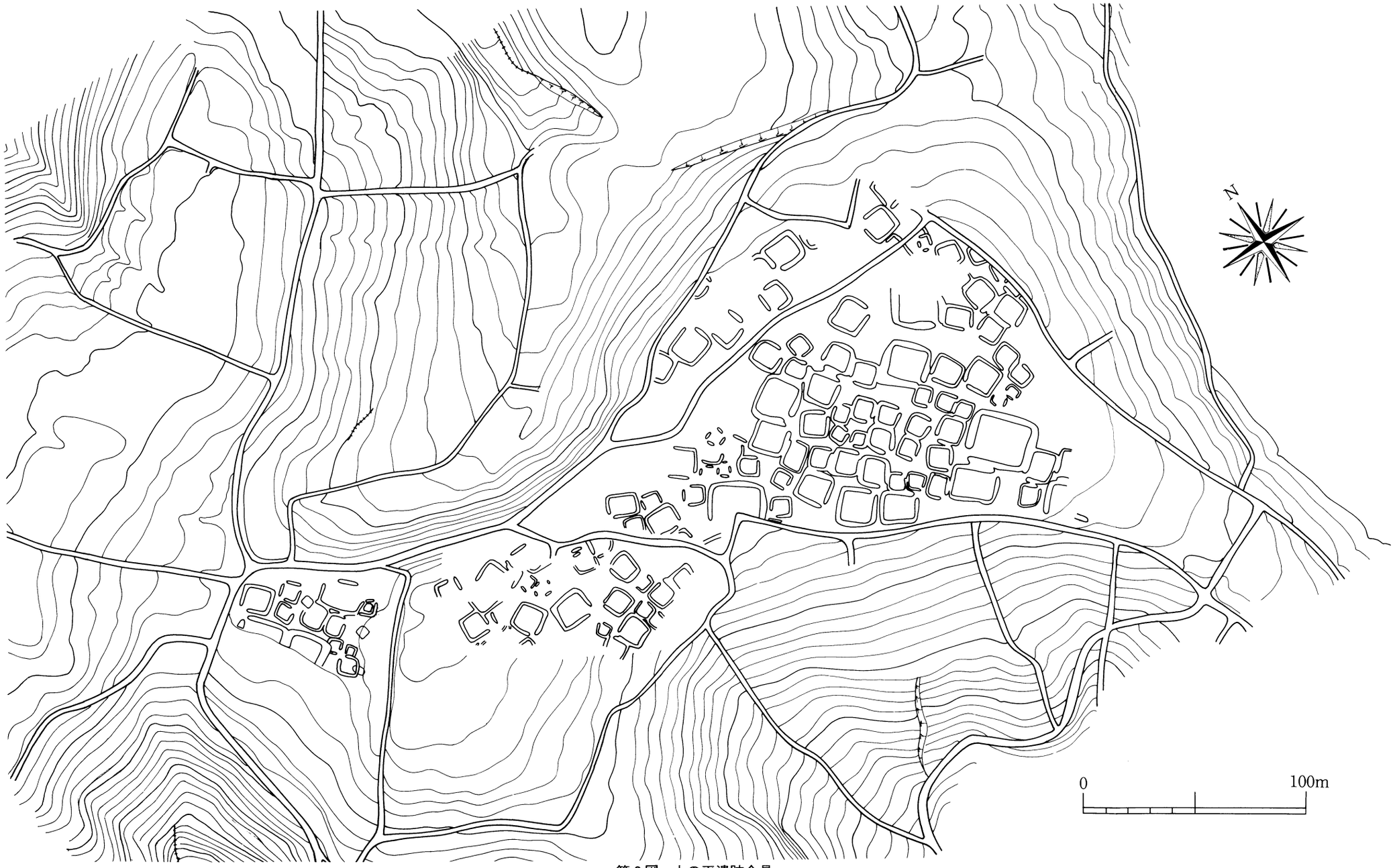
１次調査～３次調査では、方形周溝墓の確認を行い、下部遺構は未調査のままで今回採集した遺物は、方形周溝墓の確認調査、もしくは掘り下げ調査の際に混入して出土したものである。出土土器は、方形周溝墓１～55号の調査に伴って出土したものが主体であり、56号～71号付近では、住居址１軒（円形の黒色土）が確認されたが、出土量は極端に少なくなり、さらに西側106号から117号では、縄文の遺構は確認されず土器出土量も極端になくなることから、上の平遺跡での縄文集落は先の１～55号に集中して、その土器の量も縄文中期を中心にプラ箱50個を越えることから、大規模集落が想定出来る。

出土土器（第81～84図）

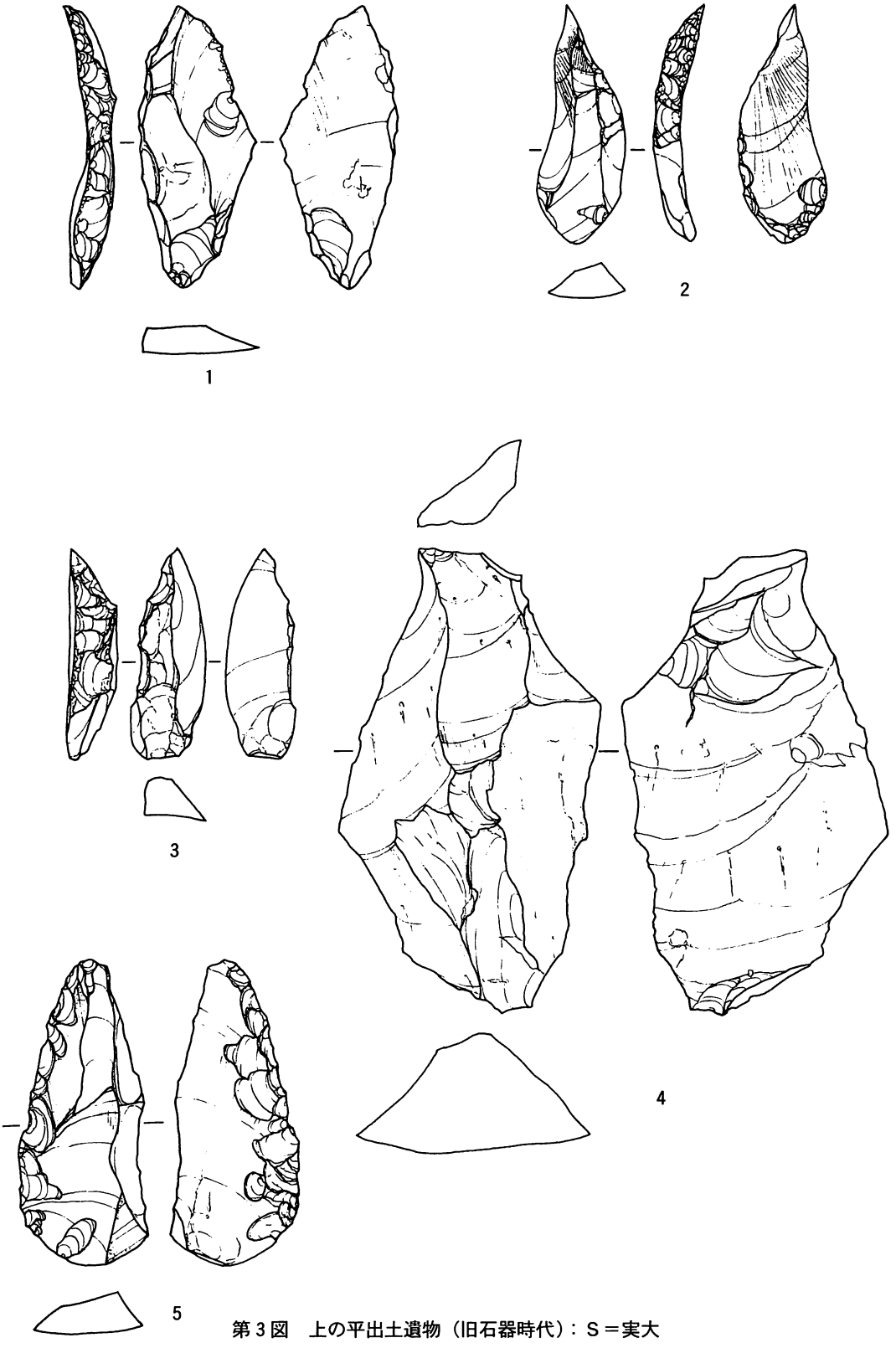
１は、胴部破片で、３本１単位の結節押引文による隆線が曲線、直線状に認められ、下部では三角刻文が認められる。十三菩堤期に比定できる。

２～６は五領ヶ台並行期である。２はキャリパー形深鉢で、波状口縁に近い形態を有する。施文は細かい張り付け隆線に爪形状に押引文が認められる。３は、半截竹管状工具の内皮面による集合沈線によって、縦位、横位に施文される。４～６は地文に縄文が認められるもので、胎土には、金雲母が多量に入る。

７～13は、藤内Ｉ期に比定するもので、隆線文主体のものと（８、９、11、12）、区画文（７、



第２図　上の平遺跡全景



第３図　上の平出土遺物（旧石器時代）：Ｓ＝実大

10、13）に分けられる。７は器面に直接施文したもので、隆線等は認められない。13は区画の隆線が発達しており、７と同様、古式の様相を呈する。47、48は、やはり古式の藤内期に入るものと考える。47は、捩れの隆線円形隆線を中心に、左右は、連続三角刺突による方形区画を形成する。

15～22、49～52は井戸尻期に比定する。15、18、21はキャタピラ隆帯文による、楕円区画が施されるもので、中には集合沈線、縄文が充塡される。16は口縁部に三角状の突起を設ける。

23～45は曽利期の所産である。30は、頸部破片で地文に縄文ＲＬを施した後、爪形状結節押引文による隆帯文が貼付される。曽利Ｉ期に比定されよう。

24～29は曽利II期に比定されるものである。24は大形な重孤文土器の口縁部で、頸部以下は欠損する。25は、恐らく波状口縁を有するものである。口縁には並行に１条の隆線を貼付け、波状頭部には、↑状の粘土を貼付け、それ以下では波状沈線による懸垂文が認められる。地文は縄文ＬＲである。29は大形キャリパー土器の頸部破片で、粘土紐による横位の隆線、縦位、斜位による格子目が形成される。

31、34、36、37は曽利III期の範疇に入るものと考える。36は地文に縄文ＲＬを施し、縦位、横位の並行沈線文を施している。37は口縁部の破片で撚糸文が施される。31は大形土器の胴部破片で地文に集合沈線を施し、２条の並行隆線が楕円を描く。34は地文に縄文ＲＬを施し、頸部の下位に１条の微隆起線文、それ以下では２条の並行沈線文が施される。

35、38、39、42～44は曽利Ⅳ期で、施文手法は半肉状の隆帯文による。胴部中央に渦巻文と楕円区画の組合文をもつもの（35）、渦巻文からの懸垂が認められるもの（38、39、44）、方形区画文によるもの（42）等が認められる。

45は中央に隆帯文の懸垂を施し、両側に連続ハ字状文が充塡されるもので、曽利Ⅳ～Ⅴ期に比定できよう。46は口縁部に並行に磨消縄文の文様帯が１条認められる。縄文はＬＲで、後期初頭に位置するものと考える。

第４節　弥生時代の遺構と遺物

１　方形周溝墓

第１号方形周溝墓（第５図）

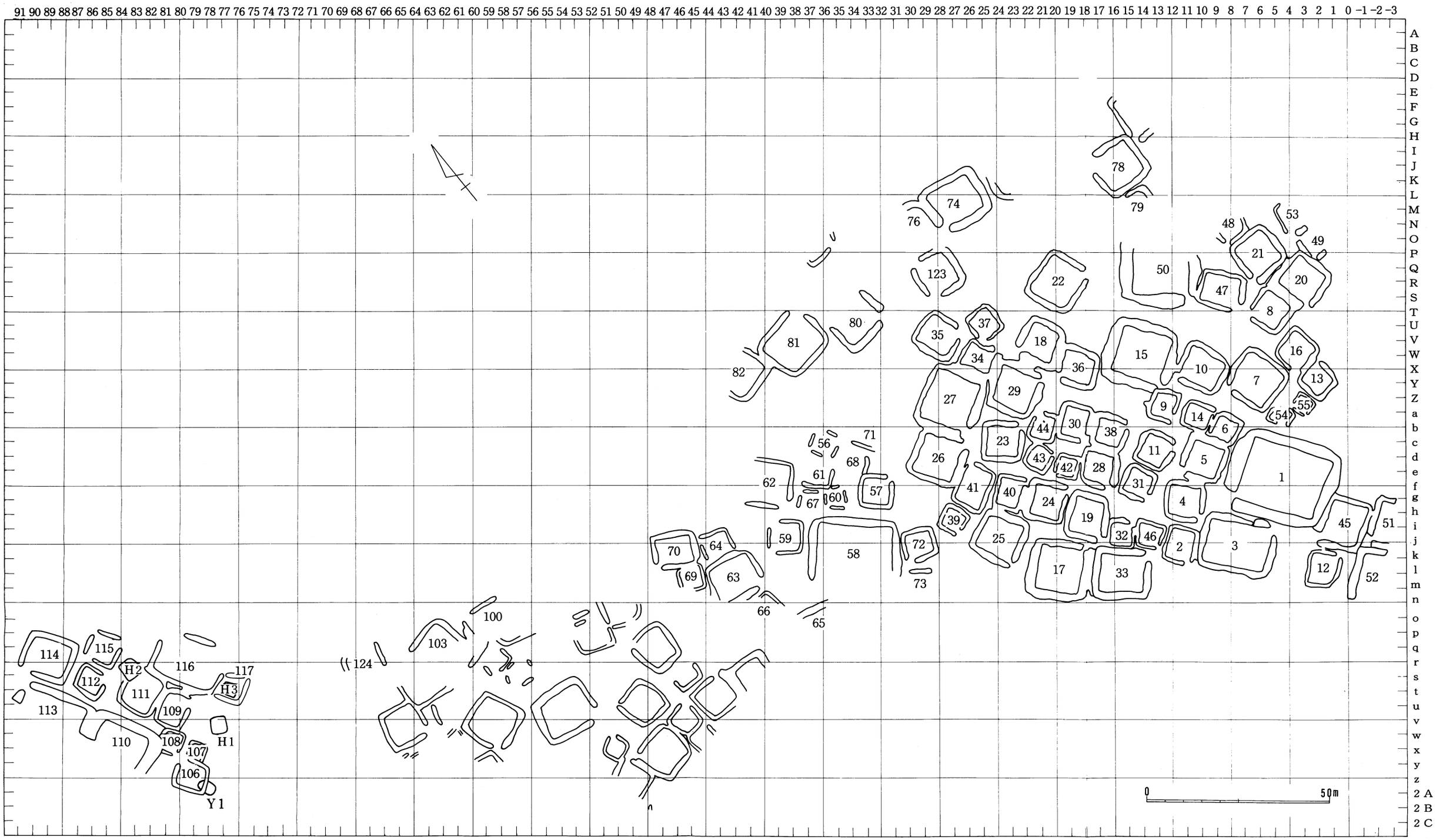
Grid（b～h－０～８）に位置する。Ａ地区密集区の東南に存在し、調査区域の東南端部にあたる。

第３号方形周溝墓、第45号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、１号が３号、45号を切り、３号－１号、45号－１号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸29.4m、方台部左軸22.7m、方台部右軸17.8m、右軸右位方台辺21.5m、深さ1.05m、右軸右位方台辺17.4m、深さ0.9m、右軸左位方台辺23.3m、深さ1.0m、左軸左位方台辺15.3m、深さ0.95mとなりほぼ南北に長い形態を呈する。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近の溝幅が極端に広がり、各コーナー



第４図　方形周溝墓配置図

での溝幅は溝全体から見れば狭くなる傾向にある。溝横断面は方台部よりで急激に、外側で緩やかな立ち上がりとなる。特に右軸左位溝外側では緩やかな立ち上がりを呈しながら溝上部ではステップとなり、テラス状となる。溝縦断面Ｉ－Ｊで僅かに凹凸が認められるが、概して平坦であると言える。

溝内埋葬の有無は、溝の長軸に断面を設定して確認作業を行ったが、確認には至らない。溝覆土の状態は、第６層から第９層に分かれる。第１層から第２層にかけて認められる黒色土は長い期間にわたって堆積している。第３層の暗黄褐色土は方台部及び溝外側にも及び、土質もローム層とやや粘質をもつ暗黄褐色土が互層をなして急激に埋没している。堆積方向は中央が概して厚く両端で薄く、決定し難い。第４層以下は方台部側からの堆積状態を示す。

尚、方形周溝墓の削平状況であるが、第２層、第３層の両端はカットされており、その状態からみて方台部はもとより当時の地表等は削平されていることが理解される。

出土遺物は、大形壺１点が右軸右位溝のやや、左コーナーよりに検出された。出土層位は第３層上面に限られる。底部は溝外より正位に認められ、それより1.2m北側の溝中央よりには胴部以上から口縁部がほぼ原型を保って出土し、この中間には残り胴部破片群が底部に接する順で規則正しく夥しい量で認められる。このことより、大形壺は溝内の外よりに設置され、何らかの要因で、溝中央部にズリ落ちたものと解釈される。以上から第３層上面が２層堆積前に溝底として機能したことが推定される。尚この大形壺は、口縁部の一部を除くと総て部品が揃い、完形に復元された。

出土遺物（第85、86図）

１（第85図）は複合口縁をなす器高77.4㎝の大形壺である。器面は風化が進んでいるが器面観察は可能である。口縁部の一部と底部から胴部下位にかけて刷毛調整痕が僅かに認められるが、胴部では認められない。ついで篦調整が口縁部から底部にかけて全面に認められる。胴部に於ける刷毛調整痕は摩滅と篦調整による磨きにより消失したものと考えられる。体部内面では頚部以下で刷毛調整が全面に認められ、口縁付近で僅かに認められる。頚部では横位の篦調整痕が全面に認められ口縁部へと続くため、刷毛調整痕はこの篦磨きにより消失ものと考えられ、表面同様に、器面調整は刷毛調整－篦磨きの順に施される。口縁部には縦列沈線群が５単位（１単位本数は15、12、10、10、10本）に施文され、口唇部には円形浮文が縦列沈線群と交互して貼付される。また外面には赤彩を施す。

２（86図１）は甕で、現状は破片である。口縁部内外に指頭痕調整が認められる。口径18.2㎝。

３（86図２）は底片である。この２、３は溝上面よりの出土で、１号方形周溝墓との関係は不明である。

第２号方形周溝墓（第７図）

Grid（10～13－ｈ～ｋ）に位置する。第１号方形周溝墓の西方約10ｍの調査区東端に存在する。

第３号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第２号が第３号に切られ、第２号－第３号の順となる。規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.4ｍ、方台部右軸7.012ｍ、方台部左軸8.48ｍ、

右軸右位方台辺7.07m、深さ1.05m、左軸右位方台辺7.5m、深さ0.5m、右軸左位方台辺7.9m、深さ0.34m、左軸左位方台辺5.8m、深さ0.3mとなり東北方向にやや長い形態をとり、主軸方位はN－12°－Eを指す。埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。また溝内埋葬も溝幅が60～70㎝と狭くその可能性は薄い。

溝覆土の状態は3～4層に分けられる。第1層黒色土、第2層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第3層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であるが、土壌化した層位でありやはり長期間による堆積層と考える。横断面M－N第2層は上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は1カ所の陸橋部を除き全周する。平面では陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせるが顕著ではない。また各辺は基本的には直線を呈するが数箇所にわたって湾曲する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、G－Hでは凹凸が目立ち、H側が低く、土壙状を呈する。

出土遺物は、小形手捏土器1点が左軸左位溝陸橋部付近上面より出土したのみである。

出土遺物（第86図3）

3は小形手捏土器である。器面が黄褐色を呈し、外面には指頭痕が顕著に残る。現状は口縁部の一部、胴部、底部が現存する。口径5.4㎝、器高3.8㎝、底径3.0㎝を計測する。

第3号方形周溝墓（第8図）

Grid（4～10－h～l）に位置する。第1号方形周溝墓の西方、第2号方形周溝墓の西南に隣接して調査区南端にあたる。

第1号方形周溝墓、第2号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、第3号が第1号に切られ、第2号を第3号が切る。従って第2号－第3号－第1号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸20.8m、右軸右位方台辺16.4m、深さ0.8m、左軸右位方台辺11.7m、深さ0.55m、右軸左位方台辺16.5m、深さ0.73m、左軸左位方台辺10.6m、深さ0.81mとなりほぼ南北に長い形態をとり、主軸方位はN－73°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は規模のわりには幅が狭く溝外側は基本的には直線を呈するがやや湾曲する。右軸左位溝、左コーナー手前から溝幅が極端に広がり、これに対応する右軸右位溝左位方台辺コーナー手前でも同様な恰好を呈する。溝横断面は、O－Pのように方台部よりで急激に立ち上がり、外側で緩やかとなるのが一般であるが、K－L,M－Nのように両側ともに急激に立ち上がる箇所も認められる。溝底は概して平坦であるが、I－Jでの縦断面では、Jより5m付近が他の箇所より20～30㎝程深く認められる。

溝覆土の状態は5層に区分される。本周溝墓では1層、2層の黒色土は長期間にわたる堆積の土壌層である。O－P、M－Nは深く土層も安定しており3層までが土壌化している。4、5層は土壌層とローム、ブロックとの交互層である。方形周溝墓の削平状況は、特に2層の両端がカットされており方台部や当時の地表面は削平されていることになる。

第4号方形周溝墓（第9図）

Grid（12, 9－h，f，g）に位置する。第２号方形周溝墓の北東に隣接し、第１、３号方形周溝墓の北側にあたり、Ａ地区集中区の中心より南側に位置する。

第５号方形周溝墓と重複する。新旧関係は４号が５号を切り、５号－４号の順が考えられる。規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.0m、右軸右位方台辺6.8m、深さ0.62m、左軸右位方台辺8.6m、深さ0.4m、右軸左位方台辺8.2m、深さ0.6m、左軸左位方台辺8.0m、深さ0.36mを計測してほぼ正方形を呈する。主軸方位は真北を指す。埋葬施設は方台部が耕作により削平をうけ検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は各コーナーで狭まる他は一定の幅を保つが、左軸右位方台辺で、第５号方形周溝墓との重複のため溝外壁が不明瞭なものとなり溝約半分が僅かに広がる。溝覆土の状態は基本的には３層であるが、セクション図では、第３層を細分して第４層に記述してある。第１、２層は黒色の腐食土壌層で、土質も安定して概してサラサラしており、長期間にわたり堆積している。堆積状況は方台部寄りが厚く観察される。第３層では方台部方向からの堆積と考えられるローム層と黒褐色土壌層の交互層であり急激に埋没している。溝縦断面は溝底が僅かに凹凸が認められる以外は概して平坦であり、Ｉ－Ｊ，Ｅ－Ｆでは緩やかな弓状を呈して陸橋部にいたる。方形周溝墓の削平面状況は、セクションＯ－Ｐで第２層黒色土が、方台部より上面で大幅にカットされており、その状況からして方台部はもとより、当時の地表等が削平されていることが理解される。

第５号方形周溝墓（第10図）

Grid（ｂ～ｅ－８～11）に位置し、Ａ地区のほぼ中央に存在する。第４号方形周溝墓、第14号方形周溝墓、第６号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、第４号が第５号を切り、第５号－第４号の順となる。また、第６号との関係は第５号が第６号を切る。これらの結果から第６号－第５号－第４号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.8m、方台部右軸9.12m、方台部左軸9.04m、右軸左位方台辺8.2m、深さ0.47m、左軸右位方台辺8.6m、深さ0.66m、右軸左位方台辺8.5m、深さ0.48m、左軸左位方台辺8.3m、深さ0.65mとなり、形態は整った方形となる。主軸方位はＮ－100°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が削平されており検出されない。

周溝は１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部右端、右軸左位溝中央から左コーナーにかけてはそれぞれ重複しており、溝の平面確認状態は悪いが、他は幅1.5mを計測して各辺とも直線状をなしている。溝横断面は方台部よりで急激に、外側では緩やかな立ち上がりとなる。縦断面は該して平坦であるが、Ｉ－Ｊでは陸橋部よりのＩ側で緩やかな立ち上がりが認められる。Ｅ－Ｆ中央溝底では凹凸が目立つ。

溝覆土の状況は、大きく５から６層に分けられる。第１、２、３層は黒色土の土壌層であり、粒子も細かく長い時間をかけて堆積している。第４層以下はローム層と土壌層との交互層であり、急激に堆積しているが、その度合は下層ほどロームの混入度が大きく堆積は急激に進行している。

出土遺物は、二重口縁壺、壺、甕、底部の各１点で、合計４点が出土している。遺物は右軸右

位溝の陸橋部付近よりに認められ、出土層位は、第２層上面から第１層下位に集中する。

出土遺物（第86図４～６、８）

４は口径31.4㎝の、大形複合口縁壺である。現状は口縁部のみが残る。体部調整は、外面刷毛調整が認められ、その後棒状浮文が貼付される。胎土は精選されて緻密であり、焼成も良好と言える。８は壺で肩部以下は欠損している。内外面とも刷毛調整が認められ、内面では赤色塗彩が施される。口径13㎝。５は壺底部で、底径10.6㎝を計測する。内外面刷毛調整後、外面のみ磨きが認められる。

第６号方形周溝墓（第11図）

Grid（ａ～ｃ－６～９）に位置する。Ａ地区中央よりやや東南よりに存在する。第５号方形周溝墓、第14号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、第５号が第６号を切り、第６号－第５号の順となる。第14号との関係は、お互い外壁が僅かに切り合うものであり、セクション・ベルトからの観察からは、その前後関係は把握出来ない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸8.48m、方台部右軸6.32m、方台部左軸6.16m、右軸右位方台辺4.8m、深さ0.6m、左軸右位方台辺6.4m、深さ0.3m、右軸左位方台辺5.9m、深さ0.33m、左軸左位方台辺5.6m、深さ0.64mとなりほぼ正方形を呈する。主軸方位はＮ－110°－Ｅを指す。

埋葬施設の有無は、方台部が耕作により削平されており、検出には至らない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は全体の溝幅に比較して陸橋部付近が狭まる形態をとるが削平作用によるためで、意図的のものでない。溝横断面は小形方形周溝墓の為か、内壁と外壁の傾斜は大差なく、断面形は台形に近い。溝縦断面は概して平坦であるがＩ－Ｊ中央では溝底が凸状に盛り上がる部分も認められる。

溝覆土の状態は、大きく第３層から４層に分けられ、Ｏ－Ｐ，Ｑ－Ｒでは、第１層に長い期間にわたり堆積した黒色土が認められ、以下では黒色土にローム塊が混入する土壌層との交互層となる。方形周溝墓の削平状況はＱ－Ｒ，Ｏ－Ｐで第２層がカットされており、方台部等が削平されているのが観察される。出土遺物無し。

第７号方形周溝墓（第12図）

Grid（Ｖ～Ｚ、－４～８）に位置して、Ａ地区中央より南東に存在する。重複関係は認められず、第10号方形周溝墓、第16号方形周溝墓が近接する。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸15.44m、方台部右軸11.84m、方台部左軸12.16m、右軸右位方台辺9.5m、深さ0.82m、左軸右位方台辺10.6m、深さ0.56m、右軸左位方台辺11.4m、深さ0.7m、左軸左位方台辺11.4m、深さ0.45mとなり、形態は方形となる。主軸方向はＮ－120°－Ｅを指す。

埋葬施設は、耕作により方台部等が削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が狭く、部分的に耕作よる攪乱箇所も認められ、特に溝外部辺に一部不規則な凹凸が見られるものの、溝幅は一定であり全体としては整然としているといえる。溝横断面は方台部よりが急斜、外側で緩やかとなり、大形方形周溝墓の

傾向と同一であり、縦断面溝底部では凹凸が著しい。

溝覆土の状態は、深い部分で5層、浅い部分で3層に分けられる。N－O,R－Sでは、第1層～3層が黒色土の土壌層であり長い期間にわたり堆積している。4層では、これらに僅かにローム粒子が混入し、5層では土壌層とローム・ブロックの交互層となり、急激に堆積している。

方形周溝墓の削平状況であるが、各セクションの2層の両端、もしくは一端がカットされており、その状況からは当時の地表もしくは方台部が著しく削平されているものと思われる。

出土遺物は、左軸左位溝の中央よりやや南よりで、1点の小形壺の出土をみた。出土層位は暗褐色土上面に認められ、底を下に斜位に検出された。

出土遺物（第86図7）

7は小形壺であり、口縁部の歪みが著しい。表面は風化が進み観察はやや困難であるが、磨きによる調整が施される。内面では頸部以下に横刷毛調整が施され、その上位端では整形作業による指頭痕が認められる。色調は茶褐色を呈して胎土はやや粗い。法量は口径8.1㎝、器高11.1㎝、底径5.9㎝を計測する。

第8号方形周溝墓（第13図）

Grid（R～U－3～6）に位置し、A地域の東端部に集中する一群の中では西部に存在する。

第20号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第8号が第20号に切られ、第8号－第20号の順となる。規模は測点基準に従い計測すると、主軸11.04m、方台部右軸8.64m、方台部左軸8.56m、右軸右位方台辺7.0m、深さ0.45m、左軸右位方台辺8.0m、深さ0.43m、右軸左位方台辺8.2m、深さ0.9m、左軸左位方台辺6.4m、深さ0.32mとなり、正方形を呈する。主軸方向はN－50°－W指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面形は右軸左位溝が第20号との間で重複関係にあるため消失し、さらに縄文時代の炉址等が露出して全容把握は困難であるが、残り部分の遺存状態は良好である。溝幅はほぼ均一な安定した状態で認められるが陸橋部付近でやや狭まる傾向にある。溝辺の内外は凹凸がなく直線を呈する。溝横断面はU字状若しくは長方形状を呈する。溝覆土の状態は第20号との切り合いを示すO－Pを除くと、第3層から4層に分けられる。第1層から第3層にかけては、黒色土から暗褐色土の緻密な単一層が認められ長期間にわたり堆積している。O－Pでは第8号の5層黒色土が、第20号の4層の黒褐色土に切られている。

第6、7層は方台部より流れ込んだローム・ブロックを含む土壌層との交互層である。方台部の削平状況であるが、第8号4層、第20号3層等がカットされており削平が認められる。

出土遺物は、左コーナー付近に集中し、第2層上面で検出された。（第87図1）は口縁部と胴部が1～2m離れた箇所に破片で認められ、溝内で埋設以前に破壊された可能性がある。

出土遺物（第87図1、2）

8－1は複合口縁の壺形土器である。口縁部は、やや粗い刷毛で右→左へ横位に認められ、その後、縦列沈線文が4単位（10本→15本→12本→10本）が施される。頸部は（折り返し下から）縦位の粗い刷毛調整が、中位→下位にかけては細かい刷毛調整が施される。外面胴部では、肩部

で押圧縄文ＲＬ＋円形浮文が、それ以下では斜位の刷毛調整が認められる。大部分は粗い調整であるが最上部だけ細かい調整が施される。内面は頸部から口縁にかけて細かい刷毛調整が認められ（頸部を中心に摩滅ぎみ）、胴部以下では刷毛調整の後、ナデが施される。胎土は２㎜大の小石、砂粒子、金雲母を含む。焼成は良好で、内外面ともに２次焼成をうける。色調は茶褐色を呈する。口径17㎝、器高34㎝、底径9.5㎝。２は甕形土器で、口径20㎝を計測する。内外に刷毛調整が施され、口唇部には刻目が認められる。焼成は良好、胎土は密で、色調褐色を呈する。

第９号方形周溝墓（第14図）

Grid（Ｙ～ａ－11～13）に位置する。Ａ地区のほぼ中央に存在する。第15号と重複するが、溝外側が僅かに切り合う程度であり新旧関係は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸8.8m、方台部右軸6.24m、方台部左軸7.04m、右軸右位方台辺5.4m、深さ0.28m、左軸右位方台辺5.6m、深さ0.4m、右軸左位方台辺6.4m、深さ0.37m、左軸左位方台辺6.4m、深さ0.27mとなり方形が歪んだ形態となる。主軸方位はＮ－16°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面では溝幅が一定して整っているが、中央コーナー角度が開き右コーナーが圧縮される形態をとる。溝横断面は台形を呈して、内外壁共にやや急斜となる。溝縦断面は概して平坦であるがＧ－Ｈでは中央よりＨ側で一段低い。溝覆土の状況は小形方形周溝墓で、２層のみが認められる。１層は黒色土で、長期間の堆積が、２層では暗褐色の土壌層とローム・ブロックの交互層となり、堆積の速度はやや急激となる。出土遺物なし。

第10号方形周溝墓（第15図）

Grid（Ｕ～Ｖ－８～11）に位置する。Ａ地区の中央より東部に存在し、９、14、６号、15、７号等に囲まれる。第15、７号方形周溝墓と重複するが、溝外側が僅かに切り合う程度であり新旧関係は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸13.2m、方台部右軸9.2m、方台部左軸10.08m、右軸右位方台辺9.5m、深さ0.55m、左軸右位方台辺8.2m深さ0.4m、右軸左位方台辺10.6m、深さ0.35m、左軸左位方台辺8.3m、深さ0.35mとなり長方形がやや歪んだ形態となる。主軸方向はＮ－116°－Ｅを指す。埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面では溝幅が一定して整っているが右軸右位溝外壁中央がやや内側にはいる。中央コーナーでは角度が開き左コーナーが圧縮される形態となる。溝横断面は方台部よりが急斜な壁を呈して外壁では概して緩やかになる。

溝縦断面は概して平坦であるが、僅かに凹凸が認められる。溝覆土の状況は第３層から４層に分けられる。第１層は黒色土、第２層黒褐色土で、長期間にわたる堆積が考えられる。３層以下では暗褐色の土壌層とローム・ブロックとの交互層となり、堆積の速度は急激となる。

方形周溝墓の削平状況は、Ｏ－Ｐでは第１層から第３層までの方台部寄りが相当量カットされているのが認められる、このことより方台部等に削平が進んでいることがうかがえる。出土遺物は、小形壺の完形品を含む計３点が左軸右位溝中央にまとまって、第２層上面より検出され、そ

れぞれ溝内に浮上する。

出土遺物（第87図３、４、５）

10－１は、口径９㎝、器高15.3㎝、底径6.9㎝を計測する小形壺である。外面は全面刷毛調整が認められる。内面では頸で横位の粗い刷毛調整が認められ、口縁部では横撫で、頸部と胴とのつなぎ部分で指頭痕調整が顕著に残る。胎土は１から２㎜大の小石砂粒子を少量含み、金雲母、石英粒子を微量含む。色調は茶褐色を呈する。10－２は口径23㎝の台付甕で胴下半部から脚部は欠損する。摩滅が著しく観察は難しいが、僅かに刷毛調整が認められる。器面は黄褐色を呈し、胎土、焼成ともに良好である。10－３は底部で径6.4㎝で外面に刷毛調整が認められる。

第11号方形周溝墓（第16図）

Grid（ｂ～ｄ－11～14）に位置する。Ａ地区のほぼ中央に存在する。第31号と重複するが、溝外側が僅かに切り合う程度であり新旧関係は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.8m、方台部右軸8.08m、方台部左軸7.52m、右軸右位方台辺7.6m、深さ0.4m、左軸右位方台辺7.5m、深さ0.4m、右軸左位方台辺7.0m、深さ0.38m、左軸左位方台辺6.2m、深さ0.37mとなりほぼ方形を呈する。左コーナーで角度が開き菱形に近い形態となる。主軸方位はＮ－66°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面での溝幅は一定して整っている。溝横断面は小形方形周溝墓の部類に入り、そのためか内外壁共にやや急斜となり、断面形は台形に近い。

溝縦断面は概して平坦であるが、溝底が僅かに凹凸するのが確認される。溝覆土の状況は堆積が厚く第５層から６層が認められる。第１層黒色土、第２層黒褐色土は単一土層で長期間の堆積が考えられる。３層以下ではローム・ブロックとの交互層となり、堆積は急激となる。セクションＯ－Ｐではやや不規則な堆積を形成するが、他は整ったレンズ状堆積を示す。

出土遺物は小形甕１点が陸橋部右側付近で検出される。出土層位は２層上面で黒褐色土直上である。

出土遺物（第87図６）

法量は、口径11.0㎝、器高6.2㎝で小形甕の部類にはいる。器面は摩滅が進み観察を困難なものとしているが、内面には刷毛調整が認められる。又底部外面では刷毛→磨きが認められる。焼成は良好で褐色を呈し、胎土は密で良好である。

第12号方形周溝墓（第17図）

Grid（ｊ～ｍ－０～２）に位置する。Ａ地区の南端に存在する。第45号と重複するが、溝外側が僅かに切り合う程度であり新旧関係は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.72m、方台部右軸8.32m、方台部左軸7.6m、右軸右位方台辺6.3m、深さ0.75m、左軸右位方台辺8.2m、深さ0.32m、右軸左位方台辺6.1m、深さ0.5m、左軸左位方台辺7.8m、深さ0.6mとなり方形が歪んだ形態となる。主軸方位はＮ－89°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定して整っているが、中央コーナー角度が鋭角となり、左コーナーでは開き方台部形態はきわめて変則なものとなる。溝横断面はU字形を呈して、内外壁共にやや急斜となる。溝縦断面は概して平坦であるといえる。溝覆土の状況は小形方形周溝墓であるが、大きく３層で、細分して５層が認められる。第１層は黒色土で、長期間にわたる堆積と考えられるが、第２層以下では、単一層をなさず、土壌層とローム・ブロックの交互層となり、堆積はやや急激となる。出土遺物なし。

第13号方形周溝墓（第18図）

Grid（W～Y－０～３）に位置し、A地区の南東端に存在する。第16号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第13号が第16号を切り第16号－第13号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸9.36m、方台部右軸7.36m、方台部左軸6.56m、右軸右位方台辺6.9m、深さ0.38m、左軸右位方台辺6.4m深さ0.36m、右軸左位方台辺6.0m、深さ0.55m、左軸左位方台辺6.4m、深さ0.62mとなり形態はほぼ方形となる。主軸方位はN－144°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所陸橋部を除き全周する。平面は溝幅は一定して整っているが、中央コーナー外壁がやや突出する。溝横断面は台形もしくはU字状を呈して、内外壁共にやや急斜となる。

溝縦断面は概して平坦であるがG－Hでは陸橋部付近で階段状に緩やかに立ち上がる。

溝覆土の状況は小形方形周溝墓であるが、３層～５層に分けられる。第１層は黒褐色土、第２、３層暗褐色土で単一層であることより長期間の堆積が考えられる。４層以下では、土壌層にローム・ブロックが混入する交互層となり、やや急激な堆積となる。方形周溝墓の削平状況は、セクションS－Tの第２層で内外両端が削平され相当量カットされている。出土遺物なし。

第14号方形周溝墓（第14図）

Grid（Z～b－９～11）に位置し、A地区のほぼ中央より東南に存在する。第６号と重複するが、溝外側が僅かに切り合う程度であり新旧関係は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると。主軸9.04m、方台部右軸6.24m、方台部左軸6.96m、右軸右位方台辺7.3m、深さ0.35m、左軸右位方台辺5.9m、深さ0.3m、右軸左位方台辺6.2m、深さ0.28m、左軸左位方台辺5.0m、深さ0.5mとなり形態は方形となる。主軸方位はN－69°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面では溝幅が一定して整っているが、陸橋部右側では溝幅が広がり、逆に左側では狭まる。溝横断面は台形を呈して、内外壁共にやや急斜となる。溝縦断面は概して平坦であるが、溝底で僅かに凹凸する箇所が認められる。溝覆土の状況は小形方形周溝墓であるが、５層にわけられる。第１層は暗褐色土、第２層黒色土、第３層暗褐色土で単一の土壌層であり、長期間の堆積が考えられる。４層は方台部側からの流れ込み土壌である。５層は、黒褐色の土壌層とローム・ブロックの交互層となり、堆積はやや急激となる。出土遺物なし。

第15号方形周溝墓（第19図）

Grid（T～Y－11～17）に位置し、A地区中央よりやや東側に存在する。第９号、第10号、第36号方形周溝墓と重複するが、溝外側が僅かに切り合う程度であり新旧関係は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸18.8m、方台部右軸13.92m、方台部左軸13.76m、右軸右位方台辺12.3m、深さ0.5m、左軸右位方台辺13.4m、深さ0.45m、右軸左位方台辺12.2m、深さ0.7m、左軸左位方台辺13.0m、深さ0.6mとなり形態は方形となる。主軸方位はN－11°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所を除き全周する。平面では方台部が整然となるが、溝幅は一定せず、左右両軸の左位溝外側中位で、ステップして溝幅は広がる。これに対する両溝外側では、コーナーが狭く陸橋部が広がる傾向を示す。溝横断面は台形を呈して、内外壁共にやや急斜となる。溝横断面は概して平坦である。溝覆土の状況は、大きく５層に分けられ、７層に細分される。第１層暗褐色土、第２層黒色土は単一の土壌層であり、堆積期間は長期にわたる。セクションK－Lでは第３、４層が方台部方向より流れこんでいるのがとらえられる。第５層は黒褐色の土壌層とローム・ブロックの交互層となり、堆積はやや急激となる。方形周溝墓の削平状況であるが第２層、第３層、第４層の方台部寄りがカットされており、さらにM－Nでは第２、３層の外側もカットされ、方台部はもとより当時の地表をも削平しているものと考える。

出土遺物は、壺２個体、台付甕１個体、破片２点が右軸右位溝中央より、右コーナー付近に集中して出土している。出土層位は第２層黒色土下部より検出される。第88図１のみが、口縁から胴部にかけて、破損はするがまとまって認められ、その他は破片で周辺に散乱する。

出土遺物（第88、89図）

15－１は焼成後の底部欠損の壺である。外面は刷毛調整のあと、篦磨きを行ったと思われるが、器面が摩滅しているため、篦磨きは明らかでない。内面は横位の刷毛調整を丁寧に行っている。

刷毛は外面整形に使用したものと同じものと思われる。底部は焼成後穿孔している。焼成は良好で、色調赤褐色を呈し、胎土は１㎜以下の細かい砂粒を含み、しまりがあり固い。法量は、口径22㎝、器高25㎝、胴部最大径29.8㎝、底径11.55㎝を計測する。

15－４は、やはり折返口縁の壺である。外面は粗い刷毛調整後、全体に丁寧な篦磨きをおこなっている。内面刷毛調整の後、口縁から頸部にかけて篦磨きが認められる。焼成は良好であり、胎土はごく少量の砂粒、３㎜大の小石を含む。焼成は良好で赤褐色を呈する。口径は18.9㎝である。15－５は台付甕で胴部上半から口縁にかけて欠損する。内外面とも刷毛調整が施され、内面では指頭痕が認められる。色調は茶褐色を呈して、胎土は緻密で良好である。底径11㎝を計測する。15－２は壺底径11㎝、刷毛調整が若干認められる。15－３は台付甕脚部で底径10.2㎝、焼成は良好で色調褐色を呈する。

第16号方形周溝墓（第20図）

Grid（U～X－15～16）に位置し、A地区東南に存在する。第13号方形周溝墓と重複する。新旧関係はセクションの観察から、第16号が第13号に切られ、第16号－第13号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸11.76m、方台部右軸7.92m、方台部左軸8.8m、右軸右位方台辺7.7m、深さ0.56m、左軸右位方台辺8.0m、深さ0.35m、右軸左位方台辺7.6m、深さ0.35m、左軸左位方台辺5.8m、深さ0.35mとなり、形態は左右コーナーが90°より開き左右コーナーが鋭角となり菱形状を呈する。主軸方位はN－39°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定して整っている。溝横断面は台形を呈して、内外壁共にやや急斜となる。溝縦断面は概して平坦であるがE－Fでは中央よりF側で一段低く掘り込まれる。溝覆土の状況は小形方形周溝墓であるため堆積層は少なく、3層が認められる。第1層黒褐色土、第2層暗褐色土で単一の土壌層を形成しており、ともに長期間の堆積が考えられる。第3層以下では、暗褐色の土壌層とローム・ブロックの交互層となり、堆積時間はやや急激となる。方台部削平状況であるが、セクションM－N、O－Pの第2層上端がカットされており、方台部等は削平される。出土遺物なし。

第17号方形周溝墓（第21図）

Grid（i～m－17～22）に位置して、A地区の西端に存在する。第33号方形周溝墓と溝外側上端が僅かに重複するが、新旧関係は明らかにされない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸17.6m、方台部右軸12.64m、方台部左軸12.48m、右軸右位方台辺11.4m、深さ0.68m、左軸右位方台辺12.2m、深さ0.63m、右軸左位方台辺11.9m、深さ0.7m、左軸左位方台辺12.2m、深さ0.65mとなり形態は方形となる。主軸方位はN－85°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面では溝幅が一定して整っている。溝横断面は概して方台部寄りが急斜で、外側は緩やかとなる。特にM－Nでは溝外寄りはテラス状となる。溝縦断面は概して平坦であるといえる。本周溝墓は55基中では中規模の方形周溝墓であり、堆積状態も安定しており大きく5層となり、細分して8層に分けられる。第1層は黒褐色土で2層黒色土層と同質土壌であり、長期間の堆積が考えられる。4層以下は土壌層とローム・ブロックの交互層となり、やや急激な堆積となり、方台部よりからの堆積状況がとらえられる。方台部削平状況は第2、3層の方台部寄りが大幅にカットを受けており、削平は当然及んだものと考える。出土遺物は、右軸右位溝の中央に集中し、胴下半より底部2点、口縁から肩部にかけての破片1点が検出された。これらは、溝底に接し、あるいはやや浮いて認められる。

出土遺物（第90、91図）

17－3は壺で、口径19.8㎝を計測する。内外面共に粗い刷毛調整が認められ、肩部、口縁には交互に円形浮文が4単位（1単位4個）施される。焼成は良好で褐色を呈し1㎜大の小石を若干含む。17－1、2は壺底部であり底径はそれぞれ11㎝、11.4㎝である。内外面刷毛調整後、篦磨きが施される。焼成は良好で褐色を呈する。

第18号方形周溝墓（第22図）

Grid（T～X－19～22）に位置して、A地区の北部に存在する。第36号方形周溝墓と重複す

る。規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.0m、方台部右軸9.12m、方台部左軸8.8m、右軸右位方台辺8.4m、深さ0.9m、左軸右位方台辺8.4m、深さ0.7m、右軸左位方台辺7.9m、深さ0.6m、左軸左位方台辺8.2m、深さ0.8mとなり方形が歪んだ菱形状となる。主軸方位はN－85°－Eを指す。

第36号方形周溝墓、第29号方形周溝墓と重複する。切り合いは第18号が第36号を切り、第36号－第18号の順となるが、第29号とは溝外部で僅かに接する程度で、新旧関係は把握できない。埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定して整っている。溝断面は方台部寄りが急斜、溝外寄りが緩やかな立ち上がりとなる。溝縦断面は概して平坦である。溝覆土の状況は、5層が認められる。第1層黒色土、第2層、第3層暗褐色土で単一の土壌層で長期間の堆積が考えられる。第4層以下では土壌層とローム・ブロックの交互層となり、堆積はやや急激となる。セクションO－Pの第3層以下では、方台部方向からの堆積状況が顕著に認められ、さらに方台部寄りの土層がカットされており、削平は大幅に方台部に及んでいることがうかがえる。出土遺物は右陸橋部付近寄り浮上して認められる。出土層位は、第1層下部よりに集中する。

出土遺物（第90図3）

法量、口径10.6㎝、器高8.6㎝、底径4.7㎝の小形鉢である。整形は内外部ともに篦磨きの後、丹塗が施される。摩滅が著しく篦磨きの痕跡は不明瞭である。焼成は良好であり、赤褐色を呈し、胎土はやや粗い。

第19号方形周溝墓（第23図）

Grid（f～j－16～19）に位置して、A地区中央よりの西側に存在する。第24号方形周溝墓、第32号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、第24号、第32号を切り、第24号－第19号、第32号－第19号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.8m、方台部右軸8.8m、方台部左軸9.84m、右軸右位方台辺8.6m、深さ0.7m、左軸右位方台辺8.2m、深さ0.65m、右軸左位方台辺9.6m、深さ0.65m、左軸左位方台辺9.6m、深さ0.7mとなり方形に近い形態となる。主軸方位はN－11°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は大きく3～4層に分けられる。第1層黒色土、第2層黒褐色土から、暗褐色土で単一層をなし、ともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第3層は茶褐色土と黒褐色土との交互層であるが、土壌化した層位でありやはり長時間による堆積層と考える。4層、5層は多量のローム、ブロックを含む土壌層との交互層である。

溝は1カ所の陸橋部を除き全周する。溝幅はコーナー付近が僅かに狭まる傾向をみせるが顕著でない。また各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。

出土遺物は左軸左位溝中央より第90図4、7の鉢形土器と壺口縁部が1点ずつ溝底より出土する。

同図５、６、８、９は中央コーナー付近で浮上して出土する（出土層位は２層下位である）。

出土遺物（第90図４～９）

19－１は鉢形土器である。法量は口径10.4㎝、器高4.04㎝、底径6.4㎝を計測する。摩滅が進んでいるが、内外共に刷毛調整が、また内面では刷毛調整後の篦磨痕が認められる。19－２は壺底部である。底径７㎝を計る。外面刷毛調整、内面篦磨き痕が認められる。19－３は、底径５㎝の小形壺底部である。焼成前の底部穿孔土器である。内面には赤色顔料の塗られた痕跡を残す。

19－４は口径23㎝の壺口縁部である。内外面ともに刷毛調整後に篦磨きが施される。また内面の口縁部には縄文が認められる。焼成良好で器面は褐色を呈する。19－５は、二重口縁壺で、口径16.6㎝を計測する。外面には縄文ＲＬが施される。19－６は壺底部で底径９㎝計る。
外面では刷毛調整→磨き、内面では刷毛調整が認められる。

第20号方形周溝墓（第24図）

Grid（Ｏ～Ｓ－１～５）に位置する。第１号方形周溝墓の西方約10m、調査区東端に存在する。

第８号方形周溝墓、第21号方形周溝墓、第49号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第20号が、第８号、第21号、第49号を切り、第８号－第20号、第21号－第20号、第49号－第20号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸14.1m、方台部右軸10.4m、方台部左軸9.84m、右軸右位方台辺9.4m、深さ0.4m、左軸右位方台辺9.5m、深さ0.35m、右軸左位方台辺9.4m、深さ0.35m、左軸左位方台辺9.5m、深さ0.7mとなり形態は菱形に近い。主軸方位はＮ－27°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は６層に分けられる。第１層～４層は黒色土でともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。セクション面Ｏ－Ｐ第５層は暗黒褐色層である。やや土壌化した層位であり、方台部寄りの方向からの堆積層と考える。セクション面Ｍ－Ｎ第３、４層方台部よりは上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が広がる傾向をみせる。また各辺は基本的には直線を呈するが数箇所にわたって湾曲する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなるが、台形に近い。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、溝中央に最深部があり緩やかなカーブを描く。

出土遺物は、右軸左位溝中央より壺２点が出土して、内１点は完形に復元可能である。壺（第91図２）は溝底部のハード・ローム面に約３㎝程度浮上して出土しており、５㎝大の破片状で看取された。

出土遺物（第91図２～４）

20－１は法量、口径10.9㎝、器高18.6㎝、底径８㎝を計測する。器面外面は、口縁部付近で刷毛調整後、粗いナデ整形が施され部分的に刷毛が消える。胴部は刷毛調整後、やはり粗い篦状工具による撫で整形が施される。内面は刷毛調整後、撫で整形が認めら頚部接合部では指頭痕が残る。３は口縁部を欠損する。内外に刷毛調整後、篦状工具による粗い磨きが施される。底径5.4

㎝を計測する。４は壺底部で、底径７㎝を計測する。内外面ともに篦磨き痕が認められる。

第21号方形周溝墓（第25図）

Grid（Ｎ～Ｒ－４～８）に位置して、Ａ地区調査範囲の西南端、第20号方形同溝墓の北側に存在し、第48号方形周溝墓、第20号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第21号が第20号、第48号に切られ、第21号－第48号、第21号－第20号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸13.2m、方台部右軸10.16m、方台部左軸9.6m、右軸右位方台辺11.0m、深さ0.7m、左軸右位方台辺9.8m、深さ0.75m、右軸左位方台辺8.8m、深さ0.55m、左軸左位方台辺9.1m、深さ0.55mとなり形態は方形となる。主軸方位はＮ－136°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は大きく５層に分けられる。第１層黒色土、第２層黒褐色土、第３層暗褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって奇麗なレンズ状堆積を示している。第４層は３層に比較してやや褐色気味で、土質には変化はないが、色調で細分した。第５層は４層と基本的には同様であるが、単一層ではなく、ローム・ブロックとの交互層をなす。

横断面Ｑ－Ｒで第２、３層は方台部より上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が僅かに広がる。また各辺は基本的には直線を呈するが数箇所にわたって湾曲する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦である。出土遺物は右軸左位溝中央寄りで壺底部１点が出土する。レベルは第２層下部寄りである。

出土遺物（第91図５）

21－１は、底部11.5㎝を計測する。外面は刷毛調整後、篦状工具による丁寧な磨きが認められる。内面では粗い篦状工具による磨きが施される。焼成は良好で褐色を呈する。胎土は２㎜大の小石粒を若干含み密で固い。

第22号方形周溝墓（第26図）

Grid（Ｏ～Ｔ－17～22）に位置して、Ａ地区調査区域の東北端に存在する。重複関係は認められず単独である。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸16.16m、方台部右軸12.46m、方台部左軸11.36m、右軸右位方台辺9.2m、深さ0.7m、左軸右位方台辺9.8m、深さ0.75m、右軸左位方台辺8.8m、深さ0.55m、左軸左位方台辺9.1m、深さ0.55mとなり形態は方形となる。主軸方位はＮ－66°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は３～４層に分けられる。第１層黒色土、第２層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であるが、土壌化した層位であり、やはり長期間による堆積層と考える。方台部の削平状況であるが第２層方台部寄りの上端がカットされて、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。溝平面は幅が一定して安定するが、各辺は基本的に

は直線を呈するが数箇所にわたって湾曲する。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は溝底が全体的に平坦であるといえる。出土遺物なし。

第23号方形周溝墓（第27図）

Grid（ａ～ｄ－21～25）に位置して、Ａ地区北側に存在する。密集地区にあり近接するが重複は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.16m、方台部右軸8.4m、方台部左軸9.12m、右軸右位方台辺8.4m、深さ0.7m、左軸右位方台辺8.0m、深さ0.65m、右軸左位方台辺8.8m、深さ0.66m、左軸左位方台辺7.4m、深さ0.75mとなり形態は方形となる。主軸方位はＮ－94°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は４～５層に分けられる。第１層黒色土、第２層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層は黄褐色土の土壌化した層位でありやはり長期間による堆積層と考える。４層以下はローム・ブロックと土壌との交互層をなす。方台部削平状況であるが、第２、３層の方台部寄り上面がカットされ、方台部及び当時の地表等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせるが顕著でない。各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなるがその差は目立たない。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、セクション・ベルトＱ－Ｒの北寄りに台付甕１点、片口土器１点がセットで出土する。出土レベルは片口土器はやや陸橋部より溝外側の斜面底部に口縁を下にして、高坏はＱ－Ｒベルトより溝中央部底に接して倒れて認められる。

また右軸左位溝中央コーナーよりでは壺底部２点が２層下部寄りに集中して出土する。

出土遺物（第92、93図）

23－１は壺底部で底径14.2㎝を計測する。内外面刷毛調整で、内面には篦磨きが施される。また底部は木葉痕文が認められる。焼成良好で赤褐色を呈し、胎土も密で固い。23－２はやはり壺底部で底径9.4㎝を計測する。外側は篦磨きが全面に、内面には刷毛調整、指頭痕が認められる。焼成は良好で赤褐色を呈するが、胎土はやや粗い。23－３は台付甕で法量口径14.4㎝、器高13.4㎝、底径10㎝を計測する。器面の摩滅が激しいが体部外面に斜位方向の刷毛調整痕が、内面では撫で調整が施される。脚部内面は横位の刷毛調整を施し下部は撫で整形を行う。胎土は金雲母、長石、石英粒子を多量に含み、黒色雲母砂粒も含む。23－４は片口付鉢で全体的に歪んでいる。底部はやや窪み、中央に棒状工具による押圧痕が認められる。法量は口径17.9㎝、器高8.7㎝、底径5.7㎝を計測する。内面は横位の篦磨きが施される。外面は摩滅が著しいため器面調整は不明瞭であるが、篦磨きが施されたものと推定される。内外面に赤色顔料が塗られる。胎土は多量の石英、少量の長石を含み金雲母を混入した砂粒を含み緻密である。焼成は良好である。

第24号方形周溝墓（第28図）

Grid（ｅ～ｈ－18～22）に位置する。第１号方形周溝墓の西方約10ｍで調査区東端に存在す

る。

第19号、第40号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第19号、第40号に切られ、第24号－第19号、第24号－第40号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸12m、方台部右軸8.8m、方台部左軸8.16m、右軸右位方台辺8.3m、深さ0.55m、左軸右位方台辺8.4m、深さ0.7m、右軸左位方台辺8.2m、深さ0.5m、左軸左位方台辺7.6m、深さ0.3mとなり形態は方形となる。主軸方位はN－79°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は３～４層に分けられる。第１層黒色土、第２層暗褐色土の腐食土壌層であり、ともに緻密でサラサラしており長い期間にわたって堆積している。第４層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であるが、土壌化した層位であり堆積層は上部に比べ短期間である。セクションM－Nでは、第２、３層方台部よりがカットされており、方台部等の削平が読みとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は重複関係が多く、重複関係の中で古く位置するため他の溝に切られ、全容は把握出来ないが、溝内外壁共に直線状を呈し整然となる。陸橋部付近は僅かに溝巾が広がる傾向をみせる。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。

溝縦断面は全体的には平坦である。出土遺物は、陸橋部左側付近と左コーナーの２カ所に認められる。第92図の24－２、３、４は陸橋部付近、溝底約３㎝程度浮上して、残りは左コーナー２層上面で出土する。

出土遺物（第92図３、４、５、６、７）

24－２は台付甕で法量、口径18.5㎝、器高28.5㎝、底径9.5㎝を計測する。口唇部外面は、横撫での後刷毛状工具による刻目を施す。口縁部では細かい刷毛調整後胴部に横位の粗い刷毛調整を施す。胴下部から台部にかけては縦位の刷毛調整が行われているが、台部は激しく摩滅している。内面は外面で使用したものと、同じ刷毛で横位の調整を行ったあとが見られるが、摩滅のため胴部内面は殆ど消されている。台部内面は丁寧な刷毛調整。胎土は白砂粒子、少量の石英、金雲母を含み、堅く緻密である。焼成は良好であり、茶褐色を呈し、二次焼成をうける。24－３は、鉢形土器である。法量は口径14㎝、器高6.8㎝、底径６㎝である。外面には丁寧な篦磨きが全面に施される。焼成は良好であり胎土は密である。24－４は小形壺で肩部以下は欠損する。外面は、縦位の細かい刷毛調整が行われ、口唇部では撫でが認められる。内面は横位のやや粗い刷毛調整が認められる。焼成良好で褐色を呈する。胎土は密で固くしまる。24－１は壺底部で底径８㎝を計る。内外面刷毛調整が施され焼成良好で褐色を呈し、胎土は緻密で固くしまる。24－５はやはり壺底部で、底径９㎝を計る。外面は刷毛調整後、丁寧な篦磨きが施される。内面は横位の粗い刷毛調整が認められる。焼成良好で褐色を呈し、胎土は固くしまる。

第25号方形周溝墓（第29図）

Grid（ｋ～ｈ－21～25）に位置する。Ａ地区の西端に存在する。第40号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第40号方形周溝墓に切られ、第25号－第40号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸14.8m、方台部右軸10.72m、方台部左軸9.92m、右

軸右位方台辺10.3m、深さ0.68m、左軸右位方台辺10.0m、深さ0.8m、右軸左位方台辺9.0m、深さ0.8m、左軸左位方台辺11.2m、深さ0.7mとなり形態は菱形に近い。主軸方位はN－13°－Eを指す。埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は3～4層に分けられる。第1層黒色土、第2層黒色土、第2層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第3層はローム塊が混入する黒褐色土の土壌層との交互層であるが、ローム・ブロックは少なく長期間による堆積層と考える。M－N4層は外よりからの堆積状況を示し、多量のローム・ブロックを混入する交互層であり急激な堆積を示す。方台部の削平状況は、2層の方台部寄り上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は各コーナー部分が狭まり溝中央がやや開きぎみとなる。各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、僅かに凹凸部分が目立つ。出土遺物は、右軸右位溝中央部に集中する。出土レベルは溝底部に接するが中には5㎝程度浮上するものある。

出土遺物（第93図1～4）

25－1は甕口縁部で、口径17㎝を計測する。外面では頸部に縦位の刷毛調整を施す。口縁は撫で整形が行れる。胴部は横位の刷毛調整。内面は横位の刷毛調整が認められる。焼成はやや不良で灰褐色を呈する。胎土は石英、長石砂粒、金雲母を多量に含む。25－2は、壺口縁で口径19.5㎝を計測する。外面は刷毛調整、内面は縄文RLが施される。25－3は壺底部で、底径11.8㎝を計る。内外面に刷毛調整が施される。25－4は椀で、法量は口径10㎝、器高6.4㎝、底径4.4㎝を計測する。外面はやや摩滅ぎみであるが縦位の細かい刷毛調整が、内面では粗い刷毛調整が施される。口縁部は横撫でが施される。胎土は金雲母、砂粒がみられ固くしまる。焼成は良好で茶褐色を呈する。

第26号方形周溝墓（第30図）

Grid（b～f－25～30）に位置し、A地区の最北端でやや西よりに存在する。第1号方形周溝墓の西方約10m、調査区東端に存在する。第27号方形周溝墓、第41号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第26号が41・27号を切り、第27号－第26号、第41号－第26号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸15.68m、方台部右軸11.2m、方台部左軸11.2m、右軸右位方台辺10.3m、深さ0.5m、左軸右位方台辺10.6m、深さ0.45m、右軸左位方台辺11.3m、深さ0.7m、左軸左位方台辺9.9m、深さ0.5mとなり形態は方形となる。主軸方位はN－77°－Wを指す。埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は4層に分けられる。第1層から第3層はともに緻密でサラサラした土壌層であり単一層をなし、長い期間にわたって堆積している。第4層はローム塊が混入する土壌層との交互層である。横断面は台形、U字状に認められ、方台部よりが急斜に外側がやや緩やかに認められる。周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は各コーナーが狭くなる傾向にあるが顕著ではない。左陸橋部付近が僅かに広がる以外は変化を見せない。また各辺は基本的には直線を呈するが数箇所にわたって湾曲する。溝縦断面は全体的には平坦といえる。出土遺物は、左陸橋部

付近第２層下部より台付甕１点が出土する。口縁を欠損して、破片状で散乱する。

出土遺物（第93図７）

26－１は、台付甕で口縁部を欠損する。底径9.6㎝を計る。内外とも刷毛調整が施される。焼成は良好で、褐色を呈する。胎土は緻密で固くしまっている。

第27号方形周溝墓（第31図）

Grid（W～ｃ－24～29）に位置し、Ａ地区北端にあたる。第26号方形周溝墓、第34号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第26号に切られ、第34号を切る。これより第34号－第27号－第26号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸18.16m、方台部右軸13.36m、方台部左軸14.56m、右軸右位方台辺11.4m、深さ0.7m、左軸右位方台辺13.0m、深さ0.54m、右軸左位方台辺13.6m、深さ0.9m、左軸左位方台辺12.6m、深さ0.58mとなり形態は方形を呈する。主軸方位はＮ－20°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。溝覆土の状態は６層に分けられる。セクションＮ－Ｏでは第１層暗褐色土、第２、３層黒色土、第４層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第５層黄褐色土は第４層の土壌層をベースに、ローム塊が混入する黒褐色土との交互層であり、堆積期間は急激で、方台部よりの流れ込みが確認される。周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部に接する両溝（右軸右位、左軸左位溝）が他の溝に比べ極端に広がる傾向をみせる。また各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は溝底が全体的には平坦であるといえるが、Ｅ－Ｆでは溝中央が最深となり緩やかな弓なり状となる。

出土遺物は、右軸右位溝陸橋部付近より壺類が集中して出土する。出土層位第２層黒色腐食土下部に検出される。

出土遺物（第94、95図）

27－１は法量、口径20.7㎝、器高36.4㎝、底径10.6㎝、胴部最大径28.4㎝を計測する折り返しの二重口縁壺である。口縁部を折り返した後に、刷毛調整が認められる。外面は刷毛調整（頸部は縦位の調整後さらに弱い刷毛調整、胴では縦位－斜位－横位－斜位の調整となる）を行った後、胴部上位から肩部にかけて弱い撫で整形を行っている。内面では胴部に左まわりの粗い刷毛調整、さらに頸部には細かい刷毛調整が施される。焼成は良好で赤褐色を呈し、胎土は３から４㎜の小石を含むが固くしまる。27－２は台付甕の脚で底径７㎝、外面撫で、脚部内側刷毛調整で、焼成は良好で褐色を呈する。27－３は壺で頸部以下を欠損する。内外刷毛調整後、僅かに粗い篦磨きが施される。

27－４は折り返し口縁壺で口径19㎝を計測する。外面では、口唇部では横位の刷毛調整、それ以下では縦位の刷毛調整が行われた後、胴部では磨きが施される。内面では、頸部で横位→斜位の刷毛調整がなされた後、粗い篦磨きが施される。胴部と頸部の接合部は指頭痕調整が認められる。胴部では横位の刷毛調整が認められる。

第28号方形周溝墓（第32図）

Grid（ｃ～ｆ－15～18）に位置して、Ａ地区のほぼ中央部やや西よりに存在する。

第38号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第28号が第38号を切る。これより第38号－第28号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.96m、方台部右軸8.08m、方台部左軸8.0m、右軸右位方台辺8.0m、深さ0.45m、左軸右位方台辺7.7m、深さ0.43m、右軸左位方台辺7.7m、深さ0.38m、左軸左位方台辺7.1m、深さ0.35mとなり形態は方形が歪み菱形に近い。主軸方位はＮ－６°－Ｅを指す。埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は３～４層に分けられる。第１層暗褐色土、第２層黒色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層以下はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であり、やや土壌化するが急激な堆積層と考える。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部に接する両溝が他辺に比べ広がる傾向をみせる。また各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。

出土遺物は、右軸右位溝陸橋部寄りで一括出土する。

出土遺物（第96、97図）

28－１は法量口径24㎝、器高38.5㎝、底径11㎝の折り返しの二重口縁壺である。調整技術は摩滅箇所が多いが、観察は可能である。外面では丁寧な篦磨きの後、胴上部は縄文ＬＲと円形浮文を施すが、残存部の縄文は激しく摩滅している。また円形浮文は、残存部に三個しかないが、四個存在したと考えられる。縄文下部には押圧縄文があったと考えられるが、殆ど摩滅している。胴部では篦磨きの後、赤色塗料で着色されている。内面では口縁部に縄文ＬＲを施し、円形浮文１個（４単位）がある。それ以下では、外面と同じ刷毛調整が施され、その後口縁～頚部は篦磨きが、胴部では撫で整形がなされる。焼成は良好で胎土は長石、少量の石英を含む。28－３は、折り返しの二重口縁壺である。口唇部では、刷毛による刻目文が施される。頚部では縦位の篦調整が認められる。胴上部では縄文を施し、さらにその中位と下部には押圧文を施す。また円形浮文２個（４単位）が縄文帯中央で認められる。それ以下では、細かい刷毛調整後、丁寧な篦磨きを施す。内面では、口縁部に縄文と円形浮文１個が認められ、頚部では刷毛調整後篦磨きを施す。それ以下では摩滅が進むが、篦磨きが認められる。28－２は口縁部である。口径25㎝を計測する。外面では刷毛調整後、粗い篦磨きが施される。内面口縁部では縄文が認められる。28－４は壺口縁部で口径9.6㎝を計測する。28－５は複合口縁を有する壺で、内面に磨きが認められる。口縁部には10本１単位の縦列沈線文が施される。28－６は甕で口径18㎝を計測する。摩滅が進んでいる外面は篦磨きが、内面は撫で整形が認められる。

第29号方形周溝墓（第33図）

Grid（Ｗ～ａ－20～24）に位置して、Ａ地区のやや北よりに存在し第23号、27号方形周溝墓の東側に隣接する。

第34号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第34号を第29号が切ることより、第34号－第29号の

順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸13.92m、方台部右軸10.64m、方台部左軸10.64m、右軸右位方台辺11.0m、深さ0.6m、左軸右位方台辺9.8m、深さ0.6m、右軸左位方台辺10.2m、深さ0.8m、左軸左位方台辺9.7m、深さ1.0mとなり形態は方形となる。主軸方位はN－70°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は5～6層に分けられる。第1層から第3層はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。セクションO－Pの第4層はローム塊が混入する暗褐色土との交互層であり、方台部方向からの流れ込みによる堆積が考えられる。横断面は方台部よりが急斜で外よりがやや緩やかとなり立ち上がる。溝縦断面はほぼ平坦であるが、K－Lでは凹凸が目立つ。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は左コーナーで狭まり、左軸左位溝で極端に広がるが、他の溝幅は一定して、各辺とも直線状を呈する。出土遺物は左軸左位溝中央の溝底に接し、あるいは5㎝ほど浮上して壺、台付甕破片が集中して出土する。

出土遺物（第97図）

29－1は台付甕の脚部である。摩滅が著しく整形加工痕は観察されない。29－2は壺底部で、底径6.6㎝を計測する。外面底部には指頭痕が、また内面では刷毛調整が顕著である。29－3は、やはり壺底部であり、底径は11㎝を計測する。外面に刷毛調整が認められる。29－4は折り返し口縁を有する壺である。肩部以下は欠損する。口径18.6㎝を計測する。外面頚部は粗い刷毛調整後、細かい刷毛調整、胴部はその後篦調整が施されるが、摩滅が著しくその方向は不明である。内面は刷毛調整後、口縁部内面篦磨き。焼成は良好で、赤褐色を呈し、胎土は細かい砂粒を含み、しまって固い。

第30号方形周溝墓（第34図）

Grid（Z～c－17～20）に位置して、A地区の中央よりやや北よりに存在する。第38号方形周溝墓、第40号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第38号に切られ第44号を切る。このことから第44号－第30号－第38号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.04m、方台部右軸7.04m、方台部左軸8.24m、右軸右位方台辺6.7m、深さ0.45m、左軸右位方台辺6.7m、深さ0.45m、右軸左位方台辺8.2m、深さ0.35m、左軸左位方台辺6.0m、深さ0.35mとなり形態は方形をとる。主軸方位はN－17°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は3層に分けられる。第1層黒色土はサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第2層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層である。堆積期間は比較的短い。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は右陸橋部付近が広がる傾向をみせる。他は溝幅は一定で安定する。各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上が

り、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、検出されない。

第31号方形周溝墓（第35図）

Grid（ｄ～ｇ－13～15）に位置して、Ａ地区中央よりのやや南側に存在する。第28号、第４号方形周溝墓が南北に隣接する。重複関係は認められない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸9.28m、方台部右軸76.96m、方台部左軸6.8m、右軸右位方台辺4.8m、深さ0.35m、左軸右位方台辺6.6m、深さ0.45m、右軸左位方台辺6.5m、深さ0.35m、左軸左位方台辺6.7m、深さ0.52mの小規模となり形態は方形となる。主軸方位はＮ－22°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

また溝内埋葬も溝幅が60～70㎝と狭くその可能性は薄い。

溝覆土の状態は３～４層に分けられる。中規模方形周溝墓に見られる安定した黒色土は確認されない。各セクション共に最下層のみに、ローム・ブロックが混入し、それ以上では単一の土壌層となり、各層位ともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。方台部の削平状況は横断面Ｍ－Ｎ、Ｏ－Ｐ、Ｓ－Ｔの各第２層の上端面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面溝幅は概して一定であると言えるが、部分的に肥大する箇所が認められる。各辺の状況であるが直線を呈するのが基本であり、特に方台部側の各辺は直線を呈す。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなるが、全般的にはＵ字状を呈し大差はない。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は壺底部（第97図９）が１点検出されている。

第32号方形周溝墓（第36図）

Grid（ｉ～ｊ－14～17）に位置して、Ａ地区中央より存在する。

第19号方形周溝墓、第46号方形周溝墓、第33号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第32号が第19、33、46号に切られ、第32号－第19号、第32号－第33号、第32号－第46号の順となる。規模は測点基準に従い計測すると、主軸8.4m、方台部右軸5.92m、方台部左軸6.32m、右軸右位方台辺4.7m、深さ0.32m、左軸右位方台辺6.0m、深さ0.6m、右軸左位方台辺6.0m、深さ0.9m、左軸左位方台辺5.0m、深さ0.4mとなり形態は左右コーナーが鋭角となり菱形を呈する。主軸方位はＮ－91°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２～３層に分けられる。黒色土の安定した土壌層は検出されないが、最下部ローム・ブロックとの交互層以外は単一の土壌層を形成する。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は切り合い関係のため、大半が消失するが残り部分からは陸橋部付近が極端に広がる傾向をみせる。また各辺は基本的には直線を呈する。

溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、検出されない。

第33号方形周溝墓（第37図）

Grid（ｊ～ｍ－13～17）に位置して、Ａ地区中央西端で第17号方形周溝墓に隣接して存在する。

第32号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第33号が第32号を切り、したがって第32号－第33号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸16m、方台部右軸10.48m、方台部左軸12m、右軸右位方台辺12.0m、深さ0.8m、左軸右位方台辺10.4m、深さ0.8m、右軸左位方台辺12.2m、深さ0.8m、左軸左位方台辺8.6m、深さ0.86mとなり形態はやや長方形を呈する。主軸方位はＮ－87°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は５～７層に分けられる。第１層黒色土は安定した土壌層であり、各セクションに認められる。最下層はローム・ブロックを含む交互層であるが、それ以外は単一の土壌層を形成し、長い期間にわたって堆積している。横断面Ｏ－Ｐ、Ｓ－Ｔ，Ｍ－Ｎ，Ｑ－Ｒの第２、３層は上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定し安定する。また各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、Ｉ－Ｊ、Ｅ－Ｆでは凹凸が目立つ。出土遺物は、右側陸橋部付近に集中して検出される。出土位置は、溝底より10㎝浮上して認められる。

出土遺物（第98図１～５）

33－１壺は、肩部から上部を欠損する。胴部最大幅は28.9㎝で胴下部に位置する、底部は9.4㎝を計測する。外面は刷毛調整後、丁寧な篦磨きが施される。内面では下部に刷毛調整が認められる。33－２、３は壺底部5.7㎝、7.2㎝を計測する。

33－４は小形台付鉢で、口径13.8㎝、底径7.1㎝を計測する。外面では刷毛調整、内面では台部にのみ刷毛調整が認められる。

第34号方形周溝墓（第38図）

Grid（Ｕ～Ｘ－23～26）に位置して、Ａ地区の北端、第35号、第37号方形周溝墓に隣接する。第27号方形周溝墓、第29号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第27号、第29号に切られる事から、第34号－第27号、第34号－第29号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.04m、方台部右軸6.16m、方台部左軸8.24m、右軸右位方台辺6.7m、深さ0.3m、左軸右位方台辺6.8m、深さ0.6m、右軸左位方台辺8.1m、深さ0.6m、左軸左位方台辺6.2m、深さ0.5mとなり形態は長方形をとる。主軸方位はＮ－67°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２～３層に分けられる。中規模方形周溝墓で特徴的に認められている第１層黒色土、第２層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。

第３層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であるが、土壌化した層位でありやはり長期間による堆積層と考える。横断面第２層は上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が極端に広がる傾向をみせる。

また各辺は基本的に直線を呈するが、右軸右位溝中央で屈曲して直線をなさない。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面溝底は全体的には平坦であるといえるが、Ｇ－Ｈ、Ｋ－Ｌでは凹凸が目立つ。

出土遺物は、右軸右位溝中央やや北よりで台付甕１点が溝底に接して横たわって出土する。

台付甕の上面は欠損する。

出土遺物（第95図）

34－１は台付甕で法量、口径23.8㎝、器高34.2㎝、底径5.4㎝を計測する。外面は丁寧な右回りの刷毛調整が施され、口唇部では刻目が認められる。内面頸部、脚部では横位の粗い刷毛調整が施される。外面上部、内面底部では煤が付着する。

第35号方形周溝墓（第39図）

Grid（Ｔ～Ｗ－26～30）に位置して、Ａ地区最北端にあたり、第37、34、27号が南側に隣接する。重複関係は認められず単独である。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.56m、方台部右軸8.64m、方台部左軸10.08m、右軸右位方台辺7.6m、深さ0.5m、左軸右位方台辺8.4m、深さ0.3m、右軸左位方台辺9.5m、深さ0.5m、左軸左位方台辺5.6m、深さ0.45mとなり形態は中央コーナーの角度が鋭角となり左右コーナー角度が開く菱形となる。主軸方位はＮ－117°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は３～４層に分けられる。第１層黒色土、第２層暗褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり、長い期間にわたって堆積している。第３層はソフト・ロームが多く、土壌層との交互層を形成する。短期間による堆積層と考える。方台部の削平状況では横断面第２層上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は右陸橋部付近が僅かに広がり、左陸橋部が逆に狭まる。また各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側で、やや緩やかとなる。溝底断面は平坦を呈する溝もあるが、全体的には凹凸が目立つ。

第36号方形周溝墓（第40図）

Grid（Ｖ～Ｙ－16～20）に位置して、Ａ地区のやや北よりに存在する。第15号方形周溝墓、第18号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第15号、第18号に切られ、第36号－第15号、第36号－第18号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸11.14m、方台部右軸8.16m、方台部左軸9.04m、右軸右位方台辺8.2m、深さ0.85m、左軸右位方台辺7.9m、深さ0.65m、右軸左位方台辺9.5m、深さ0.58m、左軸左位方台辺6.8m、深さ0.8mとなり形態は方形となる。主軸方位はＮ－107°－Ｅを指す。埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は大きく５層に分けられる。第１層黒色土、第２、３層暗褐色土はともに緻密で

サラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第４層以下はソフト・ローム塊が混入する土壌層との交互層であり、堆積は短期間である。方台部削平状況は横断面Ｋ－Ｌ第２層は上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定であり、直線を呈し整然となる。

溝横断面は、方台部側と、溝外側との傾斜に差がなく台形状を呈する。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。

第37号方形周溝墓（第41図）

Grid（Ｓ～Ｕ－23～25）に位置して、Ａ地区北端に存在する。重複関係は認められないが、第35号、第34号が近接する。特に陸橋部付近ではその出入り口に第34号が配置されているが、この34号の右軸左位溝を中央で屈曲させる要因となる様相を呈する。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸9.6m、方台部右軸6.72m、方台部左軸7.44m、右軸右位方台辺5.4m、深さ0.3m、左軸右位方台辺6.8m、深さ0.3m、右軸左位方台辺3.2m、深さ0.3m、左軸左位方台辺5.0m、深さ0.38mとなり形態は長方形をとり陸橋部が広く、その結果中央コーナーと対応する。主軸方位はＮ－107°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は３～４層に分けられる。第１層は黒色土の単一層をなす。第２層以下ではローム・ブロックとの交互層を形成する。方台部削平状況は横断面Ｑ－Ｒ第２層上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は各コーナーで隅丸を呈し、各辺は直線を示さず、方台部、外壁共に僅かに外側に張り出すようにカーブをなす。陸橋部では、左陸橋部付近の溝幅が広がり、逆に右陸橋部付近溝幅が狭まる。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、Ｋ－Ｌでは凹凸が目立つ。出土遺物は、坩形土器１点が１点出土する。右軸右位溝ほぼ中央セクションＯ－Ｐにかかって、溝底に接して検出された。

出土遺物（第98図７）

37－１は坩形土器で、法量は口径13.5㎝、器高22.8㎝、底径5.4㎝、胴部最大径17㎝を計測する。

外面は刷毛調整→丁寧な篦磨き→赤色顔料塗りで、口縁部は横撫でが認められる。内面は頸部で丁寧な篦磨き、胴部下位は横位の刷毛調整、胴部上位は指による撫で整形が施される。肩部は上方には頸部と接合したときの指頭痕があり、接続部を篦状工具による撫で調整。底は平底で篦磨きが施される。

第38号方形周溝墓（第42図）

Grid（Ｚ～ｃ－14～17）に位置して、Ａ地区のほぼ中央部に存在する。第28号方形周溝墓、第38号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、第38号が第28号に切られ、第30号を切る。したがって第30号－第38号－第28号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸9.6m、方台部右軸6.88m、方台部左軸7.36m、右軸

右位方台辺7.6m、深さ0.45m、左軸右位方台辺6.6m、深さ0.4m、右軸左位方台辺6.4m、深さ0.44m、左軸左位方台辺5.8m、深さ0.58mとなり形態は方形を呈するが、中央コーナー角度が開き、右コーナーが鋭角となる為、結果的に菱形に近くなる。主軸方位はN－77°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は5層に分けられる。第1層黒色土であるが、黒褐色土との交互層である。第2層は自然堆積層とは考え難く、ハード・ロームの風化によるものとされ溝内への流れ込が考えられる。第3層以下は暗・黒褐色の土壌層で単一層をなし長期間による堆積層と考える。横断面L－Kの第3・4層は方台部寄りの上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部に接する各溝幅が僅かに広がる傾向をみせるが顕著でない。また各辺は基本的には直線を呈して整然となる。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側では緩やかとなる。溝縦断面は他の方形周溝墓に比べ、全体的に凹凸が目立つ。出土遺物は、右軸右位溝陸橋部付近で1点の台付土器が出土する。出土レベルは1層最下部で、溝内外側よりで検出される。

出土遺物（第99図1）

38－1は、内外刷毛調整の小形台付土器で器種は不明である。胴部と台部の付け根に小孔が4単位（1単位2から3個）認められる。

第39号方形周溝墓（第43図）

Grid（g～i－25～27）に位置する。A地区の最北西端にあたり、第41号方形周溝墓、第25号方形周溝墓が隣接する。重複関係は示さず、独立して存在する。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸7.67m、方台部右軸5.36m、方台部左軸5.44m、右軸右位方台辺3.8m、深さ0.27m、左軸右位方台辺5.6m、深さ0.2m、右軸左位方台辺5.0m、深さ0.3m、左軸左位方台辺5.1m、深さ0.3mとなり形態は方形となるが右コーナー角度が鋭角となりやや歪む。主軸方位はN－22°－Eを指す。埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は2層に分けられる。第1層は暗褐色土でサラサラしてしまりがないが、長期間にわたり堆積した土壌層である。第2層黄褐色土は、ソフトロームにした土層である。

横断面M－Nの第2層方台部寄りは上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が左軸右位溝が他に比べ広がるが、ほかは直線を呈し、溝巾は一定する。溝横断面は方台部寄りが外側に比べやや急に立ち上がり、外側で緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、壺底部が右軸右位溝中央より出土している。レベルは第1層下位で溝底より浮上する。

出土遺物（第99図2）

39－1は壺底部で底径4.5cmを計測する。外面では刷毛調整、内面では篦磨きが認められる。焼成は良好で褐色を呈し、胎土はやや粗い。

第40号方形周溝墓（第44図）

Grid（e～g－22～24）に位置して、A地区の北西部に存在し第24、25、41号方形周溝墓が

隣接する。第24号方形周溝墓、第25号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第40号が第24、25号を切る。したがって第24号－第40号、第25号－第40号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.0m、方台部右軸7.67m、方台部左軸6.4m、右軸右位方台辺7.0m、深さ0.4m、左軸右位方台辺7.4m、深さ0.3m、右軸左位方台辺6.0m、深さ0.5m、左軸左位方台辺6.8m、深さ0.5mとなり形態は長方形となる。主軸方位はN－85°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２層に分けられる。第１層は黒色土壌層ではあるが耕作による撹乱が認められる。

第２層は暗褐色土で、１、２層ともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。方台部の削平状況は、方台部より第２層上面がカットされており方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせるが顕著ではない。また各辺は方台部側で直線を呈するが、溝外側は湾曲する箇所もある。溝横断面は方台部よりが急に立ち上がり、外側で緩やかとなるが大差はなく断面形は台形状に近い形態となる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、僅かに凹凸が認められる。出土遺物は、左軸左位溝中央で、溝底に接して、壺頸部が出土する。

出土遺物（第99図３）

40－１は、壺頸部である。外面は縦位の刷毛調整が、内面では横位の丁寧な刷毛調整が認められる。

第41号方形周溝墓（第45図）

Grid（ｄ～ｇ－24～27）に位置して、Ａ地区北西端に存在する。第26号方形周溝墓に重複する。

新旧関係は第41号が第26号に切られ、第41号－第26号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.8m、方台部右軸7.44m、方台部左軸10.64m、右軸右位方台辺9.6m、深さ0.7m、左軸右位方台辺7.5m、深さ0.21m、右軸左位方台辺10.6m、深さ0.48m、左軸左位方台辺5.7m、深さ0.32mとなり形態は長方形をとる。主軸方位はN－15°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２～３層に分けられる。第１層黒色土は安定した土壌層で長い期間にわたって堆積している。第２層はローム魂が混入する暗黒褐色土との交互層であるが、土壌化した層位でありやはり長期間による堆積層と考える。第３層は10㎝大のローム・ブロックが混入し急激な堆積が考えられる。方台部削平状況は横断面M－N第２層の上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせるが顕著ではない。また各辺は概して狭く、直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急に立ち上がり、

外側でやや緩やかになる傾向となるが大差はなく断面形は台形に近い。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、E－Fでは凹凸が目立つ。出土遺物は、壺口縁1点、鉢形土器1点が中央コーナー付近より出土する。レベルは1層黒色土下位で認められ、溝内で浮上する。

出土遺物（第99図4、5）

41－1は鉢形土器で、口径19.6cmを計測し、胴下半は欠損する。口縁は折り返し口縁を有し、内外共に刷毛調整が施される。41－2は口径16cmを計測する。外面口唇では刻目が認められ、内面では縄文が施される。焼成は良好であり褐色を呈し、胎土は緻密で固い。

第42号方形周溝墓（第46図）

Grid（d～e－18～20）に位置して、A地区のほぼ中央に存在する。第28号方形周溝墓に重複する。新旧関係は僅かに溝外部が切り合う程度であり確認には至らない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸6.8m、方台部右軸5.12m、方台部左軸5.12m、右軸右位方台辺4.5m、深さ0.4m、左軸右位方台辺4.9m、深さ0.38m、右軸左位方台辺4.7m、深さ0.2m、左軸左位方台辺4.7m、深さ0.2mとなり形態は方形をとる。主軸方位はN－105°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。また溝内埋葬も溝幅が50cm内外と狭くその可能性は薄い。

溝覆土の状態は2～3層に分けられる。第1層黒色土、第2層暗黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は概して溝幅が一定であり直線を呈して、整然となる。溝横断面は台形を呈する。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物なし。

第43号方形周溝墓（第47図）

Grid（c～e－20～22）に位置して、A地区の中央よりやや北西にあたる。第44号方形周溝墓に重複する。新旧関係は溝外部が僅かに切り合う程度でありセクション観察からは、溝の新旧は把握できない。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸7.2m、方台部右軸5.76m、方台部左軸5.52m、右軸右位方台辺4.4m、深さ0.3m、左軸右位方台辺5.4m、深さ0.4m、右軸左位方台辺5.0m、深さ0.3m、左軸左位方台辺4.8m、深さ0.4mとなり形態は中央コーナー角度が鋭角となり、左右コーナーが開くため菱形状となる。主軸方位はN－70°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。また溝内埋葬も溝幅が60～70cm内外と狭くその可能性は薄い。

溝覆土の状態は2層に分けられる。第1層黒色土、第2層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であるが、2層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層である。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせるが顕著でない。また各辺は基本的には直線を呈するが数箇所にわたって湾曲する。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、J－Vでは凹凸が目立つ。出土遺物は、右軸右位溝陸橋部より壺口縁部が2点溝に浮上して

出土する。出土層位は１層上面に認められる。

出土遺物（第99図６、７）

43－１は壺の口縁部で肩部以下は欠損する。口径14㎝を計測する。外面では刷毛調整後、篦磨きが施され、内面では磨きのみが観察される。43－２は折り返し口縁の二重口縁壺である。口径22.4㎝を計測する。口縁部では４単位？（１単位10個）の刻目状沈線が施され、さらにその下位では刷毛調整が認められる。また、内面では結節縄文が施される。

第44号方形周溝墓（第47図）

Grid（Ｚ～ｂ－19～21）に位置する。第１号方形周溝墓の西方約10m、調査区東端に存在する。

第30号方形周溝墓、第43号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第30号に第44号が切られる。したがって第44号－第30号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸7.2m、方台部右軸5.76m、方台部左軸5.52m、右軸右位方台辺4.4m、深さ0.3m、左軸右位方台辺5.4m、深さ0.4m、右軸左位方台辺5.0m、深さ0.3m、左軸左位方台辺4.8m、深さ0.4mとなり形態は長方形に近いが、陸橋部が広く、右コーナーが鋭角となり、方台部は歪み菱形状を呈する。主軸方位はＮ－70°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は５層に分けられる。第１層暗黒褐色土、第２層黒色土、第３層黒茶褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第４層以下はローム塊が混入する黒茶褐色土との交互層で、単一層位ではない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。溝幅は一定で直線上をなし整然となる。溝横断面は台形状を呈し、両壁共に急激に立ち上がる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、Ｇ－Ｈでは、陸橋部付近と左コーナーが深くなる。またＥ－Ｆでは溝中央部が最深となり、弓状となる。

尚、遺物の出土はない。

第45号方形周溝墓（第48図）

Grid（ｆ～ｊ－－２～２）に位置して、Ａ地区の南端に存在する。第１号方形周溝墓、第51号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第１号に切られ、51号を切る。したがって第51号－第45号－第１号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸16.6m、方台部右軸12.08m、方台部左軸10.04m、右軸右位方台辺4.8m、深さ0.4m、左軸右位方台辺6.5m、深さ0.48m、右軸左位方台辺5.5m、深さ0.34m、左軸左位方台辺5.2m、深さ0.36mとなり形態は方形となるが中央コーナー角度が鋭角となり、左右コーナー角度が開き、現状は菱形状に近い。主軸方位はＮ－98°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は大きく３から５層に分けられる。第１・２層はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。３層、４層以下はソフト・ローム塊が混入する土壌層との交互層であり、堆積は短期間である。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定であるが、陸橋部付近になると極端に溝幅が広がる。溝横断面は、方台部よりが急傾斜となり溝外側が緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し

第46号方形周溝墓（第36図）

Grid（ｈ～ｊ－12～14）に位置して、Ａ地区南西部に存在する。第32号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第46号が第32号を切り、したがって、第32号－第46号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸8.0m、方台部右軸6.08m、方台部左軸5.92m、右軸右位方台辺4.8m、深さ0.4m、左軸右位方台辺6.5m、深さ0.48m、右軸左位方台辺5.5m、深さ0.34m、左軸左位方台辺5.2m、深さ0.36mとなり形態は中央コーナー、左右コーナー角度が鋭角となり現状は菱形となる。主軸方位はＮ－７°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は大きく２層に分けられる。第１層暗黒褐色土で部分的に黄褐色土を混入しており交互層をなす。第２層暗黄褐色土で１層の土壌層に多量のローム・ブロックを混入する交互層である。溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が狭く一定で整然となる。また、各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面はＵ字状を呈し、方台部寄り、溝外側とともに急激に立ち上がる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し。

第47号方形周溝墓（第49図）

Grid（Ｑ～Ｔ－６～10）に位置して、Ａ地区東部に存在する。第50号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第47号が第50号に切られ、したがって第47号－第50号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸12.0m、方台部右軸10.24m、方台部左軸8.56m、右軸右位方台辺6.8m、深さ0.3m、左軸右位方台辺10.0m、深さ0.4m、右軸左位方台辺7.4m、深さ0.66m、左軸左位方台辺9.2m、深さ0.74mとなり形態は長方形を呈する。主軸方位はＮ－89°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は大きく２層に分けられる。第１層は黒色土に黒褐色土を混入する交互層であるが緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第２層はソフト・ロームに近い土壌にローム塊が混入する交互層である。方形周溝墓の平面は陸橋部を除き全周する。平面は概して溝幅が狭く、部分的に凹凸を示し、右軸右位溝のみがやや幅広となる。横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、Ｅ－Ｆ、Ｋ－Ｌ、Ｉ－Ｊでは凹凸が目立つ。出土遺物は右軸右位溝陸橋部寄りに集中する。出土レベルは第１層下部と、溝底に５㎝前後浮上する例が多く一括出土する。

出土遺物（第100図１～７）

47－１は甕で口径13.4㎝を計測する。口縁部は刻目が、それ以下では丁寧な刷毛調整が施される。焼成は良好で褐色を呈する。47－２は台付甕で脚部底径8.6㎝を計測する。内外刷毛調整が施される。47－３は、甕下半部で底径6.4㎝を計測する。内外刷毛調整で、内面では指頭痕が観察される。47－４は椀で、口径12.7㎝、器高5.4㎝、底径6.9㎝を計測する。内外粗い刷毛調整が

施される。焼成は良好で褐色を呈し、胎土も緻密で固い。47－５は壺口縁部で、口径10㎝を計測する。外面刷毛調整で、口縁部には横撫でが認められる。47－６は刷毛調整後、肩部には刺突による偽縄文が施される。内面は胴部上半部に指頭痕が認められる。47－７は壺底部で底径7.6㎝を計測する。外面は刷毛調整が施され、指頭痕も部分的に認められる。

第48号方形周溝墓（第50図）

Grid（Ｌ～Ｏ－６～９）に位置する。Ａ地区東端部に位置する。第21号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第48号が21号を切り、したがって第21号－第48号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、方台部右軸9.6m、右軸右位方台辺5.4m、深さ0.6mとなり形態は基本的に方形となる。溝覆土の状態は３層に分けられる。第１層黒色土、第２層は黒褐色土でともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であり、急激な堆積が考えられる。

周溝は全掘ではなく、全容は不明であるが、多くの例から、１カ所の陸橋部を除き全周するものと考える。溝端は発掘部分の方台部寄りは直線を示す。溝横断面は台形を呈し、内外壁ともに急激に立ち上がる。溝縦断面は全体的に平坦であるといえるが、僅かに凹凸が目立つ。出土遺物無し。

第49号方形周溝墓（第50図）

Grid（Ｎ～Ｐ－１～３）に位置して、Ａ地区東部端に存在し、第53号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第49号が第53号を切り、第20号に切られる。したがって第53号－第49号－第20号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、方台部左軸7.2m、左軸左位方台辺6.0m、深さ0.6mとなる。形態は全掘でないため、把握は困難である。埋葬施設の有無は、不明。溝覆土の状態は３層に分けられる。第１層黒色土、第２層暗黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であるが、２層はわずかに茶褐色の粘質土が混入する。第３層はローム塊が混入する第２層の土壌層との交互層を形成する。

平面は溝幅が一定で、直線を呈する。陸橋部を北側にとるが、20号に左コーナーが切られるが、左軸右位溝、右軸右位溝の延長部をコーナーと推定するとかなり鋭角を有する。またこの両溝の端部は、円みをもち立ち上がる兆候をも呈することより、コーナーを２カ所有した可能性をもつ。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、検出されない。

第50号方形周溝墓（第51図）

Grid（Ｏ～Ｓ－９～15）に位置して、Ａ地区東部端に存在する。第47号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第50号が第47号を切り、第47号－第50号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、右軸15.68m、左軸左位方台辺14.4m、深さ0.9mとなる。溝覆土の状態は６～７層に分けられる。第１層黒色土、第２層暗黒褐色土、第３層暗茶褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第４層はソフト・ロームに類似する土壌が混入するが、やはり長期間による堆積層と考える。第５、６層はローム・ブ

ロックが多量に混入しており、急激な堆積とされる。方台部削平状況は横断面Ｉ－Ｊ、Ｋ－Ｌで方台部寄りの第２、３、４層上面がカットされ、方台部等の削平が読み取れる。平面は全掘しないが、周溝は１カ所の陸橋部を除き全周するものと考えられる。溝幅は陸橋部付近が極端に広がり、コーナーで狭まる。また各辺は直線を呈し整然となる。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側で緩やかな立ち上がりとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、左軸左位溝中央部、左コーナーと右軸右位溝陸橋部寄りで壺が出土する。右軸右位溝では壺１点（50－９）が溝底より15cm浮上して検出される。残りが左軸左位溝中央から左コーナー手前にかけて集中する。溝底に接してあるいは５cm程度浮上して出土する。完形に復元されるものも含まれるが、いずれも５cm大の破片で検出された。

出土遺物（第100、101、102、103図）

50－１は壺で口径17.2cmを計測する。摩滅が進み外面はやや不鮮明であるが、刷毛調整後撫でが施されるものと思われる。胎土はやや粗く、褐色で焼成良好。50－２は台付甕で法量、口径14.2cm、器高17cm、底径7.8cmを計測する。外面刷毛調整で、内面は刷毛調整後、胴部を中心に篦磨きが施される。胎土は緻密で褐色を呈し焼成良好。50－３は台付甕で底径11.0cmを計測する。外面は刷毛調整、内面では刷毛調整後に磨きが施される。胎土は緻密で褐色を呈し焼成良好。50－４は壺で口径16.2cm、器高31.8cm、底径７cmを計測する。外面は刷毛調整後丁寧な篦磨きを行い、肩部には縄文が施される。内面は刷毛状工具で調整後、胴部は撫で、頸部から口縁部にかけては篦磨きが施される。胎土は砂粒を含み固く、焼成はやや不良で淡褐色を呈する。50－５は壺で口径15.4cmを計測する。体部外面は削りが施される。胎土は緻密で褐色を呈し焼成良好である。50－６は壺胴部下半から底部である。摩滅が著しく進み外面底部にのみ刷毛調整が認められる。50－７は壺で頸部から口縁を欠損し、底径は7.4cmを計測する。内外刷毛調整を施し、内面胴上部では指頭痕が認められる。50－８は折り返し口縁壺で口径20.5cm、器高32.5cm、底径10.5cmを計測する。外面では刷毛調整→篦磨きが行われ、肩部では縄文ＲＬ－竹管文－円形浮文２段（上段１単位５個で４単位、下段１単位７個で４単位）が施され、外面全面に赤色顔料が塗料される。内面では胴部から頸部にかけて刷毛調整、底部は細かい刷毛調整、口縁は刷毛→篦磨きの後、縄文ＲＬの上に竹管文を施し、さらに円形浮文（６単位－１単位３個）が施される。また口縁では１～３mm大の穿孔（１単位２個）が２単位が認められる。胎土は砂粒、石英を含み固い、焼成は良好で赤褐色を呈する。50－９は折り返し口縁の壺で、口径24.5cm、器高47.5cm、底径13cmを計測する。口縁では、５単位の刻目（４－６－６－６－８）を行う。外面頸部は粗い刷毛調整後、非常に細かい刷毛調整を施す。さらにその上に円形浮文４単位？（１単位２個）を施す。胴部以下は粗い刷毛調整のみが認められる。内面は頸部で丁寧な刷毛調整、胴部で粗い刷毛調整が認められる。

第51号方形周溝墓（第52図）

Grid（ｆ～ｊ－－２～－３）に位置する。Ａ地区調査区の最南端に位置する。第45号方形周溝墓、第52号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第45号が第51号を切り、52号が51号を切る。従って第51号－第45号、第51号－第52号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、方台部右軸10.96m、左軸左位方台辺10.0m、深さ0.7mとなる。埋葬施設は、方台部の一部を掘り上げたのみで調査は全体には及ばず確認に至らない。

溝覆土の状態は5層に分けられる。第1層黒色土、第2層黒褐色土はともに緻密でサラサラした単一の土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第3層以下はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であり堆積期間は1、2層より短期間と考える。方台部削平状況は横断面U－Vの第2層で方台部寄りの上面がカットされ、方台部等の削平が読みとれる。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周するものと考える。平面は溝が重複によりカットされ全容は把握できないが陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせる。また各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、左軸左位溝、陸橋部付近で、高坏1点が3～5㎝大の破片で集中して出土した。出土層位は第2層黒色土上面で検出される。

出土遺物（第99図8）

51－1は高坏で口径27.9㎝、器高26.4㎝、底径14㎝を計測する。外面は坏部上部は横位（左から右）の、中央部から台部にかけては縦（上→下）磨きが施される。内面では丁寧な篦磨きが横位に施され、内外共に赤色顔料を塗装する。

第52号方形周溝墓（第51図）

Grid（j～m－－3～0）に位置する。第51号方形周溝墓に重複して、A地区の南端部に位置する。新旧関係は第51号を切り、第51号－第52号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、左軸左位溝13.6㎝、深さ0.75㎝を計測する。埋葬施設は、方台部の一部を掘り上げたのみで調査は全体には及ばず確認には至らない。

溝覆土の状態は大きく6層に分けられる。第1層暗茶褐色土、第2層黒色土、第3層暗黄褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第4層以下は黒茶褐色土にローム塊が混入する黒褐色土との交互層である。堆積時間は急激である。横断面Q－R第2、3層は上面がカットされ、やはり方台部等の削平が読みとれる。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周するものと考えられる。平面は陸橋部付近が広がる傾向を呈する。確認時での溝幅は直線を呈し狭い。溝横断面は内外壁が垂直に近い状態で立ち上がる。溝縦断面はC－Dで見る限りでは平坦であるといえる。出土遺物無し。

第53号方形周溝墓（第50図）

Grid（N～L－2～5）に位置して、A地区最東端に存在する。第49号方形周溝墓に重複して、新旧関係は第53号が第49号に切られ、第53号－第49号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、方台部右軸8.64m、左軸左位方台辺7.0m、深さ0.5mを計測する。

埋葬施設は、調査が方台部の全体確認に至らず、不明であるが隣接する方形周溝墓同様、耕作等により削平されているものと考えられる。

溝覆土の状態は3層に分けられる。第1層黒色土、第2層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。

第３層はソフト・ロームに似た土壌層にローム塊が混入して堆積時間は急激である。平面は陸橋部付近の溝が僅かに広がり、左コーナー付近溝からは急に狭まる。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝横断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し。

第54号方形周溝墓（第53図）

Grid（ａ～Ｚ－３～５）に位置する。Ａ地区の南部で第１号方形周溝墓の東方に隣接する。重複関係は示さず単独である。

規模は測点基準を南側陸橋部に設定し計測すると、方台部右軸6.32m、方台部左軸6.0m、右軸右位方台辺2.0m、深さ0.26m、左軸右位方台辺3.5m、深さ0.3m、右軸左位方台辺2.6m、深さ0.3m、左軸左位方台辺3.6m、深さ0.4mとなる。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２層に分けられる。第１層は黒色土に少量のローム・ブロックを混入する。第２層暗黄褐色土に、多量のローム・ブロックを含む。横断面は角のとれた長方形状を呈し、両壁共に急激にたちあがる。方台部の削平状況は横断面Ｉ－Ｊの第２層方台部寄り上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。周溝は、削平により溝大半が消失しており、現状では『』となり、あたかも陸橋部が２カ所存在したかのようにとらえられる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し。

第55号方形周溝墓（第53図）

Grid（ａ～Ｙ－２～３）に位置して、Ａ地区南部第54号に隣接する。重複関係は示さずに単独で存在する。

規模は測点基準を南側陸橋部に設定し計測すると、主軸5.9m、方台部右軸4.4m、方台部左軸4.4m、右軸右位方台辺3.6m、深さ0.23m、左軸右位方台辺4.2m、深さ0.26m、右軸左位方台辺3.2m、深さ0.32m、左軸左位方台辺4.0m、深さ0.22mとなる。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２層に分けられる。第１層は黒色土にローム・ブロックを混入する。第２層茶褐色土はローム・ブロックを多量に混入して、いずれも単一層とならない。平面では陸橋部が２カ所が存在するようであるが、削平によるためで、コーナーの一部と溝一部が消失したものと考えられる。溝幅は、ほぼ一定で直線をなす。溝横断面は54号同様に角のとれた長方形を呈し、内外壁共に急激に立ち上がる。溝縦断面は概して平坦であるといえる。出土遺物無し。

第１年次（昭和54年度）小結

上の平遺跡における周溝墓相互間における重複は夥しく、重複関係は総数40基を越えるにもかかわらず周溝の重複に止まり方台部に及ぶ重複は１例も認められず、時間的な差が少ないことを窺わせる。重複関係で多いものは６基で新旧関係は２～４段階である。最大の重複を示す一群は、最大規模の１号墓を中心に51号→45号→２号→３号→１号のながれがあるが、その間にある土器型式の差は弥生後期後半から古墳時代前半までに及ぶ。方形周溝墓のプランは、陸橋部が１つで１号に認められた溝の一隅を欠くタイプが主である。特殊例として、一辺の両端の欠く例、対角

を欠く例があるが極端に少なく地形の削平によるものと考える。

陸橋部は北に配されるものが極端に少ないが、他は平均して存在して部分的に集中し偏在する傾向が認められた。周溝の縦横比は１：１に集中し、周溝外形は長方形であっても方台部は正方形に近い場合がみられる。又長方形のプランを呈するものは大形に属するものが多く、重複関係も周囲の物を切ることが多く、敷地の制約を受けたことは明らかで、本来は正方形のプランを指向したものと言えよう。

１号は２号、３号を切り、５、７号沿いの周溝は外部に突出したカーブを描き空間を最大限に利用する意図が認められる反面、54号との空間は幾分余裕が残る。このように周囲の空間が残る場合にあえて長方形の周溝を築造することは、その空間が造墓活動に不可能な地域、すなわち墓地域内の通路として意識されたもので最終段階の墓道の痕跡と考えられる。３、45号は重複の関係では１号墓に切られるが１号によりプランが圧迫された長方形化していることは、３号、45号築造時期には１号の築造も既に予定された可能性がある。この三基の規模が自らのプランを圧迫したことは、墓地域内での造墓活動が終末に近付いたことを暗示するものである。方台部が完全に削平され埋葬施設が全く検出されないため、周溝墓の被葬者築造主体者相互の格差を示すものは周溝墓に限られる。周溝部は重複が多く周溝部を含む規模は不明瞭なものが多いが、周溝内部の方台部は重複例がなく縦横の計測が可能であり、方台部をもって指標とすることが可能である。先述のように敷地の関係で圧迫された例が認められ、長軸を重視することが必要である。１号墓が他を圧する規模を有し、方台部の面積は現状でも、400㎡に近く、長辺を平行にすれば470㎡を計る。50号と３号が200㎡～250㎡で続き、200㎡弱で３基が、さらに、150㎡前後と100㎡前後で数を増加しながら集中し、大半は100～50㎡で、１号を頂点とするピラミッド状に集約される。

第４章　発掘調査（第２年次）

第１節　遺構と検出状況

第２年次：初年度の方形周溝墓群の範囲確認のため、調査区を東、北、西に延長する。北部では北斜面にかかり、立地条件も限度に近く、中には溝部が斜面上に達して既に削平されて溝等が消失する箇所も認められた。方形周溝墓の保存状態は、台地が削平を受け、したがって方形周溝墓等にもその影響が及びなかには、方台部、溝部の大半が消失するものが多く認められており、保存状況は本年度分が特に悪い。

縄文時代では、土器片が僅かに認められ、第58号方形周溝墓の方台部北よりから１軒の、プラン円形の住居址が検出されたにとどまった。

第２節　弥生時代の遺構と遺物

１．方形周溝墓

第56号方形周溝墓（第54図）

Grid（ｂ～ｃ－34～37）に位置して、調査区域のほぼ中央密集区の東よりに第61号、71号等と隣接して存在する。重複関係はなく独立する。規模は削平がすすみ遺構の残存状態も悪く溝の深さも10～15㎝を計測する程度である。この削平作用により、各コーナーが消失して陸橋部が４カ所存在するよう検出された。このため規模の計測を南側に起点をおいて進めると、主軸8.0m、方台部右軸6.68m、方台部左軸6.6mを計測する。

方台部は耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は３層に分けられ、レンズ状堆積が認められる。第１層は黒褐色土、第２層暗褐色土、第３層暗黄褐色土でいずれも部分的に黄褐色のローム・ブロックを混入しており交互層をなす。溝横断面は浅いが、方台部よりが急激に立ち上がり、溝外が緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し。

第57号方形周溝墓（第55図）

Grid（ｄ～ｇ－30～33）に位置して、Ａ地区北端部の第26号方形周溝墓西方に存在する。第68号方形周溝墓に重複する。新旧関係は溝外部が僅かに認められる程度であり、セクションからの新旧関係の把握は困難である。規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.0m、方台部右軸7.6m、方台部左軸7.6m、右軸右位方台辺6.6m、深さ0.65m、左軸右位方台辺6.6m、深さ0.6m、右軸左位方台辺7.4m、深さ0.45m、左軸左位方台辺6.6m、深さ0.6mとなり形態は方形を呈する。主軸方向はＮ－88°－Ｗを指す。埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。溝覆土の状態は４層に分けられる。第１層は暗黄褐色土、第２層黒褐色土は、単一の土壌層で、緻密でサラサラしており長い期間にわたって堆積している。第３層は茶褐色土の土壌層にソフト・ロームが僅かに混入する交互層である。４層は暗茶褐色土に多量のローム・ブロックが混入する。方形周溝墓の平面は陸橋部を除き全周する。平面は概して溝幅が狭く、直線状を呈する。横断面は方台部よりがやや急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は凹凸が目立つ。出土遺物無し。

第58号方形周溝墓（第56図）

Grid（ｈ～ｉ－30～37）に位置して、遺跡のほぼ中央部にあたり、東北には57号方形周溝墓が隣接する。重複関係は示さず、独立して存在する。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸26.15m、方台部右軸20.96m、方台部左軸16.6m、右軸左位方台辺20.0m、深さ0.6m、左軸左位方台辺15.6m、深さ1.0mとなり形態は長方形を呈する。主軸方向はＮ－84°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。溝覆土の状態は４層に分けられる。第１層は黒色土、第２層黒褐色土は、単一の土壌層で緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層以下は暗茶褐色の土壌層にソフト・ロームが僅かに混入する交互層である。４層は暗茶褐色土に多量のローム・ブロックが混入し３層に比べやや黄色が強い。方形周溝墓の平面は一部未発掘であるが、溝は陸橋部を除き全周するものと考える。平面は概して溝幅が狭く、直線状を呈する。陸橋部、各コーナー幅が狭く溝中央が広がる。横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は平坦であるが、Ｅ－Ｆ

中央からＥよりでは一段下がる傾向にある。

出土遺物は、左軸左位溝中央と左軸右位溝中央の２カ所に集中して出土する。左軸左位溝では１層下部より小形台付甕１点が検出された。左軸左位溝ではやはり１層下部から２層上面にかけて、複合口縁壺１点、甕３点が浮上して検出された。

出土遺物（第104図１～５）

58－１は複合口縁の壺で肩部以下は欠損する。外面は口縁で刷毛調整後、４単位の円形浮文（１単位２個）が貼付される。内面は粗雑な刷毛調整後に口縁部下部に篦磨きが認められる。口径30.2㎝を計測して大形壺の部類に入る。58－２甕は口径14.4㎝で口唇部には刷毛による刻目を施し、内外共に刷毛調整が行われる。58－３甕は口径16.5㎝を計測する。内外刷毛調整が施される。58－５甕は口径21.5㎝を計測し、内外面には刷毛調整が行われる。58－４台付甕は、口径13.8㎝、器高19.7㎝、底径8.2㎝を計る。外面は口唇部では、指による撫でが行われる。頸部では左→右の粗い刷毛調整が施される。胴部では整形の際に刷毛の上から粘土を塗り付けた跡が認められる。台部では胴部と異なる刷毛が認められる。内面では口縁から頸部にかけて細かい刷毛調整が認められ胴部以下では粗い刷毛が認められる。

調整方向は右→左廻りである。尚、台部下部では内外共に指撫でが施される。

第59号方形周溝墓（第57図）

Grid（ｈ～ｋ－37～39）で遺跡のほぼ中央部に位置する。第58号方形周溝墓の北西に存在する。重複関係は認められず独立する。規模は西側陸橋部に立ち計測すると、方台部右軸10.0m、方台部左軸10.8m、右軸右位方台辺6.6m、左軸右位方台辺7.4m、深さ0.24m、右軸左位方台辺5.6m、深さ0.2m、左軸左位方台辺5.5m、深さ0.41mとなり形態は方形となる。

溝覆土の状態は２層に分けられる。第１層は黒色土に耕作土が混入して斑状となる。第２層黒褐色土はロームブロックを多量に含む交互層である。方台部削平状況は横断面第２層上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、２カ所の陸橋部を有する形態を示すが、方台部等周辺は削平が進みコーナーの１カ所が消失したものと考える。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側で緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し。

第60号方形周溝墓（第54図）

Grid（ｆ～ｈ－34～35）に位置して、遺跡の中央部にあたり、第58号方形周溝墓の北方に存在する。重複関係は示さず独立する。方台部の規模は、長軸6.0m、短軸5.2mを計測する小形方形周溝墓である。

溝の深さも15㎝前後で大幅に削平が進んでいるものと考えられ、方台部等は当然、削平され、各コーナー及び溝の一部は消失し、コーナーに陸橋部が４カ所設置される様相を呈する。したがって、埋葬施設は検出されない。溝覆土の状態は溝底の１層が確認されたのみである。出土遺物は、南側コーナーを基点とした右軸右位溝陸橋部の北端溝底に接して、壺口縁部が１点出土している。

出土遺物（第104図６）は、折り返し複合口縁壺である。口径26㎝を計測する大形壺の部類にはいる。摩滅が著しいが外面で僅かに刷毛調整痕が認められる。

第61号方形周溝墓（第54図）

Grid（ｄ～ｆ－35～37）に位置して、遺跡のほぼ中央部にあたり、第60号に隣接する。重複関係は示さず独立する。削平は著しく溝の大半が消失しており、現状では“』”を呈する。方台部の規模は溝の長さより推定すると、７ｍ前後となる。溝残存長は７ｍ、深さ0.26m、4.7m、深さ0.17mが確認される。出土遺物無し。

第62号方形周溝墓（第58図）

Grid（ｋ～ｎ－38～41）に位置して、遺跡中央部にあたり、第61号方形周溝墓の北西に隣接する。重複関係は認められず独立する。形態は削平のため、一辺は完全に消失しており、陸橋部の確実な位置は不明であるが、残存する溝の状態より陸橋部の位置は南側が有力である。方台部は削平が進み方台部の一辺のみが計測可能で、約11.65mを計る。

規模は測点基準に従い計測すると、右軸右位方台辺9.8m、左軸右位方台辺10.2m、深さ0.8m、右軸右位方台辺9.4m、深さ0.47mを計測する。溝覆土の状態は３～４層に分けられる。第１層暗褐色土、第２層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第４層はローム塊が混入する暗褐色土との交互層である。横断面Ｍ－Ｎ、Ｋ－Ｌ第２層は上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面はＵ字状を呈するが、方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し。

第63号方形周溝墓（第59図）

Grid（ｋ～ｎ－40～43）に位置し、遺跡のほぼ中央部に存在し第64、66号等に隣接する。第64号方形周溝墓と重複するが溝が僅かに切り合う程度で新旧関係は認められないのが現状である。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸14.4m、方台部右軸12.48m、方台部左軸12.56m、右軸右位方台辺7.7m、深さ0.32m、左軸右位方台辺11.8m、深さ0.42m、右軸左位方台辺9.5m、深さ0.4m、左軸左位方台辺10.4m、深さ0.7mとなり形態は方形となる。主軸方位はＮ－39°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は３～６層に分けられる。Ｏ－Ｐでは第１層黒色土、第２層茶褐色土、第３層黒褐色土はともに緻密な土壌層でありほぼ単一層をなし、長い期間にわたって堆積している。第４層はソフト・ローム状の粘質性をもち、方台部寄りからの堆積が考えられる。第５、６層は茶褐色土とローム・ブロックとの交互層である。方台部削平状況は断面Ｏ－Ｐ、Ｋ－Ｌ、Ｍ－Ｎの第２、３層は方台部より上面がカットされ、方台部等の削平が読みとれる。周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせるが顕著でなく、コーナー部では極端に狭まる。各辺では方台部側壁は基本的には直線を呈するが、外壁は湾曲する。横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側で緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物無し。

第64号方形周溝墓（第60図）

Grid（ｈ～ｋ－42～44）に位置して、遺跡中央に第63、69、70号等と隣接して存在する。第6

3号方形周溝墓に重複する。新旧関係は溝が僅かに触れる程度であり、セクションからは把握出来ない。削平が進み溝も消失した箇所も多く、主軸方向も不明である。溝横断面はU字状に近いが、方台部寄りがやや急激に立ち上がる。溝縦断面は全体的には平坦である。溝堆積は1層茶褐色土、2層黒褐色土で単一の土壌層であり、3層以下はローム・ブロックが混入する交互層となる。規模は南側を陸橋部と仮定して計測すると、右軸左位方台辺5.5m、深さ0.2m、左軸右位7.6m、深さ0.5m、右軸右位方台辺4.5mを計測する。出土遺物無し。

第65号方形周溝墓（第60図）

Grid（m～o－35～37）に位置して、第58号方形周溝墓の西方に存在する。調査では溝の一部を確認したにすぎない。溝幅2mを計測して、大形溝が推定される。堆積状況は、1層耕作土、2層黒色土、3層茶褐色土、4層黒褐色土で2から4層までは単一の土壌層を形成する。5層以下はロームブロックとの交互層を形成する。

第66号方形周溝墓（第60図）

Grid（m～n－38～40）に位置して、58、65号方形周溝墓に隣接する。65号同様、溝の一部を確認したのみである。溝は削平がすすみ、深さ10cm程度が確認された。出土遺物なし。

第67号方形周溝墓（第54図）

Grid（f～h－35～37）に位置して、遺跡中央部にあたり、第58号の左コーナーの北側に存在する。削平により、溝1辺が消失して、全容は不明で残存の溝長は5m～3.5mを、溝深さ20cmを計測する。堆積状況は3層が認められ、第1層暗褐色土、第2層黒褐色土でこれらの土壌層に僅かにローム粒子を含む。3層は暗褐色土壌層とロームブロックとの交互層をなす。出土遺物なし。

第68号方形周溝墓（第54図）

Grid（e～d－32）に位置して、遺跡中央部に存在する。第57号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、溝の一部が僅かに切り合う程度で、セクション観察からは、把握できない。現状は削平が進み溝1本が確認できたのみである。残存の溝は長さ5.4m、深さ0.22mを計測する。堆積状況は1層暗褐色土、2層茶褐色土、3層黄褐色土であるが、いずれもローム粒子を含み、3層ではロームブロックとの交互層をなす。出土遺物なし。

第69号方形周溝墓（第61図）

Grid（k～m－44～46）に位置し、遺跡中央部にあたり、第70号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第70号に切られ、第69号－第70号の順となる。陸橋部は未発掘部にあたり、確認されない。また方台部等も削平の為検出されない。規模は、長軸6.4m、短軸4.96m、左軸右位方台辺5.4m、深さ0.48m、右軸左位方台辺6.5m、深さ0.75mを計測する。溝横断面はU字状で方台部、溝外寄りともに、溝壁の傾斜は差がなくやや緩やかといえる。堆積状況は1層黒褐色土、2層暗茶褐色土、3層暗褐色土で第3層はロームのソフト化したブロックが混入する交互層となる。

第70号方形周溝墓（第62図）

Grid（i～k－44～47）に位置し、遺跡中央部にあたり、第69、64、63号方形周溝墓の北西に隣接して、このうち重複関係は69号との間に認められる。新旧関係は第70号が第69号を切り、

第69号－第70号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸11.69m、方台部右軸7.6m、方台部左軸10.16m、左軸右位方台辺5.4m、深さ0.8m、右軸左位方台辺7.3m、深さ0.8m、左軸左位方台辺9.8m、深さ0.8mを計り、形態はやや長方形となる。主軸方向はN－83°－Eを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定であり内外壁共に直線を呈する。

覆土の状態は４層に分けられる。第１層暗褐色土、第２層褐色土、第２層茶褐色土、３層暗褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第４層はローム塊が混入する暗褐色土との交互層である。横断面M－N、O－Pの第２層は上面がカットされ、方台部等の削平が読みとれる。溝横断面はU字状を呈するが、方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるがK－Lでは湾曲が著しい。出土遺物は左軸左位溝よりやや陸橋部寄りで甕の破片２点が出土する。出土層位は１層下部～２層上面より検出される。

出土遺物（第105図１、２）

70－１は、底径10.4㎝、内外刷毛調整で外面は篦磨きが施される。焼成は良好で赤褐色、胎土は密で固くしまる。70－２は底径5.8㎝を計測する。焼成は良好で赤褐色で胎土はやや粗いが、固くしまる。

第71号方形周溝墓（第54図）

Grid（ｂ～ｃ－32～34）に位置し、遺跡中央部にあたる。第68号方形周溝墓の北東に隣接する。重複関係は認められず、独立する。形態は削平を受け、１辺のみを残し他は完全に消失するため不明である。

溝長さ6.6m、幅1.0m、深さ0.1mが認められる。堆積層は３層が認められ、１層暗褐色土、２層黒褐色土、３層暗褐色土層で、第１、２層は単一の土壌層をなし、第２層では、ロームブロックを多量に含む交互層となる。出土遺物無し。

第72方形周溝墓（第63図）

Grid（ｈ～ｋ－28～31）に位置して、遺跡中央部にあたり、第58号方形周溝墓の東に隣接する。重複関係は認められず、独立する。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸10.0m、方台部右軸7.2m、左軸6.56m、方台部右軸右位方台辺6.1m、深さ0.7m、左軸右位方台辺4.8m、深さ0.62m、右軸左位方台辺6.8m、深さ0.65m、左軸左位方台辺6.2m、深さ0.8mを計測して形態は方形に近いが中央コーナーが鋭角となり、両コーナー角度が開き、現状は菱形に近い。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定で各辺は直線をなし、整然となる。

溝横断面は、U～V字状に認められ、方台部よりの壁が外側に比べやや急斜となる。溝縦断面は概して平坦であるといえるが、K－Lでは溝中央部が最深となり、凹凸もめだつ。溝覆土の状態は、５層から６層に分けられる。第１層黄茶褐色土は上部が攪乱を受けており、ロームブロッ

クを混入する。２層から５層までは、安定した単一な土壌層であり、ともに緻密でサラサラしている。堆積期間も長期にわたるものと思われる。方台部の削平状況はＯ－Ｐ，Ｑ－Ｒにおいて２層方台部より上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。出土遺物無し。

第73号方形周溝墓（第63図）

Grid（ｋ－28～30）に位置して、遺跡中央部にあたる。第72号方形周溝墓の南に隣接する。重複関係は認められず、独立する。調査では溝１本を確認したのみであり、他は未発掘である。溝長6.28m、幅1.08m、深さ0.6mを計測する。出土遺物は溝中央より壺類２点（壺口縁部欠損品）が検出される。第105図73－１は口径18.2㎝で内外刷毛調整で磨きが施される。73－２は口径20.8㎝で外面刷毛調整が施される。

第74号方形周溝墓（第64図）

Grid（Ｊ～Ｎ－24～29）に位置して、遺跡中央部寄りで調査区の北端にあたる。第76号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、第74号が第76号を切り、第76号－第74号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸15.2m、方台部右軸11.44m、方台部左軸12.32m、右軸右位方台辺11.5m、深さ0.79m、左軸右位方台辺11.2m、深さ0.6m、右軸左位方台辺12.7m、深さ0.9m、左軸左位方台部8.4m、深さ0.6mを計測し、形態は方形となるが左右両コーナーの角度が狭まりやや歪む。

埋葬施設は、方台部が耕作により削平されており検出されない。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部に接する両溝が極端に広がり、コーナー部からの溝幅は狭まる。

溝覆土は大きく４から５層に分けられる。溝底に接する最下層のみ多量のロームブロックを含み交互層をなすが、他は単一の土壌層であり、安定したレンズ状堆積をなす。溝横断面は方台部寄りの壁が急に立ち上がり、外側では緩やかとなる。縦断面は概して平坦であるといえる。方台部の削平状況はＳ－Ｔ第１、２層，Ｏ－Ｐ第１層，Ｎ－Ｍ第３、４層、Ｑ－Ｒ第１、２層の上端がカットされており削平されていることが理解される。出土遺物は、セクションベルトＳ－Ｔ付近より３点の小形壺の出土がある。いずれもＳ－Ｔ第１層の下部で溝内に大幅に浮上して検出される。またセクションベルトＱ－Ｒ底部では鉄楔１点が検出される。

出土遺物（第105、106図）

74－１は小形壺で口径9.4㎝を計測する。外面は刷毛調整後、外面篦磨きが施される。内面口縁部は刷毛調整後指撫でが、頸部では指頭痕が認められる。74－２は小形壺で口径10.1㎝、器高14.7㎝、底径6.7㎝である。外面は、口縁部で刷毛調整後指撫で、頸部から胴部では刷毛調整後上位から下位への篦磨きが施される。内面は口縁部でやはり刷毛調整後指撫で、頸部では刷毛調整後雑な篦磨き痕、また胴部と頸部の接合点では指頭痕が、その後篦磨きが施される。74－３は、小形壺で外面は刷毛調整後粗い篦磨きが（摩滅で磨き痕は明確でない）、内面は口縁部刷毛調整後、粗い篦磨きが施される。胴部上部と頸部との接合部では指頭痕が認められる。74－６は複合口縁の大形壺で棒状浮文が認められる。口径23.4㎝。74－４鉄楔は、頭部が潰れ、刃先も鈍角で石割り加工道具と考えられる。頭部幅5.3㎝、厚さ1.6㎝、全長7.0㎝、胴部中央幅5.1㎝、刃部幅

5.7㎝、胴厚さ1.0㎝、重量226ｇを計測する。

第80号方形周溝墓（第65図）

Grid（Ｒ～Ｖ－31～35）に位置して、Ａ区35号方形周溝墓の北側にあり、方形周溝墓群の北端部にある。重複関係はなく、独立して存在する。

規模は、削平が進み溝の大半が消失しているが、残存部からの観察では、方台部が長方形を呈するようである。規模は南東部を基点にして、計測すると、主軸5.76m、右軸右位方台辺3.8m、深さ0.3m、右軸左位3.9m、深さ0.25m、左軸左位方台辺4.8mを計測する。溝は削平のため浅く、断面は角のとれた長方形状を呈するが、方台部よりがやや急斜となる。堆積状況は４層に分けられる。１層黒色土、２層暗褐色土で単一土壌層をなす。３層黒褐色土、４層暗黄褐色土は土壌層に、僅かにローム粒子を含む。５層は４層とロームブロックとの交互層である。方台部も大幅に削平されているものと思われ、当然埋葬施設等は確認されない。出土遺物は、右軸左位溝中央底部より１点口縁部が検出される。

出土遺物（第107図２）

80－１は有段口縁壺で、口縁部破片が検出された。内外刷毛調整で、１単位４個の棒状浮文がみとめられる。口径17.8㎝の大形壺の部類に入る。焼成は良好で、黄褐色を呈し、胎土は粗く固い。

第２年次（昭和55年度）小結

本地区は、調査Ａ地区の西側に延長し、Ｃ・Ｄ区を設定した。本地区は地形の削平が著しく進んでいる地区であり、このためか、方形周溝墓のプランも陸橋部を一隅に位置するものを始め、一辺の西端、四隅、１本の溝が認められるもの等バラエティに富む様相を示した。しかし、いずれも陸橋部を一隅に有する方形周溝墓の形態に復元されるものと考える。この地区は一辺20mの大規模な方形周溝墓から一辺６ｍの小規模なものまでを含んでいる。重複関係は３～４例と少なく、また主軸方位もＡ地区と異なっている。遺物は極端に少なく58号より台付甕を含む数点を出土したが、その他方形周溝墓は極少であった。Ｄ区では、農道を挟んでＣ区と区分けしたが根拠はない。本地区は確認のみに止めており、方形周溝墓の調査は実施されないが、方位、規模等はＣ区に近似し、地形なりに西方に伸びることが確認された。方形周溝墓以外では、Ｃ区の北端部より鬼高期の完形土器がまとまって出土しており、該期の住居の存在が察知される。

Ｂ区はＡ区の農道を隔てて北に拡張する。この道路部分は未調査である。Ｂ区は全面を調査したものでなく、空白部が認められるがこの部分にも方形周溝墓は存在し、Ａ地区の北部を形成するものと考えられる。また北部は谷部が迫っており方形周溝墓は消失する箇所も認められた。遺物では、小形壺、大形壺口縁部とバラエティに富み、74号方形周溝墓では、本遺跡で唯一の鉄製品である、楔の出土が特記される。

第５章　発掘調査（第３年次）

第１節　遺構と検出状況

第３年次：公園造成計画の最北端部、約3000㎡の確認調査を行う。地形は、やや北斜面に位置するが北側に東山三角点が存在し、またコンタが昇る傾向にあるがほぼ平坦面といえる。表土20～30㎝を掘削すると方形周溝墓の確認面であるハード・ロームが現れる状況は第１・２年度と同様である。削平は全体に及んでいるものと考えられるが、特に北東部寄りに傾斜があり、方形周溝墓の削平が進み溝の消失する箇所も認められる。方形周溝墓は１、２年次同様に、調査区域全域に確認された。今回は12基と少ないが完掘している。この方形周溝墓以外では、弥生時代終末に属する住居址１軒と平安時代までさがる住居址３軒を検出している。このうち弥生時代住居址は、方形周溝墓と切り合い関係を示して検出される。

第２節　弥生時代の遺構と遺物

１　方形周溝墓

第106号方形周溝墓（第66図）

Grid（ｘ～２Ａ－78～80）に位置し、遺跡調査区の西部集中箇所南端に存在する。第107号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第107号が第106号に切られ、第107号－第106号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸8.4m、方台部右軸6.4m、方台部左軸7.36m、右軸右位方台辺4.8m、深さ0.6m、左軸右位方台辺7.2m、深さ0.5m、右軸左位方台辺5.9m、深さ0.85m、左軸左位方台辺5.4m、深さ0.8mとなり形態は長方形となる。主軸方位はＮ－173°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２～３層に分けられる。第１層黒褐色土、第２層暗茶褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層は２層土壌層にローム塊が混入する黒茶褐色土との交互層であり、土壌化するがやや急激な堆積が考えられる。周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は陸橋部付近が僅かに広がる傾向をみせる。また各辺は基本的には直線を呈するが、左軸右位溝が僅かに湾曲する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、Ｇ－Ｈの間では凹凸が目立つ。出土遺物は左軸左位溝陸橋部付近寄りで、底部穿孔土器３点を含む合計５点が集中して出土する。出土層位は１層黒褐色土下部寄りに限定され、溝底部より大幅に浮上して検出される。

出土遺物（第108図１～５）

106－１は、法量、口径14.7㎝、器高27.7㎝、底径9.5㎝を計測する壺である。外面刷毛調整で、頸部で縦位、胴部で斜位→横位が認められ、胴部では箆磨きが施される。内面は横位の刷毛調整が施され口縁部では箆磨きが最終的に行われる。胴部では粗い刷毛調整が全面に認められる。焼

成は良好で赤褐色を呈し、胎土は細かい白色砂粒２㎜を多量に含み固い。焼成後の底部穿孔土器である。106－２は、法量、口径11.2㎝、底径6.5㎝、器高14.0㎝を計測する小形の壺である。外面整形は３～４㎜の幅の粗い刷毛調整後、粗い篦整形が施される。内面は外面と同種の横位の篦整形が施されるが、摩滅が著しく観察しにくい。胴部上部では指頭痕が認められる。焼成前の底部穿孔土器である。106－３は、法量、口径12.4㎝、器高16.4㎝、底径７㎝を計測する。外面刷毛調整であるが、胴部は摩滅する。内面は胴部上部よりで指頭痕が認められる。焼成前の底部穿孔土器である。106－４は、底部で底径7.2㎝を計測する。内外刷毛調整で、焼成は良好で褐色を呈する。106－５は甕底で底径７㎝を計測する。内外に磨きが認められる。

第107号方形周溝墓（第67図）

Grid（ｗ～ｙ－78～79）に位置し、遺跡西部集中区の南部に存在する。第106号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第107号が第106号に切られ、第107号－第106号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸4.8m、方台部右軸3.76m、方台部左軸4.0m、右軸右位方台辺2.6m、深さ0.2m、左軸右位方台辺4.0m、深さ0.15m、右軸左位方台辺3.5m、深さ0.3m、左軸左位方台辺3.3m、深さ0.4mとなり東北方向にやや長い形態をとり、主軸方位はＮ－102°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は大きく２層に分けられる。第１層黒色土は緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第２層茶褐色土は、ソフトローム粒子を多量に含むが、緻密でサラサラした土壌層であり、やはり長い期間にわたって堆積しているものと思われる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。また各辺は基本的に直線を呈する。溝横断面はＵ字状を呈するが、方台部よりはやや急に立ち上がる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。遺物は右軸左位溝中央部寄りに浮上して壺１点が検出される。胴部を欠損する壺で、摩滅が進んでいるが、内外に刷毛調整が認められる。肩部には４単位（１単位２個）の円形浮文が貼付される。

第108号方形周溝墓（第67図）

Grid（ｖ～ｘ－79～81）に位置して、遺跡集中区で第106、第107号方形周溝墓の北西部に隣接する。第110号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第110号に第108号が切られ、第108号－第110号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸6.4m、方台部右軸5.0m、方台部左軸4.8m、右軸右位方台辺4.6m、深さ0.5m、左軸右位方台辺4.6m、深さ0.6m、右軸左位方台辺5.0m、深さ0.4m、左軸左位方台辺4.5m、深さ0.4mとなり形態は方形を呈する。主軸方位はＮ－20°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。また溝内埋葬も溝幅が50㎝前後と狭くその可能性は薄い。

溝覆土の状態は２～４層に分けられる。第１層から３層はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第４層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層である。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定であり、各辺は基本的には直線を呈する。溝縦断面はＵ字状に近いが方台部寄りがやや急に立ち上がる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は左軸左位溝陸橋部付近で、甕底部が第２層上面より溝底より大幅に浮上して出土する。

出土遺物（第108図６）

108－１壺底で、底径7.6㎝を計測する。内外刷毛調整で内面は磨き。焼成は赤褐色、胎土は緻密で固くしまる。

第109号方形周溝墓（第68図）

Grid（ｓ～ｗ－79～81）に位置して、遺跡西部集中区で第108号に隣接する。第111号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第109号を第111号が切り、第109号－第111号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸8.4m、方台部右軸6.56m、方台部左軸6.72m、右軸右位方台辺5.4m、深さ0.6m、左軸右位方台辺6.0m、深さ1.20m、右軸左位方台辺6.4m、深さ0.7m、左軸左位方台辺5.4m、深さ0.7mとなり形態は方形となる。主軸方位はＮ－57°－Ｗを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。溝覆土の状態は４～５層に分けられる。第１層～第３層はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第４層以下はローム塊が混入する土壌層との交互層であり、堆積期間は短いものと考える。横断面Ｈ－Ｉ第２層は方台部より上面がカットされ方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は方台部が直線を示すのに対し、溝外寄りで各辺が外側に張りだし湾曲する。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかになる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は、左コーナー手前から左陸橋部にかけて集中する。出土層位は１層下部から２層上面にかけて大幅に溝底に浮上して検出された。

出土遺物（第105図）

109－１は壺で、口径10.8㎝、器高16.1㎝、底径6.5㎝を計測する。内外共に刷毛調整で外面は篦磨きが施される。胎土は、緻密で固くしまる。焼成は良好で黄褐色を呈する。109－２は口径9.5㎝、器高14.2㎝、底径6.7㎝を計測する。内外刷毛調整で内面は、磨きが施される。焼成は良好で、褐色を呈し胎土は緻密で良好である。109－３壺は、口径9.8㎝、器高13.5㎝、底径6.4㎝を計測する。内外面に刷毛調整後、外面肩部では縄文が施される。109－４壺は口径9.8㎝、器高13.4㎝、底径6.2㎝を計測する。内外面刷毛調整で外面では、肩部に縄文が施され、頚部では指頭痕が認められる。109－５壺は、口径11.4㎝、器高17.1㎝、底径6.7㎝で内外面に刷毛調整が施され、外面では指頭痕が認められる。109－６壺は、口径12.1㎝、器高17.1㎝、底径6.7㎝を計測する。外面は、刷毛調整後、胴部で篦磨き、肩部では縄文が施される。内面は刷毛調整後、頚部で指頭痕が認められる。109－７甕は、口径20㎝で、内外面には丁寧な刷毛調整が施される。109－８鉢は、口径16㎝で摩滅が著しく、内面のみに刷毛調整が認められる。109－９甕は、口径11.6㎝で外面刷毛調整が施される。109－10壺底部は、底径12㎝を計測する。内面削りで、底は木葉痕が認められる。109－11甕は、口径15.4㎝を計測し、外面で篦磨き、内面では刷毛調整が施される。

第110号方形周溝墓（第69図）

Grid（ｕ～ｙ－81～86）に位置して、遺跡の調査区西端にあたる。第108、113号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第110号が第108号を切り、第108号－第110号の順となる。

規模は、遺跡端にあるため方台部西側は未発掘であり、１辺のみが計測可能である。それによると、長さ12.5m、深さ0.9m、幅２ｍを計測する。主軸方位はおおよそ真北を指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。溝覆土の状態は５層に分けられる。第１層黒色土、第２層黒褐色土はともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層は茶褐色を呈し、粒子は細かいが、所々に黄色土が混入する交互層であり、土壌化した層位でやはり長期間による堆積層と考える。平面は全発掘ではなく全容は把握できない。各辺は基本的に直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は３カ所より特徴的に検出されその内容は次のとうりである。第１はセクションＨ－Ｇから南側コーナー手前で、２個体の大形壺が出土する。口縁部と胴部が破損して約１ｍ程はなれ出土する。出土層位は２層下部に押し潰された様な状態で平面的に認められる。第２はセクションＭ－Ｎ付近で溝底に接して壺胴部破片が土器表面を下にして出土する。本品は110－12は口縁から胴部の109出土ととで接合関係を示す。第３は溝南部のＩ－Ｊ溝底から15cmから30cm程浮上する一群で破片で散乱する。

出土遺物（第110、111、112図）

南部周溝一括：110－１甕口縁部は、口径10.5cmを計測する。内外刷毛調整で、胎土は暗褐色を呈し、粒子を多量に含みやや粗雑。110－２甕口縁は、口径12cmを計測する。内外刷毛調整で、胎土は茶褐色を呈し、胎土は緻密で固い。110－３甕は、口径10.8cmで、内外刷毛調整を施す。焼成は良好で褐色を呈し、緻密で固い。110－５台付甕脚部は、底径11cmを計測する。内外面刷毛調整であり胎土は褐色を呈し、緻密で固い。110－４台付甕脚は、底径7.3cmを計測する。内外面刷毛調整で、胎土は暗褐色でやや粗い。110－６甕は、口径5.8cmの小形品である。摩滅が進み観察がやや困難であるが、口縁部では横撫でが認められる。110－７は、台付甕脚の一部で、内外面に刷毛調整が認められる。110－８は、甕で口径13.9cmを計測する。内外面共に刷毛調整が認められる。110－９脚付土器は溝確認面で検出したもので、方形周溝墓に伴うものでない。底径6.4cmを計測する。

110－10壺は、口縁部径5.2cmで、摩滅するが外面箆磨きが施される。焼成は良好で赤褐色を呈し、胎土は緻密で固い。110－11甕は、口径17.1cmで外面刷毛調整後、胴下半では箆磨きが認められる。110－12は、口縁部径25.8cm、胴部径35.2cmを計測する。頚部は胴部より緩やかに上方に伸び口縁部で横方向に広がる。口縁部では棒状浮文、頚部から肩部にかけては櫛描による波状文－斜縄文－波状文が施される。整形は刷毛調整が施された後、外面に赤色塗彩が認められる。本周溝墓からは胴部破片が、図示した残り部分が周溝墓109号より出土して、接合関係にある。110－13甕は、口径18.2cmで内外刷毛調整の後、内外黒色塗彩を行っている。110－14壺は、口径13cmで、内外刷毛調整が施される。焼成は良好で褐色を呈する。胎土は緻密で固い。110－15壺は、口径15.3cm、内外刷毛調整を施す。110－16壺は、底径８cmで、内面刷毛調整後、箆磨きが施さ

れる。110－17壺は、口縁部径11㎝で内外刷毛調整である。110－18壺口縁は、口縁部径18㎝で外面刷毛調整後、口唇部に撫でが施される。110－19壺は、底径7.2㎝で内外刷毛調整が認められる。110－20は、台付甕の胴部下半～脚部の一部で、内外刷毛調整である。110－21、22、23は、壺底で径はそれぞれ、9.5㎝、6.6㎝、7㎝を計測する。21は内外刷毛調整、22内面刷毛調整、23は内外刷毛調整が施される。110－24台付甕は、内外面刷毛調整が施される。110－25鉢は、口径11㎝、器高5.6㎝、底径5.7㎝を計測する。内外刷毛調整で摩滅がすすむ。110－26壺は、折り返し口縁壺で口径11㎝を計測する。内外面刷毛調整後、指頭痕が施される。110－27壺は、口径8.5㎝、器高11.7㎝、底径6㎝を計測する。内外箆磨きが施され、内面頸部では指頭痕が認められる。110－28壺は、口径8.3㎝、器高13.1㎝、底径6.3㎝を計測する。内外刷毛調整で内面では頸部に指頭痕が認められる。110－29台付甕は、口径9.7㎝で脚部は欠損する。内外共に粗い刷毛調整が施される。内面では胴下半部に箆削りが認められる。110－31壺は、口径18㎝で内外共に刷毛調整後箆磨きが認められる。110－32壺は、口径26.6㎝を計測する。110－33甕は、口縁部のみで口唇部に刻目それ以下では刷毛調整を内外面に施す。110－35壺は、折り返し口縁壺で、内外面に刷毛調整、内面頸部では箆削りが認められる。110－36甕は、口径16.1㎝で丁寧な内外刷毛調整が施される。110－37複合口縁壺は、口径24.4㎝、器高64㎝、底径15.4㎝を計測する大形壺である。外面は刷毛調整後、箆磨きが施される。口縁部には5単位（1単位5本）の縦列沈線が認められ、整形の最終段階に赤色顔料を全面に塗彩する。内面は、頸部より上部で横位の刷毛調整が認められる。110－38複合口縁壺は、外面では刷毛調整後磨きが施され、口縁部では5単位の（1単位4本）棒状浮文が粘付される。内面は横位の刷毛調整が施されるが、体部下部で縦位の刷毛も僅かに認められる。

第111号方形周溝墓（第70図）

Grid（r～u－81～84）に位置して、遺跡西部集中区で110号東北に隣接する。第109、116号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第111号が第109号を切り、第116号が第111号を切る。したがって第109号－第111号－第116号の順となる。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸11.68m、方台部右軸9.6m、方台部左軸8.8m、右軸右位方台辺7.4m、深さ0.75m、左軸右位方台辺8.7m、深さ0.9m、右軸左位方台辺9.0m、深さ0.6m、左軸左位方台辺6.6m、深さ1.10mとなり形態は方形に近いが中央コーナーが鋭角となり、現状は菱形となる。主軸方位はN－53°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。溝覆土の状態は3～4層に分けられる。第1層黒褐色土、第2層灰茶褐色土はともに緻密な土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第3層暗灰褐色土はローム塊が混入する交互層である。方台部削平状況は、横断面K－L第2層で方台部より上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅がほぼ一定であるが削平のためか、右軸右位溝幅は陸橋部に近づくに従い狭まる。各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側で緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、僅かに凹凸が目立つ。

出土遺物（第114図）

111－1折り返し口縁壺は、口径24.7㎝を計測する。外面刷毛調整が認められる。焼成は良好で赤褐色で胎土は粗いが固い。111－2甕は、口径13.4㎝で外面刷毛調整が認められる。111－3甕は、口径21㎝で、内外面共に刷毛調整が認められる。111－4壺は、頭部で内面刷毛調整が行われる。111－5壺は、口縁及び胴部下半を欠損する。内外面刷毛調整で、外面のみ篦磨きが行われる。肩部では縄文が施され、その後円形浮文（1単位3個）が貼付される。111－6壺底は、径7㎝を計測する。外面のみ刷毛調整が行われる。111－7甕は、口径18.6㎝を計測する。内外面共に刷毛調整が行われる。111－8台付甕は、脚部で底径は10.6㎝を計測する。摩滅が進み刷毛調整が外面で僅かに認められる。

第112号方形周溝墓（第71図）

Grid（r～t－85～87）に位置し、遺跡西部集中区の中心より北に存在する。重複関係は認められず、単独である。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸8.0m、方台部右軸6.64m、方台部左軸6.16m、右軸右位方台辺4.0m、深さ0.5m、左軸右位方台辺6.2m、深さ0.4m、右軸左位方台辺6.4m、深さ0.5m、左軸左位方台辺4.6m、深さ0.55mとなり形態は方形となる。主軸方位はN－6°－Wを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は3～4層に分けられる。第1層茶褐色土、第2層暗茶褐色土はともに緻密な土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第3層は茶褐色土に2層の暗褐色土が混入する交互層であり、ロームブロックを含む。横断面M－N、O－P第2層では方台部より上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。

周溝は、1カ所の陸橋部を除き全周する。溝幅は狭いが、各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、K－Lでは凹凸が目立つ。出土遺物は、右陸橋部付近の1層上面で、台付甕の一部が出土する。

出土遺物（第114図）

112－1は台付甕の脚部と胴部の接合部で、内外刷毛調整が施される。焼成は良好で褐色を呈し、胎土は1～2㎜大の石英粒子を含みやや緻密で固くしまる。

第113号方形周溝墓（第72図）

Grid（s～w－85～91）に位置し、遺跡の西部集中区で北端にあたる。第110号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、セクションからの判断は困難であった。

規模は方台部右軸16m、左軸左位方台辺14.9m、深さ0.85mとなる。形態は半分以上が未発掘であるため、不明である。

埋葬施設は、未発掘部分と方台部の耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は4層に分けられる。第1層黒色土、第2層黒茶褐色土は緻密な土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第3層は茶褐色土層でローム塊が混入する黒褐色土との交互層

である。第４層は暗褐色土でロームのソフト化と考える。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は溝幅が一定で直線を呈し整然とする。

溝縦断面は全体的には平坦である。出土遺物は溝中央よりやや陸橋部寄りで壺１点、台付甕（破片）１点が出土する。

出土遺物（第115図）

113－１壺は、口径10.9㎝、器高15.3㎝、底径6.7㎝を計測する。内外共に粗い刷毛調整が施され、外面では箆磨きが、内面には指頭痕が認められる。焼成は良好で、胎土は黄褐色を呈し固くしまる。113－２台付甕は、胴最下部と脚部との接合部で内外ともに、刷毛調整が施される。胎土は、褐色を呈し、やや粗い。

第114号方形周溝墓（第73図）

Grid（ｏ～ｓ－87～91）に位置して、遺跡の西部集中区最北端に存在する。

重複関係は示さずに単独である。

規模は測点基準に従い計測すると、主軸13.92m、方台部右軸9.92m、方台部左軸11.36m、右軸右位方台辺9.0m、深さ0.55m、左軸右位方台辺9.6m、深さ0.58m、右軸左位方台辺11.3m、深さ0.6m、左軸左位方台辺9.0m、深さ0.55mとなり形態は方形となる。主軸方位はＮ－102°－Ｅを指す。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。堆積状況は第１層暗茶褐色土、２層黒色土は単一の土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層は暗褐色土にローム塊が混入する交互層である。方台部削平状況は横断面Ｍ－Ｎ、Ｋ－Ｌ、Ｑ－Ｒ第２層方台部寄りは上面がカットされ、方台部等の削平がよみとれる。周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する。平面は幅が狭く、各辺は基本的には直線を呈する。溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえる。出土遺物は右陸橋部付近で１層下部より壺口縁部が１点検出された。

出土遺物（第115図）

114－１壺は、口径22.6㎝を計測する。内外刷毛調整で、内面は丁寧な箆磨きが施される。焼成は良好で、胎土は褐色を呈し、緻密で固くしまる。

第115号方形周溝墓（第74図）

Grid（ｐ～ｒ－84～86）に位置し、遺跡西部集中区の北東に存在する。重複関係は認められずに単独である。

規模は、東コーナーを起点に測点基準に従い計測すると、方台部右軸7.76m、方台部左軸8.0m、左軸右位方台辺5.1m、深さ0.25m、右軸左位方台辺6.1m、深さ0.55m、右軸右位方台辺6.8m、深さ0.3m、左軸左位方台辺5.8m、深さ0.65mとなり形態は方形となる。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されており検出されない。

溝覆土の状態は２～３層に分けられる。第１層暗褐色土は単一な土壌層を形成しており堆積期間も長く考える。第２層茶褐色土は１層に比べ粒子は粗いがほぼ単一層を形成する。３層は黒褐色土＋黄褐色土にロームブロックを混入する交互層で堆積期間は急激とされる。方台部削平状況

は、溝北半寄りが大幅に削平され溝が消失しており、当然方台部は削平されているものと思われる。周溝は、本来１カ所のみの陸橋部を有する形態と想定できるが現状では削平のため、陸橋部を含め５カ所、方台部と外部との接点が認められる。溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝横断面は全体には平坦であるといえるが、凹凸が目立つ。出土遺物無し。

第116号方形周溝墓（第75図）

Grid（ｐ～ｔ－77～82）に位置し、遺跡西部集中区の東側に隣接する。第109、111号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第116号が111号を切り、第111号－第116号の順となる。規模は東側陸橋部を基準にして計測すると、長軸17.60m、短軸11.88m、右軸右位方台辺11.0m、深さ0.6m、左軸右位方台辺12.6m、深さ0.7m、右軸左位方台辺17.2m、深さ1.2m、左軸左位方台辺9.7m、深さ1.2mとなり形態は長方形となる。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平されて検出されない。

溝覆土の状態は３～４層に分けられる。M－N第１層暗灰褐色土、第２層黒色土層では、ともに緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第３層茶褐色土層は、粒子が細かく所々に黄色土（ローム塊？）が混入する交互層である。方台部削平状況は、方台部東部に傾斜が認められ大幅に削平が行われたものと想定できる。周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周する形態とされるが、現状では削平により溝の大半が消失して、２カ所の方台部への幅広い連絡口が認められる。

溝横断面は方台部寄りが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、僅かに凹凸が目立つ箇所も認められる。出土遺物は、南溝中央より、やや北よりで大形壺を含む土器類が一括出土する。特に大形壺は、口縁部と胴部が約１mほど切り離れた状態で認められる。出土層位は第３層茶褐色土層上面に集中して溝内に浮上する。

出土遺物（第115、116図）

116－１甕は、口径20.4cmを計測する。内外面ともに摩滅が著しく整形痕は認められない。焼成は良好で褐色を呈し、胎土は緻密で固くしまる。116－２坩は、口径13.2cmで内外面に、赤色塗彩を施す。116－３壺底部は、底径8.6cmを計測する。焼成は良好で、褐色を呈し、胎土は緻密で固くしまる。116－４壺は、頸部下部から肩部破片である。内外面に刷毛調整が施され、肩部には４単位（１単位４個）の円形浮文が貼付される。116－５甕は、焼成前の底部穿孔土器である。底部6.4cmを計測する。外面には削りの整形痕がみとめられる。116－６大形壺は、口径28.4cm、器高73.2cm、底径16.4cmを計測する。外面は細かい刷毛調整が斜位に施され、口縁部では棒状浮文が５単位（１単位７本）が貼付され、さらに肩部においても円形浮文５単位（１単位３個）が貼付される。

内面では胴部を中心に粗い刷毛調整が、斜位→横位に施され、最終的に箆磨きが行われる。焼成は良好で赤褐色を呈し、胎土は緻密で固くしまる。

第117号方形周溝墓（第76図）

Grid（ｒ～ｕ－75～77）に位置して、遺跡西部集中区の南東端に存在する。

第116号方形周溝墓に重複する。新旧関係は第117号が第116号に切られ、第117号－第116号の順となる。

規模は東側陸橋部を基準にして計測すると、左軸右位方台辺5.8m、深さ0.5m、右軸左位方台辺7.1m、深さ0.3mとなり形態はほぼ方形となる。

埋葬施設は、方台部が耕作等により削平され、しかも平安住居址により撹乱を受けており、主体部は検出されない。

溝覆土の状態は２層に分けられる。第１層黒褐色土は緻密でサラサラした土壌層であり長い期間にわたって堆積している。第２層はローム塊が混入する黒褐色土との交互層であり、堆積期間は急激である。

周溝は、１カ所の陸橋部を除き全周するものと思われるが、第116号に切られ、さらに削平が進んでいるため不明である。また切り合い関係は方台部にまで及ぶ例は１例も検出されないが、本例では、第116号が第117号の方台部にまで及んでいるものと思われる。

溝横断面は方台部よりが急激に立ち上がり、外側でやや緩やかとなる。溝縦断面は全体的には平坦であるといえるが、Ｇ－Ｈでは凹凸が目立つ。出土遺物無し。

２．住居址

第１～３次調査を通して合計４軒が確認されたのみで、その内訳は、弥生時代１軒、平安時代３軒である。検出地区は、調査区西端部で第３年次調査時においてまとめて認められた。確認面は方形周溝墓と同様、表土削平後のローム面である。

Ｙ－１号住居址（第77図）

Grid（ｚ－78）に位置し、第107号方形周溝墓に重複する。新旧関係は、第107号方形周溝墓に切られ、Ｙ－１号住－第107号の順となる。規模は、5.24m×4.12mで、形態はやや変形するが、小判形といえる。主柱穴は、四隅に４本整然と並び、地床炉が中央に設置される。また南側入口部推定箇所には、直径30㎝、深さ40㎝のピットが２本が並列して認められ、粘土による高まりが認められる。おそらく、２本組みによる、梯子と考えられる。

出土遺物（第117図）

Ｙ－１は口径24.3㎝の折り返し口縁壺で、肩部以下は欠損する。口唇部では、粗い刷毛調整後その下部に刻目が施される。口縁から頚部では粗い篦磨きが顕著である。内面では口縁部に集中して刷毛調整が認められ、胴部と頚部の接合部では指頭痕調整がなされる。

Ｙ－２は、壺口縁部で、口唇部には刻目が施され、それ以下では、細かい刷毛調整が全面に施される。内面では、摩滅が進むが刷毛調整が認められる。口径13.9㎝を計測する。

Ｙ－３は、内外刷毛調整で外面は丁寧な刷毛調整である。内面頚部下部では指頭痕が認められる。口径は11.0㎝である。

Ｙ－４は、小形台付甕で、内外面ともに２次焼成を受け、摩滅が進んでいる。口径7.9㎝、器高10.7㎝、底径5.6㎝を計測する。

Ｙ－５は、壺？頚部で、内外共に削りが認められる。

第３節　平安時代の遺構と遺物

Ｈ－１号住居址（第78図）

Grid（ｖ－77）に位置する。重複は認められない。規模は、長軸5.12m、短軸4.2m、壁高0.28mを計測し、形態はほぼ方形となる。カマドは南カマドの形態をとり、左軸をもつが頑強な石組炉である。また住居内北部では、幅３ｍにわたって20㎝程の高まりが平面的にとらえられ、ベッド状遺構が確認された。床面は固くしまり、平坦であると言える。周溝はベッド状遺構の北側のみに認められる。出土遺物は、本住居址として認定されるものは皆無である。

Ｈ－２号住居址（第79図）

Grid（ｒ－83）に位置して、第107号方形周溝墓と重複する。形態は方形で、規模は長軸5.12m、短軸3.96m、深さ0.18mを計測する。カマドは東南に位置して、芯に石材を用いている。カマドよりやや西側には、皿状のpitが検出される。床面は平坦であり固くしまる。周溝は認められない。出土遺物は、少ないが、１点須恵器底部が出土する（第117図13)。

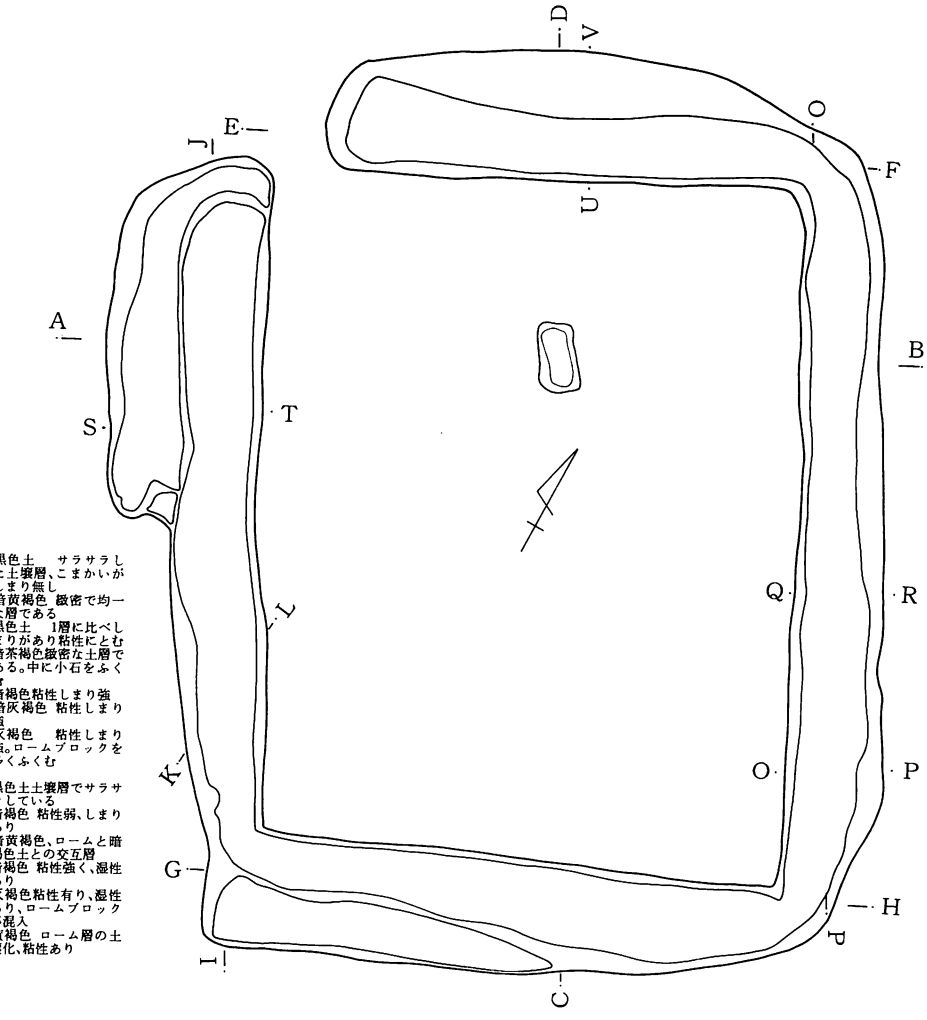
Ｈ－３号住居址（第80図）

Grid（ｔ－77）に位置する。第109号方形周溝墓の方台部に収まる。規模は長軸4.0m、短軸3.92m、深さ0.29mを計測する。カマドは東南に設置して、芯に石材を用いる。床面は、固くしまり平坦である。出土遺物は、鉄鏃２点が出土する。

第３年次（昭和56年度）小結

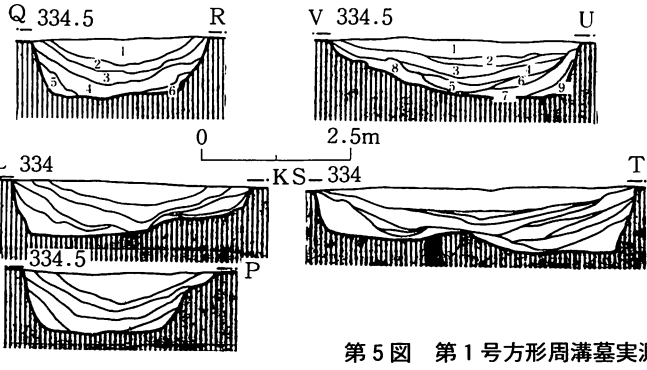
３年次調査区は、遺跡の西北端に位置し、東西の両側に谷部が迫り、平坦部が最も狭くなる地域である。調査区の北東側は斜面上に方形周溝墓が乗り削平をうけるため完全に確認できない。また調査区西側では２基の大形方形周溝墓が確認されたが、２基ともに西半分は調査区外で方台部、周溝共に完全に調査されない。以上のように地形、調査区の制約のため方形周溝墓の形態は一部確認できない箇所もあるが、陸橋部を一隅に設ける例が多いものと考える。切り合い関係は多く110→113→108号、109→111→116→117号、106→107号の３例があり、110・113→108号・109→111→116号・Ｙ１号→106→107号の流れがあるが、方形周溝墓の間には土器型式の差は認められないが、住居址Ｙ１号と106号との間には新旧の開きがある。出土状態は、110、116号では、大形壺の出土例として、胴部と口縁部とが１ｍ前後切り離され、同一レベルで検出され一個体に復元できることから、故意に破壊され祭祀的な様相を示している。また第110、109号では、大量の土器類が一括して出土しており、中には土器の接合関係を示した例も認められた。特記される遺物としては、第119号出土の焼成前の底部穿孔土器が上げられる。

本地区では、Ｙ－１号住居の外に、平安時代に下がる住居が３軒検出され、中にはベッド状遺構をもつものも認められた。



Q－R
第1層　黒色土　サラサラした土壌層、こまかいがしまり無し
第2層　暗黄褐色　緻密で均一な層である
第3層　黒色土　1層に比べしまりがあり粘性にとむ
第4層　暗茶褐色緻密な土層である。中に小石をふくむ
第5層　暗褐色粘性しまり強
第6層　暗灰褐色　粘性しまり強
第7層　灰褐色　粘性しまり強。ロームブロックを多くふくむ

K－L
第1層　黒色土土壌層でサラサラしている
第2層　暗褐色　粘性弱、しまりあり
第3層　暗黄褐色、ロームと暗褐色土との交互層
第4層　暗褐色　粘性強く、湿性あり
第5層　灰褐色粘性有り、湿性あり、ロームブロックが混入
第6層　黄褐色　ローム層の土壌化、粘性あり

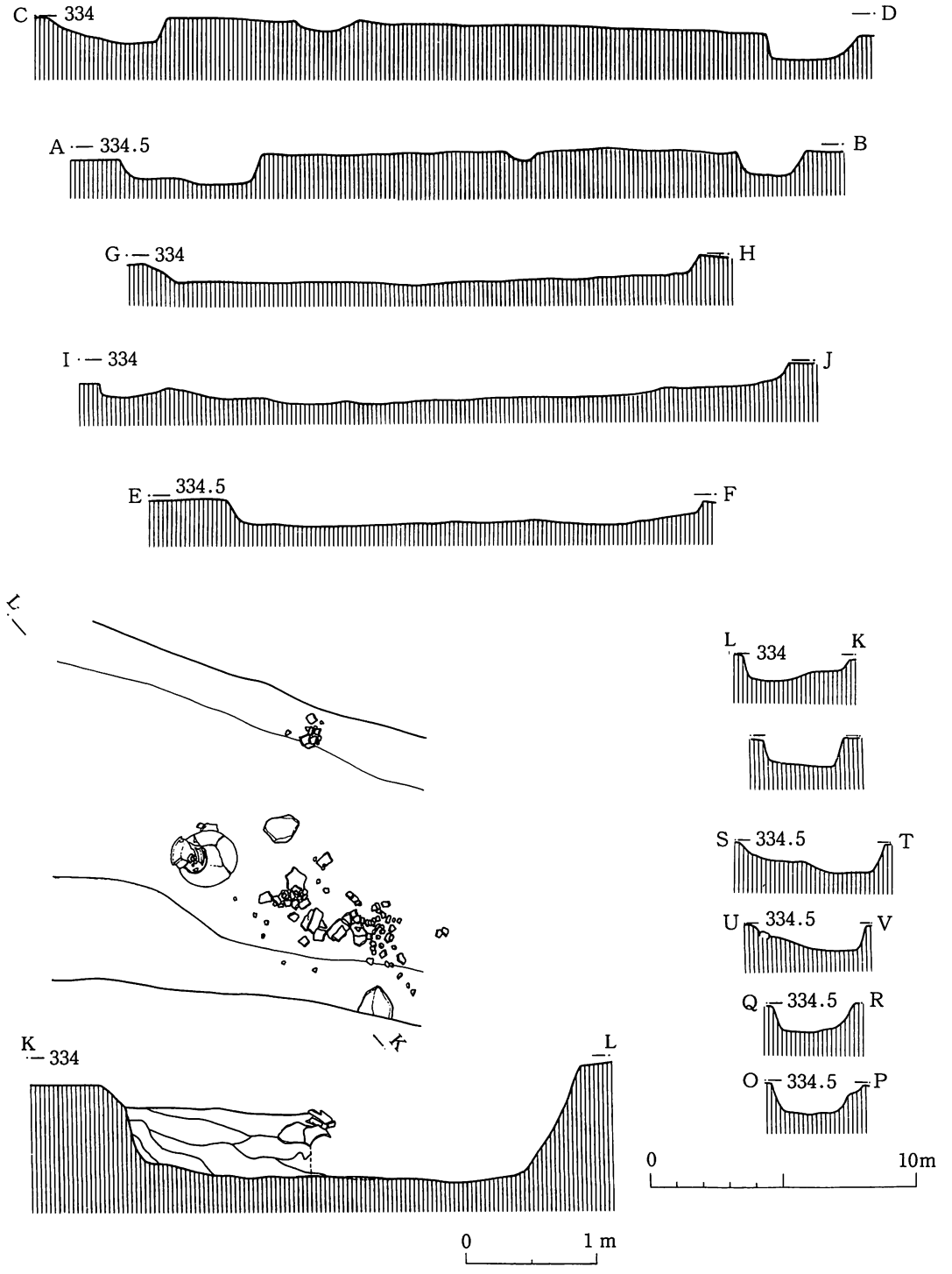


S－T
第1層　黒茶褐色　サラサラする土壌層で、砂が若干混じる
第2層　黒色土　土壌層でサラサラする
第3層　暗黄褐色　茶褐色土と黄褐色土との交互層である
第4層　黒色土　青灰色の粒子を含む。2層に比べ緻密で湿性がある
第5層　暗黄褐色　粘性が強く、しまり強い
第6層　暗茶褐色　粘性強　青色粒子を含む
第7層　黒茶褐色　5層と同質であるが、5層の方が黄色が多い
第8層　暗灰褐色　粘性しまり強。ロームブロックとの交互層

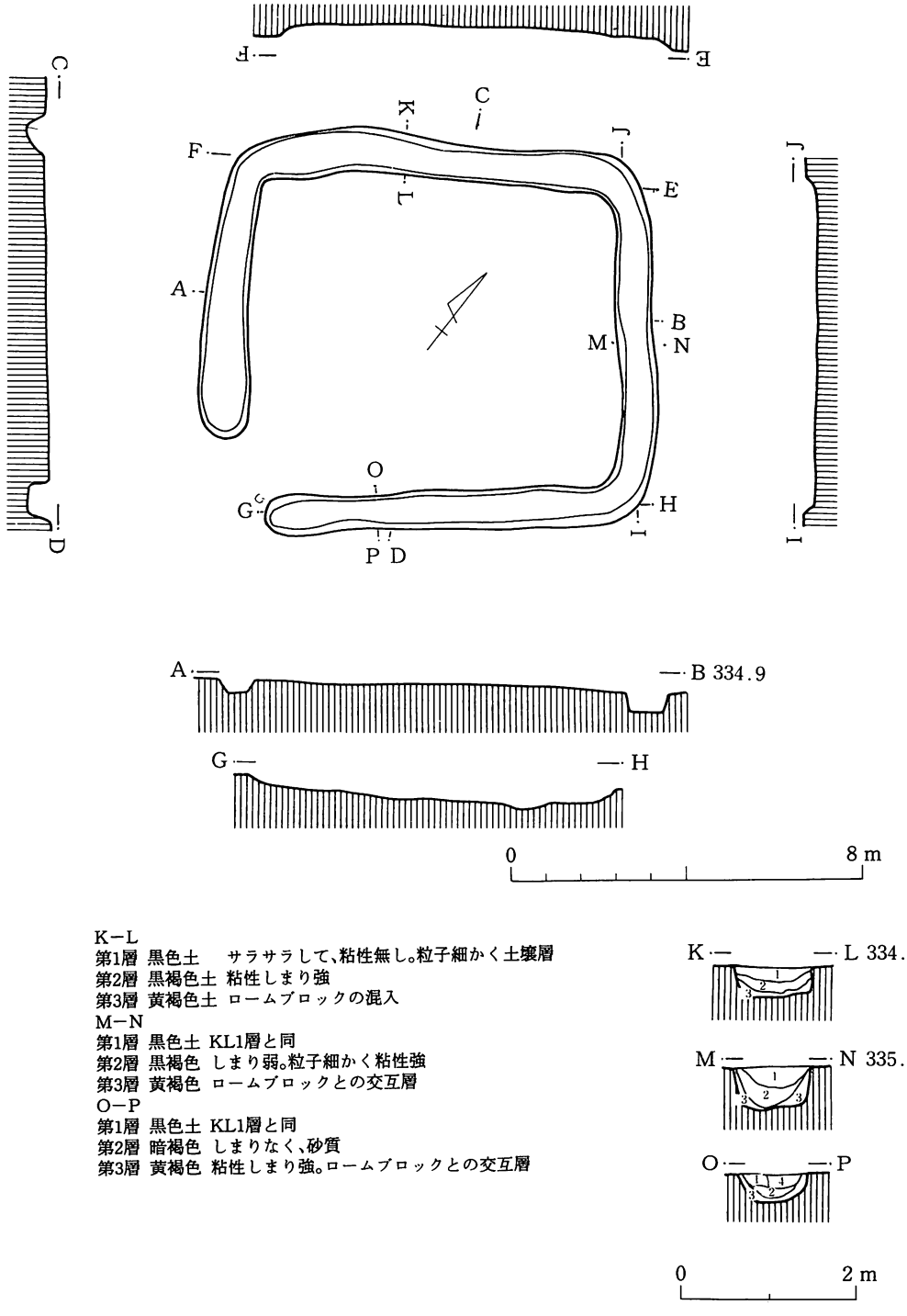
O－P
第1層　黒色土　腐食土壌層。粘性、湿性あり
第2層　黒茶褐色　黄色土のブロックを含む
第3層　暗黄褐色　緻密で粘性しまり有り
第4層　黒褐色　赤色スコリアを含む
第5層　暗茶褐色　粘性しまりあり。ロームブロックとの交互層
第6層　黄褐色　ロームのソフト化?粘性しまり強

U－V
第1層　黒色土　サラサラした土壌層
第2層　暗黄褐色
第3層　黒茶褐色　1層同様の土壌層で粘性ややあり
第4層　暗黄褐色　EF3層と同
第5層　黒褐色　ロームブロックとの交互層
第6層　暗茶褐色　粘性しまり強。ロームブロック含む
第7層　灰褐色　粘性少なく、パサパサする、若干のロームブロックを含む
第8層　黄褐色　ロームブロックの流れ込み
第9層　黄灰褐色　ローム土壌化層

第5図　第1号方形周溝墓実測図

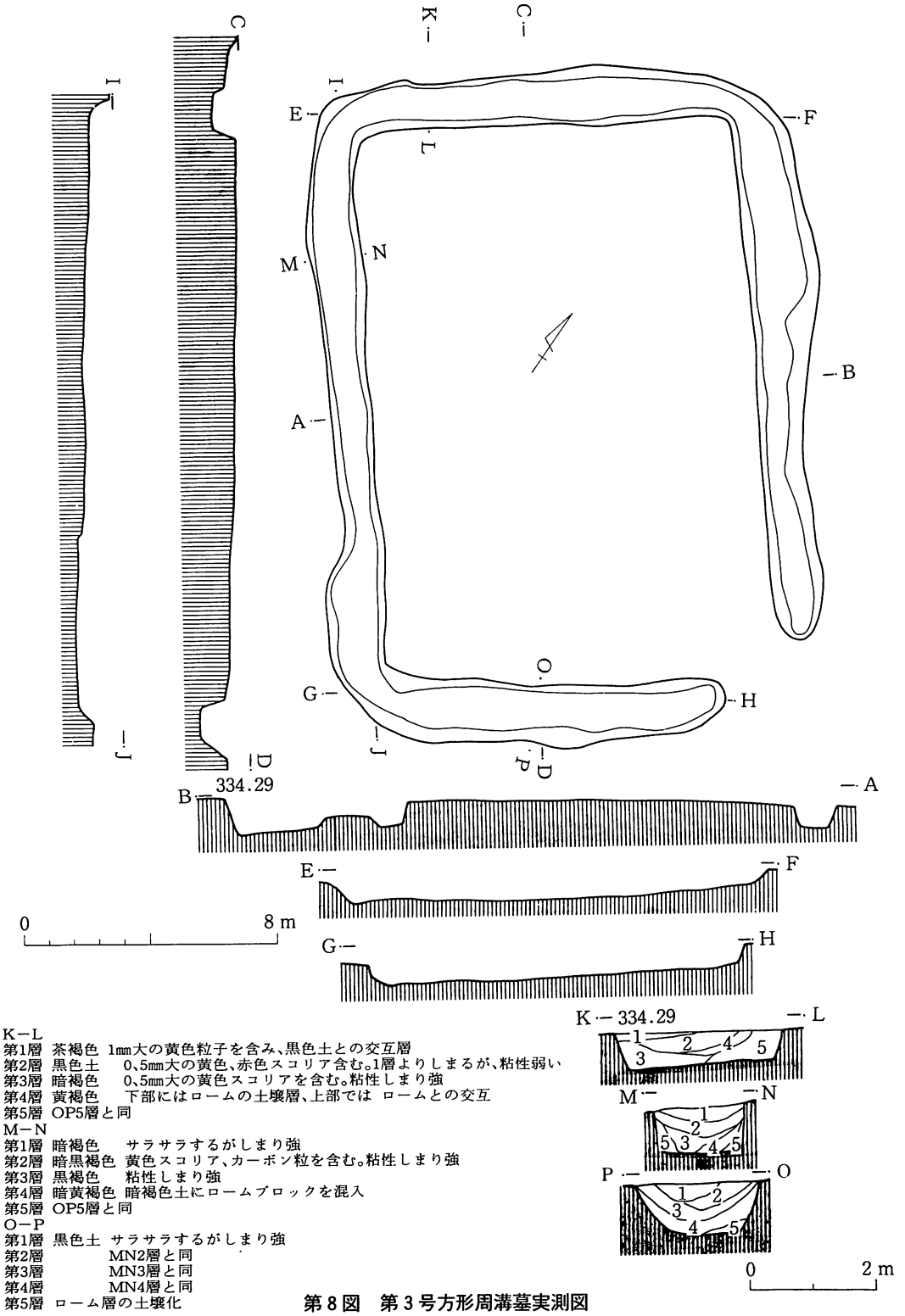


第6図　第1号・大形壺出土状況



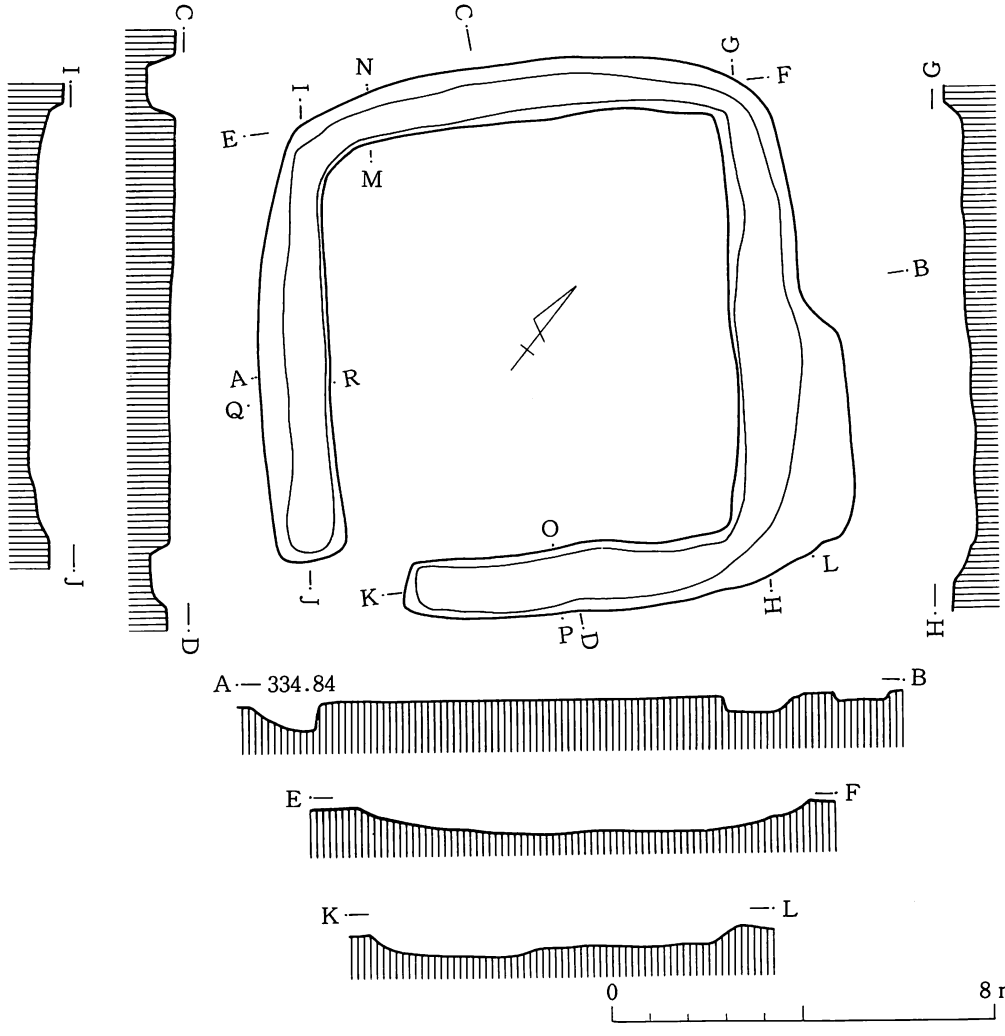
K−L
第1層 黒色土　サラサラして、粘性無し。粒子細かく土壌層
第2層 黒褐色土 粘性しまり強
第3層 黄褐色土 ロームブロックの混入
M−N
第1層 黒色土 KL1層と同
第2層 黒褐色 しまり弱。粒子細かく粘性強
第3層 黄褐色 ロームブロックとの交互層
O−P
第1層 黒色土 KL1層と同
第2層 暗褐色 しまりなく、砂質
第3層 黄褐色 粘性しまり強。ロームブロックとの交互層

第7図　第2号方形周溝墓実測図

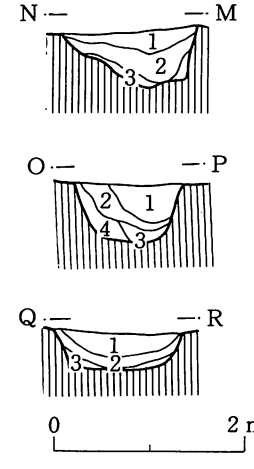


K－L
第1層 茶褐色 1mm大の黄色粒子を含み、黒色土との交互層
第2層 黒色土 0.5mm大の黄色、赤色スコリア含む。1層よりしまるが、粘性弱い
第3層 暗褐色 0.5mm大の黄色スコリアを含む。粘性しまり強
第4層 黄褐色 下部にはロームの土壌層、上部では ロームとの交互
第5層 OP5層と同
M－N
第1層 暗褐色 サラサラするがしまり強
第2層 暗黒褐色 黄色スコリア、カーボン粒を含む。粘性しまり強
第3層 黒褐色 粘性しまり強
第4層 暗黄褐色 暗褐色土にロームブロックを混入
第5層 OP5層と同
O－P
第1層 黒色土 サラサラするがしまり強
第2層 MN2層と同
第3層 MN3層と同
第4層 MN4層と同
第5層 ローム層の土壌化

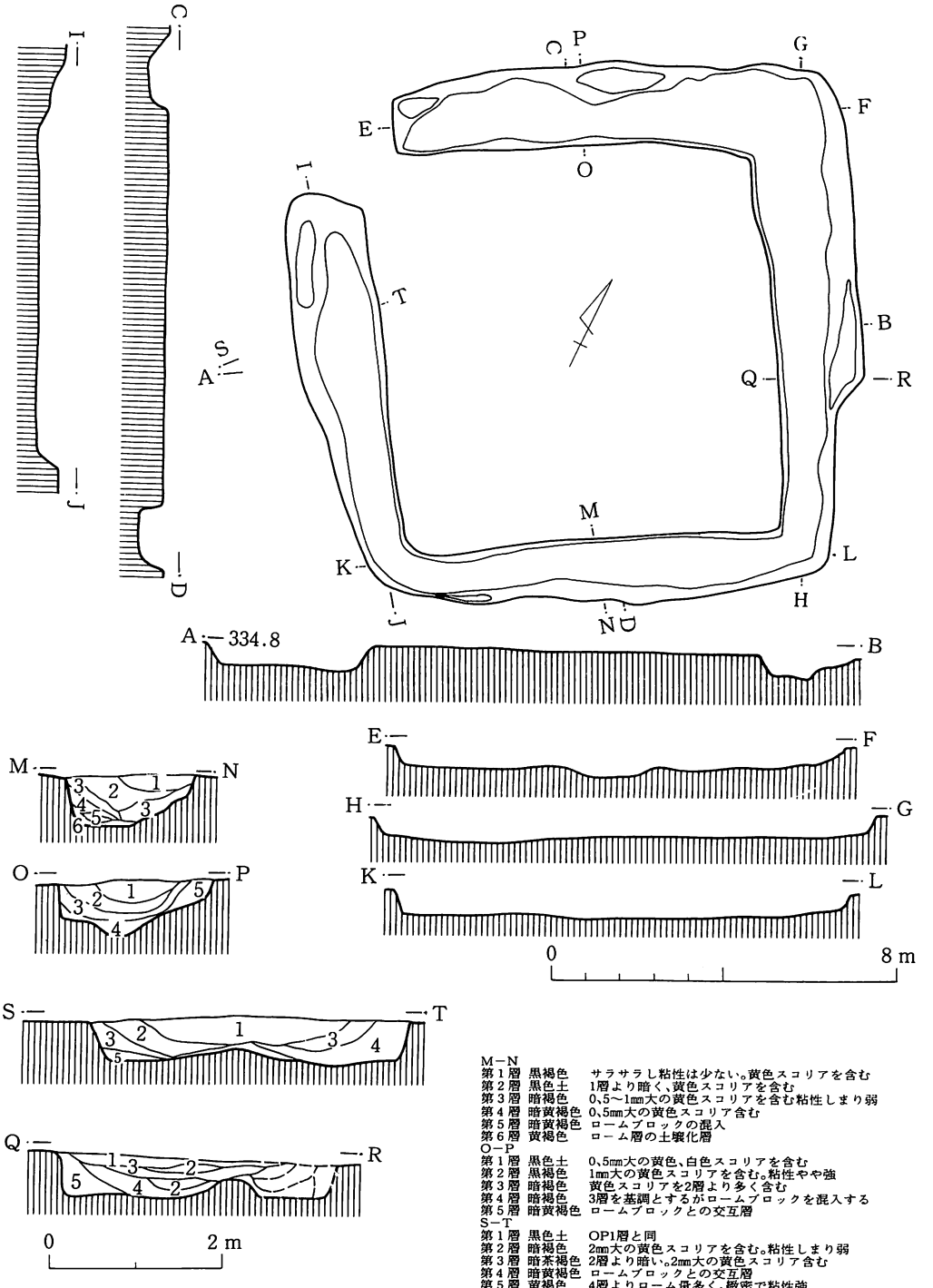
第8図 第3号方形周溝墓実測図



M−N
第1層 黒褐色土 1㎜大の黄色スコリアを含む
第2層 黒色土 1層より色調が暗い
第3層 黒褐色 ローム粒子含む。粘性しまり弱
O−P
第1層 黒褐色 黄色スコリアを含み、しまり強
第2層 MN2層と同
第3層 黒褐色 下部にロームブロックを含む
第4層 ローム層の土壌化
Q−R
第1層 黒褐色 MN1層と同
第2層 黒色土 MN2層と同
第3層 暗褐色 MN3層と同

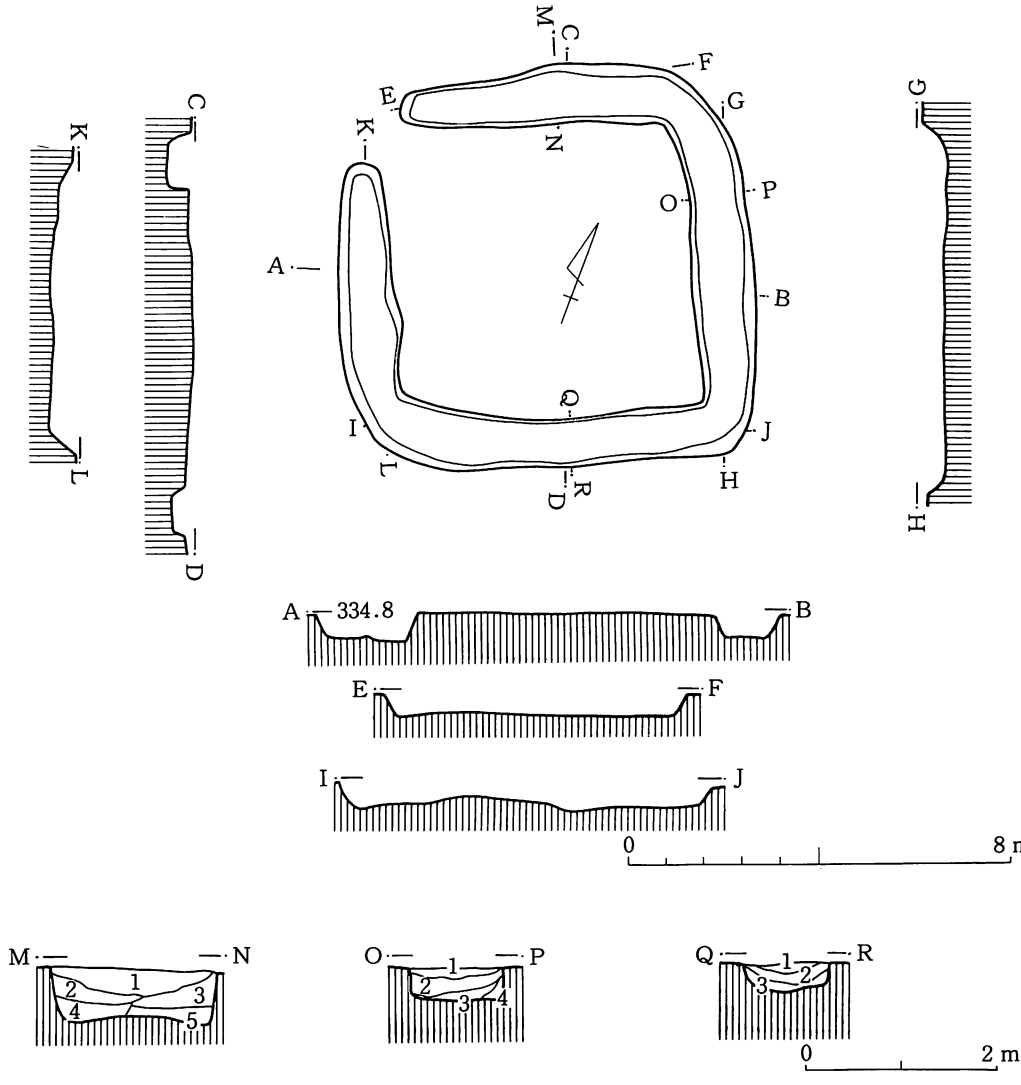


第9図 第4号方形周溝墓実測図



M－N
第１層　黒褐色　　サラサラし粘性は少ない。黄色スコリアを含む
第２層　黒色土　　1層より暗く、黄色スコリアを含む
第３層　暗褐色　　0.5～1mm大の黄色スコリアを含む粘性しまり弱
第４層　暗黄褐色　0.5mm大の黄色スコリア含む
第５層　暗黄褐色　ロームブロックの混入
第６層　黄褐色　　ローム層の土壌化層
O－P
第１層　黒色土　　0.5mm大の黄色、白色スコリアを含む
第２層　黒褐色　　1mm大の黄色スコリアを含む。粘性やや強
第３層　暗褐色　　黄色スコリアを2層より多く含む
第４層　暗褐色　　3層を基調とするがロームブロックを混入する
第５層　暗黄褐色　ロームブロックとの交互層
S－T
第１層　黒色土　　OP1層と同
第２層　暗褐色　　2mm大の黄色スコリアを含む。粘性しまり弱
第３層　暗茶褐色　2層より暗い。2mm大の黄色スコリア含む
第４層　暗黄褐色　ロームブロックとの交互層
第５層　黄褐色　　4層よりローム量多く、緻密で粘性強
Q－R
第１層　黒色土　　黒色土に表土が混入する交互層
第２層　黒色土　　0.5mm大の黄色スコリア含む。粘性弱くしまりやや有り
第３層　黒褐色　　1層より粘性しまり強
第４層　暗褐色　　ロームブロックとの交互層
第５層　暗黄褐色　ソフトロームとロームブロックとの交互

第10図　第５号方形周溝墓実測図

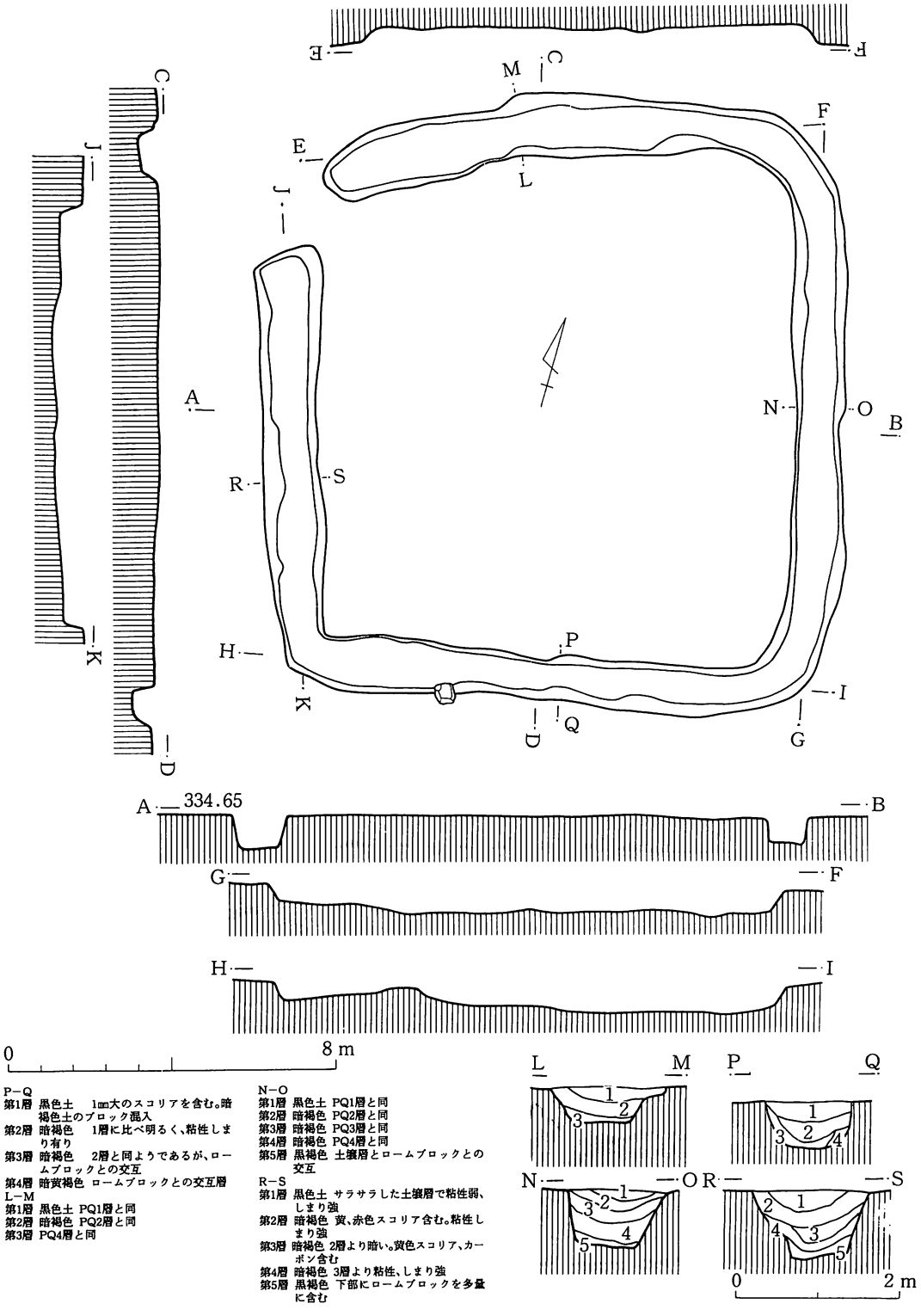


Q−R
第1層 黒色土　0.5㎜大の黄色スコリア含む。粘性弱くしまり強
第2層 暗褐色　1㎜大の黄色スコリア含む
第3層 暗黄褐色　ロームブロックとの交互層

M−N
第1層 黒色土　1㎜大の黄色スコリア含む、しまり強、粘性弱
第2層 暗褐色　1層より暗くスコリアを多く含む。粘性強
第3層 暗黄褐色　ロームブロックとの交互層
第4層 黒褐色　1㎜大の粒子含む、ロームブロックとの交互
第5層 黄褐色　ソフトロームとロームブロックとの交互

O−P
第1層 QR1層と同
第2層 QR2層と同
第3層 QR3層と同
第4層 ロームの土壌化

第11図　第6号方形周溝墓実測図



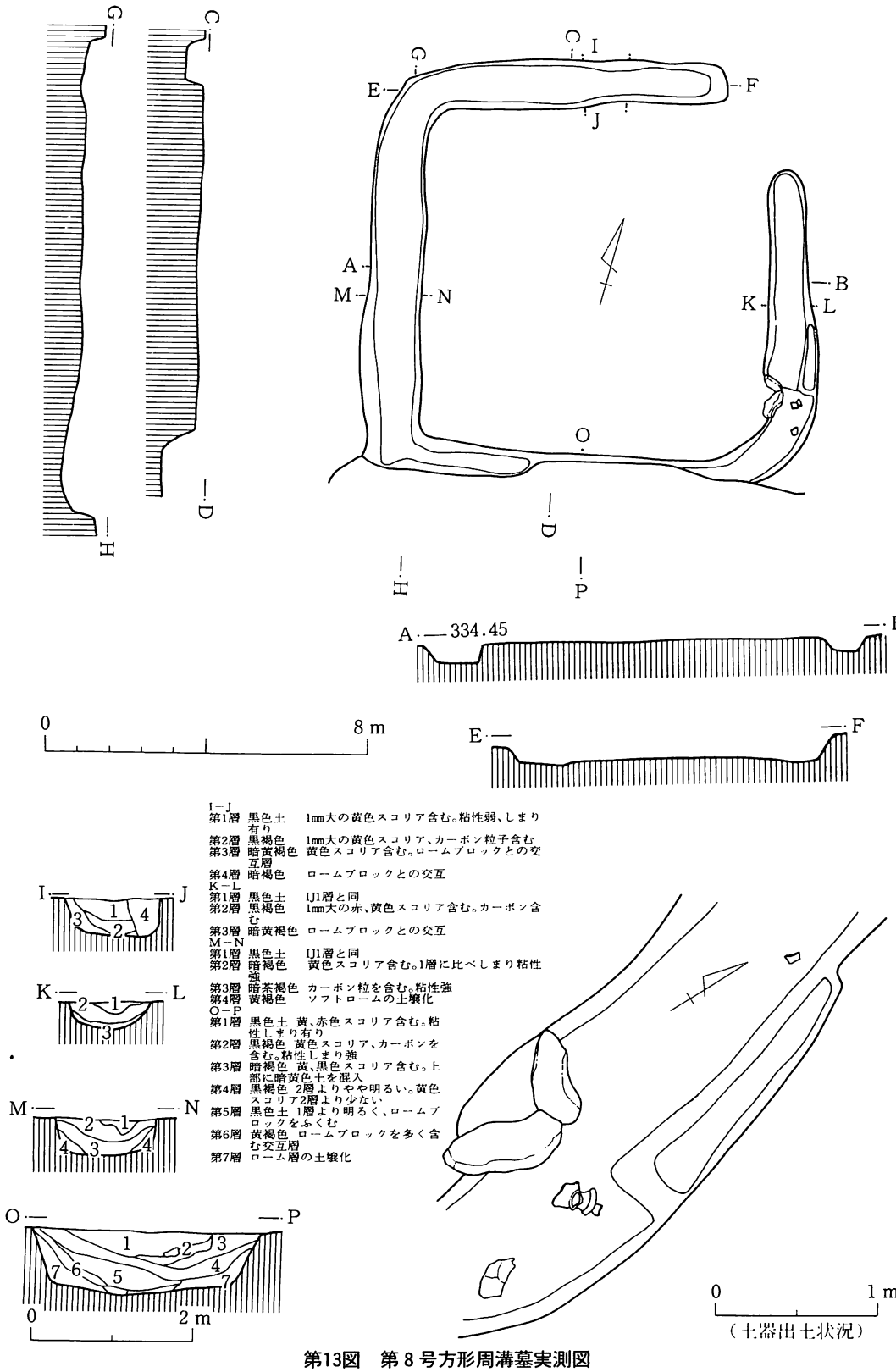
P−Q
第1層 黒色土　1㎜大のスコリアを含む。暗褐色土のブロック混入
第2層 暗褐色　1層に比べ明るく、粘性しまり有り
第3層 暗褐色　2層と同ようであるが、ロームブロックとの交互
第4層 暗黄褐色 ロームブロックとの交互層

L−M
第1層 黒色土 PQ1層と同
第2層 暗褐色 PQ2層と同
第3層 PQ4層と同

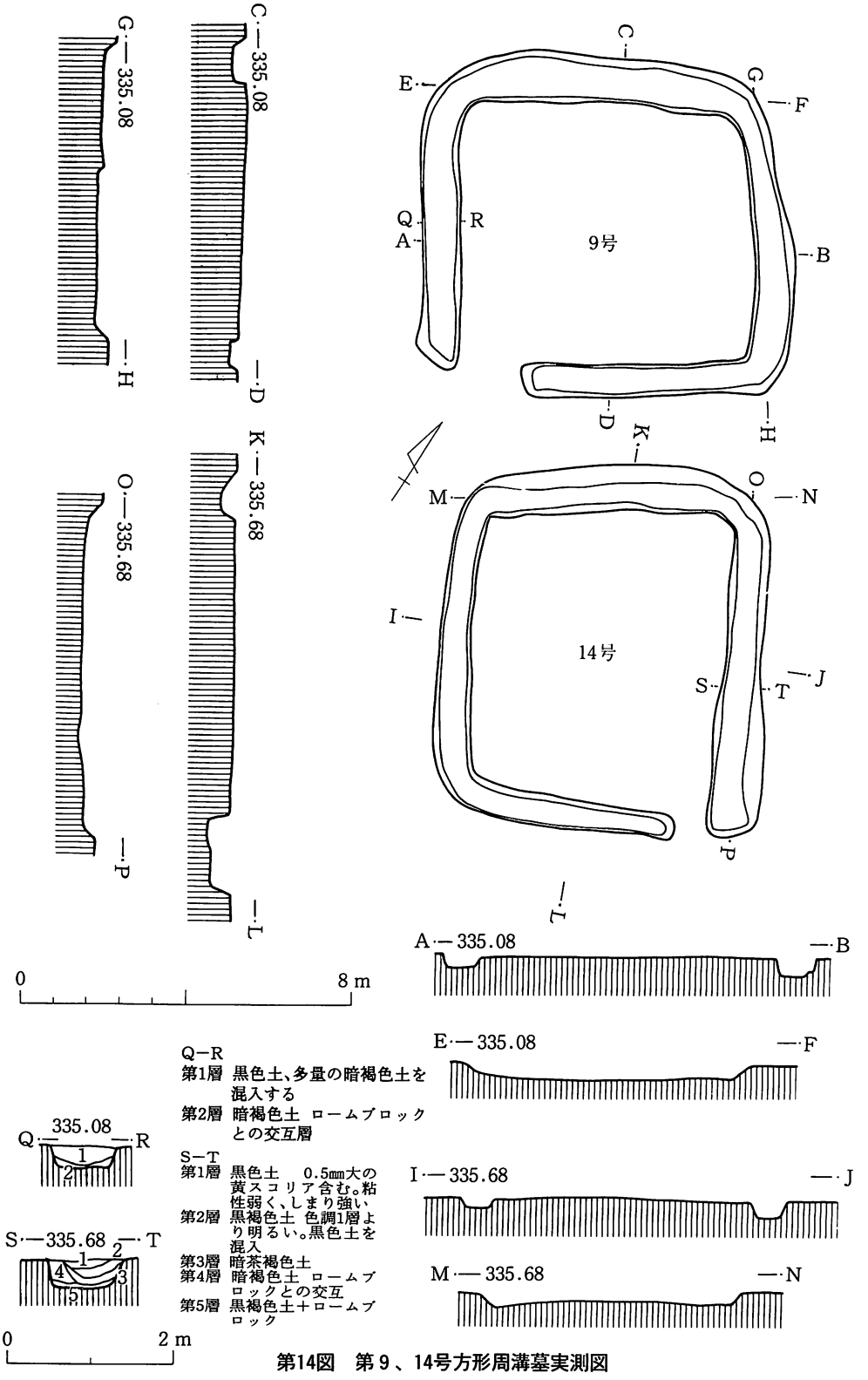
N−O
第1層 黒色土 PQ1層と同
第2層 暗褐色 PQ2層と同
第3層 暗褐色 PQ3層と同
第4層 暗褐色 PQ4層と同
第5層 黒褐色 土壌層とロームブロックとの交互

R−S
第1層 黒色土 サラサラした土壌層で粘性弱、しまり強
第2層 暗褐色 黄、赤色スコリア含む。粘性しまり強
第3層 暗褐色 2層より暗い。黄色スコリア、カーボン含む
第4層 暗褐色 3層より粘性、しまり強
第5層 黒褐色 下部にロームブロックを多量に含む

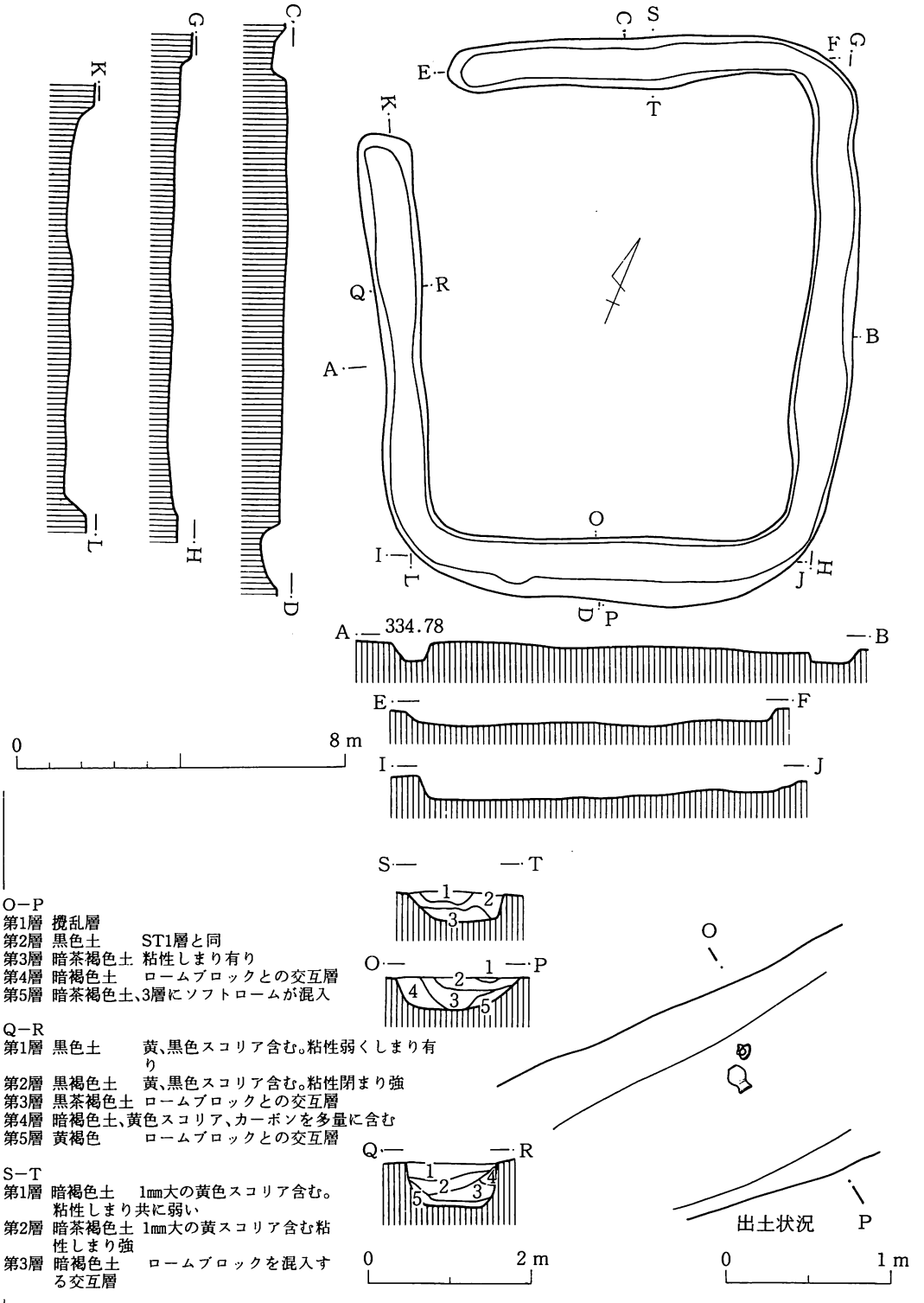
第12図　第７号方形周溝墓実測図



第13図　第8号方形周溝墓実測図



第14図　第9、14号方形周溝墓実測図

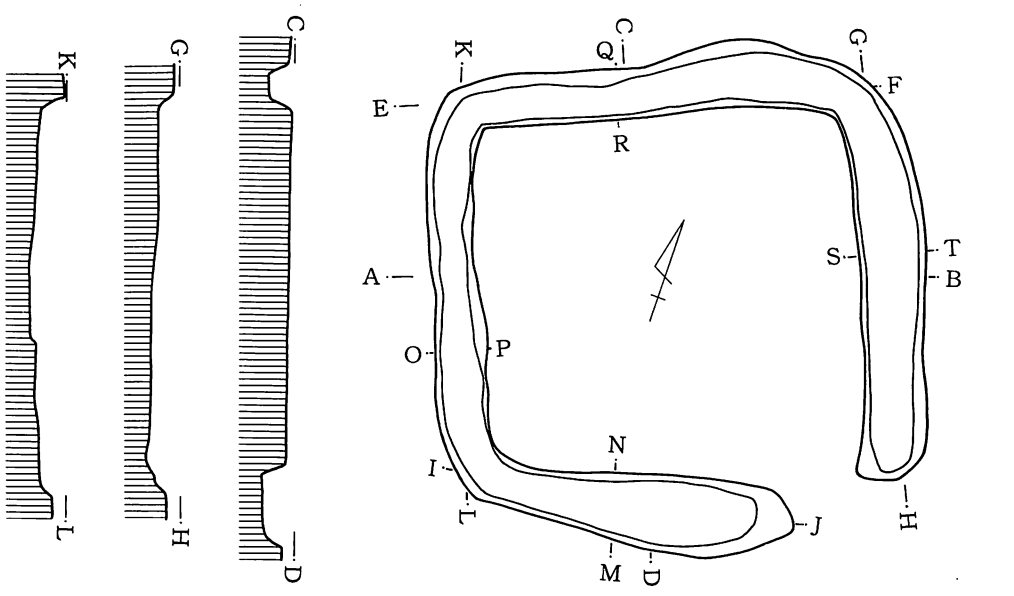


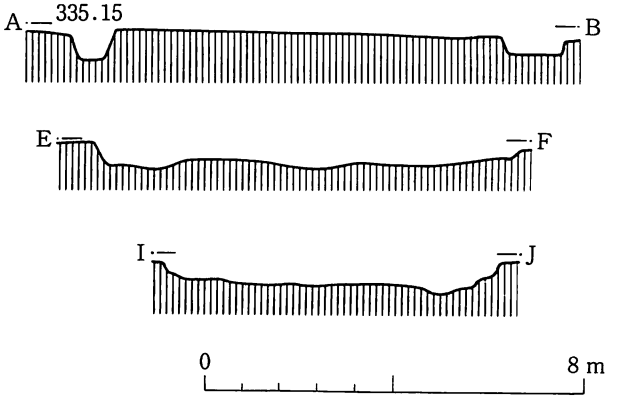
O−P
第1層 攪乱層
第2層 黒色土　ST1層と同
第3層 暗茶褐色土 粘性しまり有り
第4層 暗褐色土　ロームブロックとの交互層
第5層 暗茶褐色土、3層にソフトロームが混入

Q−R
第1層 黒色土　黄、黒色スコリア含む。粘性弱くしまり有り
第2層 黒褐色土　黄、黒色スコリア含む。粘性閉まり強
第3層 黒茶褐色土 ロームブロックとの交互層
第4層 暗褐色土、黄色スコリア、カーボンを多量に含む
第5層 黄褐色　ロームブロックとの交互層

S−T
第1層 暗褐色土　1mm大の黄色スコリア含む。粘性しまり共に弱い
第2層 暗茶褐色土 1mm大の黄スコリア含む粘性しまり強
第3層 暗褐色土　ロームブロックを混入する交互層

第15図　第10号方形周溝墓実測図



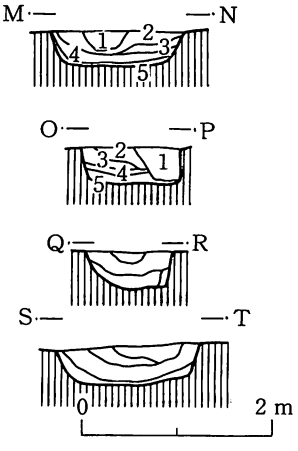


M−N
第1層 黒色土　黄、白色スコリア含む
第2層 暗褐色土　1㎜大の赤スコリア含む
第3層 暗茶褐色土 2層より暗くスコリアを多く含む
第4層 黒褐色土 3層より色調が暗く粘性しまり強
第5層 黒褐色土とロームブロックとの交互層

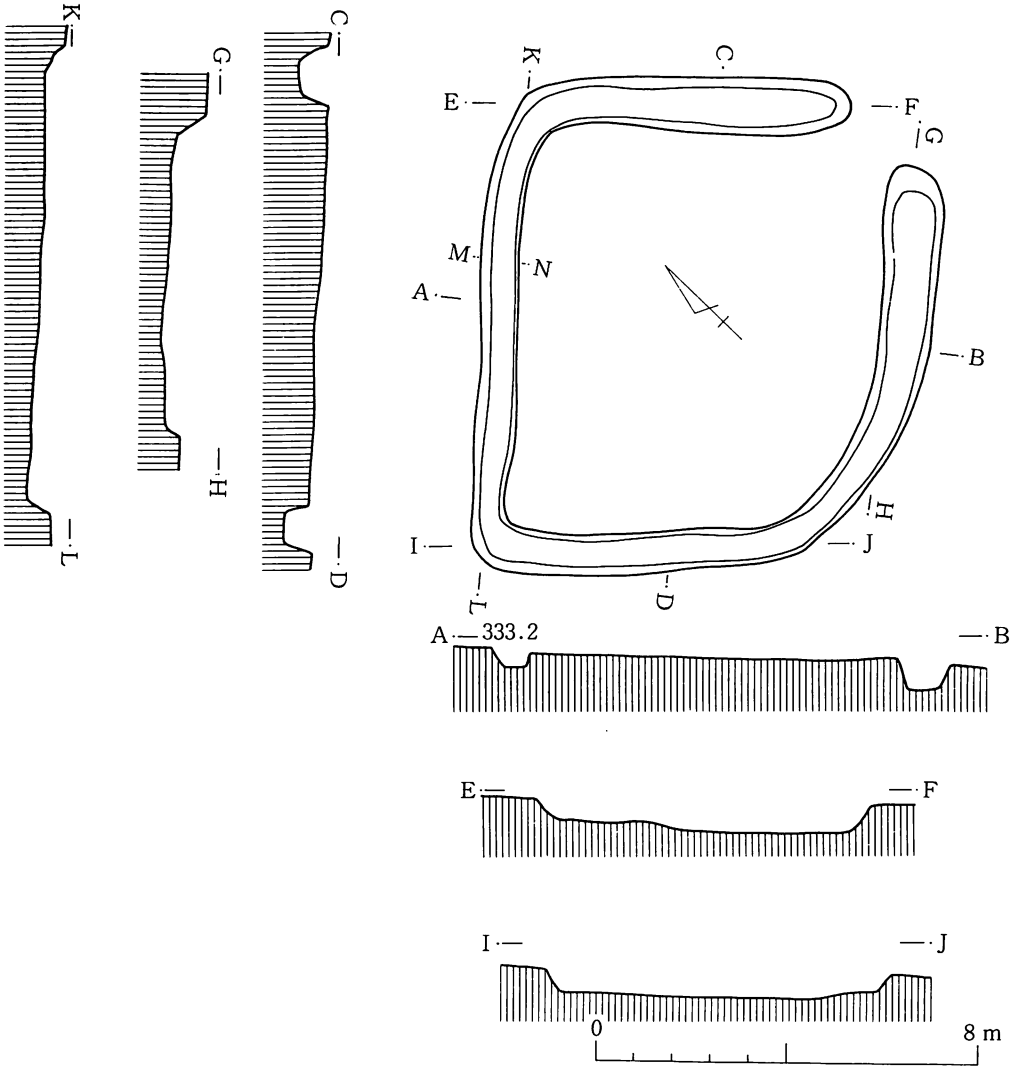
O−P
第1層 黒色土　0、5㎜大の黄、赤色スコリア含む。粘性しまり弱
第2層 暗褐色土　1層より明るく、暗黄色土を多く混入する
第3層 黒褐色土　黒色土中に黄色土を含む
第4層 暗茶褐色土 1㎜大の黄色スコリアを含む
第5層 黒褐色土　ロームブロックとの交互層

Q−R
第1層 黒色土　1㎜大の黄色スコリア含む。粘性しまり弱
第2層 暗褐色土 MN2層と同
第3層 黒褐色土 MN3層と同であるが、やや暗い。少量のロームブロック含む
第4層 黄褐色＋黒褐色土との交互層

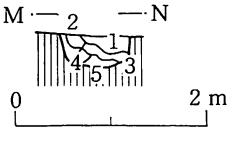
S−T
第1層 黒色土　MN1層と同
第2層 暗褐色土 QR2層と同
第3層 黒褐色土 ST3層と同
第4層 暗黄褐色 ロームブロックとの交互



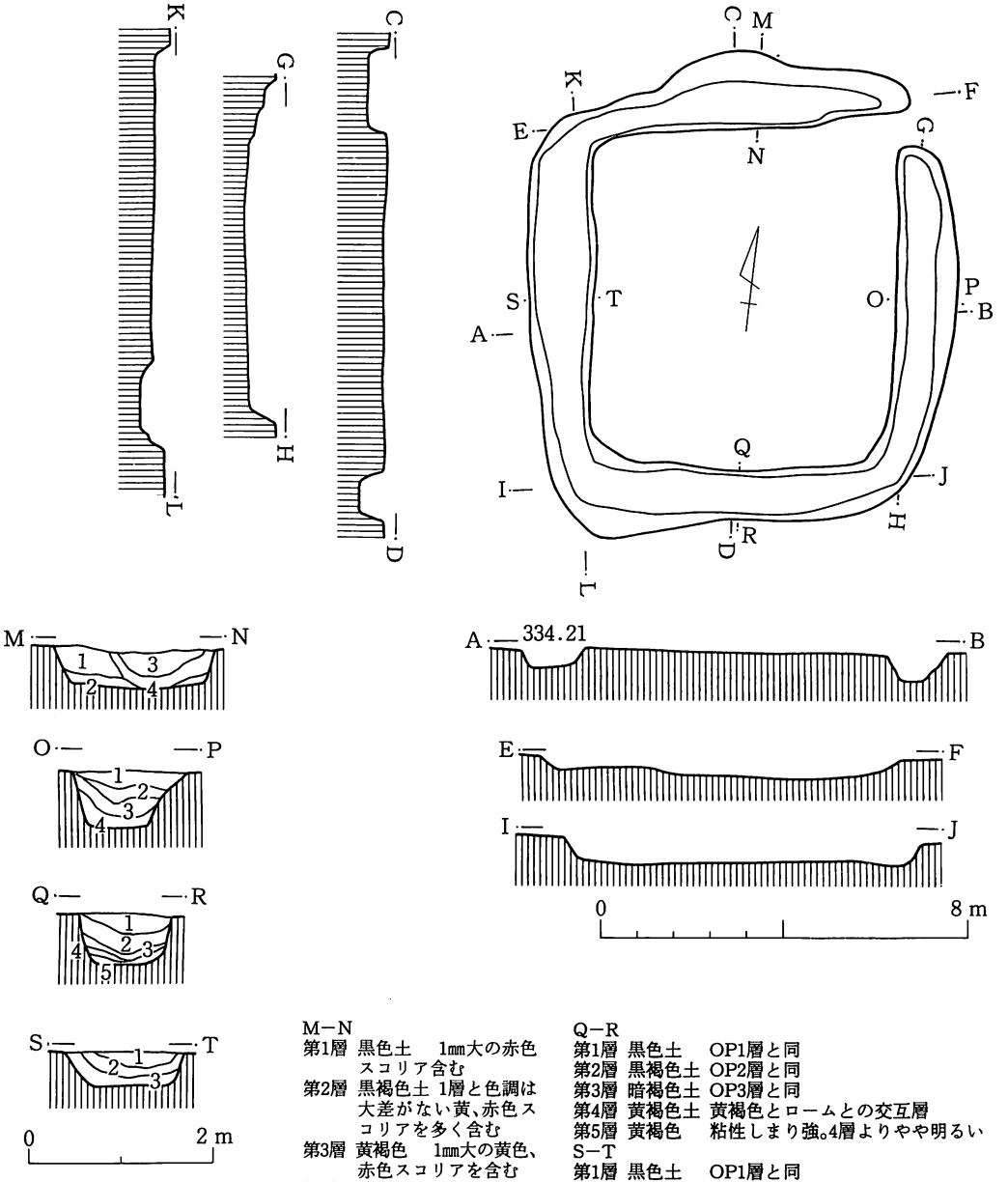
第16図　第11号方形周溝墓実測図



M－N
第1層 暗褐色土
第2層 黄褐色土 ロームブロックの混入
第3層 黒褐色土 ロームブロックとの交互やや軟弱
第4層 黒色土
第5層 黄褐色 黒色土とロームブロックとの交互層



第17図　第12号方形周溝墓実測図



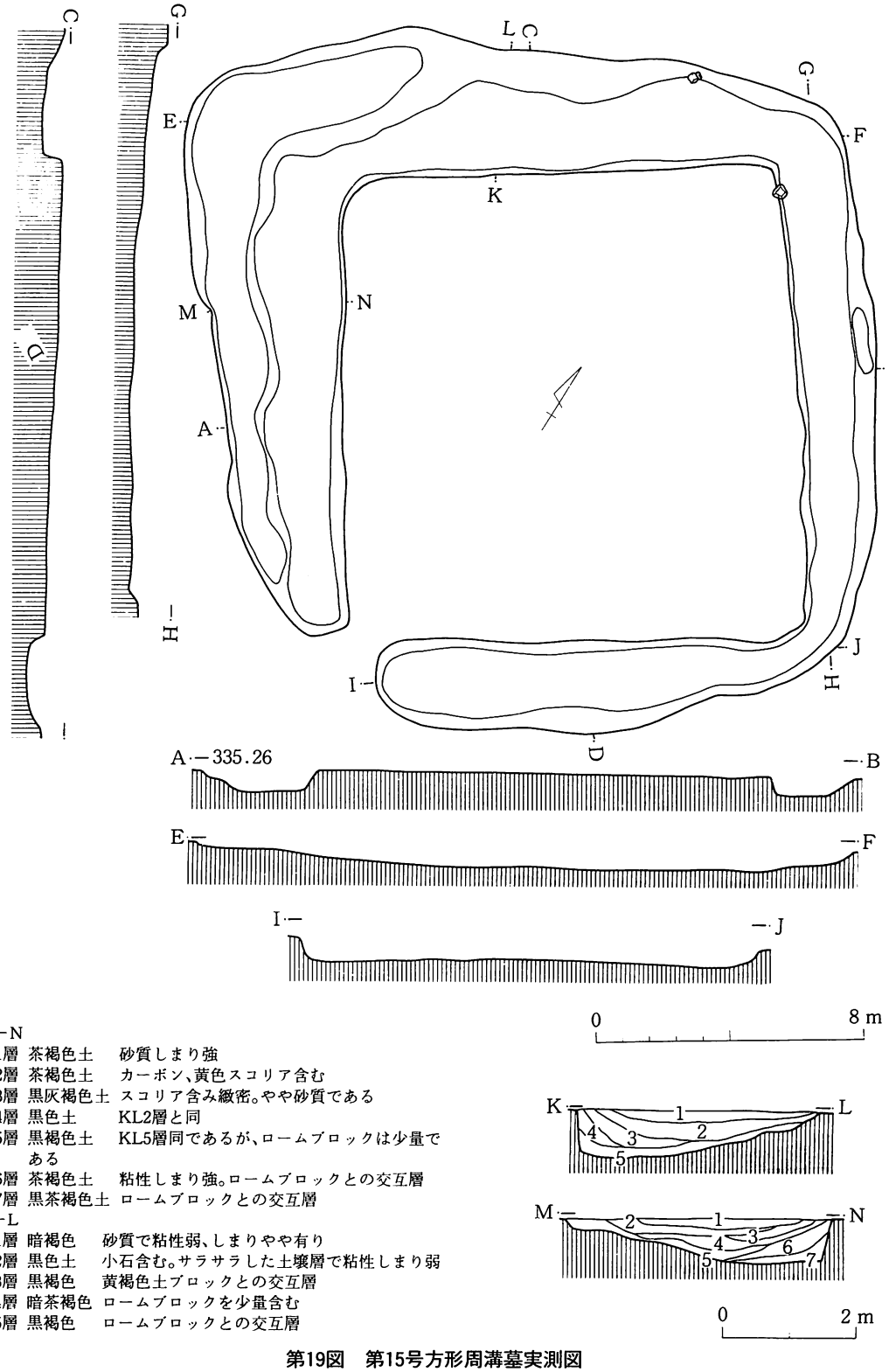
M−N
第1層 黒色土　1mm大の赤色スコリア含む
第2層 黒褐色土 1層と色調は大差がない黄、赤色スコリアを多く含む
第3層 黄褐色　1mm大の黄色、赤色スコリアを含む
第4層 暗褐色土

O−P
第1層 黒色土　1mm大の黄、赤色スコリア含む。粘性弱くしまり無し
第2層 黒褐色土 1mm大の赤、黄色スコリア含む
第3層 暗褐色土 ローム粒子若干含む
第4層 黄褐色　ロームブロックとの交互層

Q−R
第1層 黒色土　OP1層と同
第2層 黒褐色土 OP2層と同
第3層 暗褐色土 OP3層と同
第4層 黄褐色土 黄褐色とロームとの交互層
第5層 黄褐色　粘性しまり強。4層よりやや明るい

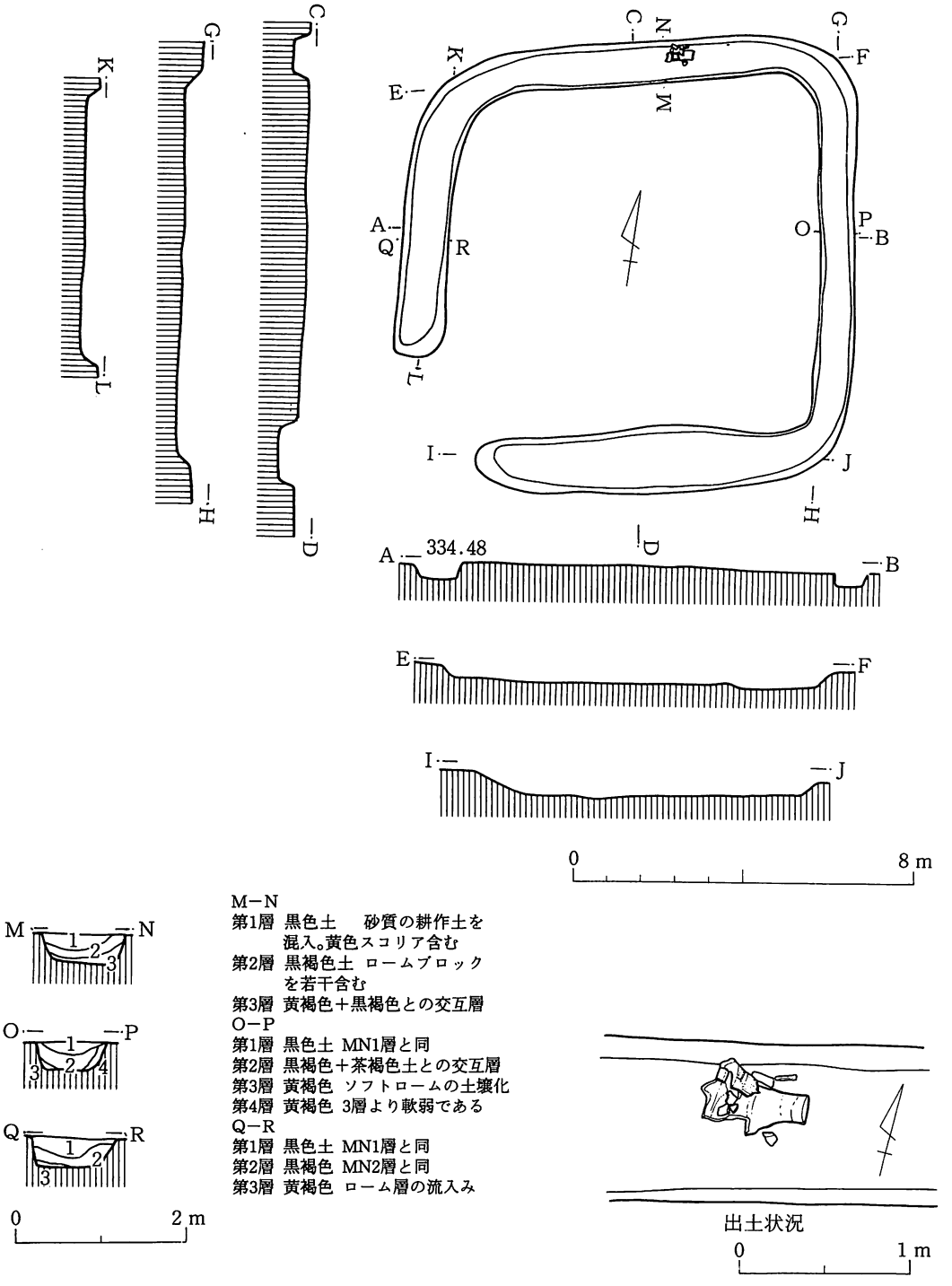
S−T
第1層 黒色土　OP1層と同
第2層 黒褐色土 OP2層と同
第3層 黄褐色　ロームブロックとの交互層

第18図　第13号方形周溝墓実測図



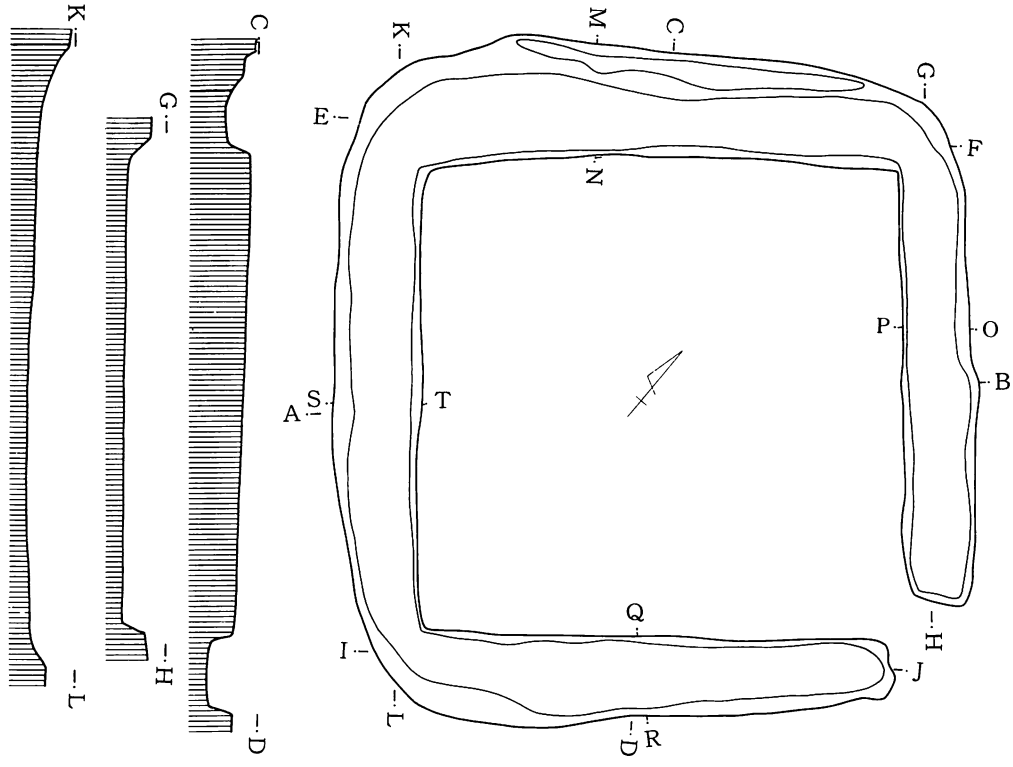
M－N
第1層 茶褐色土　砂質しまり強
第2層 茶褐色土　カーボン、黄色スコリア含む
第3層 黒灰褐色土 スコリア含み緻密。やや砂質である
第4層 黒色土　KL2層と同
第5層 黒褐色土　KL5層同であるが、ロームブロックは少量である
第6層 茶褐色土　粘性しまり強。ロームブロックとの交互層
第7層 黒茶褐色土 ロームブロックとの交互層
K－L
第1層 暗褐色　砂質で粘性弱、しまりやや有り
第2層 黒色土　小石含む。サラサラした土壌層で粘性しまり弱
第3層 黒褐色　黄褐色土ブロックとの交互層
第4層 暗茶褐色 ロームブロックを少量含む
第5層 黒褐色　ロームブロックとの交互層

第19図　第15号方形周溝墓実測図

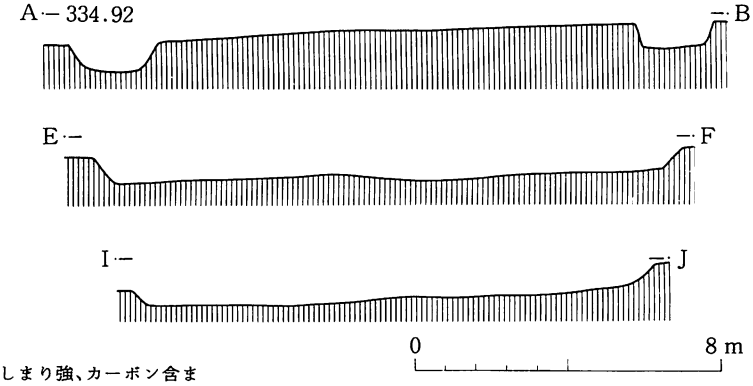


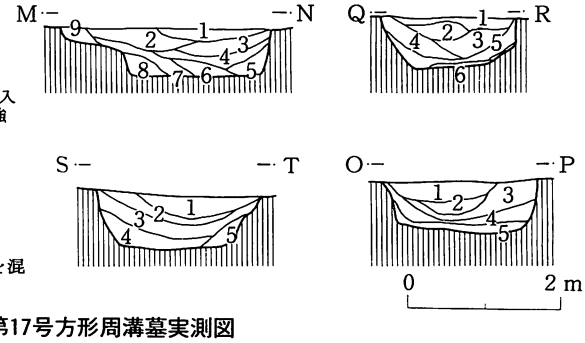
M−N
第1層 黒色土　砂質の耕作土を混入。黄色スコリア含む
第2層 黒褐色土 ロームブロックを若干含む
第3層 黄褐色＋黒褐色との交互層
O−P
第1層 黒色土 MN1層と同
第2層 黒褐色＋茶褐色土との交互層
第3層 黄褐色 ソフトロームの土壌化
第4層 黄褐色 3層より軟弱である
Q−R
第1層 黒色土 MN1層と同
第2層 黒褐色 MN2層と同
第3層 黄褐色 ローム層の流入み

第20図　第16号方形周溝墓実測図

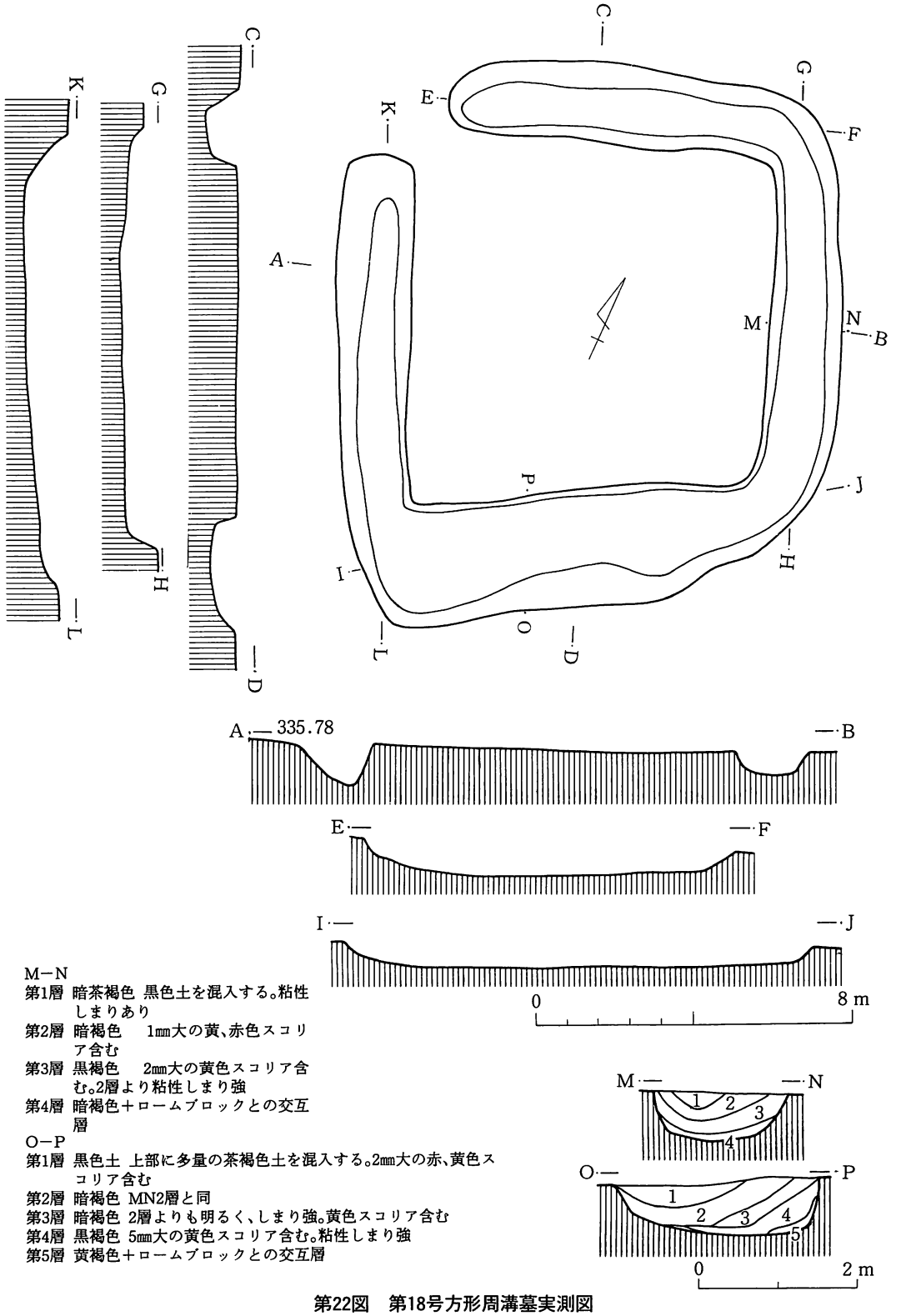


O－P
第1層 暗褐色　1㎜大の黄、赤色スコリア含む。黒色土、暗黄褐色との交互
第2層 黒色土　1㎜の黄色スコリア含む。粘性しまりあり
第3層 暗茶褐色 黄色スコリア、カーボン粒含む。粘性しまり強
第4層 黒褐色　ロームブロックとの交互層、粘性しまり3層より弱
第5層 暗黄褐色 粘性しまり強。ロームブロックとの交互層
Q－R
第1層 暗褐色　OP1層と同
第2層 黒色土　OP2層と同
第3層 暗茶褐色 OP3層と同
第4層 黒褐色　カーボン粒を含む
第5層 黒褐色　4層よりやや明るくしまり強、カーボン含まない
第6層 暗黄褐色 MN5層と同
M－N
第1層 暗褐色　OP1層と同
第2層 黒色土　OP2層と同
第3層 暗茶褐色 粘性しまり2層より強
第4層 黒褐色　OP4層と同
第5層 暗茶褐色 色調は3層より明るい。下部に暗褐色を混入
第6層 暗黄褐色 下部にロームブロック混入。粘性しまり強
第7層 暗褐色　暗茶褐色を混入。粘性しまりは1層より強
第8層 黒褐色＋ロームブロック
S－T
第1層 黒色土 MN2層と同
第2層 暗褐色 OP3層と同であるが、カーボンを含む
第3層 黒褐色 OP4層と同
第4層 暗褐色 色調は2層より暗く、黄褐色土を混入する
第5層 暗褐色 2、4層より明るい。上部にロームブロックを混入する





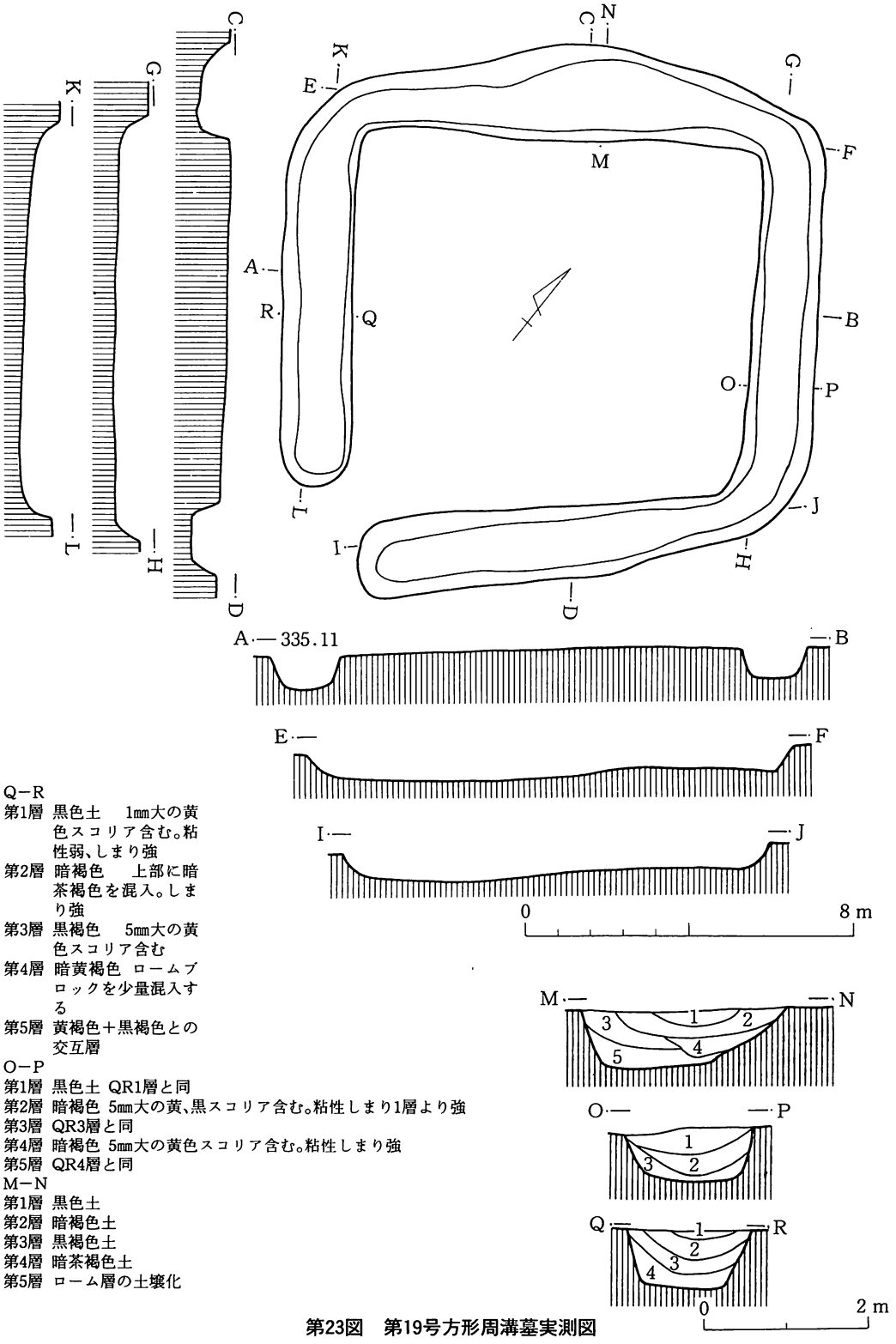
第21図　第17号方形周溝墓実測図



M−N
第1層 暗茶褐色 黒色土を混入する。粘性しまりあり
第2層 暗褐色 1mm大の黄、赤色スコリア含む
第3層 黒褐色 2mm大の黄色スコリア含む。2層より粘性しまり強
第4層 暗褐色＋ロームブロックとの交互層

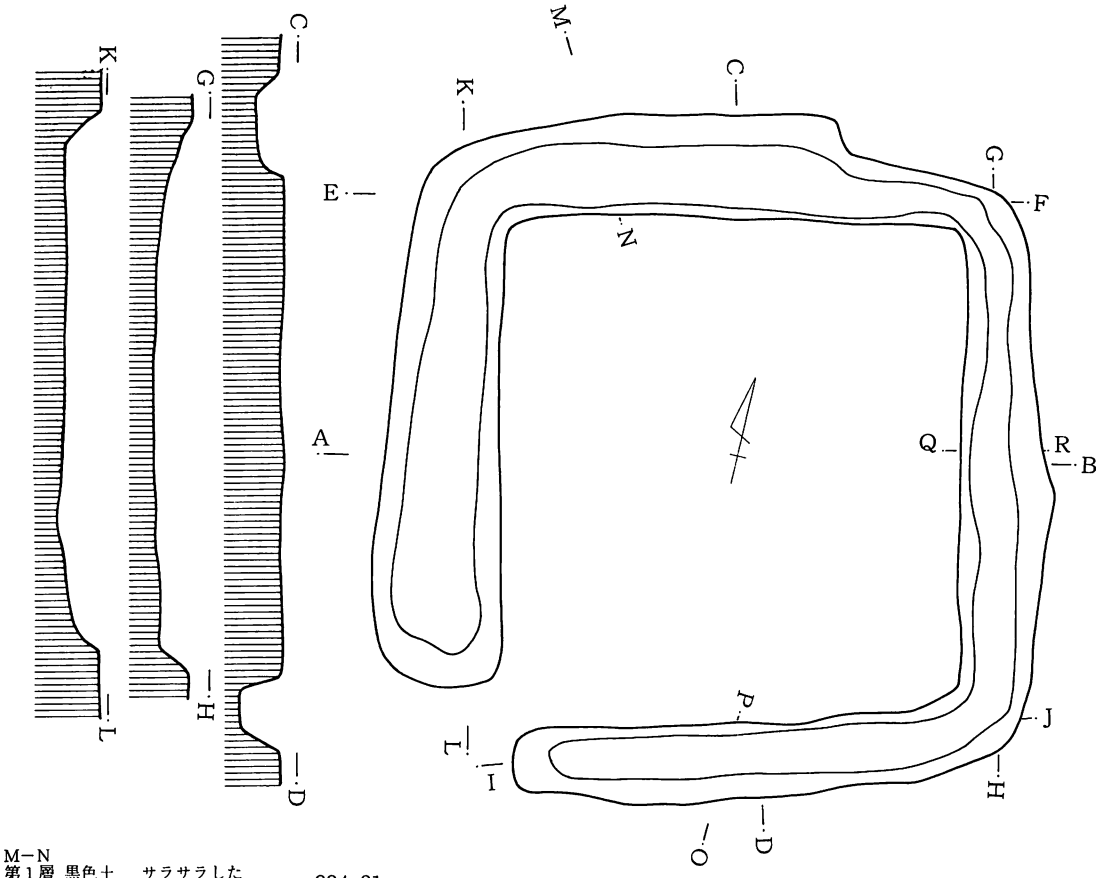
O−P
第1層 黒色土 上部に多量の茶褐色土を混入する。2mm大の赤、黄色スコリア含む
第2層 暗褐色 MN2層と同
第3層 暗褐色 2層よりも明るく、しまり強。黄色スコリア含む
第4層 黒褐色 5mm大の黄色スコリア含む。粘性しまり強
第5層 黄褐色＋ロームブロックとの交互層

第22図　第18号方形周溝墓実測図

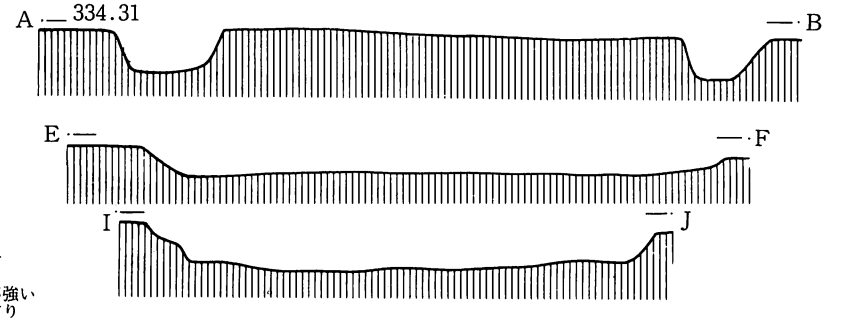


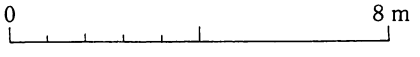
Q−R
第1層 黒色土　1㎜大の黄色スコリア含む。粘性弱、しまり強
第2層 暗褐色　上部に暗茶褐色を混入。しまり強
第3層 黒褐色　5㎜大の黄色スコリア含む
第4層 暗黄褐色 ロームブロックを少量混入する
第5層 黄褐色＋黒褐色との交互層
O−P
第1層 黒色土 QR1層と同
第2層 暗褐色 5㎜大の黄、黒スコリア含む。粘性しまり1層より強
第3層 QR3層と同
第4層 暗褐色 5㎜大の黄色スコリア含む。粘性しまり強
第5層 QR4層と同
M−N
第1層 黒色土
第2層 暗褐色土
第3層 黒褐色土
第4層 暗茶褐色土
第5層 ローム層の土壌化

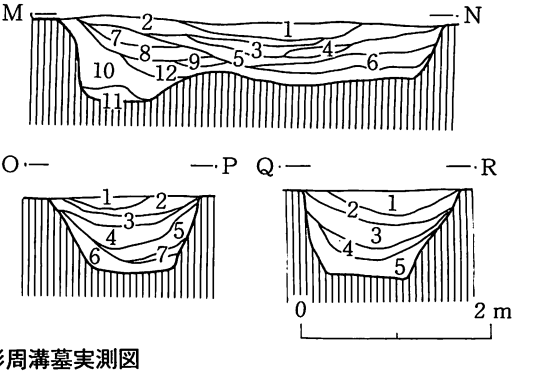
第23図　第19号方形周溝墓実測図



M−N
第１層　黒色土　サラサラした土壌層でしまりあり
第２層　暗黒褐色　1層より質粗く、パサパサする
第３層　黒色土　緻密で粘性しまり強
第４層　暗黄褐色　しまり強で粘性は少ない
第５層　黒色土　3層と似るが粒子細かい。粘性強
第６層　暗褐色　4層と土質が似るが黒味が強い
第７層　暗黒褐色　黄色スコリア含む。粘性弱い
第８層　黒褐色　7層より黒味が強い。黄色スコリア含むが少ない
第９層　黒色土　緻密で粘性が強い
第10層　暗黄褐色　緻密で粘性有り
第11層　ローム層の土壌化

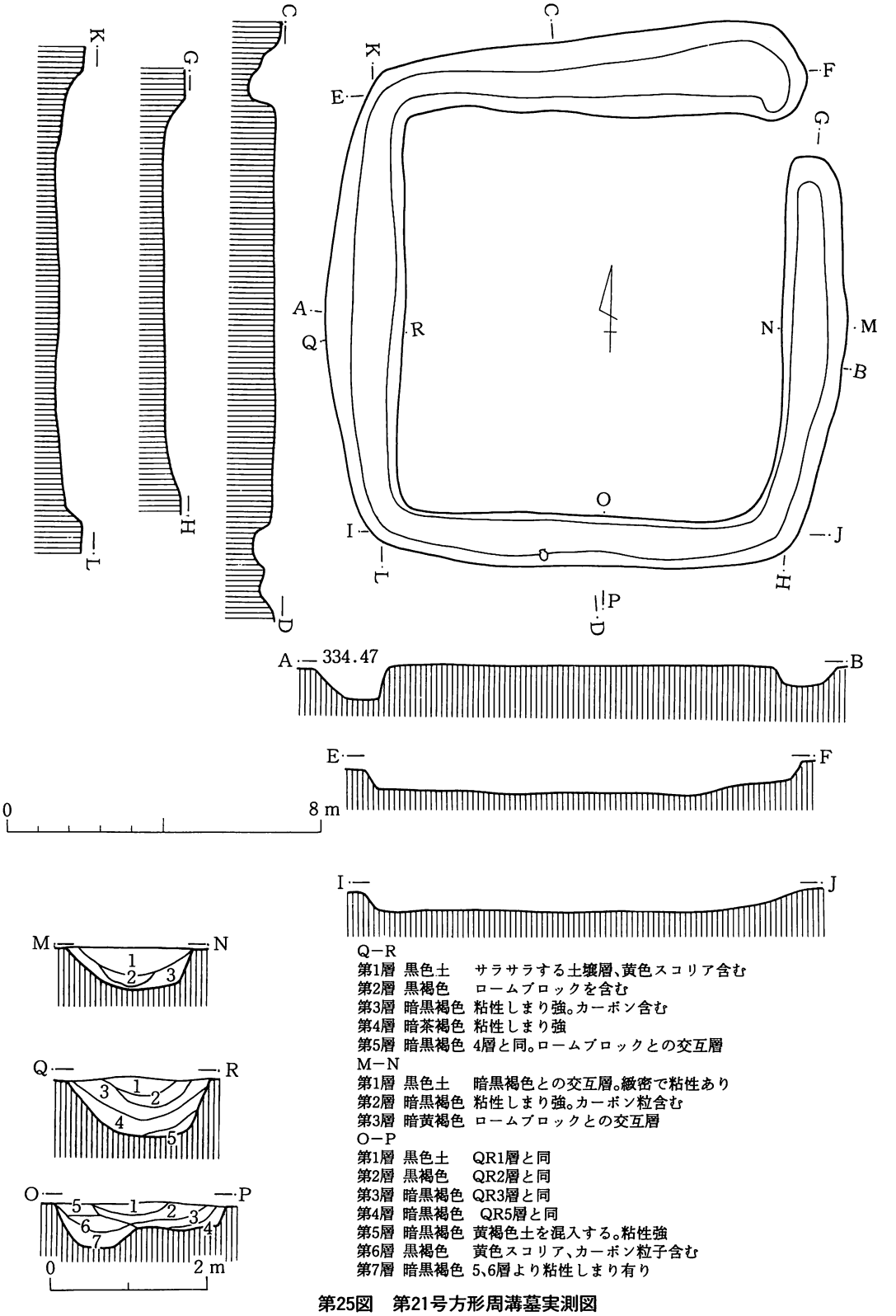




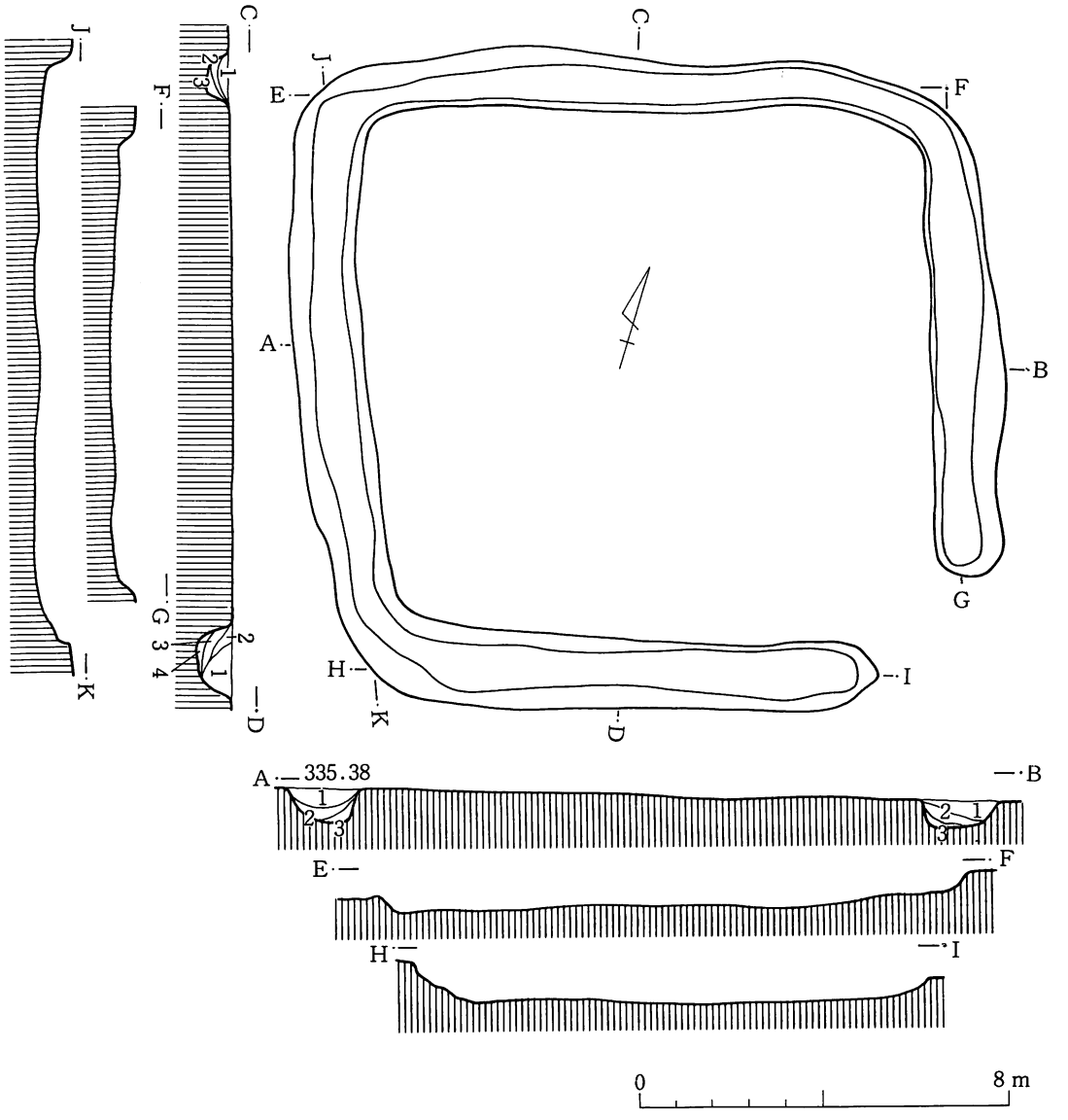


Q−R
第1層　黒色土　MN1層と同
第2層　黒灰褐色　ソフトロームに近い黄色土がまだらに入る
第3層　暗黒褐色　粘性強。カーボン含む
第4層　暗黒褐色　3層とほぼ同、粘性強く緻密である
第5層　暗黒褐色　4層と色調同。ロームブロックとの交互層
O−P
第1層　黒色土　QR1層との同
第2層　黒灰褐色　QR2層と同
第3層　暗黒褐色　黒色土と暗褐色との交互層
第4層　黒色土　粒子細かくしまり強
第5層　暗黒褐色　QR4層と同
第6層　黒色土　4層より明るい
第7層　暗黄褐色　ロームブロックとの交互層

第24図　第20号方形周溝墓実測図

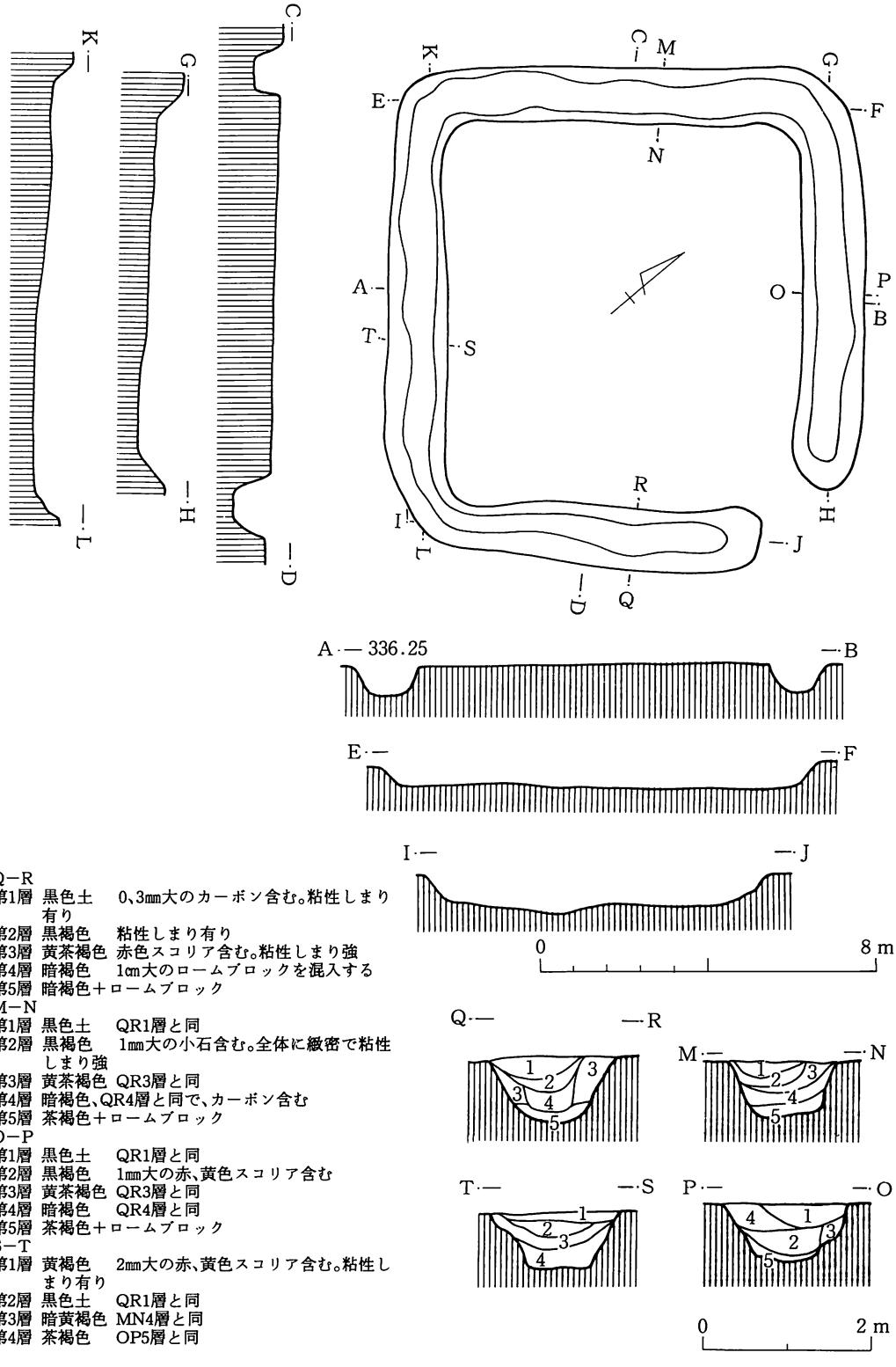


第25図 第21号方形周溝墓実測図



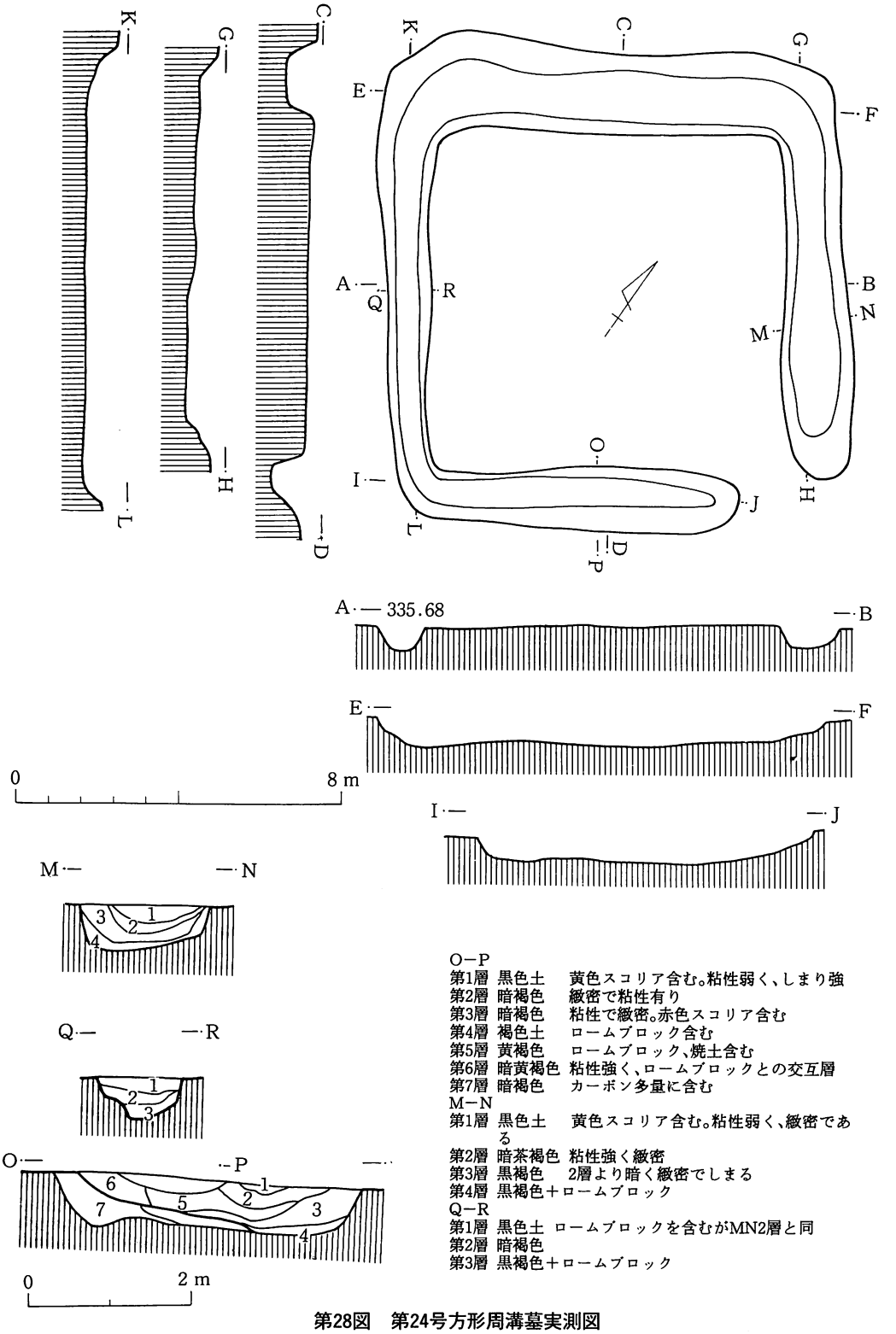
A第1層 黒色土、サラサラする土壌層で、僅かに表土が混入する
　第2層 黒褐色 2mm大の小石含む
　第3層 茶褐色＋ロームブロックとの交互層
B第1層 黒色土 A1層と同
　第2層 黒褐色 小石2mm大含む。粘性強
　第3層 茶褐色　 A3層と同
C第1層 黒色土 A1層と同
　第2層 黒褐色 A2層と同
　第3層 黒褐色＋ロームブロック
D第1層 黒色土 緻密でサラサラする
　第2層 黒褐色　黄、赤色スコリア含む
　第3層 黒褐色＋ロームブロック
　第4層 ローム層の土壌化

第26図　第22号方形周溝墓実測図

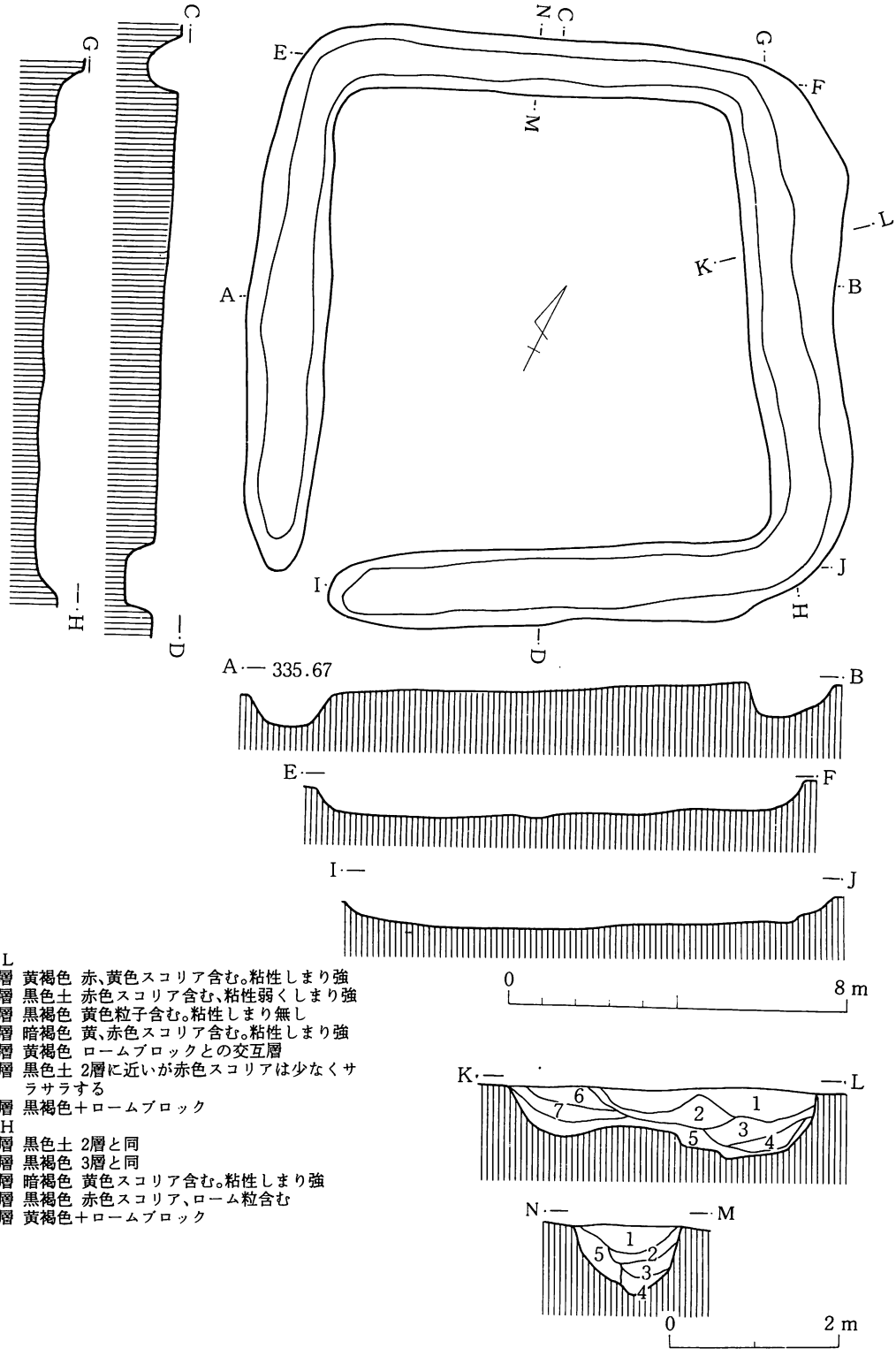


Q−R
第1層 黒色土　0、3mm大のカーボン含む。粘性しまり有り
第2層 黒褐色　粘性しまり有り
第3層 黄茶褐色 赤色スコリア含む。粘性しまり強
第4層 暗褐色　1cm大のロームブロックを混入する
第5層 暗褐色＋ロームブロック
M−N
第1層 黒色土　QR1層と同
第2層 黒褐色　1mm大の小石含む。全体に緻密で粘性しまり強
第3層 黄茶褐色 QR3層と同
第4層 暗褐色、QR4層と同で、カーボン含む
第5層 茶褐色＋ロームブロック
O−P
第1層 黒色土　QR1層と同
第2層 黒褐色　1mm大の赤、黄色スコリア含む
第3層 黄茶褐色 QR3層と同
第4層 暗褐色　QR4層と同
第5層 茶褐色＋ロームブロック
S−T
第1層 黄褐色　2mm大の赤、黄色スコリア含む。粘性しまり有り
第2層 黒色土　QR1層と同
第3層 暗黄褐色 MN4層と同
第4層 茶褐色　OP5層と同

第27図　第23号方形周溝墓実測図

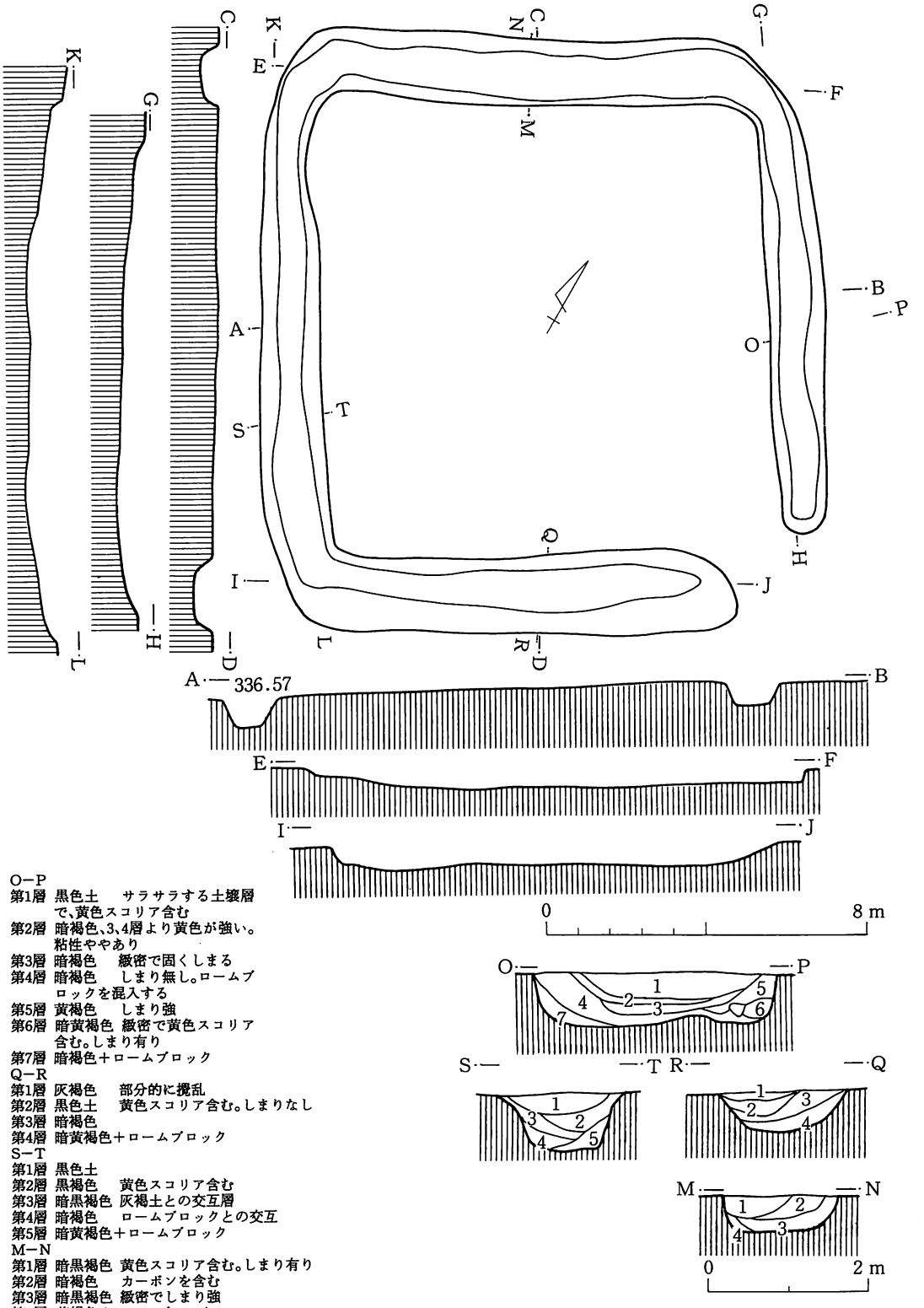


第28図　第24号方形周溝墓実測図



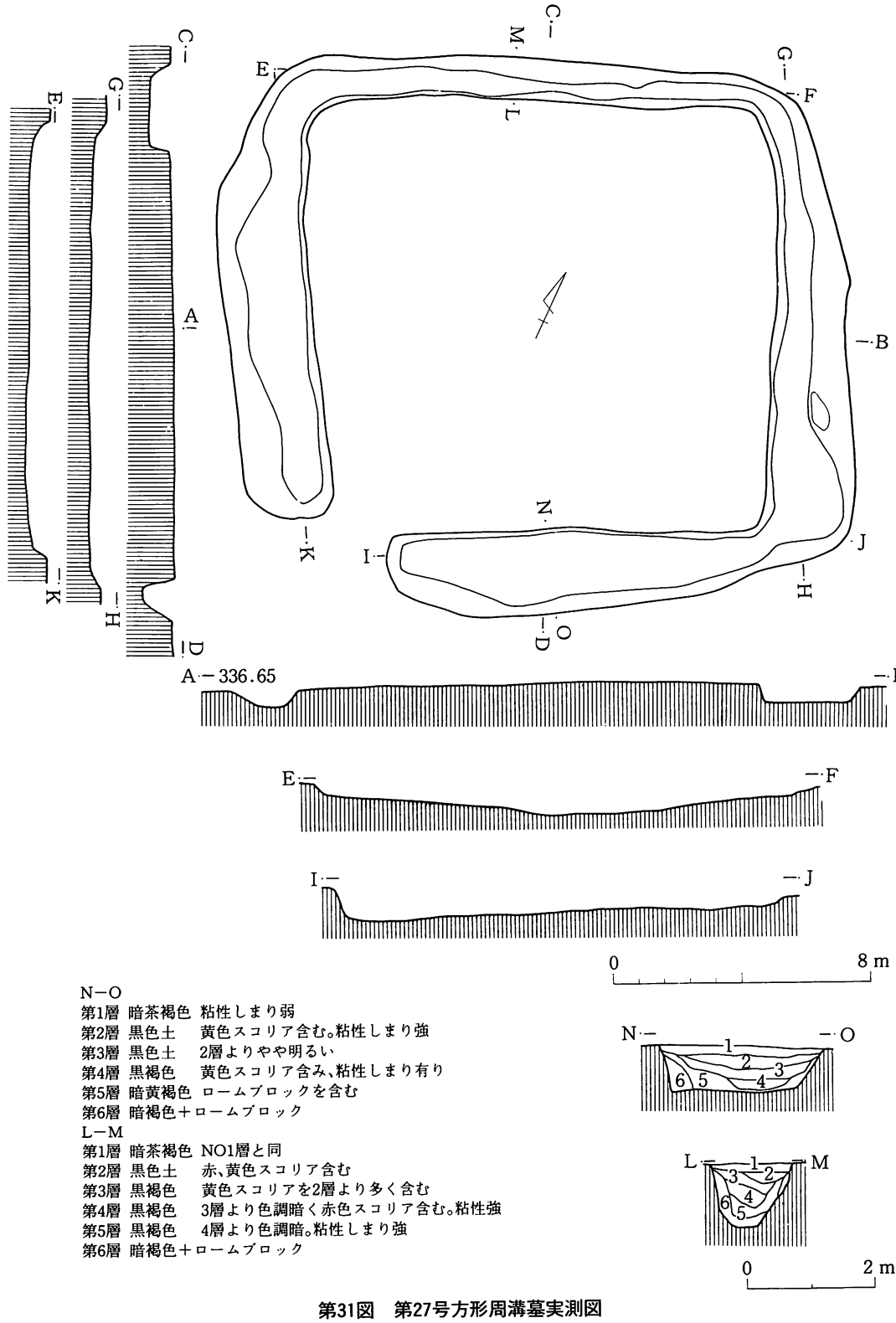
K−L
第1層 黄褐色 赤、黄色スコリア含む。粘性しまり強
第2層 黒色土 赤色スコリア含む、粘性弱くしまり強
第3層 黒褐色 黄色粒子含む。粘性しまり無し
第4層 暗褐色 黄、赤色スコリア含む。粘性しまり強
第5層 黄褐色 ロームブロックとの交互層
第6層 黒色土 2層に近いが赤色スコリアは少なくサラサラする
第7層 黒褐色＋ロームブロック
L−H
第1層 黒色土 2層と同
第2層 黒褐色 3層と同
第3層 暗褐色 黄色スコリア含む。粘性しまり強
第4層 黒褐色 赤色スコリア、ローム粒含む
第5層 黄褐色＋ロームブロック

第29図　第25号方形周溝墓実測図



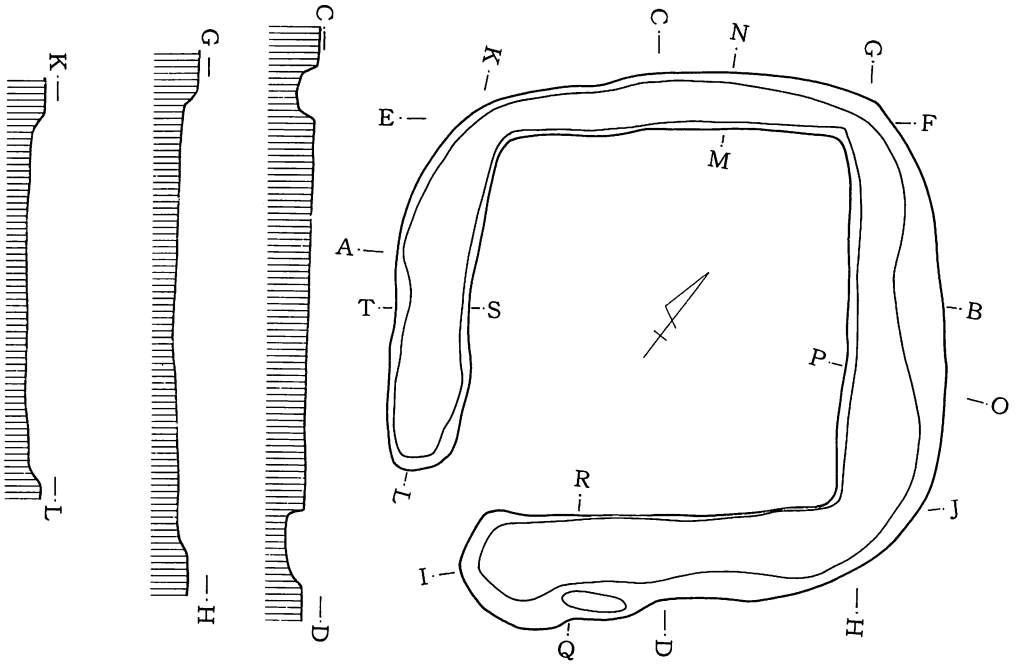
O−P
第1層 黒色土　サラサラする土壌層で、黄色スコリア含む
第2層 暗褐色、3、4層より黄色が強い。粘性ややあり
第3層 暗褐色　緻密で固くしまる
第4層 暗褐色　しまり無し。ロームブロックを混入する
第5層 黄褐色　しまり強
第6層 暗黄褐色 緻密で黄色スコリア含む。しまり有り
第7層 暗褐色＋ロームブロック
Q−R
第1層 灰褐色　部分的に攪乱
第2層 黒色土　黄色スコリア含む。しまりなし
第3層 暗褐色
第4層 暗黄褐色＋ロームブロック
S−T
第1層 黒色土
第2層 黒褐色　黄色スコリア含む
第3層 暗黒褐色 灰褐土との交互層
第4層 暗褐色　ロームブロックとの交互
第5層 暗黄褐色＋ロームブロック
M−N
第1層 暗黒褐色 黄色スコリア含む。しまり有り
第2層 暗褐色　カーボンを含む
第3層 暗黒褐色 緻密でしまり強
第4層 黄褐色＋ロームブロック

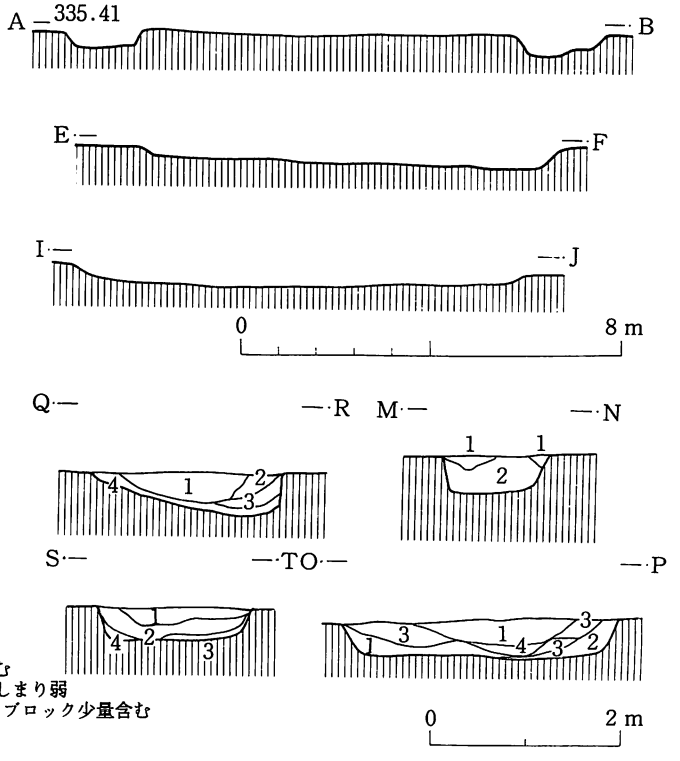
第30図　第26号方形周溝墓実測図



N－O
第1層 暗茶褐色 粘性しまり弱
第2層 黒色土 黄色スコリア含む。粘性しまり強
第3層 黒色土 2層よりやや明るい
第4層 黒褐色 黄色スコリア含み、粘性しまり有り
第5層 暗黄褐色 ロームブロックを含む
第6層 暗褐色＋ロームブロック
L－M
第1層 暗茶褐色 NO1層と同
第2層 黒色土 赤、黄色スコリア含む
第3層 黒褐色 黄色スコリアを2層より多く含む
第4層 黒褐色 3層より色調暗く赤色スコリア含む。粘性強
第5層 黒褐色 4層より色調暗。粘性しまり強
第6層 暗褐色＋ロームブロック

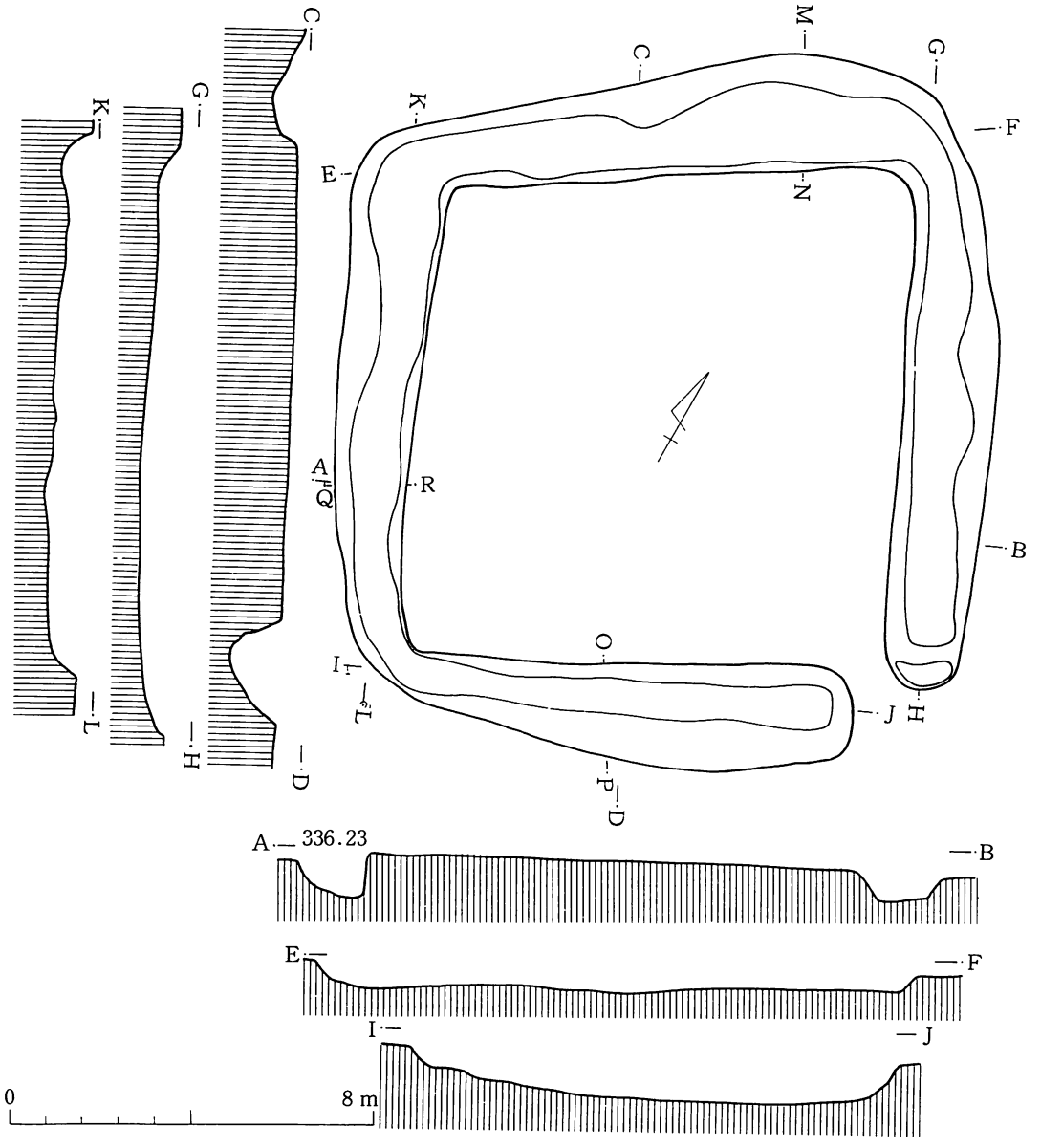
第31図　第27号方形周溝墓実測図





S−T
第1層 暗黄褐色 赤色スコリア、小石0、1㎜含む
第2層 黒色土 赤、黄色スコリア含む。粘性しまり弱
第3層 黒褐色 粘性しまりやや有り。ロームブロック少量含む
第4層 黄褐色＋ロームブロック
O−P
第1層 黒色土 黄色スコリア含む。粘性しまり弱
第2層 黒褐色 黄、赤色スコリア含む。粘性やや強
第3層 暗褐色 黄色スコリア、0、1㎜大小石含む
第4層 黄褐色＋ロームブロック

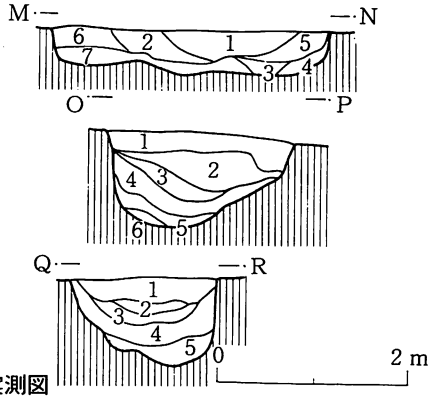
第32図 第28号方形周溝墓実測図



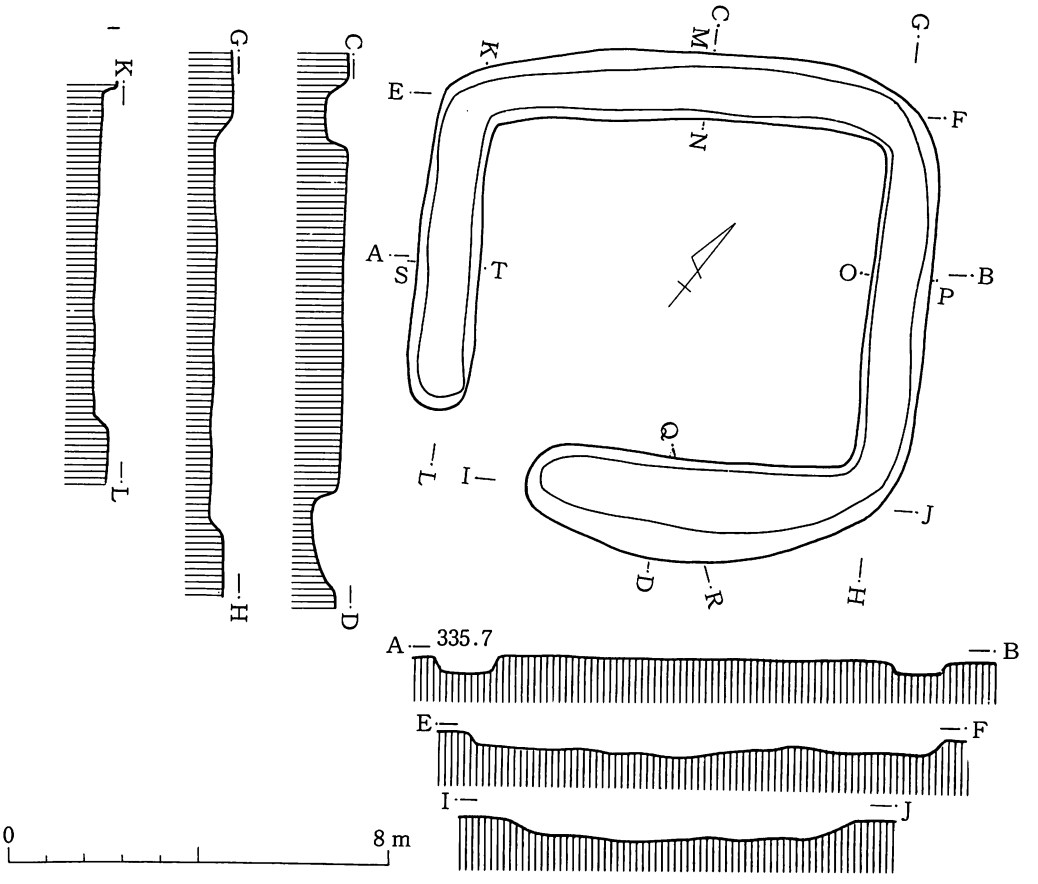
M−N
第1層 黒色土　サラサラした土壌層
第2層 暗黒褐色 緻密だが粘性弱
第3層 暗黒褐色 2層と近似するが、粘性しまり強
第4層 暗黄褐色 僅かにロームブロックが混入
第5層 黒褐色　暗褐色と黒色土との交互層
第6層 黒茶褐色＋ロームブロックとの交互層
第7層 ロームブロック＋黒褐色の交互層

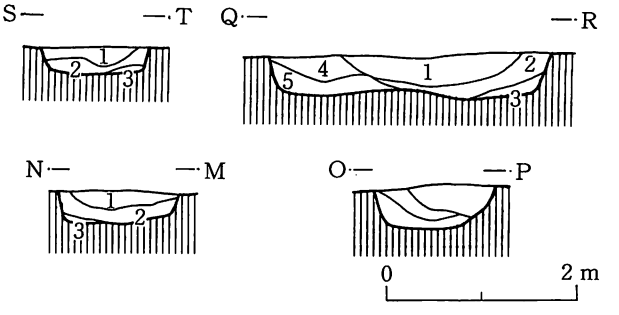
O−P
第1層 茶褐色　耕作土が混入する、不安定な土壌
第2層 黒色土　サラ サラする土壌層で、黄色スコリア含む
第3層 暗褐色　粘性しまり強
第4層 暗黄褐色 mn4層と同
第5層 黒褐色　MN5層と同
第6層 黒茶褐色＋ロームブロック

Q−R
第1層 黒色土　黒色土に耕作土が混入する
第2層 暗黄褐色 暗黄褐色と茶褐色土との交互層
第3層 暗茶褐色 黄色スコリアを含む
第4層 黒褐色　粘性しまり強
第5層 暗黄褐色＋ロームブロック



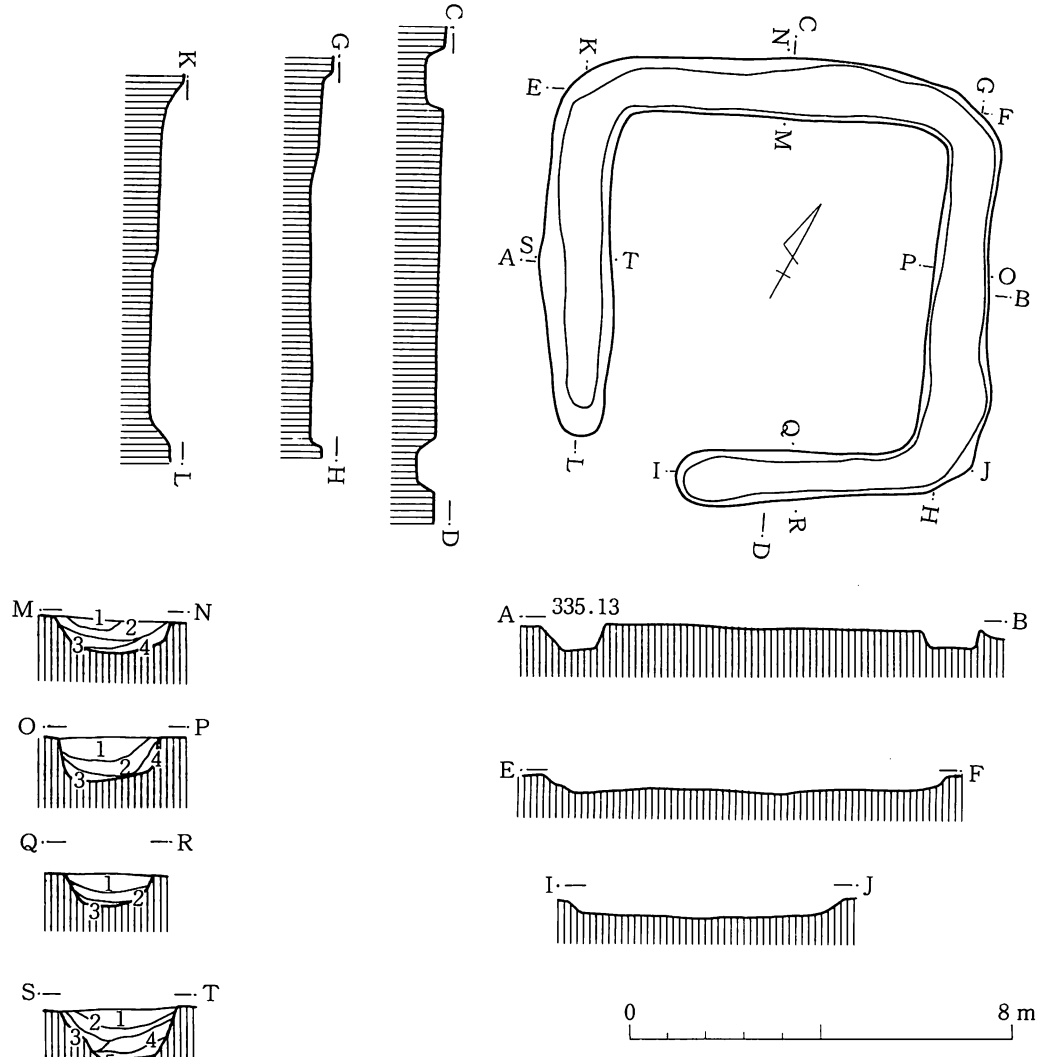
第33図　第29号方形周溝墓実測図





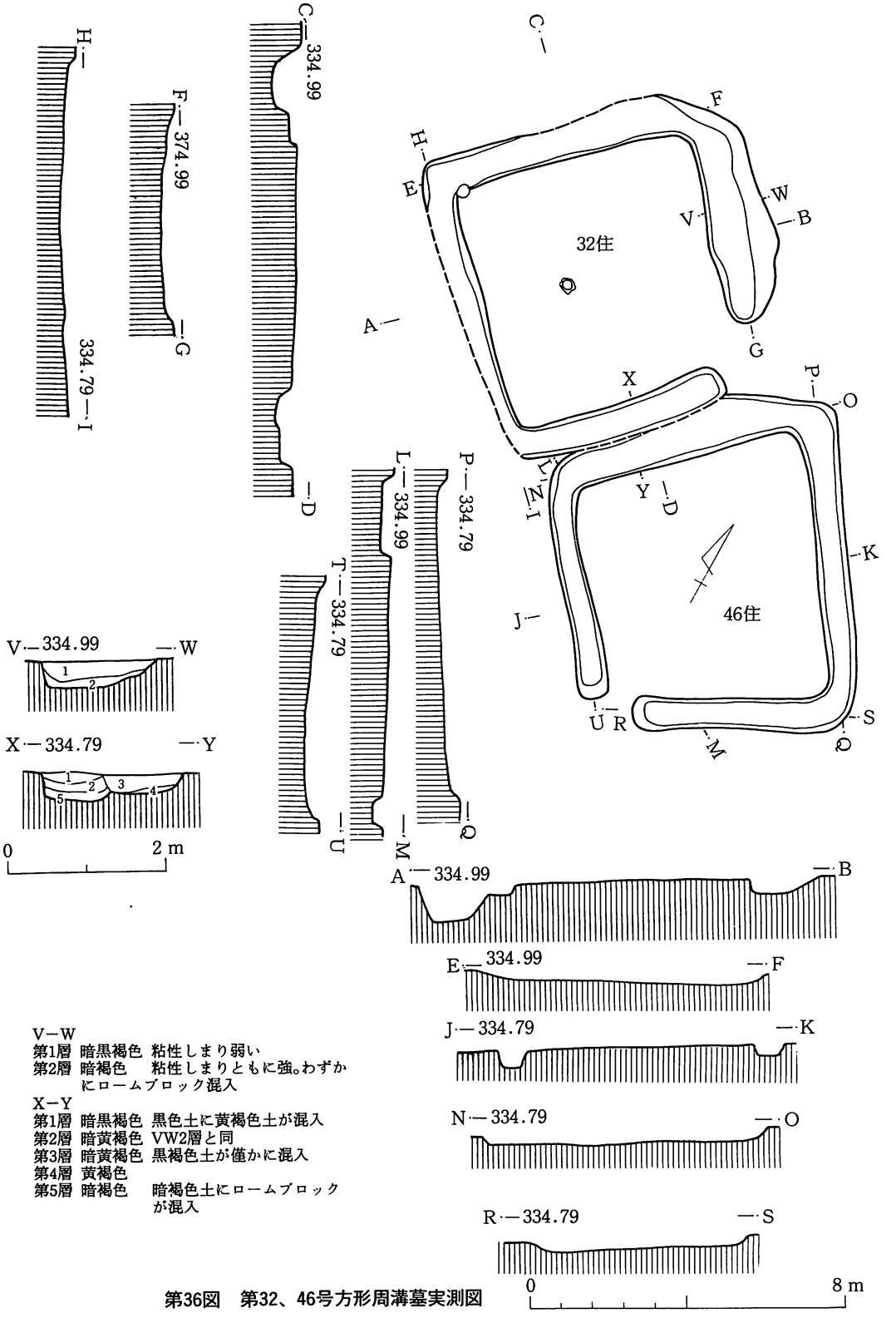
Q－R
第1層 黒色土　サラサラした土壌層で黄色スコリアふくむ
第2層 暗茶褐色 ロームブロックをわずかに混入
第3層 黒褐色　粘性しまり強
第4層 暗褐色　ソフトロームの土壌化?
第5層 暗褐色＋ロームブロック
O－P
第1層 黒色土　QR1層と同
第2層 暗黄褐色 ロームブロックを混入
第3層　QR5層と同
S－T
第1層 耕作土
第2層　QR2層と同
第3層　QR4層と同
M－N
第1層 黒色土 OP1層と同
第2層　QR2層と同
第3層 褐色土 QR4層と同

第34図　第30号方形周溝墓実測図



M−N
第1層　黒褐色　　パサパサしてしまり弱い
第2層　暗茶褐色　しまり強、粘性なし。粒子均一でない
第3層　黒褐色　　緻密で粘性強。カーボンを僅かに含む
第4層　暗黄褐色　暗黒褐色とロームとの交互層
O−P
第1層　　MN2層と同
第2層　暗褐色　　粘性しまり強
第3層　暗黒褐色　緻密で粘性強。カーボンを含む
第4層　　MN4層と同
Q−R
第1層　暗褐色　暗黄褐色に黒褐色が混入する交互層
第2層　黒褐色　粘性しまり弱
第3層　黄褐色＋ロームブロック
S−T
第1層　暗褐色　　QR1層と同
第2層　黒褐色　　QR2層と同
第3層　暗黄褐色　緻密で粘性強
第4層　暗茶褐色　粘性しまり無し
第5層　暗黄褐色＋ロームブロック

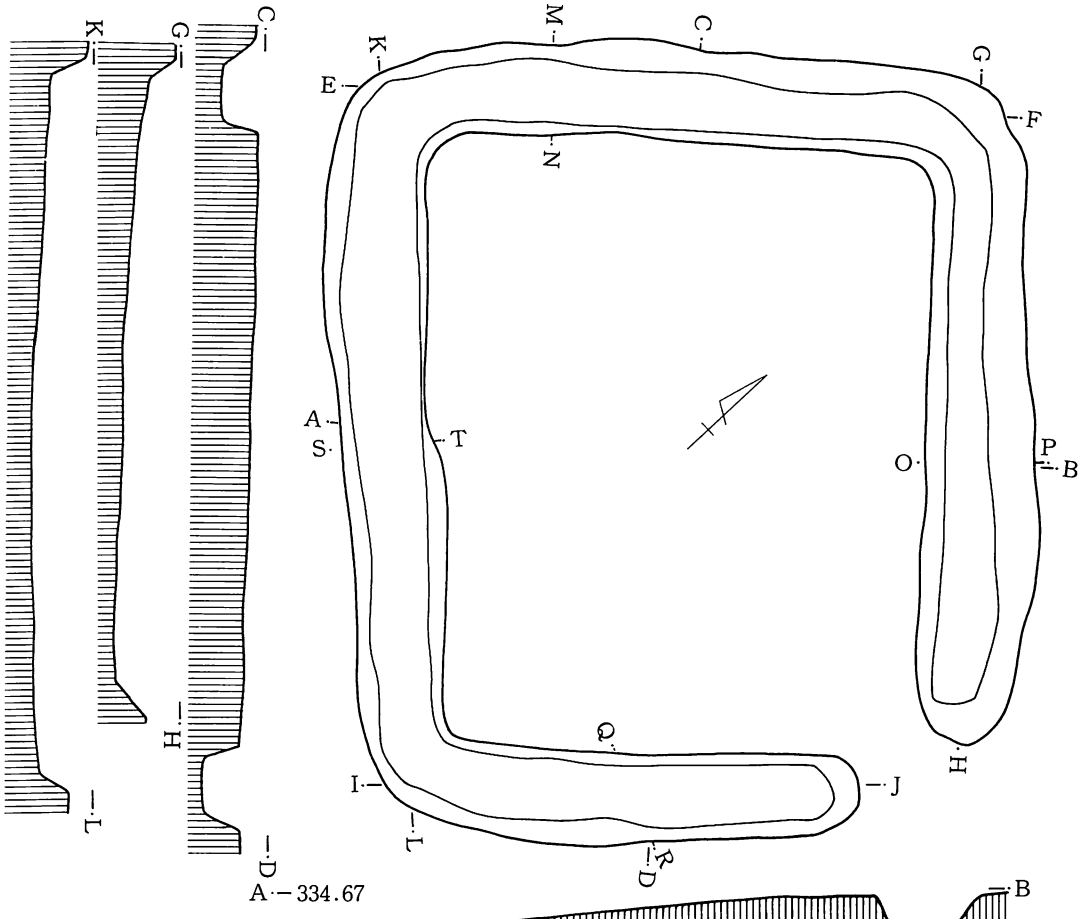
第35図　第31号方形周溝墓実測図



V−W
第1層 暗黒褐色 粘性しまり弱い
第2層 暗褐色 粘性しまりともに強。わずかにロームブロック混入

X−Y
第1層 暗黒褐色 黒色土に黄褐色土が混入
第2層 暗黄褐色 VW2層と同
第3層 暗黄褐色 黒褐色土が僅かに混入
第4層 黄褐色
第5層 暗褐色 暗褐色土にロームブロックが混入

第36図 第32、46号方形周溝墓実測図



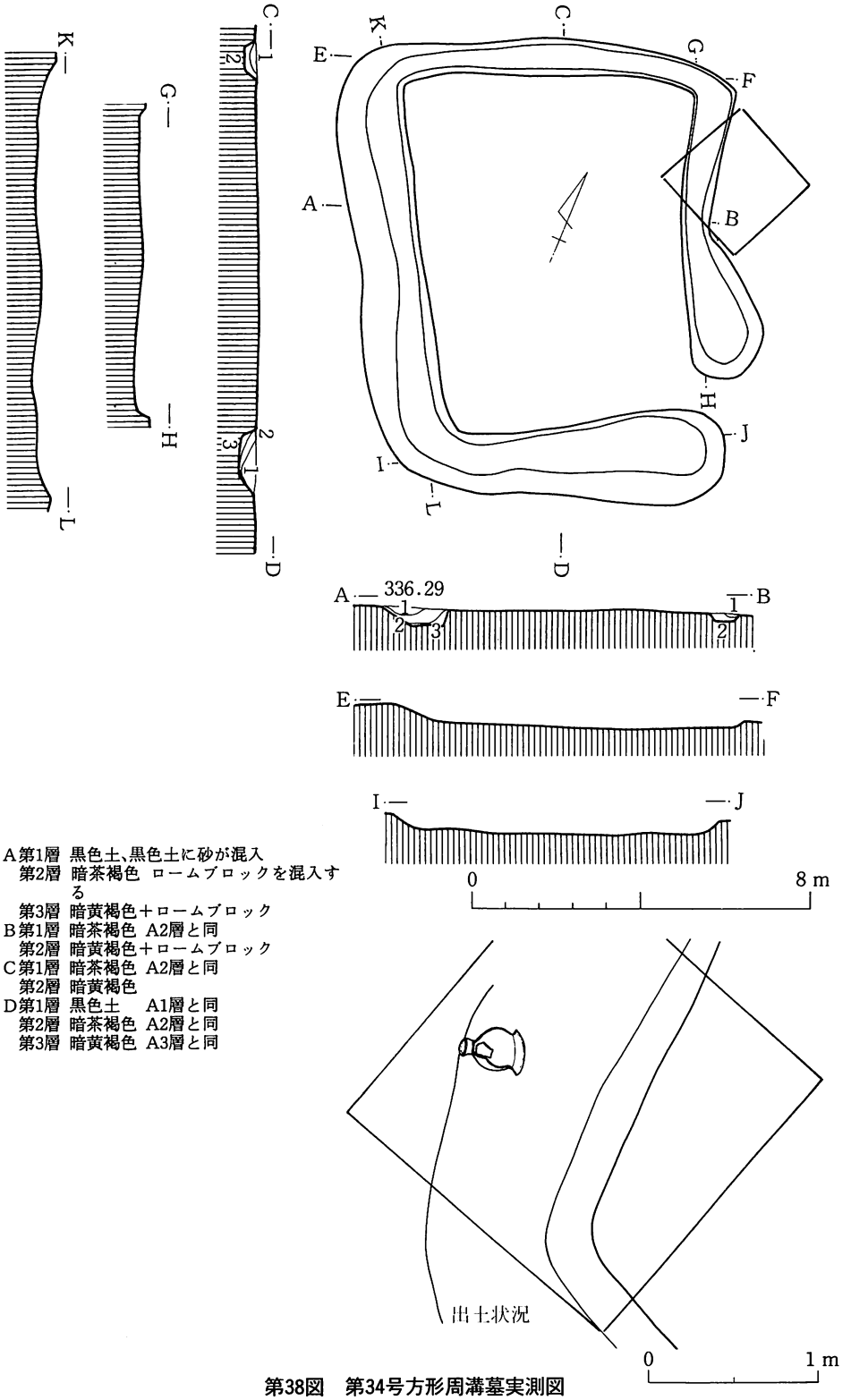
O－P
第1層 黒色土　粘性弱、しまり強。サラサラした土壌層
第2層 暗茶褐色 粘性しまりやや有り、黒色土が混入
第3層 黒色土　1層より灰色がかる。粘性強。カーボンふくむ
第4層 暗褐色　2層より黄色がかる。しまり弱
第5層 暗褐色　緻密であるがしまり弱、粘性有り
第6層 暗褐色＋黄褐色との交互層
第7層 黒褐色　黒色土にロームブロックを混入する

S－T
第1層 黒色土、OP1層と同
第2層 暗褐色　緻密であるがしまり弱
第3層 暗茶褐色 褐色土を混入する。OP2層に近似する
第4層 暗褐色　緻密で粘性強
第5層 黒褐色　4層にロームブロックが混入

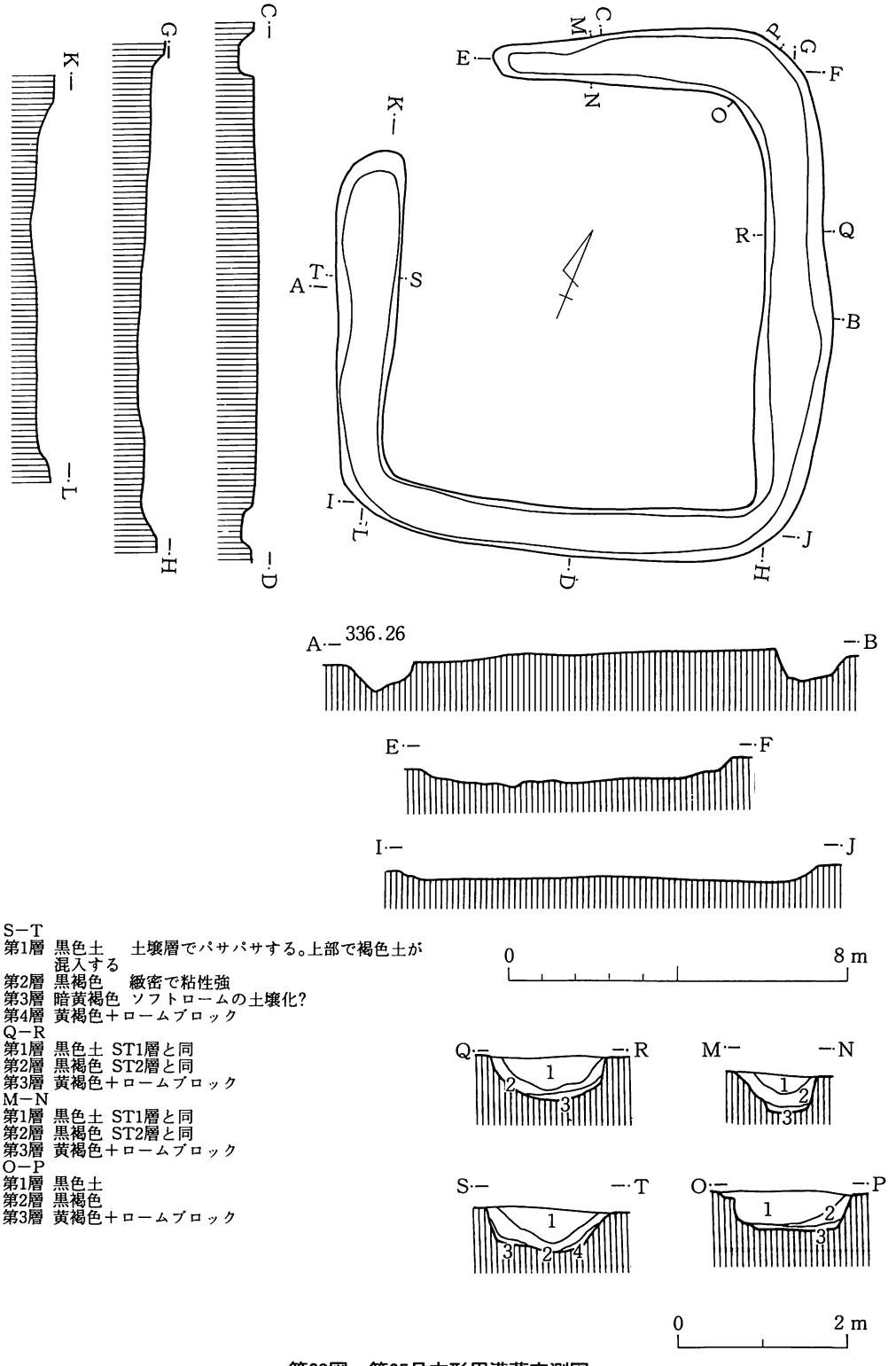
M－N
第1層 黒色土　OP1層と同
第2層 暗茶褐色 褐色土との交互層。カーボン含む
第3層 暗黄褐色 緻密で粘性強
第4層 黒褐色　緻密でしまる
第5層 暗褐色　4層に似るが、粘性強
第6層 黄褐色
第7層 暗褐色＋ロームブロック

Q－R
第1層 黒色土 緻密で粘性強
第2層 暗褐色 黄褐色土が混入する交互層
第3層 黒褐色 しまり粘性ともに強
第4層 暗褐色 2層に近似するが粘性強。ロームブロック含む

第37図　第33号方形周溝墓実測図

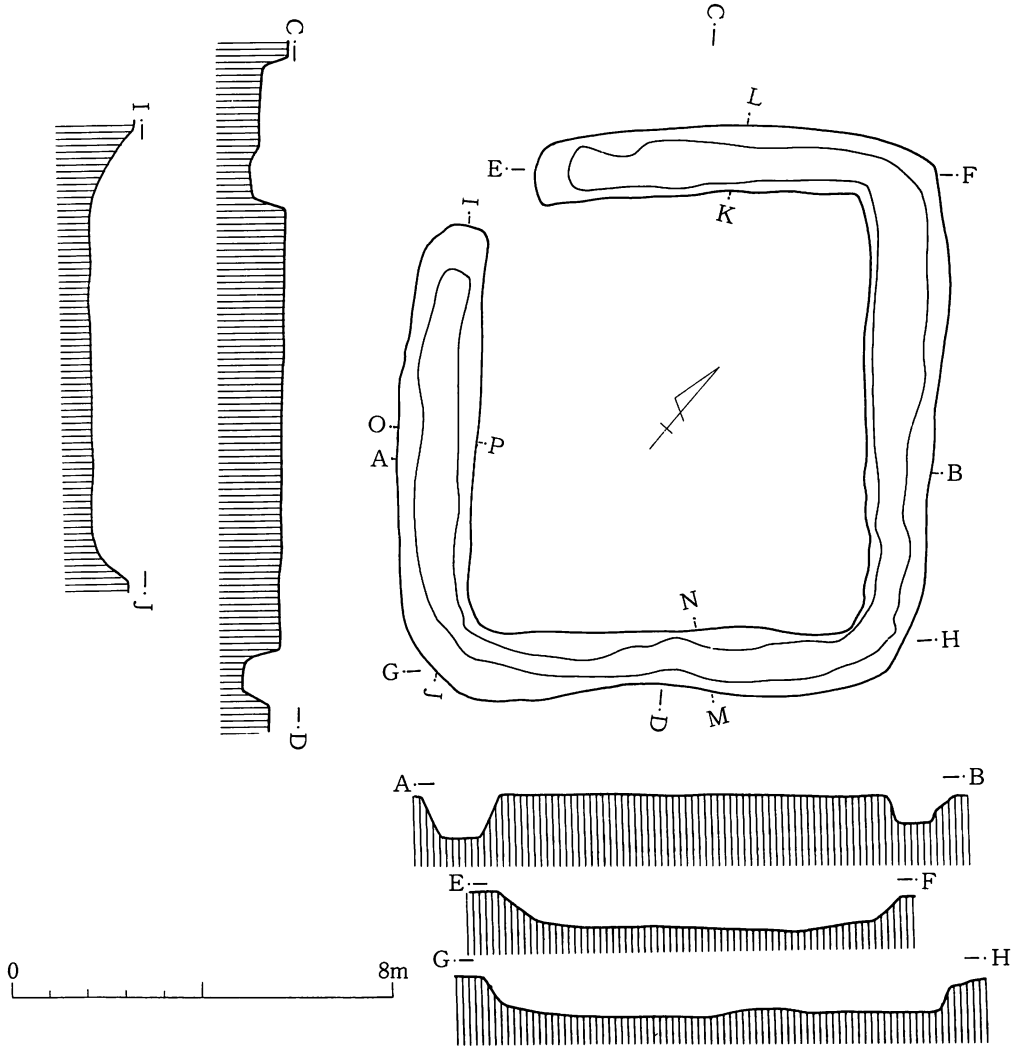


第38図　第34号方形周溝墓実測図



S−T
第1層 黒色土　土壌層でパサパサする。上部で褐色土が混入する
第2層 黒褐色　緻密で粘性強
第3層 暗黄褐色 ソフトロームの土壌化?
第4層 黄褐色＋ロームブロック
Q−R
第1層 黒色土 ST1層と同
第2層 黒褐色 ST2層と同
第3層 黄褐色＋ロームブロック
M−N
第1層 黒色土 ST1層と同
第2層 黒褐色 ST2層と同
第3層 黄褐色＋ロームブロック
O−P
第1層 黒色土
第2層 黒褐色
第3層 黄褐色＋ロームブロック

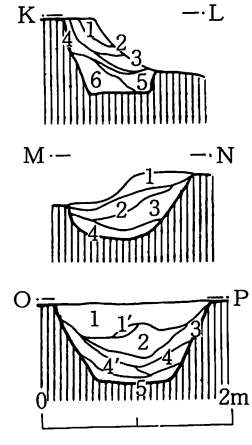
第39図　第35号方形周溝墓実測図



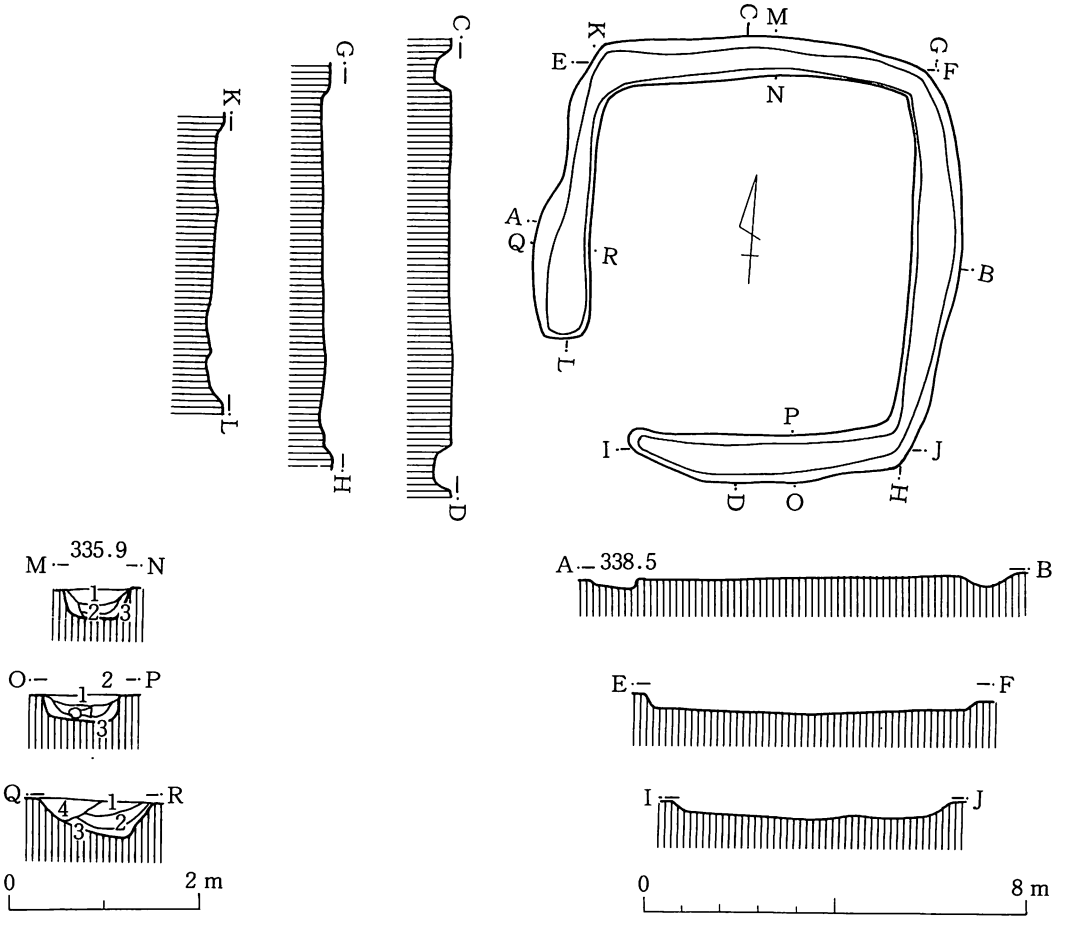
K−L
第1層 黒色土　　サラサラする土壌層。褐色土が僅かに混入
第2層 暗茶褐色土 緻密で粘性あり
第3層 黒褐色土　2層に比べやや黒色を帯びる
第4層 2層同質土にロームブロックが混入
第5層 暗褐色土　＋ロームブロック
第6層 5層に比べローム混入が多い

M−N
第1層 KL1層と同
第2層 KL2層と同
第3層 KL4層と同
第4層 KL5層と同

O−P
第1層 KL1層と同
第2層 KL2層と同
第3層 KL3層と同
第4層 KL4層と同
第5層 KL5層と同

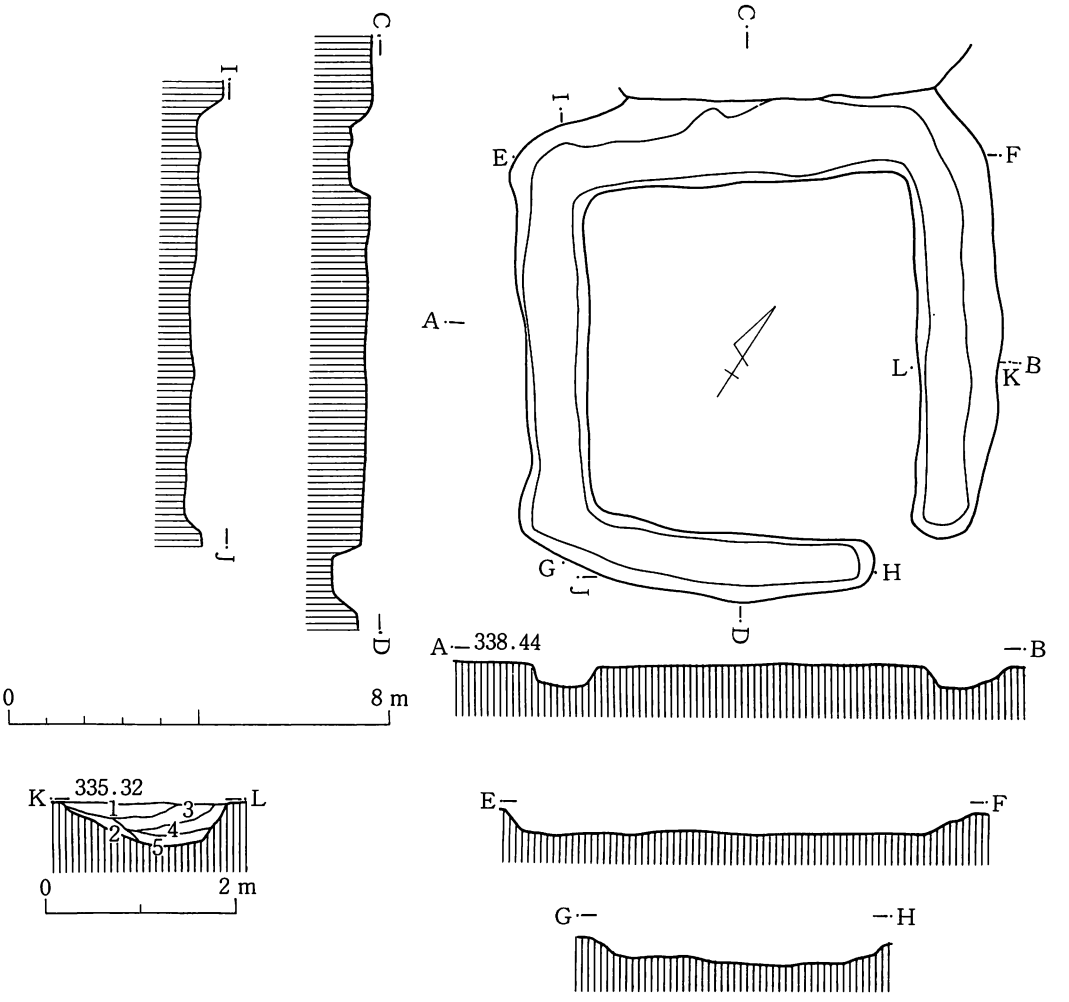


第40図　第36号方形周溝墓実測図



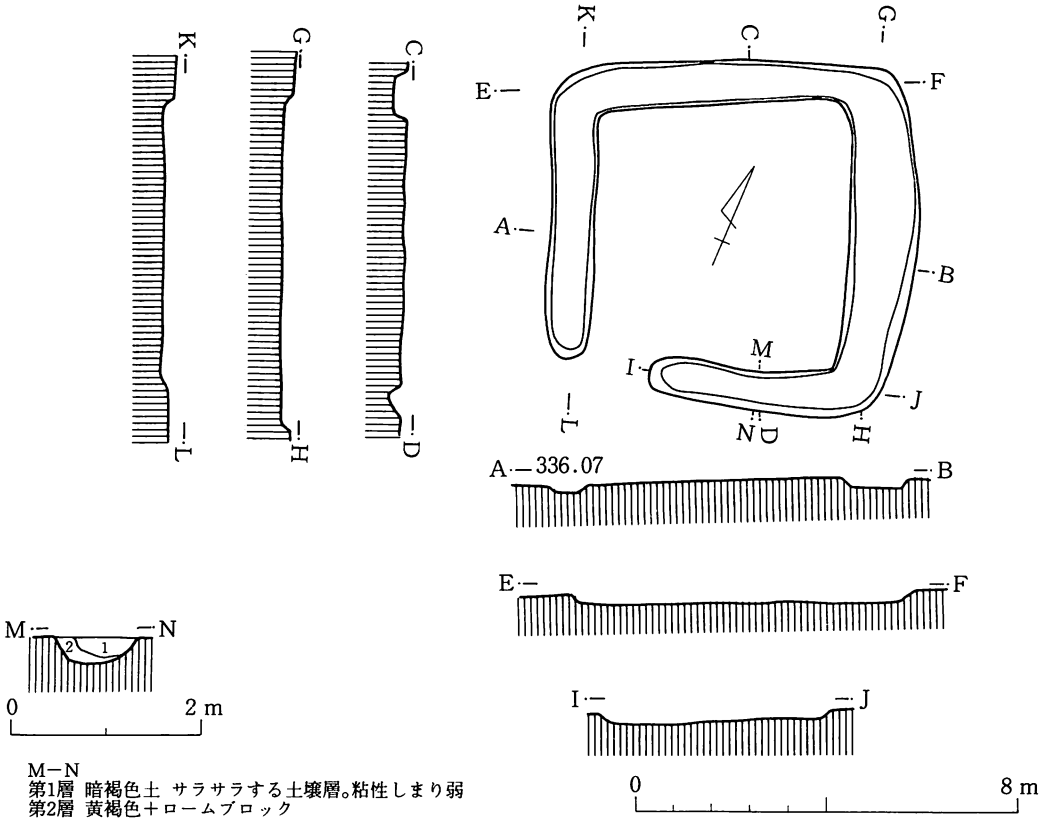
O−P・Q−R・M−N
第1層 黒色土　サラサラする土壌層。黄色スコリア含む
第2層 暗褐色土 粘性しまり強。下部より壺Gが出土
第3層 黒褐色土＋ロームブロック
第4層 黄褐色＋ロームブロック(MNのみ)

第41図　第37号方形周溝墓実測図

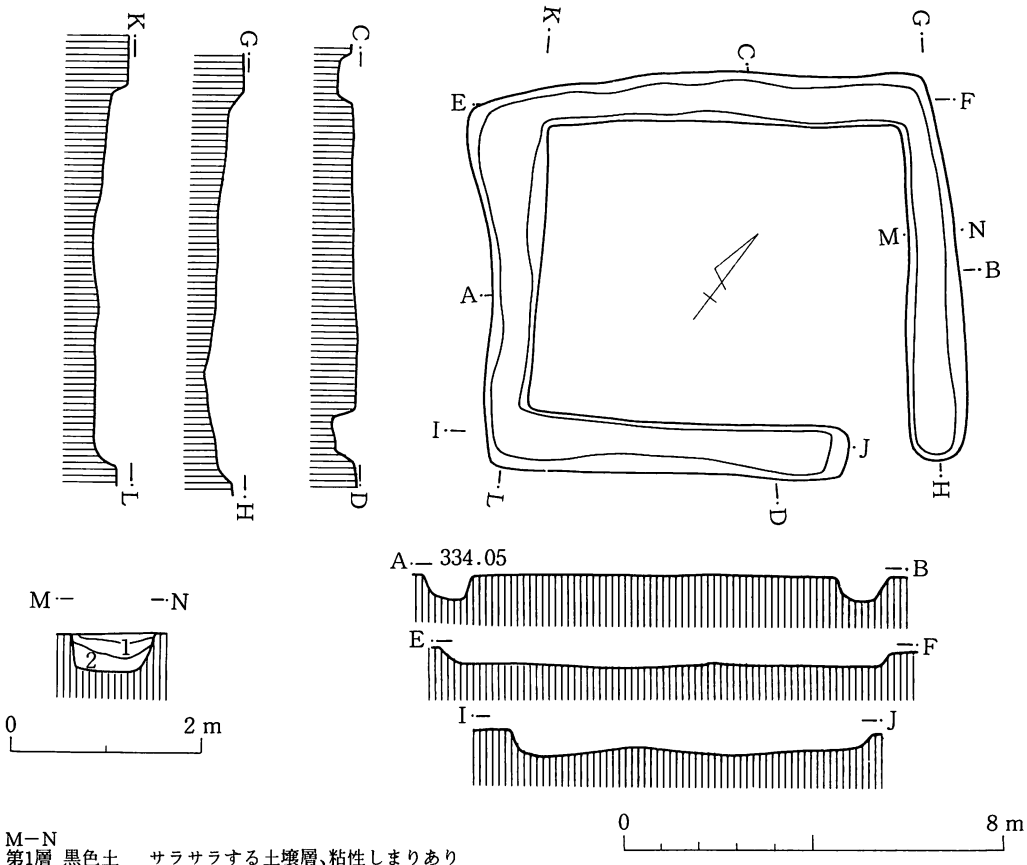


K－L
第1層 黒色土　　黒色土の中に黒褐色土が混入
第2層 暗黄褐色　ソフトロームに近似。粘性しまりあり
第3層 暗茶褐色土 粘性強、しまり弱
第4層 黒褐色土　しまり強
第5層 暗褐色土＋ロームブロック

第42図　第38号方形周溝墓実測図

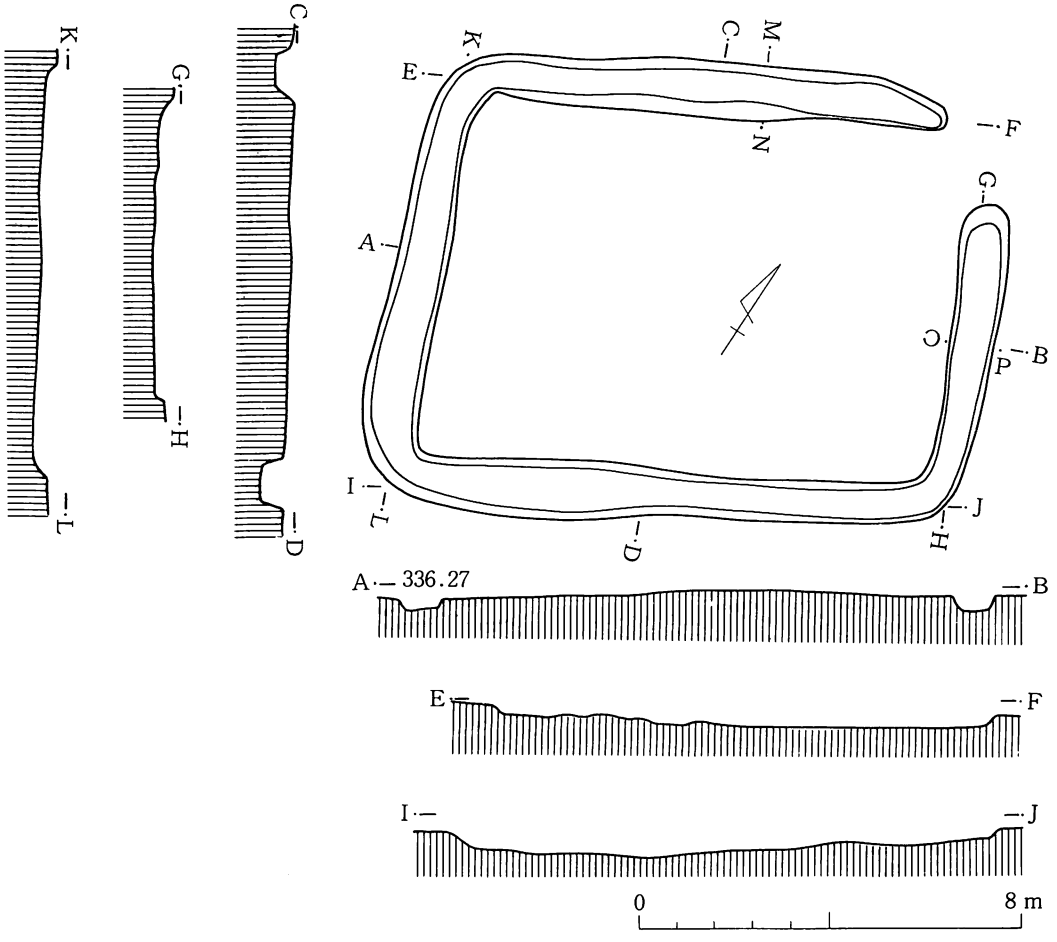


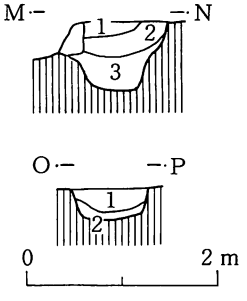
第43図　第39号方形周溝墓実測図



M－N
第1層 黒色土　サラサラする土壌層、粘性しまりあり
第2層 暗黒褐色 粘性しまり強。僅かにロームブロックふくむ

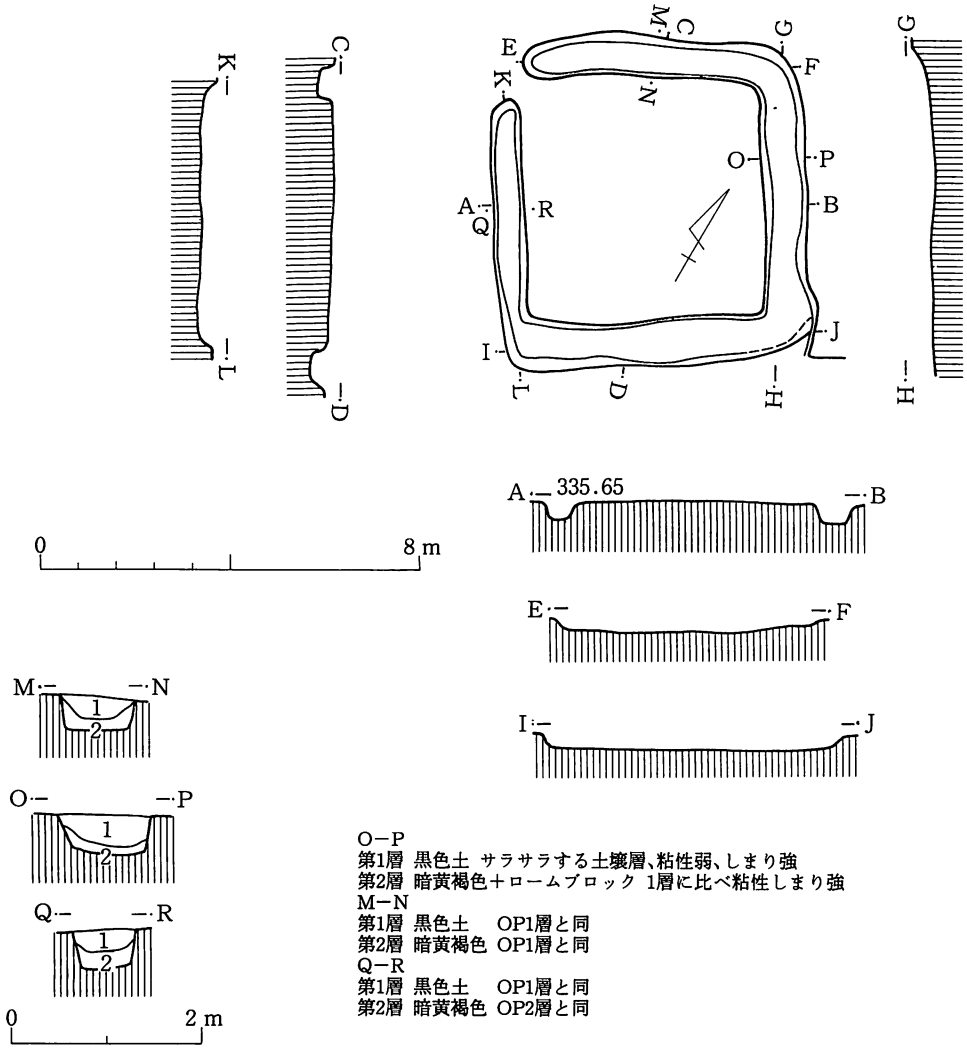
第44図　第40号方形周溝墓実測図



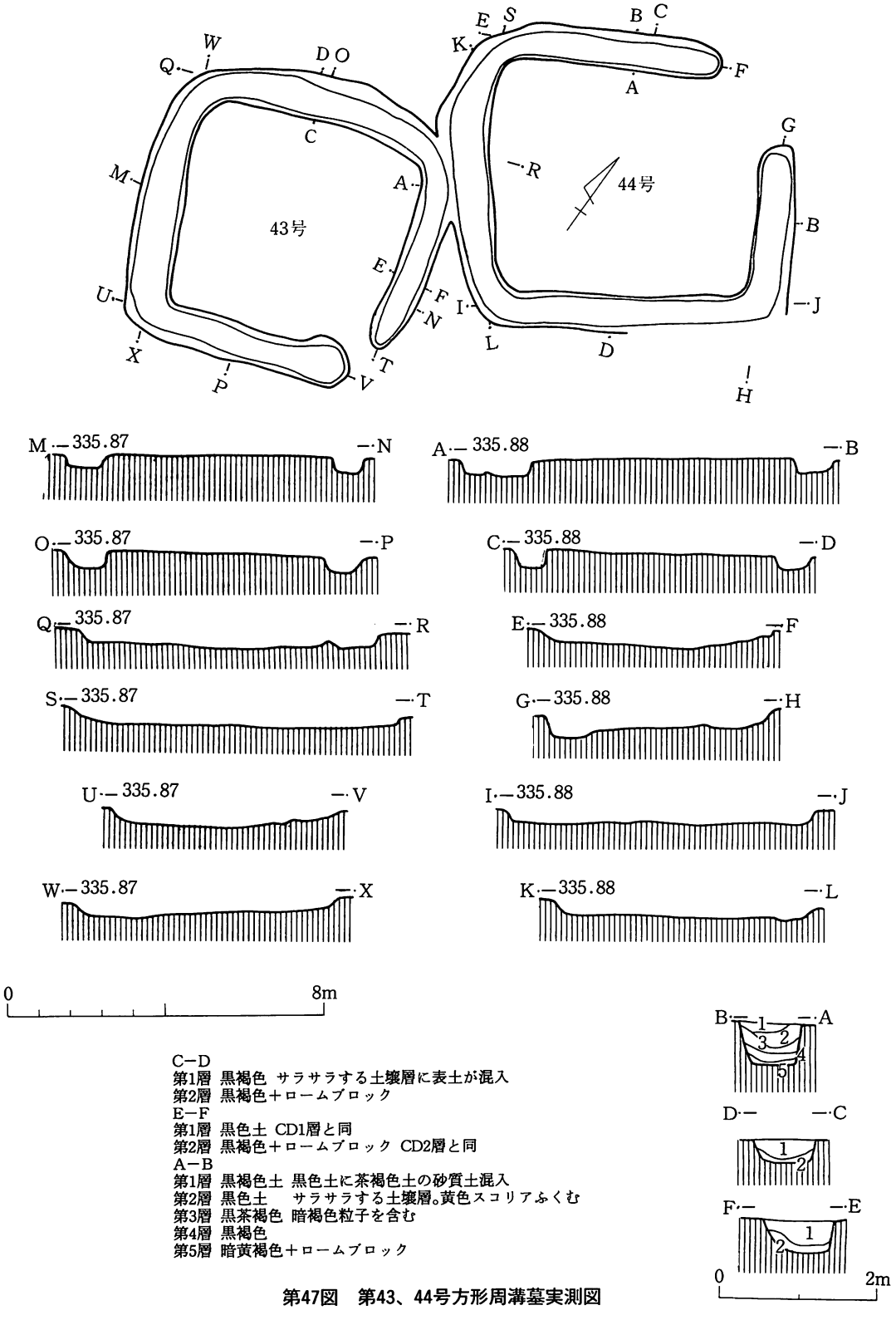


M−N
第1層 黒色土　サラサラする土壌層、しまり強
第2層 黒褐色　粘性しまり強
第3層 暗黄褐色 ＋ロームブロック
O−P
第1層 黒色土 MN1層と同
第2層 暗褐色 1層より粘性強、ロームブロック混入

第45図　第41号方形周溝墓実測図

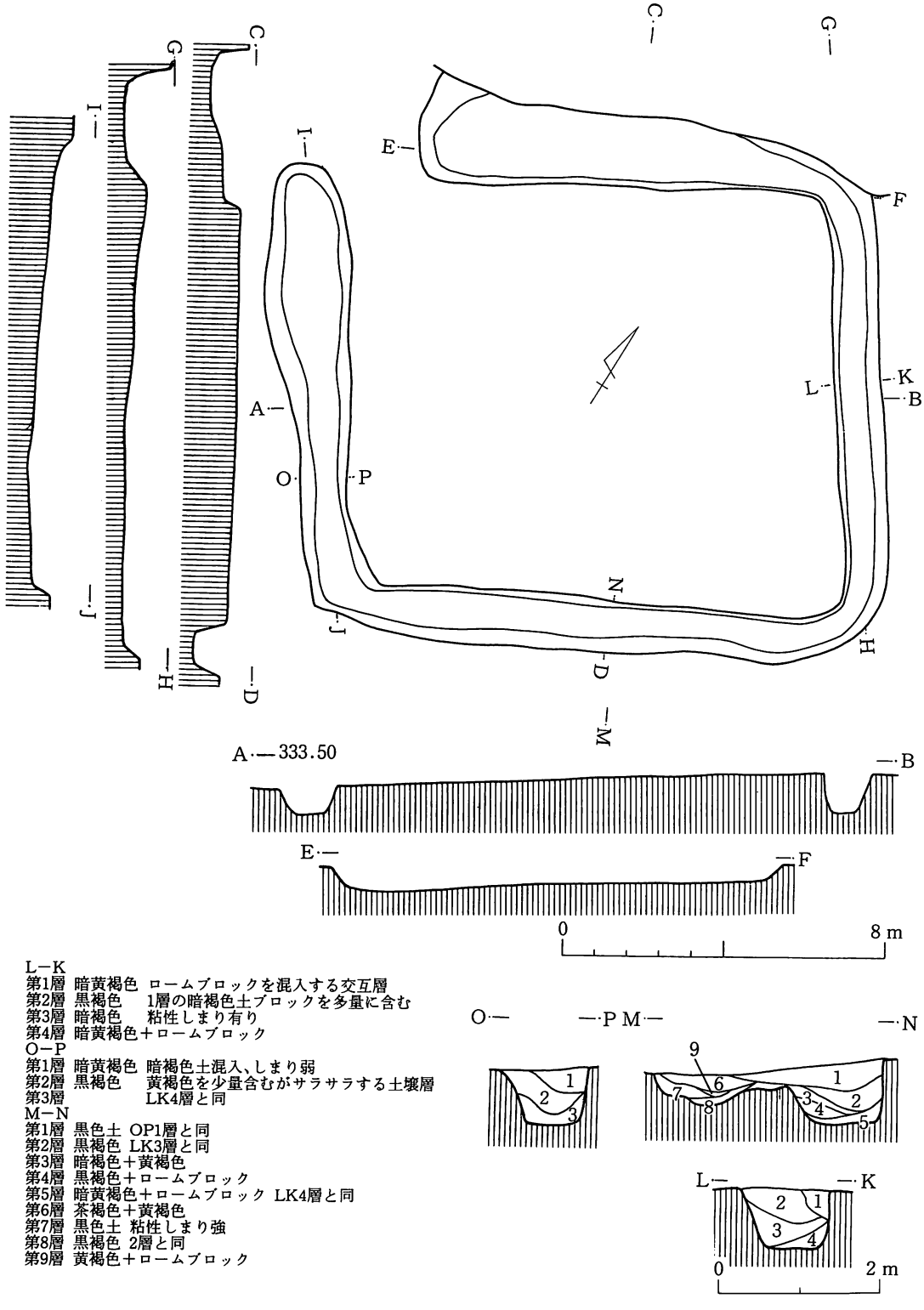


第46図　第42号方形周溝墓実測図



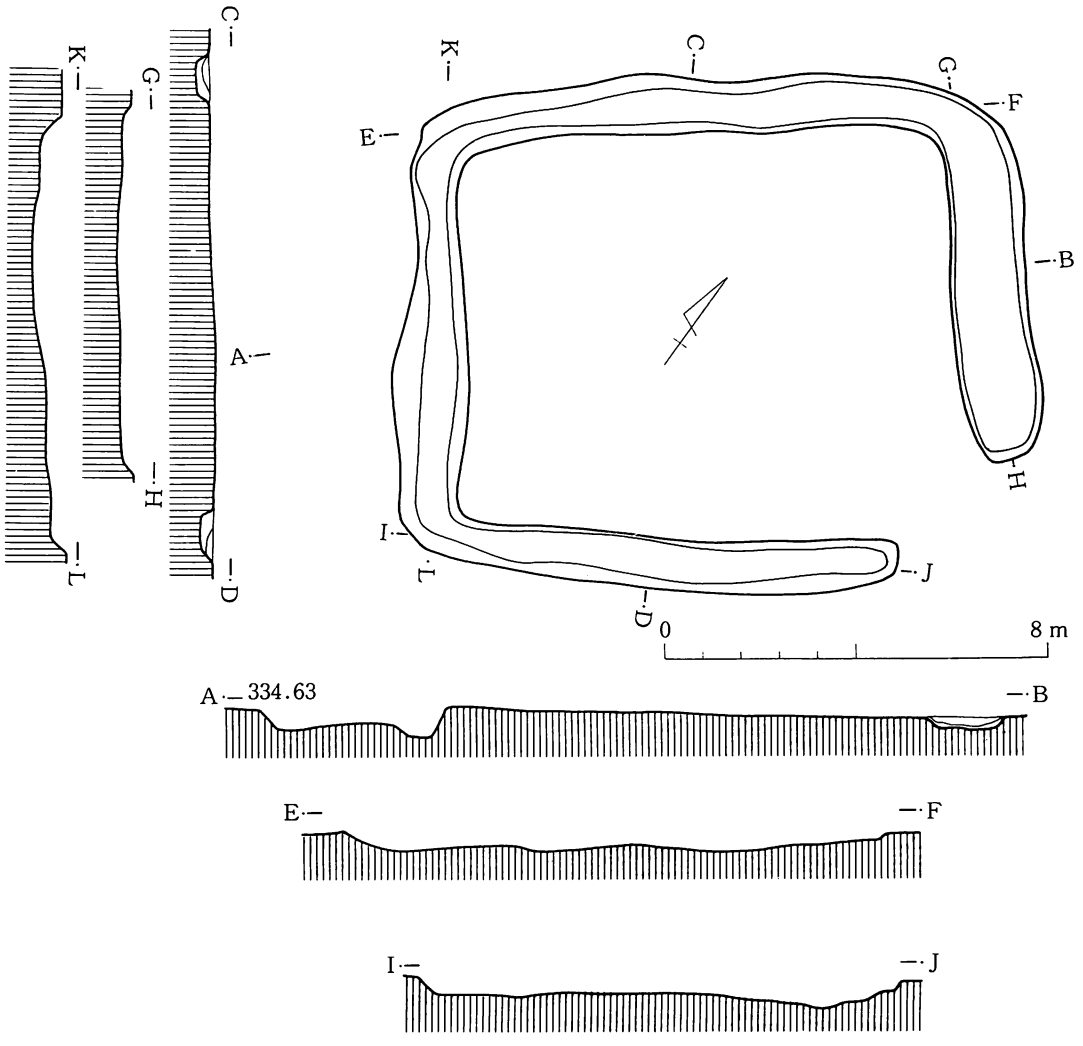
C−D
第1層 黒褐色 サラサラする土壌層に表土が混入
第2層 黒褐色＋ロームブロック
E−F
第1層 黒色土 CD1層と同
第2層 黒褐色＋ロームブロック CD2層と同
A−B
第1層 黒褐色土 黒色土に茶褐色土の砂質土混入
第2層 黒色土　サラサラする土壌層。黄色スコリアふくむ
第3層 黒茶褐色 暗褐色粒子を含む
第4層 黒褐色
第5層 暗黄褐色＋ロームブロック

第47図　第43、44号方形周溝墓実測図



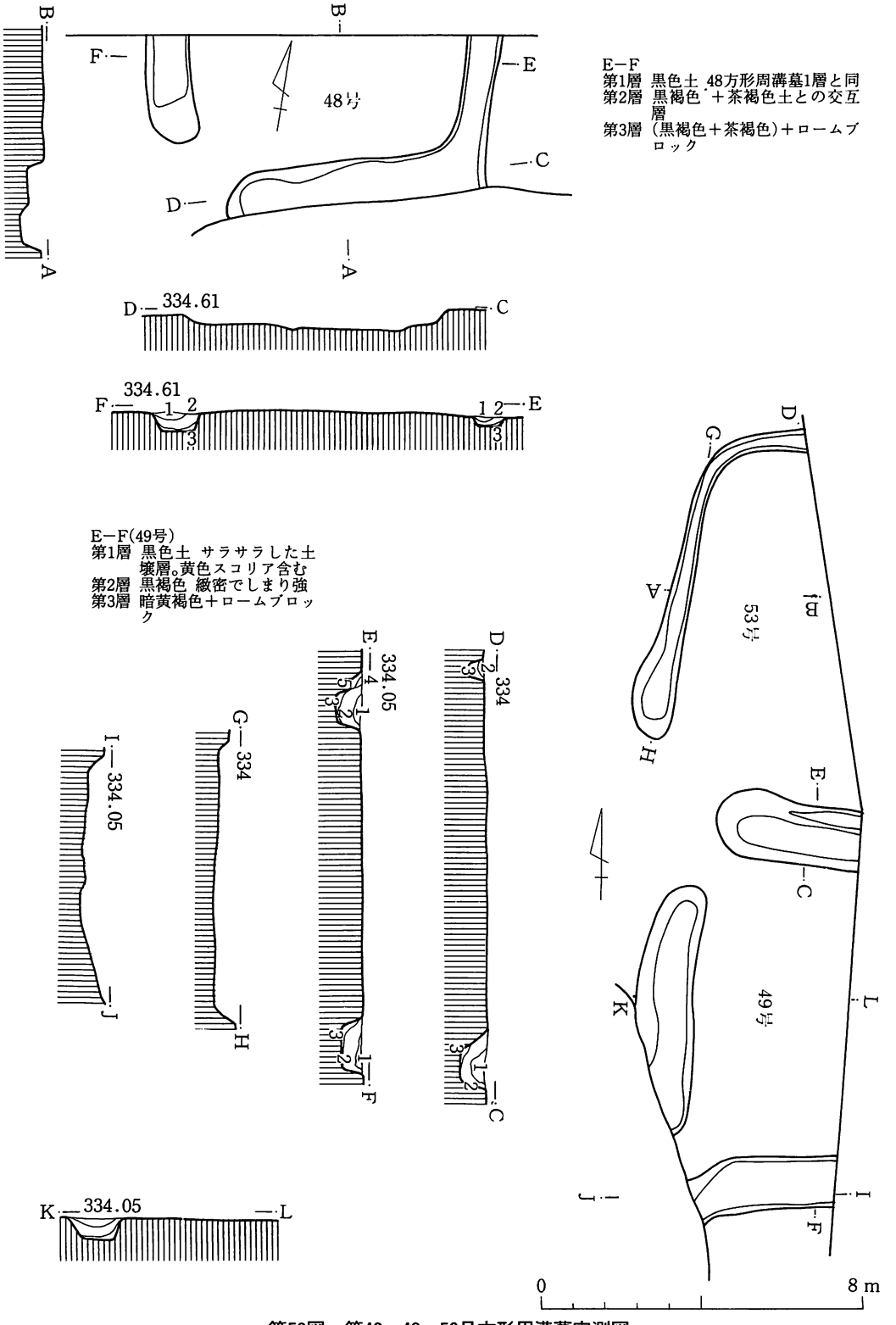
L−K
第1層 暗黄褐色 ロームブロックを混入する交互層
第2層 黒褐色 1層の暗褐色土ブロックを多量に含む
第3層 暗褐色 粘性しまり有り
第4層 暗黄褐色＋ロームブロック
O−P
第1層 暗黄褐色 暗褐色土混入、しまり弱
第2層 黒褐色 黄褐色を少量含むがサラサラする土壌層
第3層 LK4層と同
M−N
第1層 黒色土 OP1層と同
第2層 黒褐色 LK3層と同
第3層 暗褐色＋黄褐色
第4層 黒褐色＋ロームブロック
第5層 暗黄褐色＋ロームブロック LK4層と同
第6層 茶褐色＋黄褐色
第7層 黒色土 粘性しまり強
第8層 黒褐色 2層と同
第9層 黄褐色＋ロームブロック

第48図 第45号方形周溝墓実測図

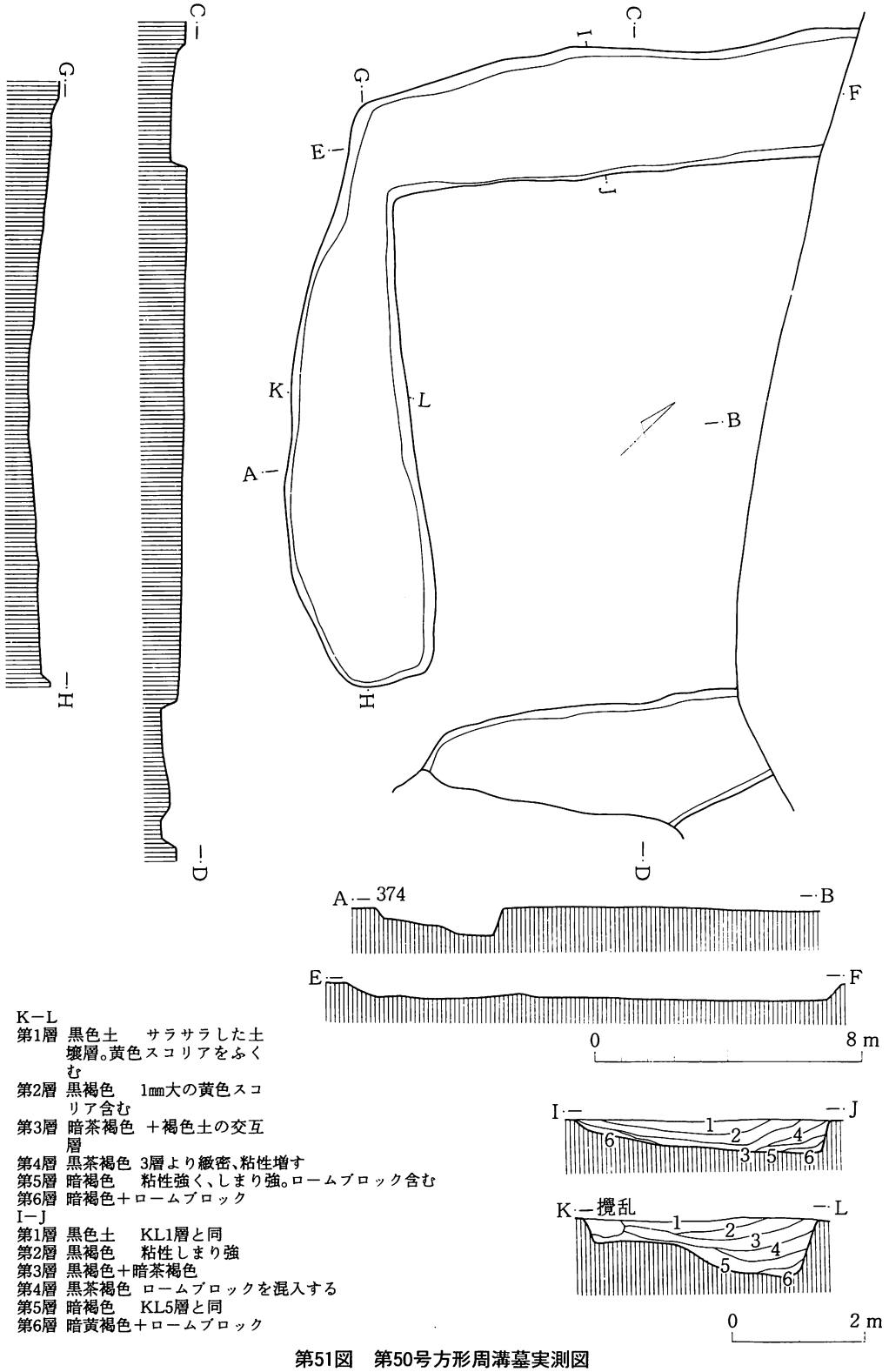


第1層　黒色土＋黒褐色土、交互層であるが緻密でしまる
第2層　暗黄褐色＋ロームブロック

第49図　第47号方形周溝墓実測図

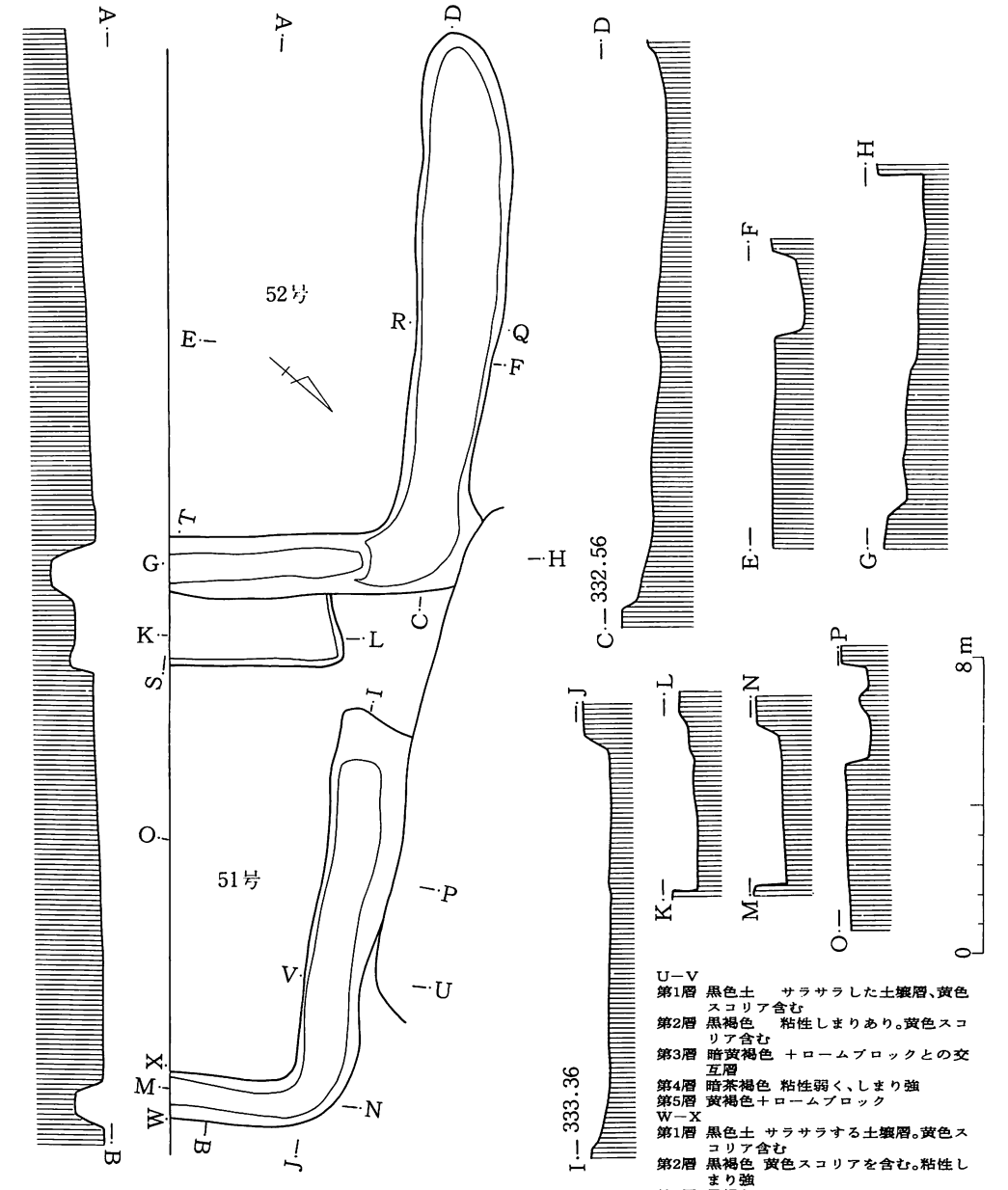


第50図　第48、49、53号方形周溝墓実測図

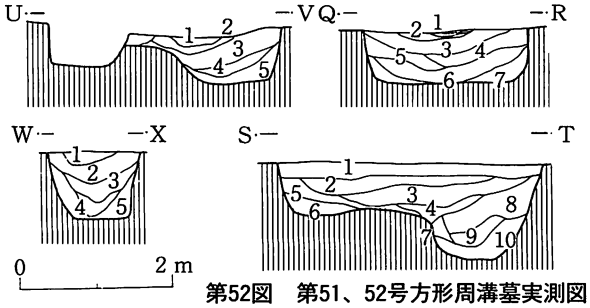


K−L
第1層 黒色土　サラサラした土壌層。黄色スコリアをふくむ
第2層 黒褐色　1㎜大の黄色スコリア含む
第3層 暗茶褐色　＋褐色土の交互層
第4層 黒茶褐色 3層より緻密、粘性増す
第5層 暗褐色　粘性強く、しまり強。ロームブロック含む
第6層 暗褐色＋ロームブロック
I−J
第1層 黒色土　KL1層と同
第2層 黒褐色　粘性しまり強
第3層 黒褐色＋暗茶褐色
第4層 黒茶褐色 ロームブロックを混入する
第5層 暗褐色　KL5層と同
第6層 暗黄褐色＋ロームブロック

第51図　第50号方形周溝墓実測図

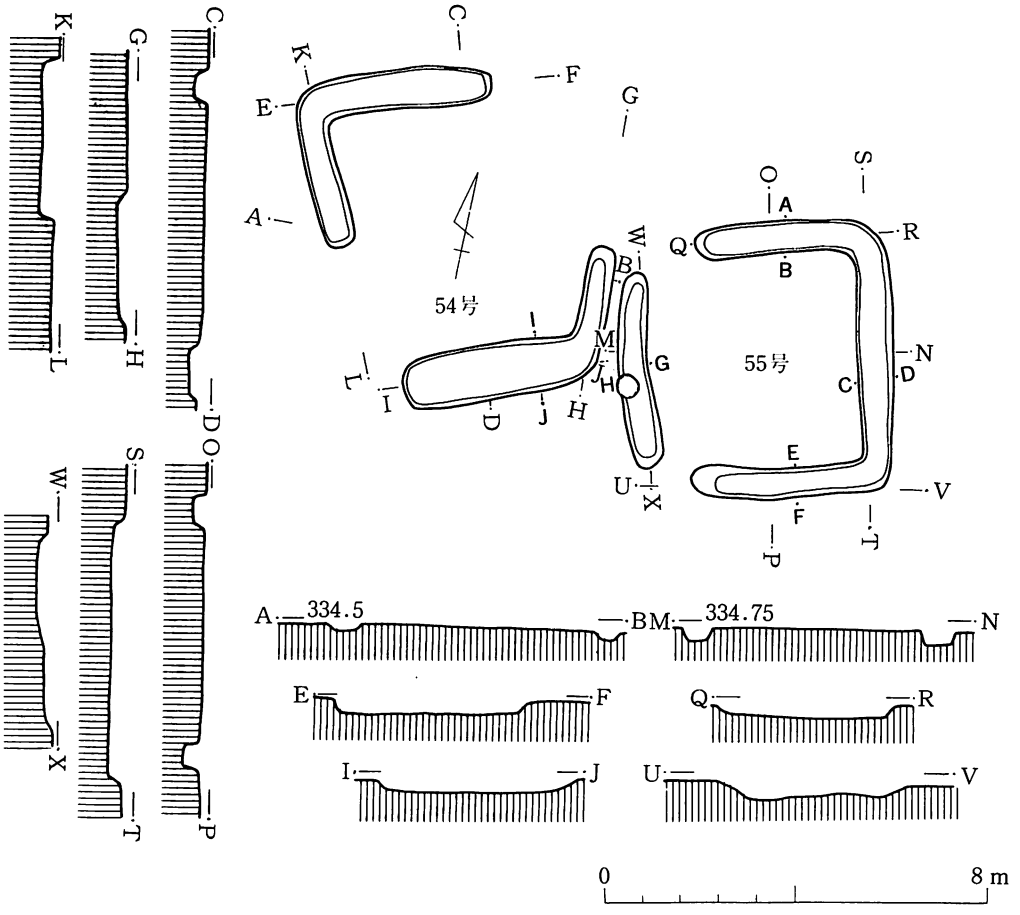


U−V
第1層 黒色土　サラサラした土壌層、黄色スコリア含む
第2層 黒褐色　粘性しまりあり。黄色スコリア含む
第3層 暗黄褐色 ＋ロームブロックとの交互層
第4層 暗茶褐色 粘性弱く、しまり強
第5層 黄褐色＋ロームブロック
W−X
第1層 黒色土 サラサラする土壌層。黄色スコリア含む
第2層 黒褐色 黄色スコリアを含む。粘性しまり強
第3層 黒褐色＋ロームブロック
第4層 黒茶褐色＋ロームブロック
第5層 黄褐色＋ロームブロック

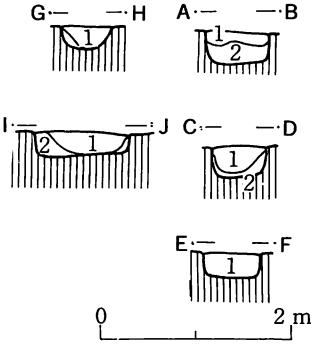


Q−R
第1層 暗茶褐色 粘性しまり強
第2層 黒色土　51号WX1層と同
第3層 暗茶褐色 粘性しまり強。黄色スコリアふくむ
第4層 黒茶褐色 粘性しまり強。ロームブロック少量含む
第5層 黒茶褐色＋ロームブロック
第6層 茶褐色＋ロームブロック
第7層 黄褐色＋ロームブロック
S−T
第1層 灰褐色　粘性しまりやや有り。砂質
第2層 黒褐色　粘性無し。しまり強。緻密
第3層 黒色土　QR2層と同
第4層 黄茶褐色 粘性無し。しまり強。黄色スコリア含む
第5層 黄褐色＋ロームブロック
第6層 暗黄褐色 粘性無し。しまり強
第7層 ロームブロック
第8層 黄褐色＋ロームブロック
第9層 黒褐色＋ロームブロック
第10層 暗黄褐色＋ロームブロック

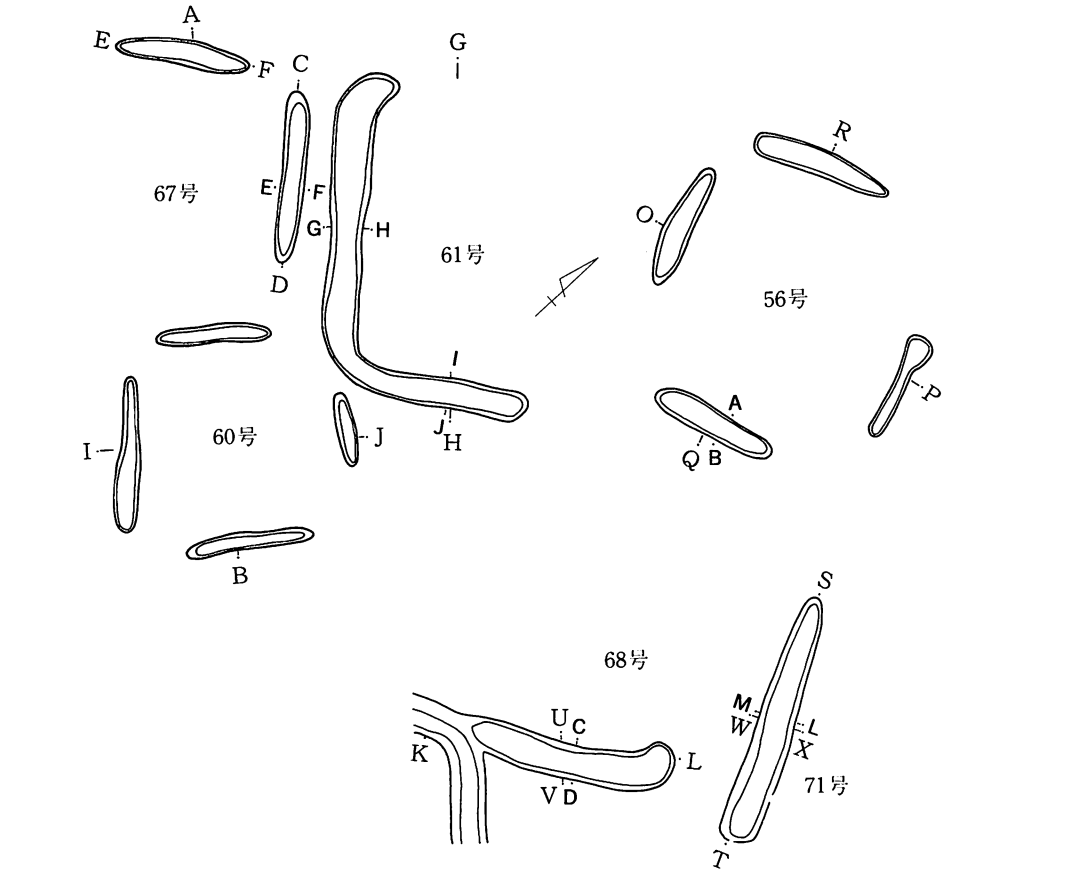
第52図　第51、52号方形周溝墓実測図



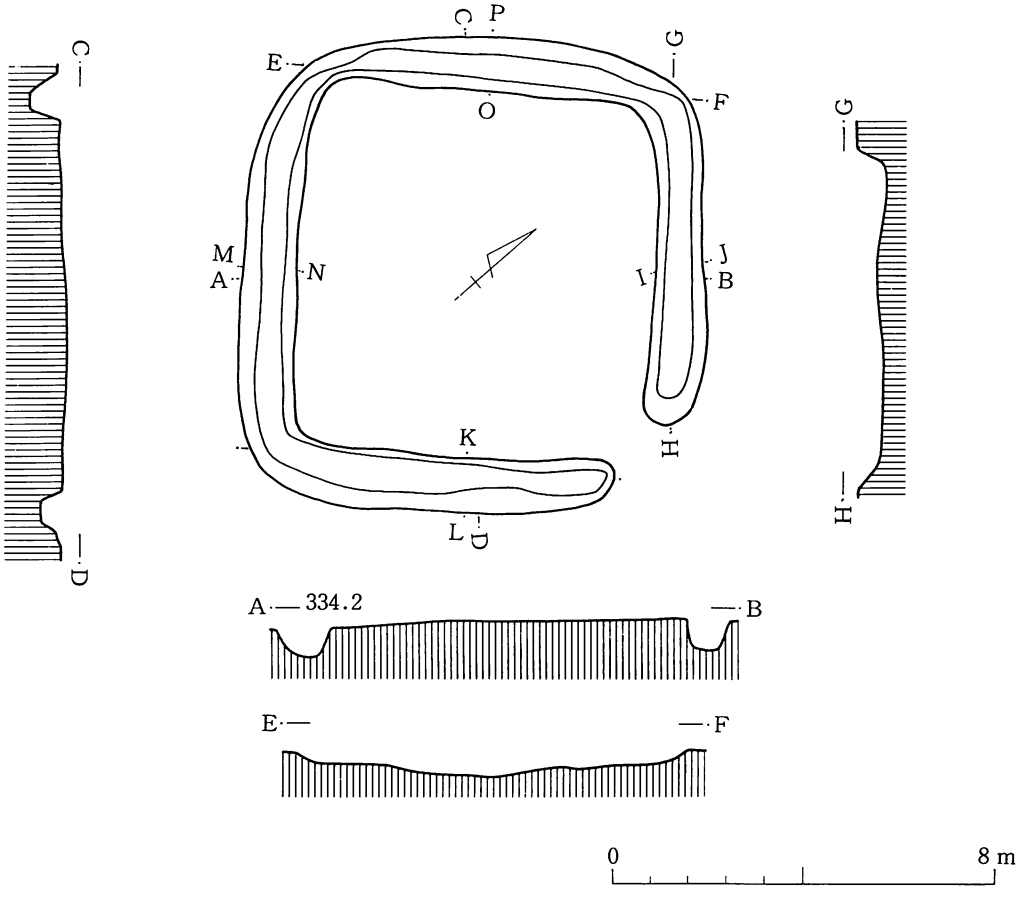
I−J
第1層 黒色土　粘性しまり無し
第2層 暗黄褐色 粘性しまり強。ロームブロック含む
A−B
第1層 黒色土　粘性しまりなく、ロームブロック含む
第2層 暗黄褐色 粘性しまり強。ロームブロック含む
C−D
第1層 黒色土　AB1層と同
第2層 暗茶褐色 粘性しまり無し。ロームブロック含む
E−F
第1層 灰褐色 粘性しまり有り
G−H
第1層 黒色土　粘性しまり無し。ロームブロック含む
第2層 暗茶褐色 粘性しまり強。ロームブロック含む



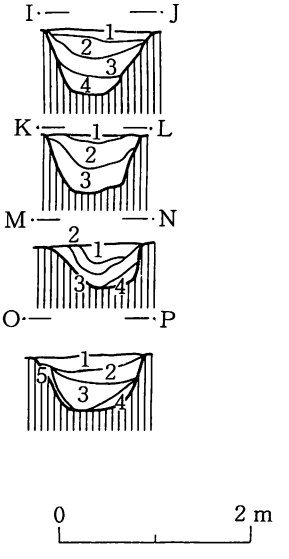
第53図　第54、55号方形周溝墓実測図



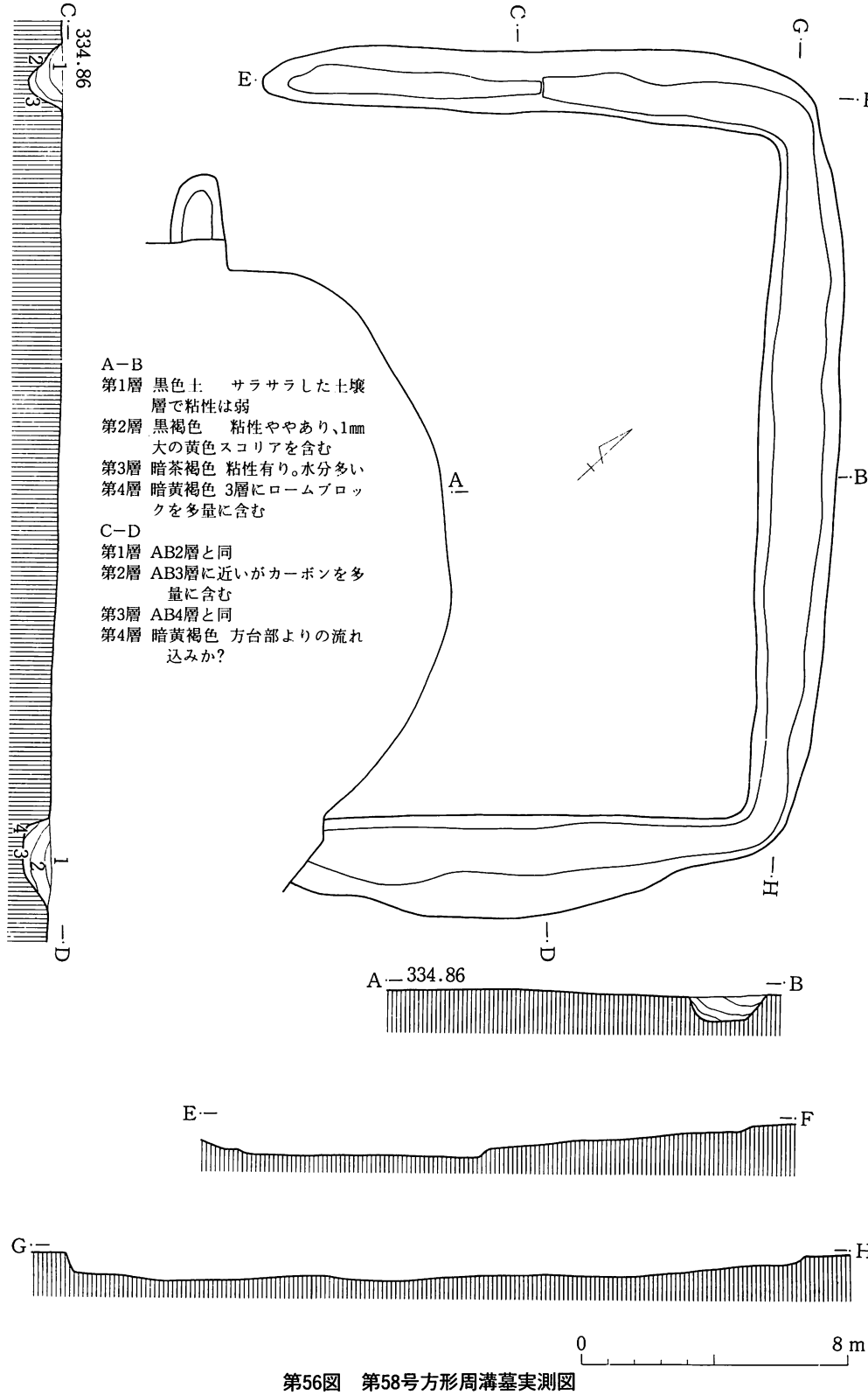
第54図 第56、60、61、67、68、71号方形周溝墓実測図



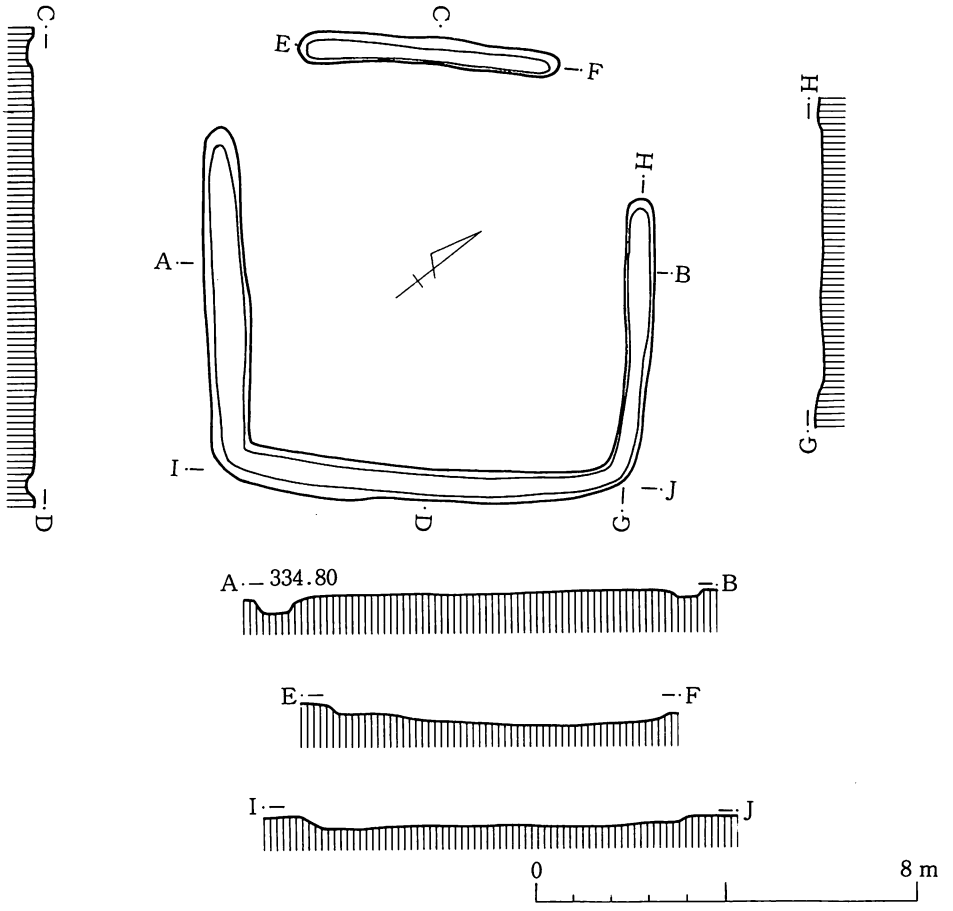
O−P
第1層 暗黄褐色土 I・J 1層に同
第2層 黒褐色土 I・J 2層に同
第3層 茶褐色土 I・J 3層に同
第4層 3層に多量のローム混入
第5層 4層よりやや黄色が強いが質は同
M−N
第1層 暗灰褐色 粘性しまり強。粒子細かく赤色スコリア含む
第2層 黒色土 KLI層と同
第3層 茶褐色 粘性しまり強
第4層 暗黄褐色 粘性強いが、ロームブロックとの交互層
I−J
第1層 暗黄褐色、粘性しまりなし。土壌層
第2層 黒褐色土、緻密でしまり強
第3層 茶褐色土
第4層 ロームと茶褐色との交互層
K−L
第1層 黒褐色、OP1層と同
第2層 茶褐色、OP2層と同
第3層 ローム層と茶褐色土層との交互層



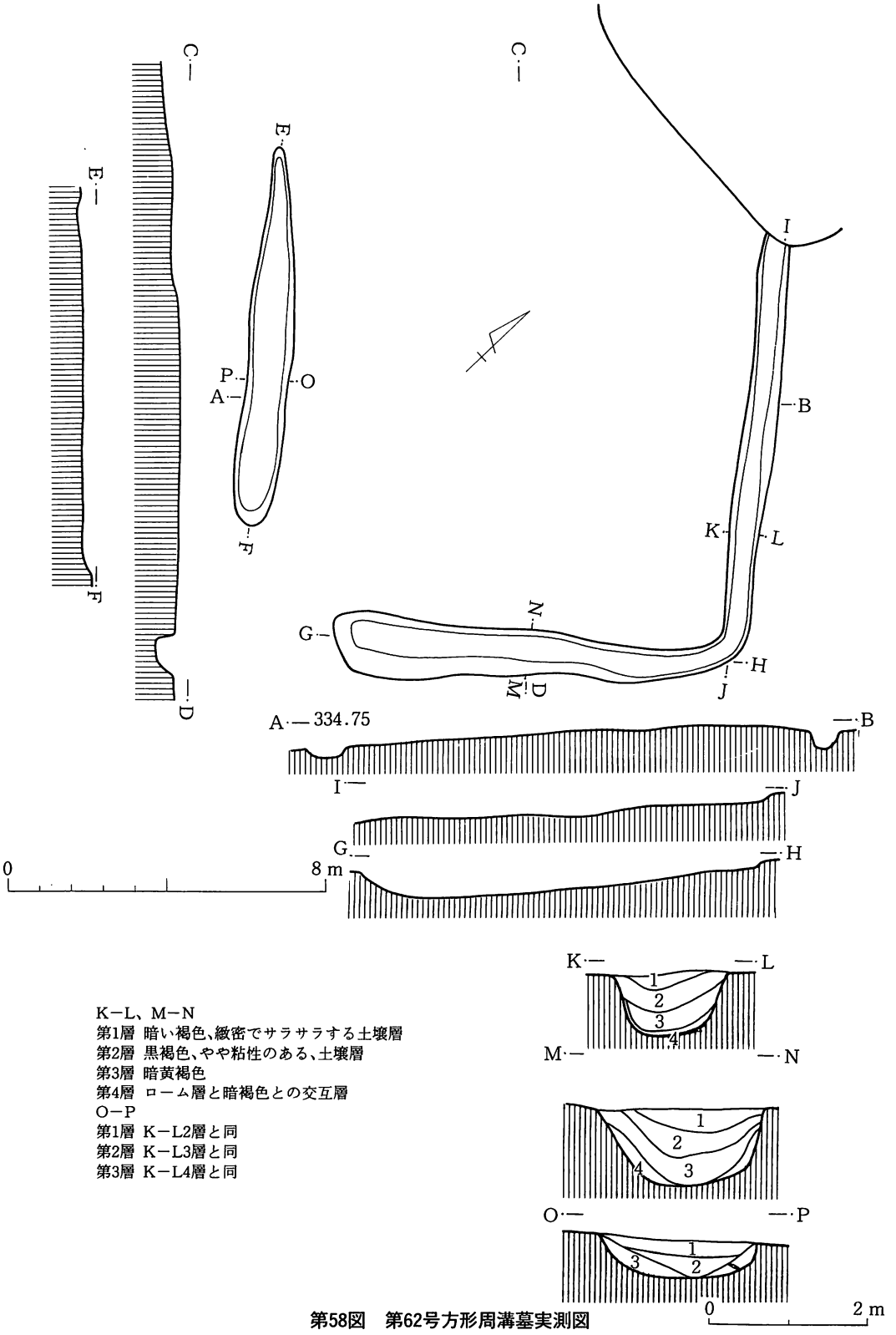
第55図 第57号方形周溝墓実測図



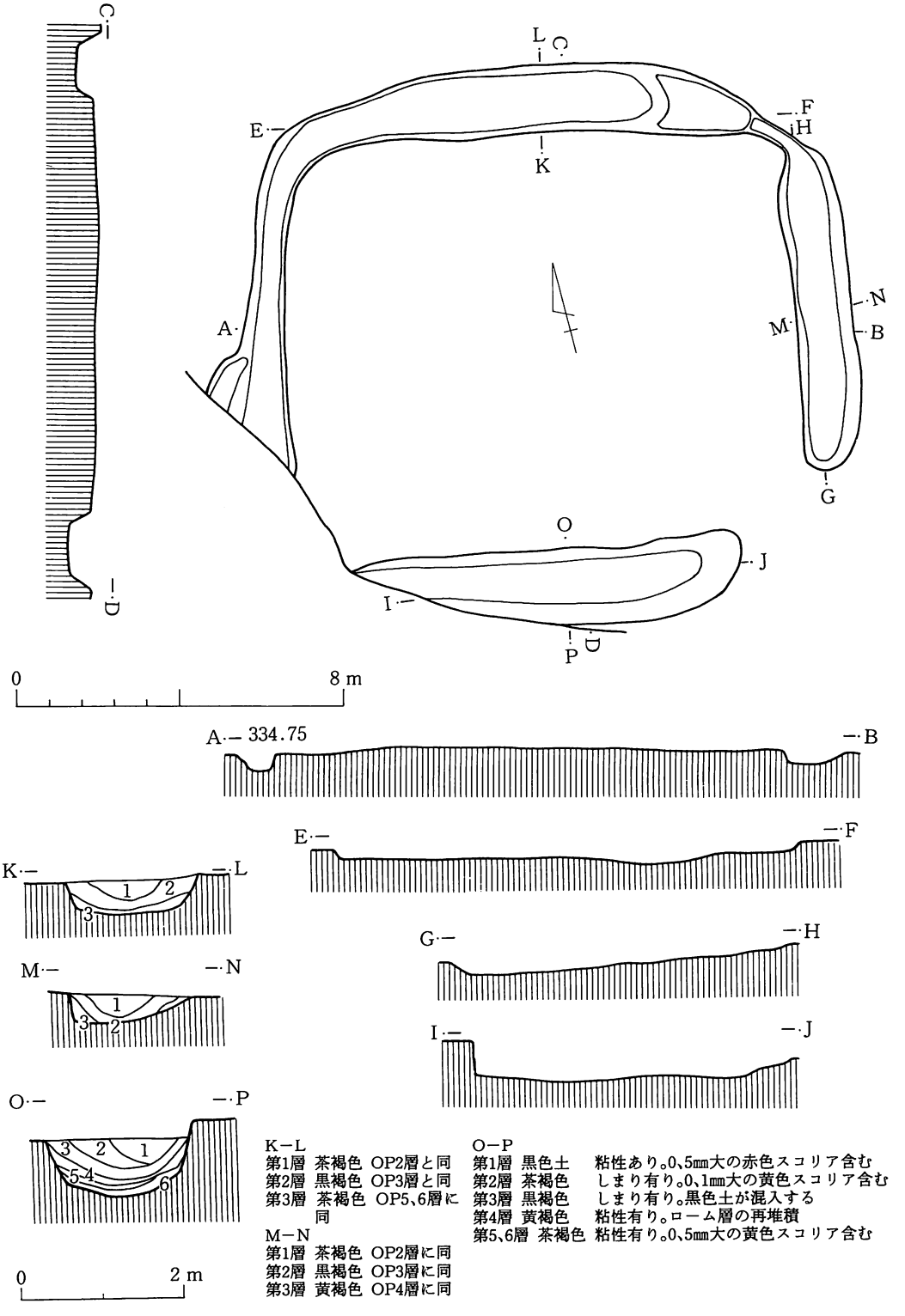
第56図　第58号方形周溝墓実測図



第57図　第59号方形周溝墓実測図



第58図　第62号方形周溝墓実測図

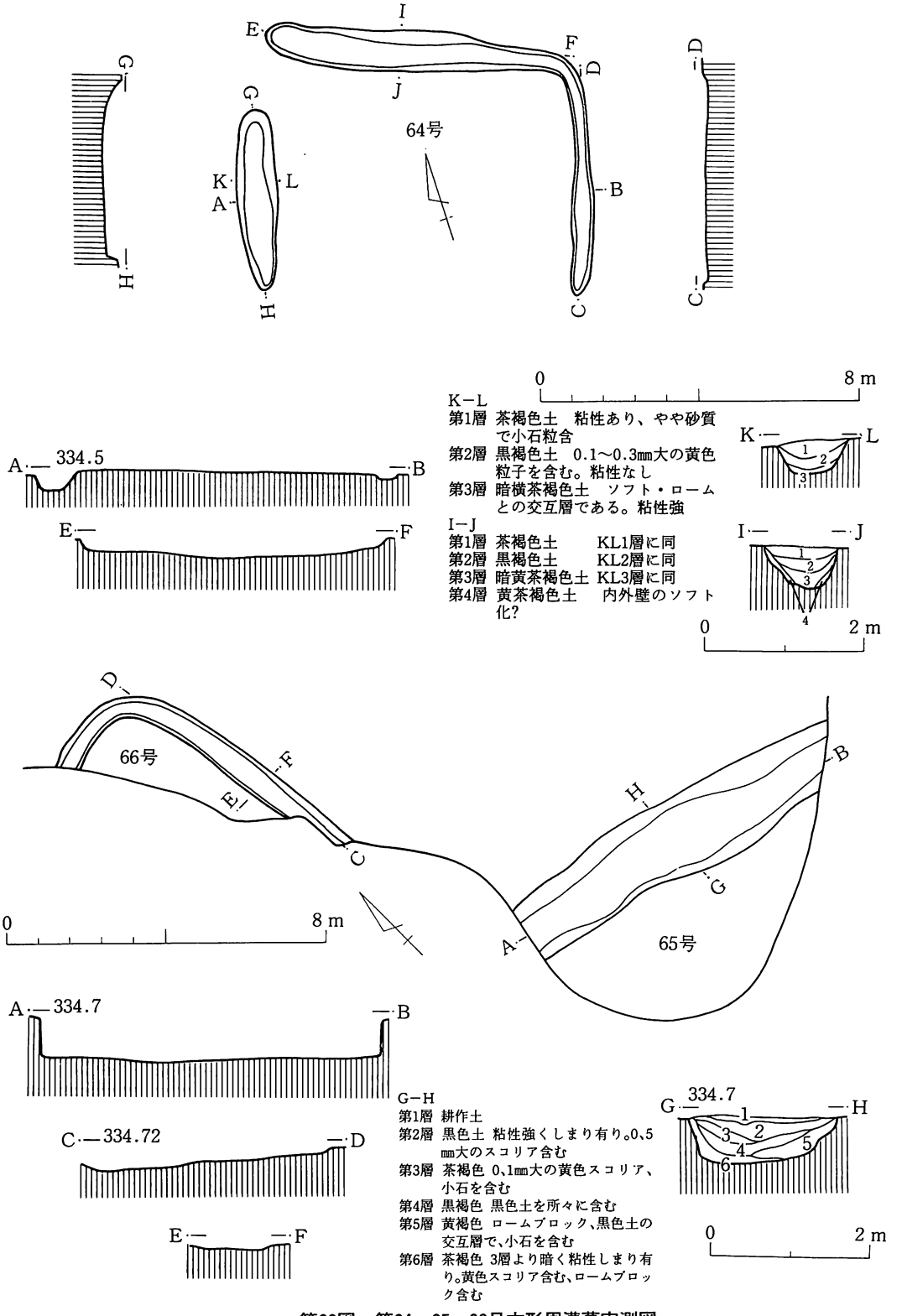


K−L
第1層 茶褐色 OP2層と同
第2層 黒褐色 OP3層と同
第3層 茶褐色 OP5、6層に同

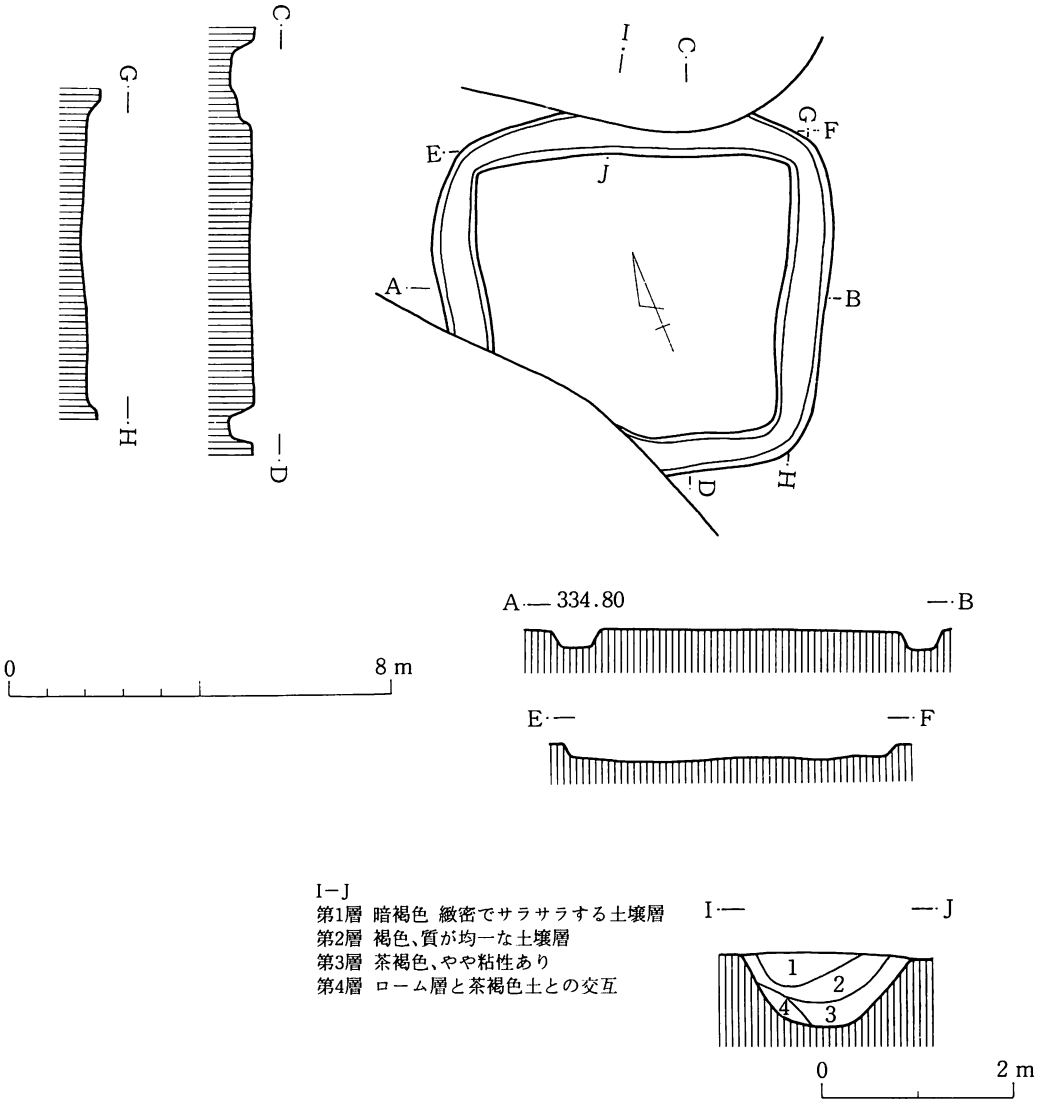
M−N
第1層 茶褐色 OP2層に同
第2層 黒褐色 OP3層に同
第3層 黄褐色 OP4層に同

O−P
第1層 黒色土 粘性あり。0、5㎜大の赤色スコリア含む
第2層 茶褐色 しまり有り。0、1㎜大の黄色スコリア含む
第3層 黒褐色 しまり有り。黒色土が混入する
第4層 黄褐色 粘性有り。ローム層の再堆積
第5、6層 茶褐色 粘性有り。0、5㎜大の黄色スコリア含む

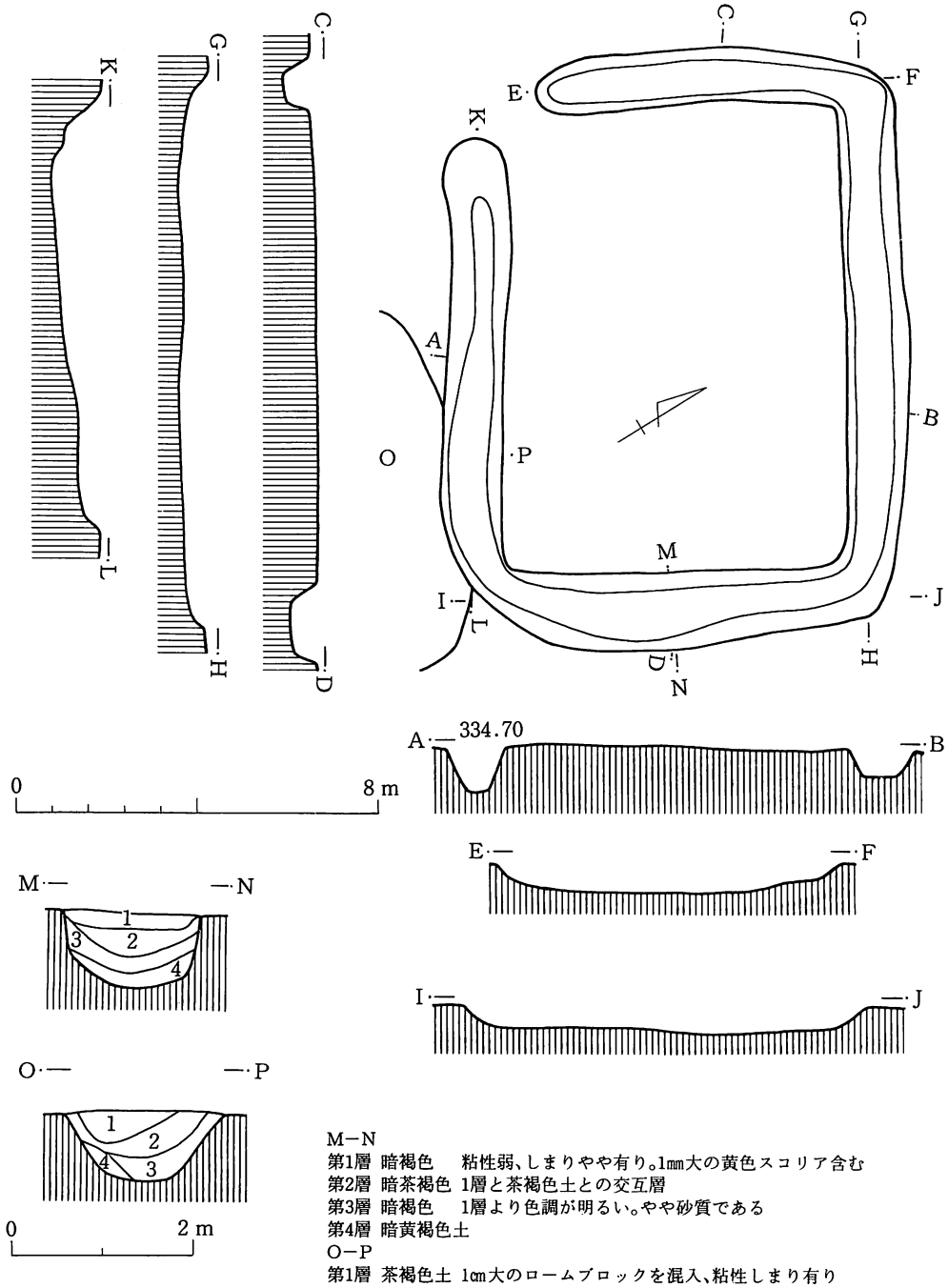
第59図　第63号方形周溝墓実測図



第60図 第64、65、66号方形周溝墓実測図

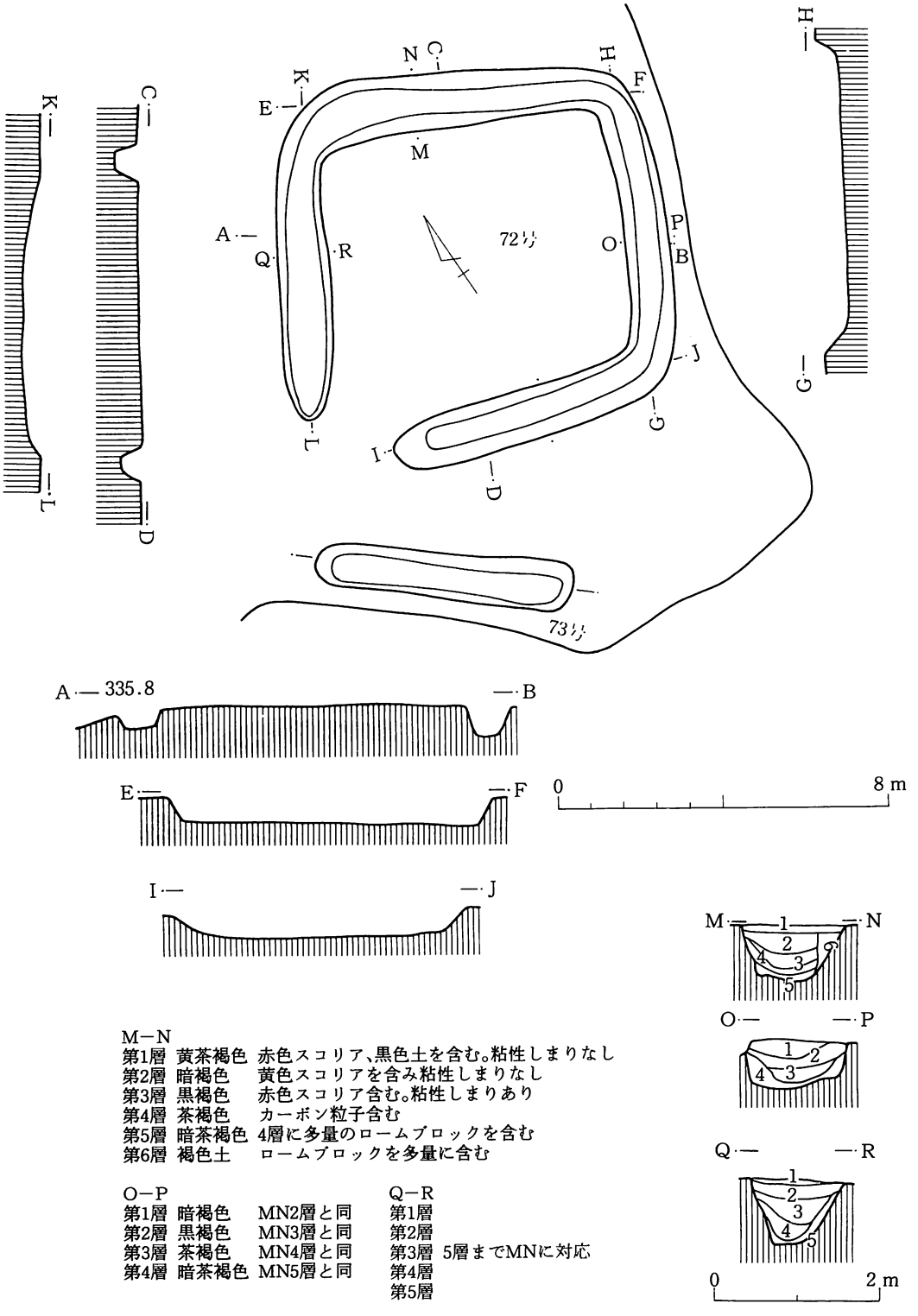


第61図　第69号方形周溝墓実測図

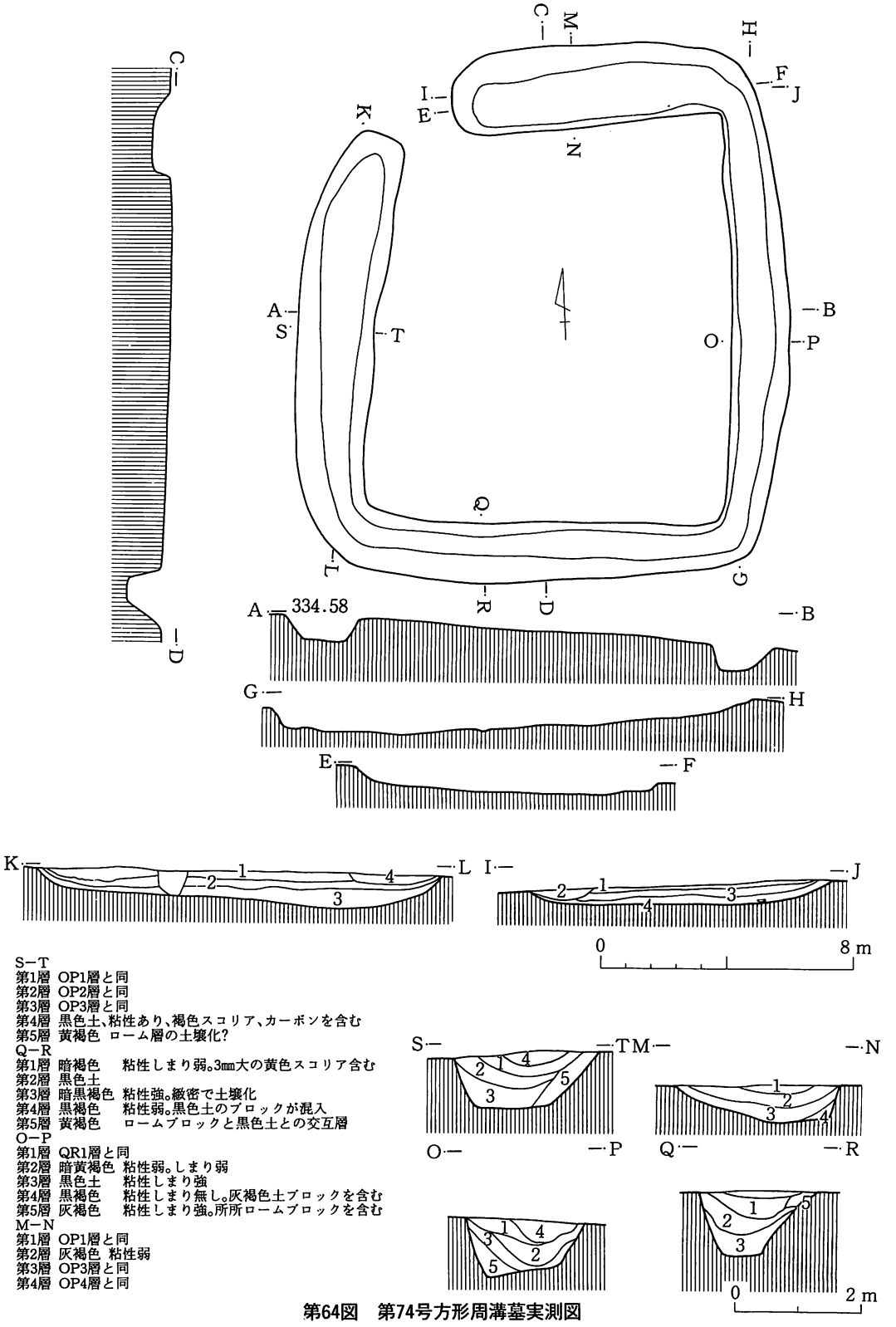


M−N
第1層 暗褐色　粘性弱、しまりやや有り。1㎜大の黄色スコリア含む
第2層 暗茶褐色 1層と茶褐色土との交互層
第3層 暗褐色　1層より色調が明るい。やや砂質である
第4層 暗黄褐色土
O−P
第1層 茶褐色土 1㎝大のロームブロックを混入、粘性しまり有り
第2層 暗茶褐色 1層とほぼ同質であるが、やや暗い
第3層 暗褐色　1㎜大の黄色スコリア、粘性弱くしまりやや有り
第4層 黄褐色 粘性しまり強

第52図　第70号方形周溝墓実測図

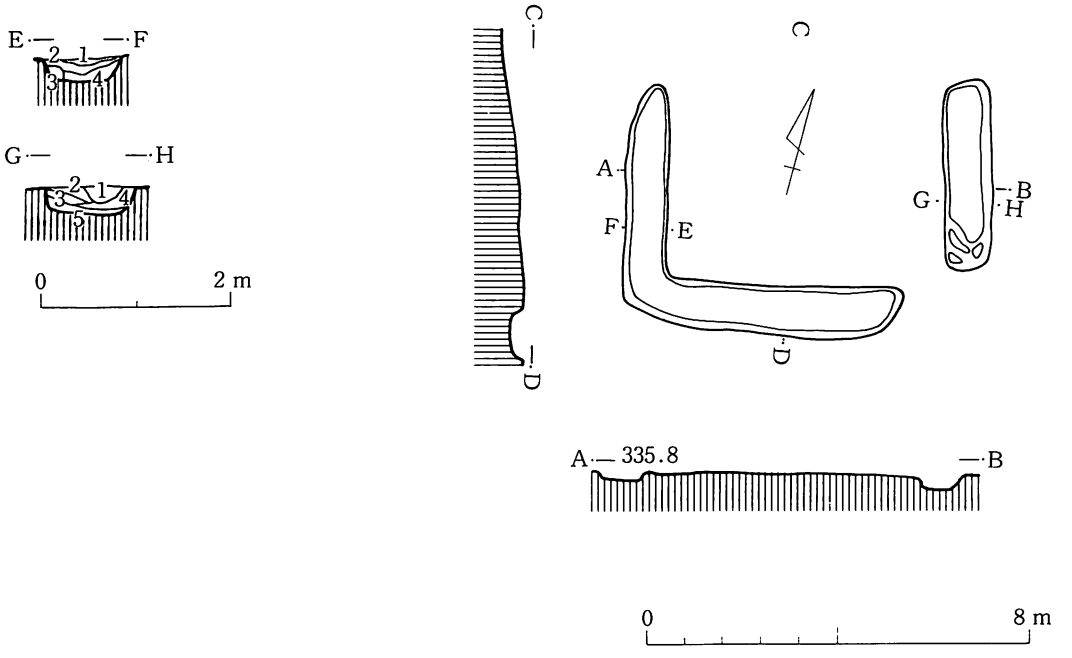


第63図　第72、73号方形周溝墓実測図



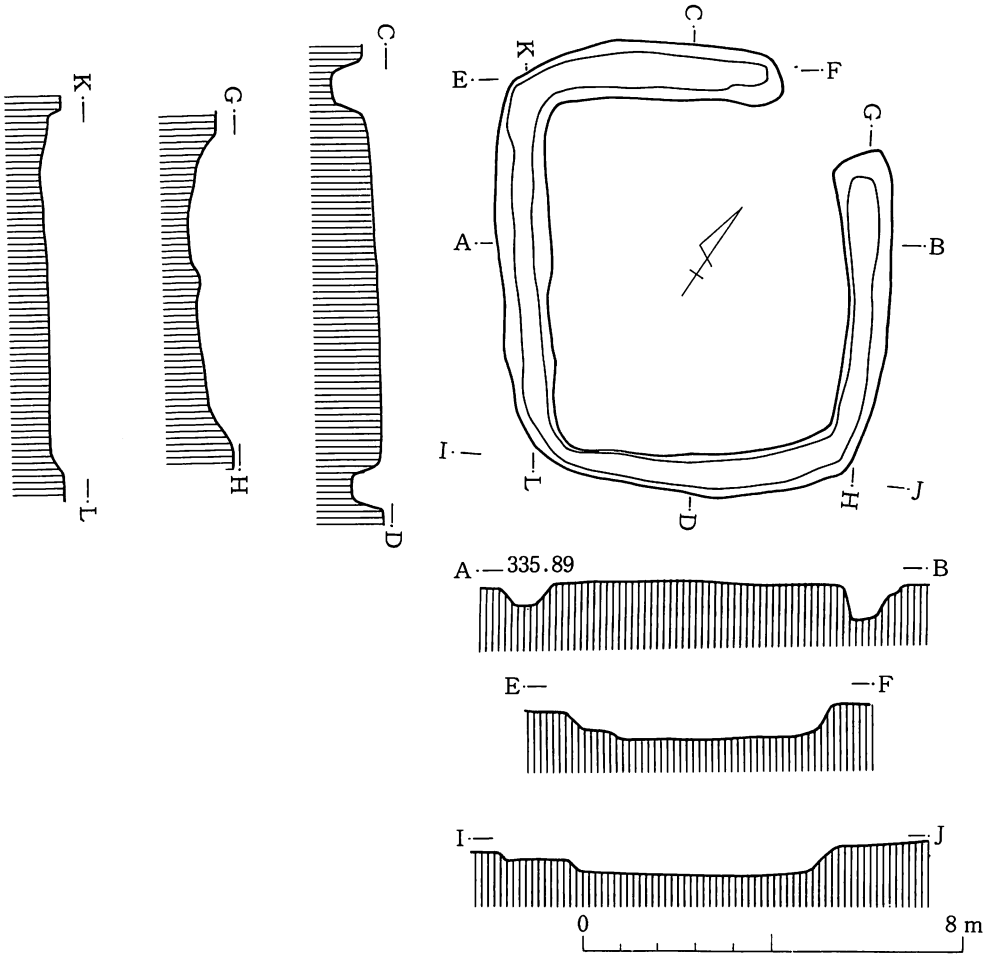
S−T
第1層 OP1層と同
第2層 OP2層と同
第3層 OP3層と同
第4層 黒色土、粘性あり、褐色スコリア、カーボンを含む
第5層 黄褐色 ローム層の土壌化?
Q−R
第1層 暗褐色 粘性しまり弱。3mm大の黄色スコリア含む
第2層 黒色土
第3層 暗黒褐色 粘性強。緻密で土壌化
第4層 黒褐色 粘性弱。黒色土のブロックが混入
第5層 黄褐色 ロームブロックと黒色土との交互層
O−P
第1層 QR1層と同
第2層 暗黄褐色 粘性弱。しまり弱
第3層 黒色土 粘性しまり強
第4層 黒褐色 粘性しまり無し。灰褐色土ブロックを含む
第5層 灰褐色 粘性しまり強。所所ロームブロックを含む
M−N
第1層 OP1層と同
第2層 灰褐色 粘性弱
第3層 OP3層と同
第4層 OP4層と同

第64図 第74号方形周溝墓実測図

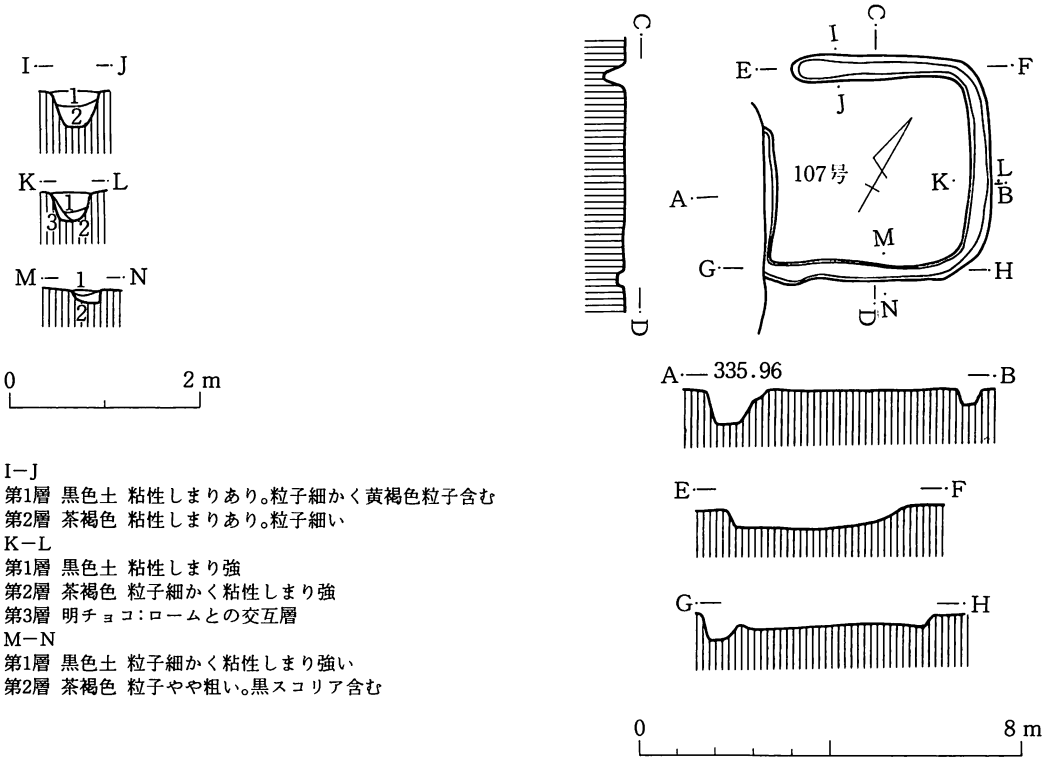


G−H
第1層 黒色土　　粘性なし、粒子細くサラサラする。黄色スコリアを少量含む
第2層 暗茶褐色土 粘性なし、粒子は1mm大スコリアを含みサラサラする
第3層 黒褐色土　 粘性ややあり、5mm大のローム粒子を含む
第4層 暗黄褐色土 粘性ややあり、7〜10mm大のローム粒子を多量に含む
第5層 黄褐色土　 4層とローム・ブロックとの交互層である
E−F
第1層 黒色土　　GH1層と同
第2層 暗茶褐色土 GH2層と同
第3層 ローム層のソフト化？
第4層 GH　5層と同

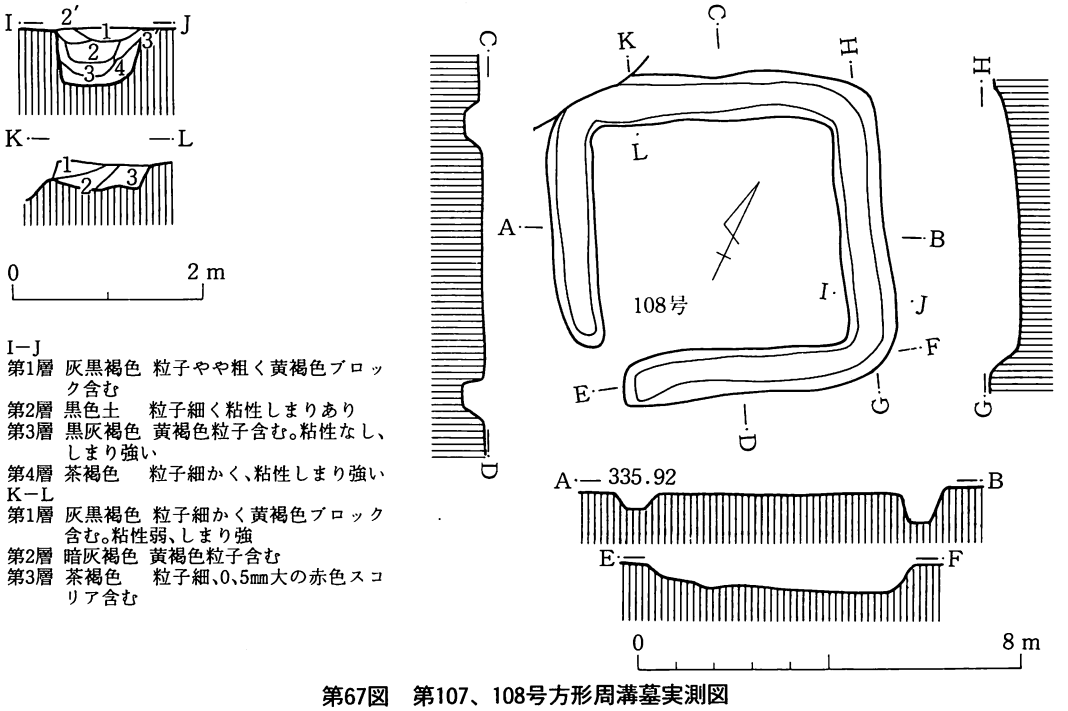
第65図　第80号方形周溝墓実測図



第66図　第106号方形周溝墓実測図

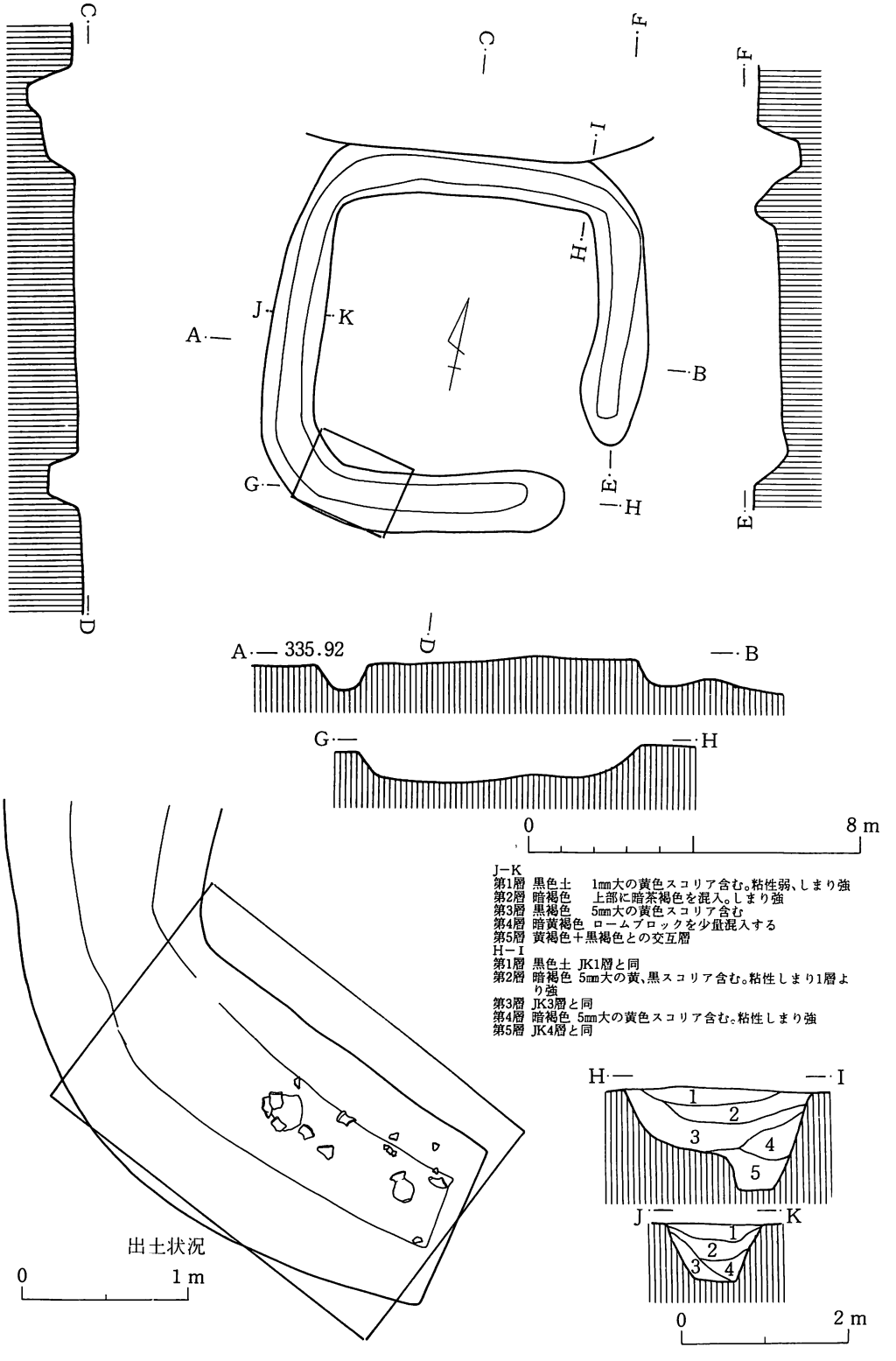


I−J
第1層 黒色土 粘性しまりあり。粒子細かく黄褐色粒子含む
第2層 茶褐色 粘性しまりあり。粒子細い
K−L
第1層 黒色土 粘性しまり強
第2層 茶褐色 粒子細かく粘性しまり強
第3層 明チョコ：ロームとの交互層
M−N
第1層 黒色土 粒子細かく粘性しまり強い
第2層 茶褐色 粒子やや粗い。黒スコリア含む

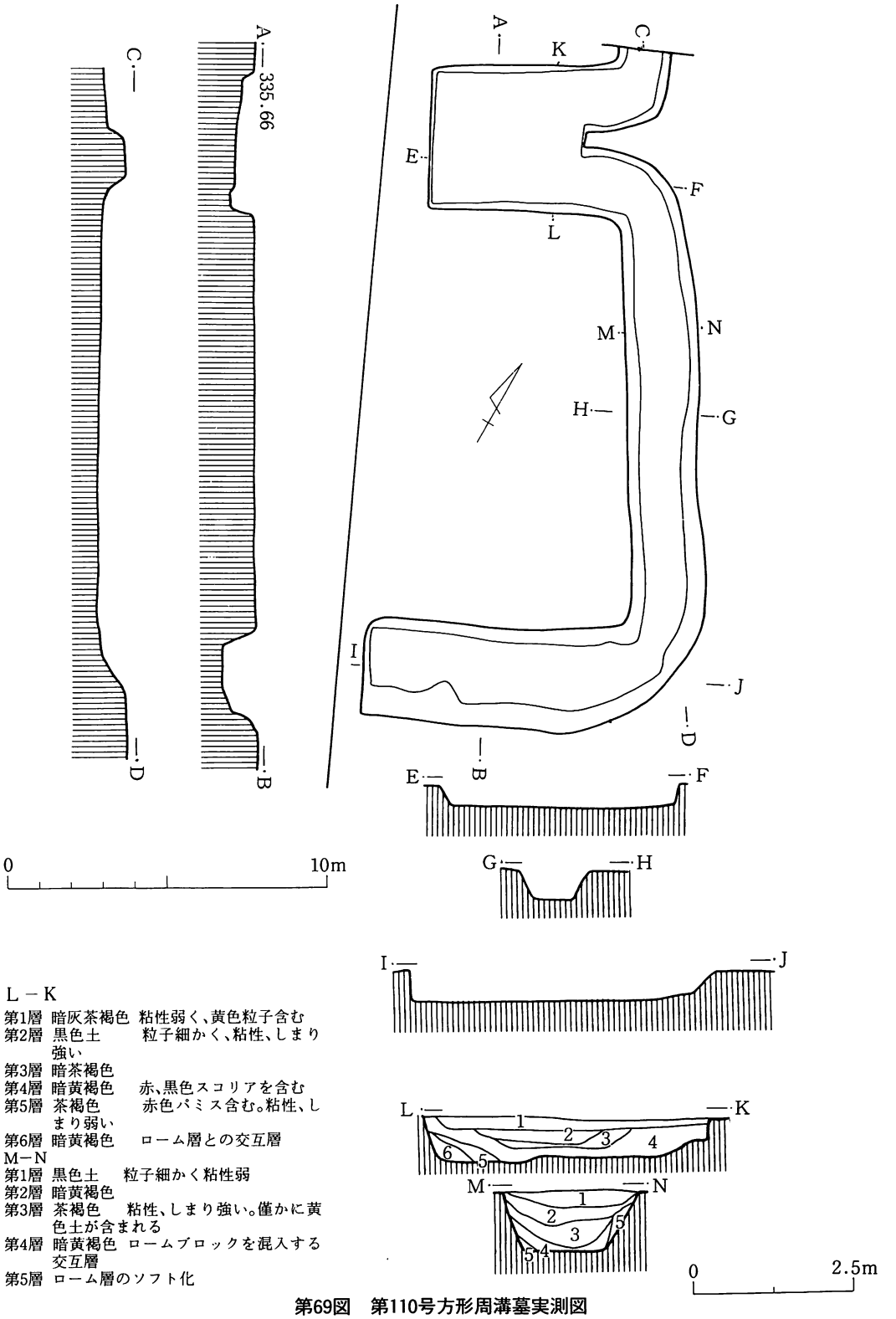


I−J
第1層 灰黒褐色 粒子やや粗く黄褐色ブロック含む
第2層 黒色土 粒子細く粘性しまりあり
第3層 黒灰褐色 黄褐色粒子含む。粘性なし、しまり強い
第4層 茶褐色 粒子細かく、粘性しまり強い
K−L
第1層 灰黒褐色 粒子細かく黄褐色ブロック含む。粘性弱、しまり強
第2層 暗灰褐色 黄褐色粒子含む
第3層 茶褐色 粒子細、0、5㎜大の赤色スコリア含む

第67図 第107、108号方形周溝墓実測図

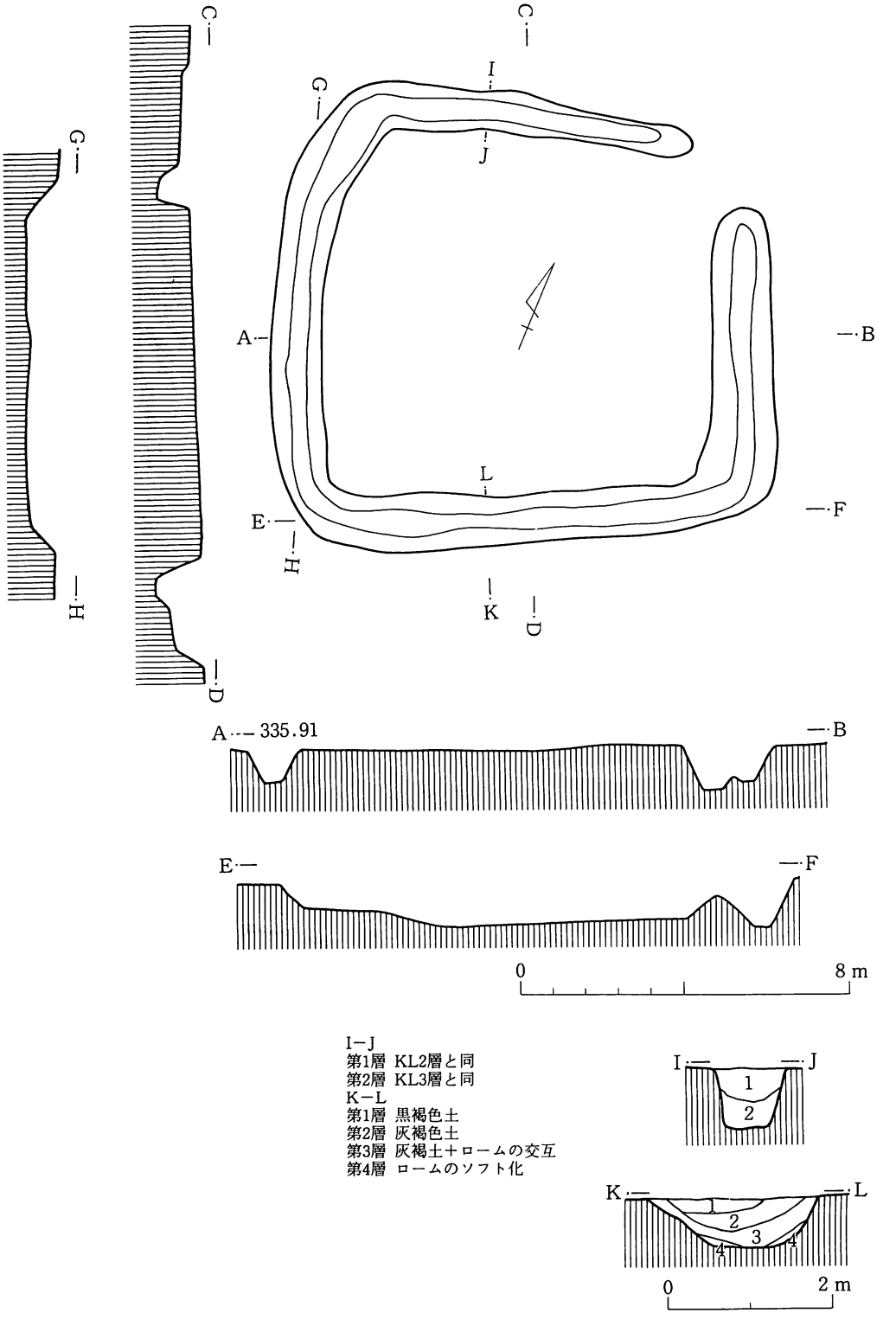


第68図　第109号方形周溝墓実測図

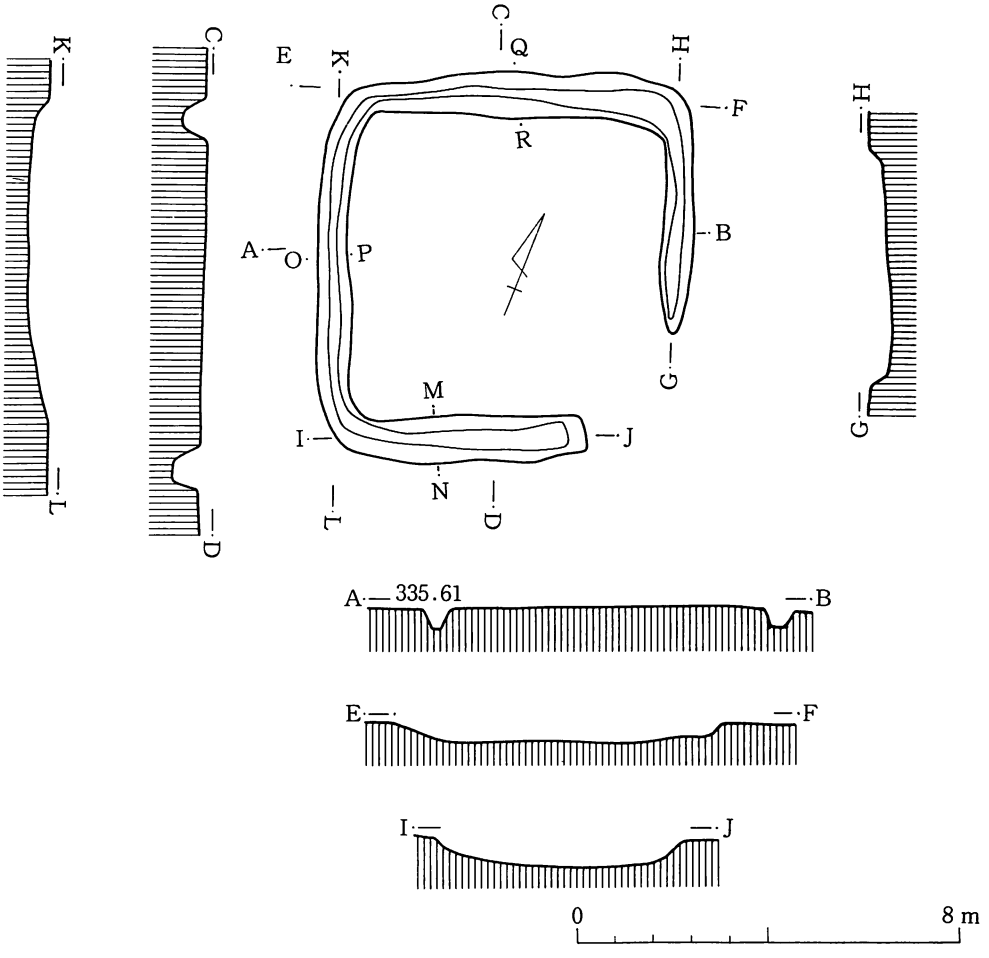


L－K
第1層 暗灰茶褐色 粘性弱く、黄色粒子含む
第2層 黒色土 粒子細かく、粘性、しまり強い
第3層 暗茶褐色
第4層 暗黄褐色 赤、黒色スコリアを含む
第5層 茶褐色 赤色パミス含む。粘性、しまり弱い
第6層 暗黄褐色 ローム層との交互層
M－N
第1層 黒色土 粒子細かく粘性弱
第2層 暗黄褐色
第3層 茶褐色 粘性、しまり強い。僅かに黄色土が含まれる
第4層 暗黄褐色 ロームブロックを混入する交互層
第5層 ローム層のソフト化

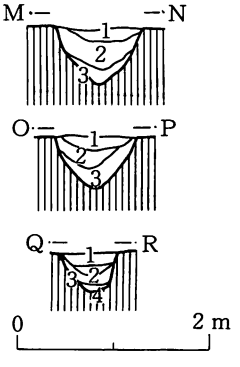
第69図 第110号方形周溝墓実測図



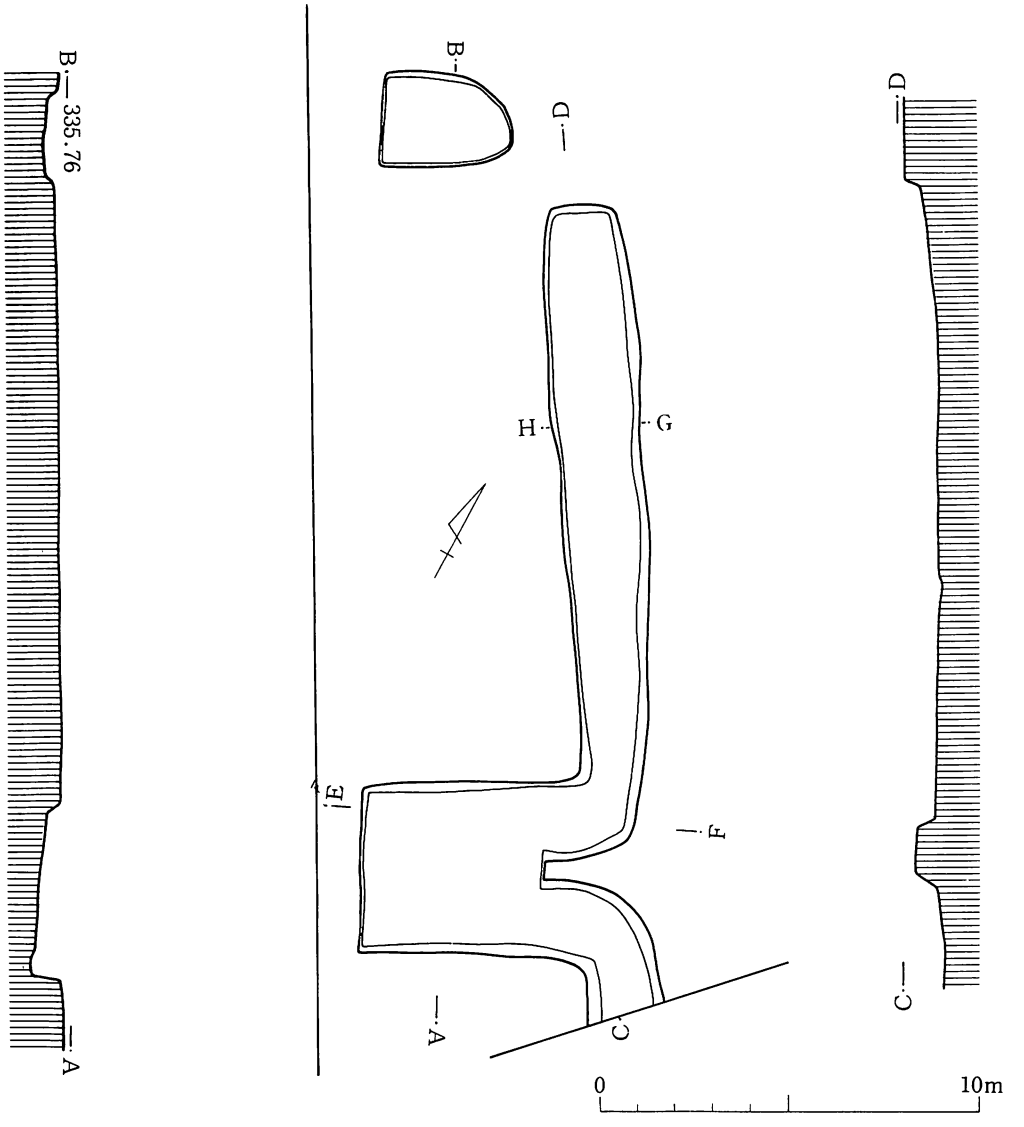
第70図　第111号方形周溝墓実測図



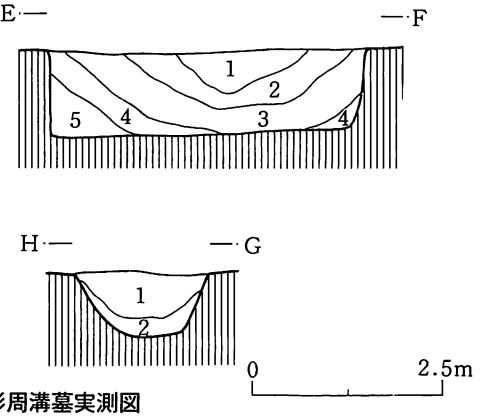
M－N
第1層 黒茶褐色 粘性強、しまり弱い。0、2mm大の赤色スコリア含む
第2層 茶褐色 赤、黄色スコリア含む
第3層 黄茶褐色 黒土の混入あり
O－P
第1層 黒茶褐色 0、2mm大の黄色粒子、木炭粒含む
第2層 暗茶褐色 黄色、赤色スコリア含み、僅かに木炭粒含む
第3層 黄茶褐色 0、2mm大の赤色粒子含む。僅かに黒色土の混入
Q－R
第1層 黒茶褐色 0、2mm大の黄色、赤色粒子多量に含む
第2層 黒褐色 1層と基本的に同
第3層 暗茶褐色 少量の赤色スコリア含む
第4層 黄褐色 粘性しまり、弱い。黒色土の混入



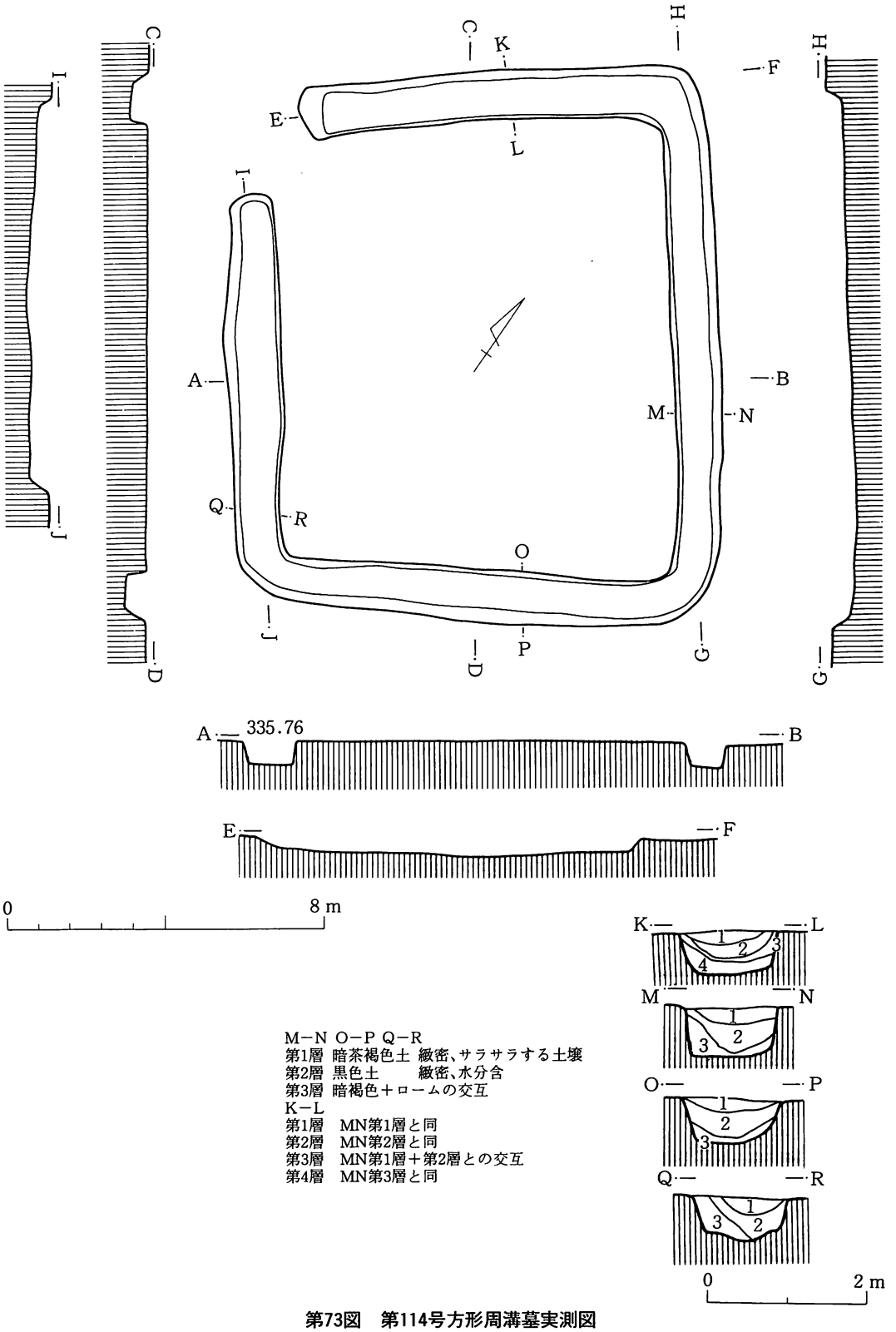
第71図 第112号方形周溝墓実測図



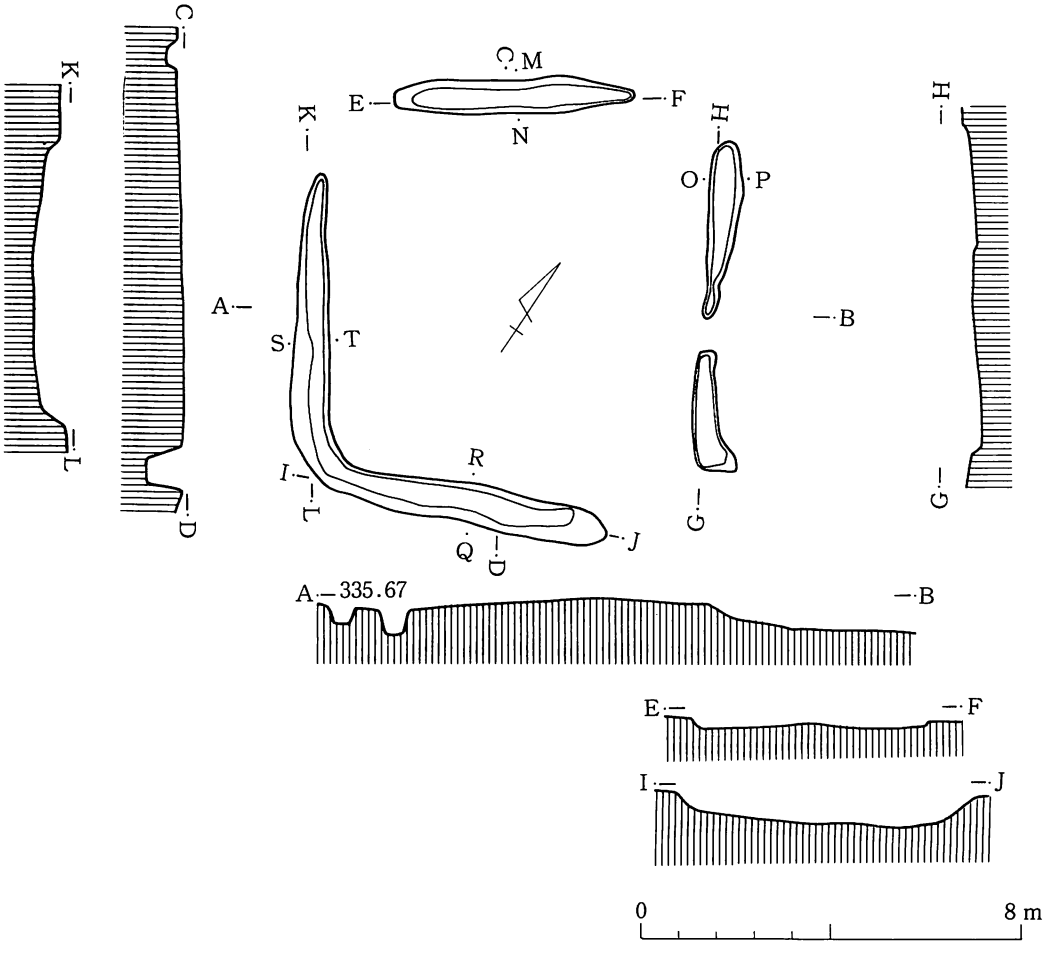
E−F
第1層 黒色土　僅かにロームブロックの混入
第2層 黒茶褐色　1層同よう僅かのロームブロック混入
第3層 暗黄茶褐色 粘性強
第4層 黒色土　粘性強。2㎜大の黄色粒子含む
第5層 暗黄色　ロームブロックとの交互
H−G
第1層 暗茶褐色 粘性強
第2層 茶褐色　粒子細かく粘性強



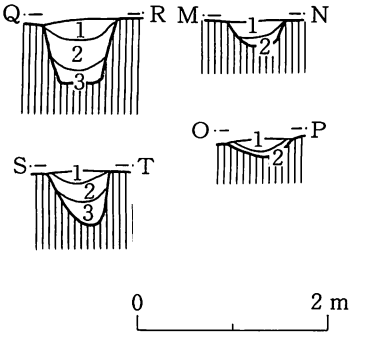
第72図　第113号方形周溝墓実測図



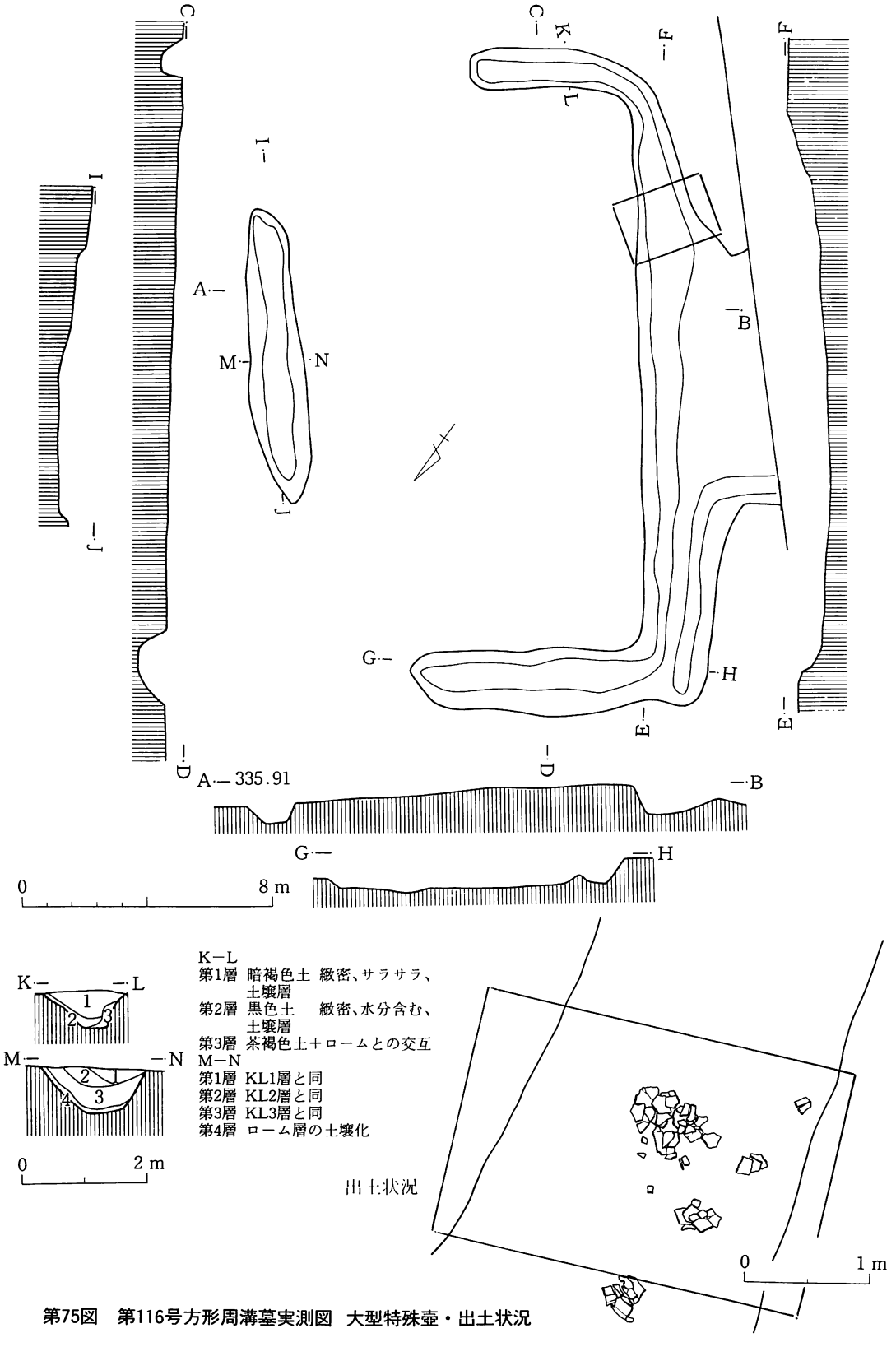
第73図　第114号方形周溝墓実測図



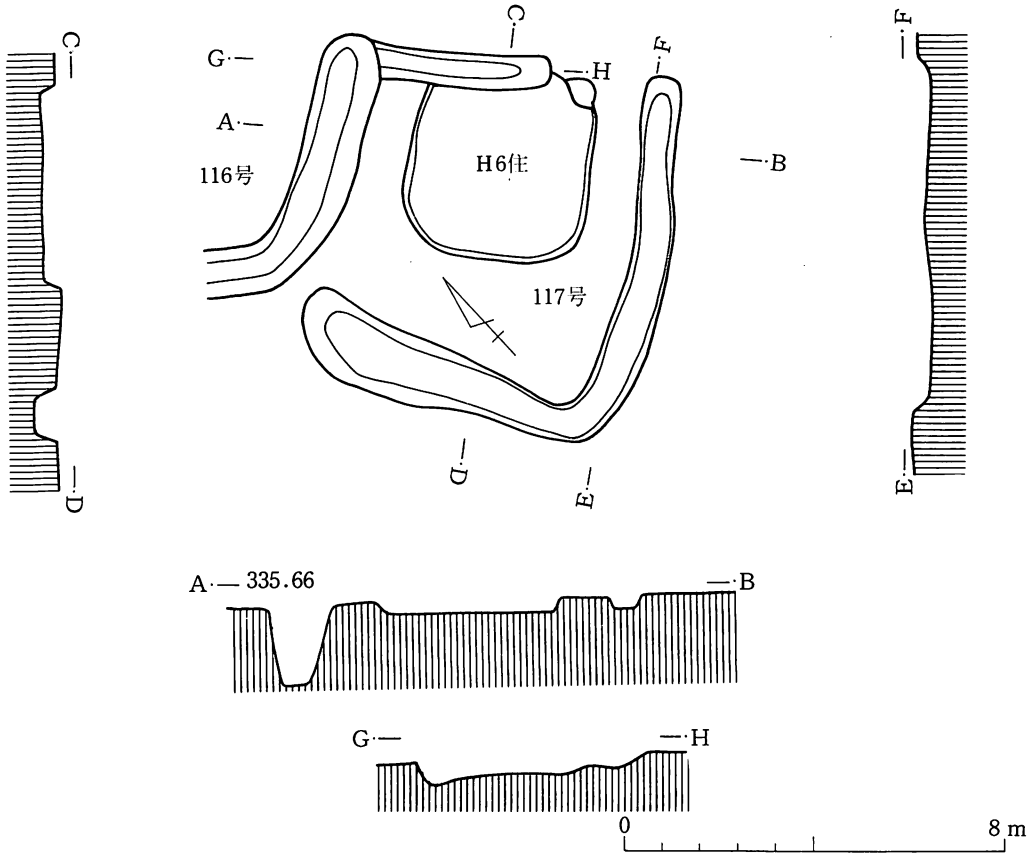
Q−R
第1層 暗茶褐色 粘性しまり強。やや砂質
第2層 茶褐色 粒子粗く、粘性弱い。黄色スコリア含む
第3層 暗褐色 黄色スコリア、5mm大の小石含む
M−N
第1層 暗茶褐色 粒子は均一で粘性強い
第2層 黄色土と黒褐色土との交互層
S−T
第1層 黒茶褐色 粘性しまり強
第2層 暗茶褐色 粘性弱、茶褐色土混入
第3層 黒褐色＋ロームブロックとの交互層
O−P
第1層 MN1層と同
第2層 MN2層と同



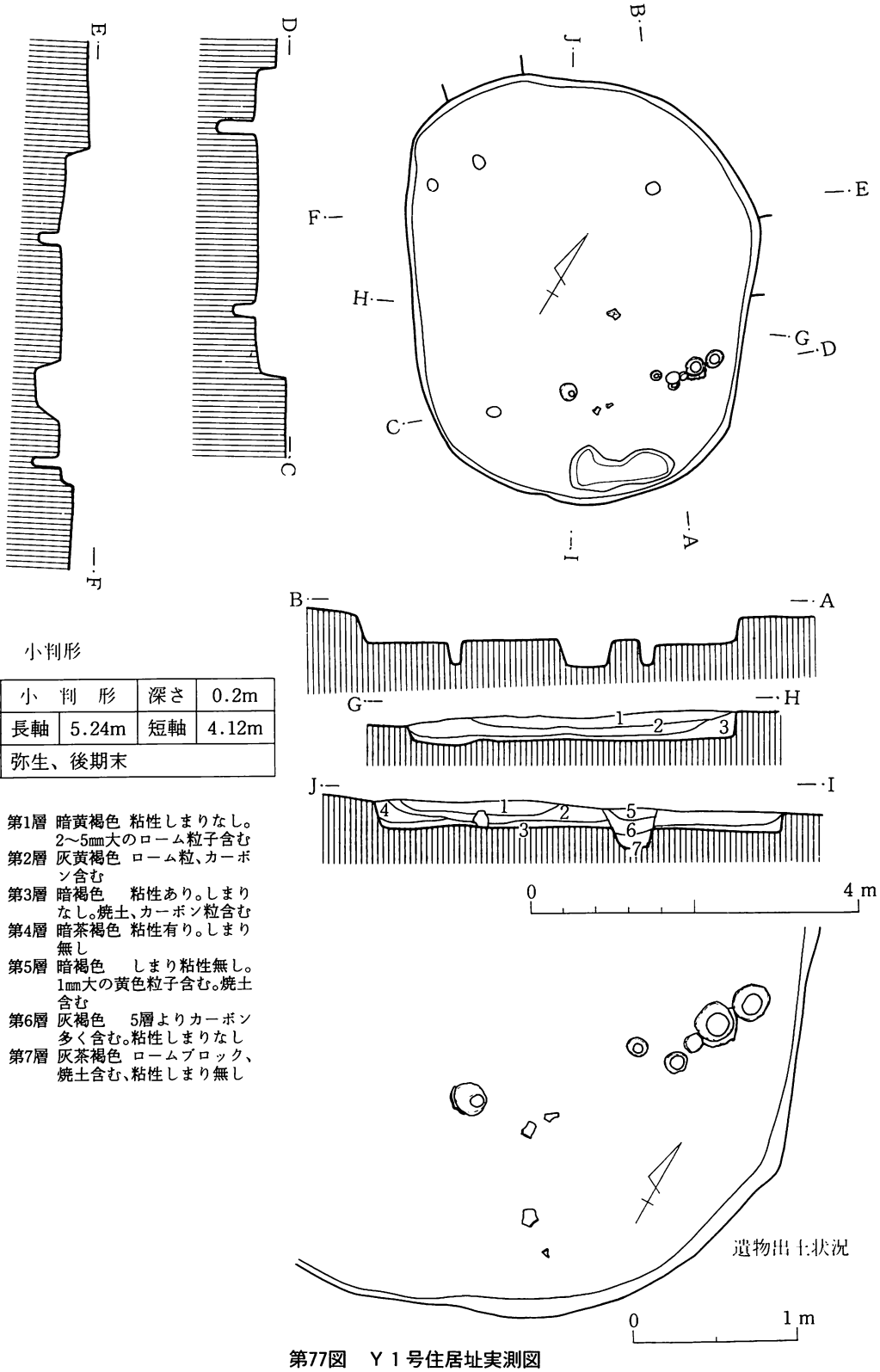
第74図　第115号方形周溝墓実測図



第75図　第116号方形周溝墓実測図　大型特殊壺・出土状況



第76図　第117号方形周溝墓実測図

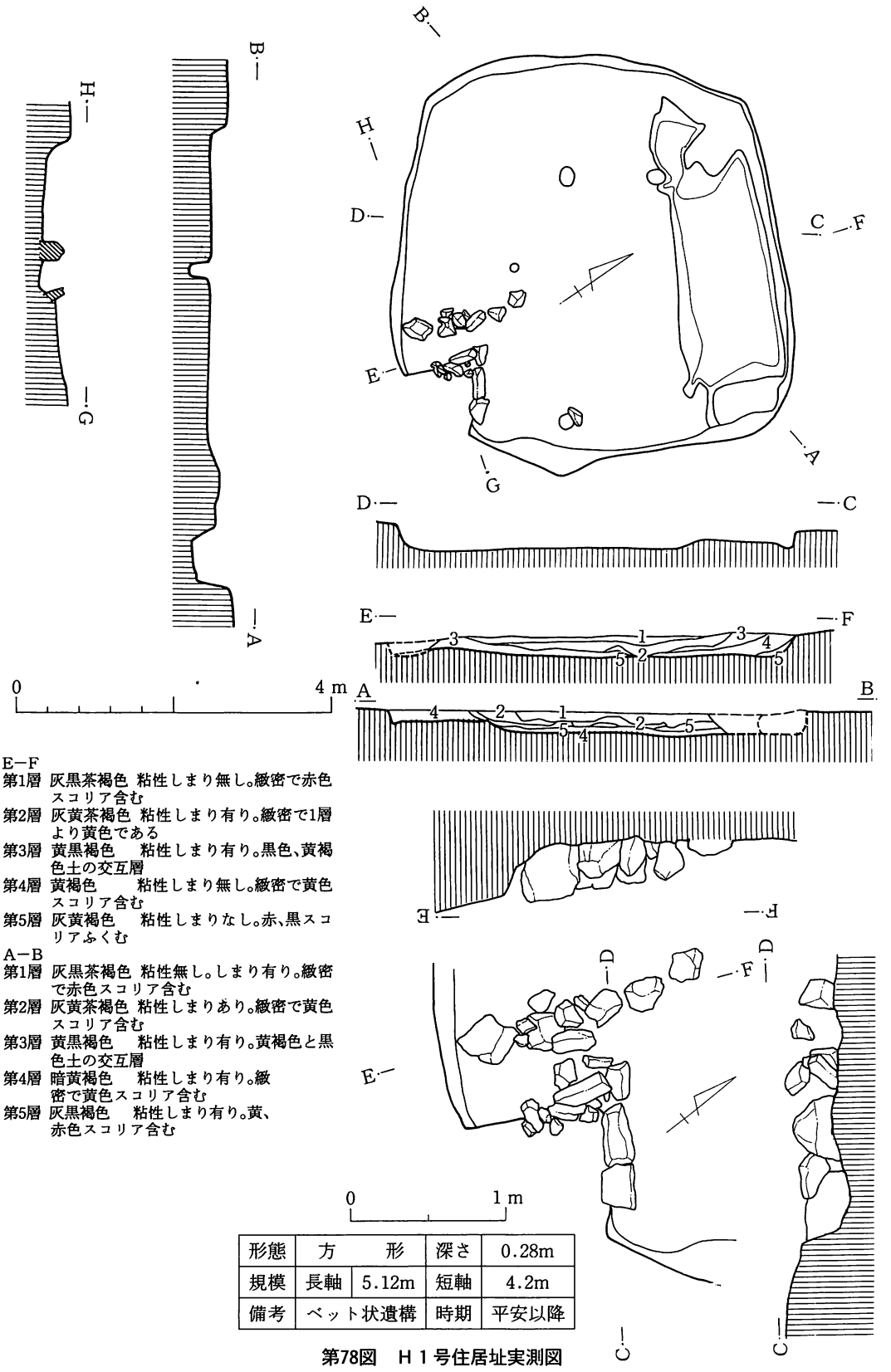


小判形

形態	小　判　形		深さ	0.2m
規模	長軸	5.24m	短軸	4.12m
時期	弥生、後期末			

第1層　暗黄褐色　粘性しまりなし。2～5㎜大のローム粒子含む
第2層　灰黄褐色　ローム粒、カーボン含む
第3層　暗褐色　粘性あり。しまりなし。焼土、カーボン粒含む
第4層　暗茶褐色　粘性有り。しまり無し
第5層　暗褐色　しまり粘性無し。1㎜大の黄色粒子含む。焼土含む
第6層　灰褐色　5層よりカーボン多く含む。粘性しまりなし
第7層　灰茶褐色　ロームブロック、焼土含む、粘性しまり無し

第77図　Ｙ１号住居址実測図

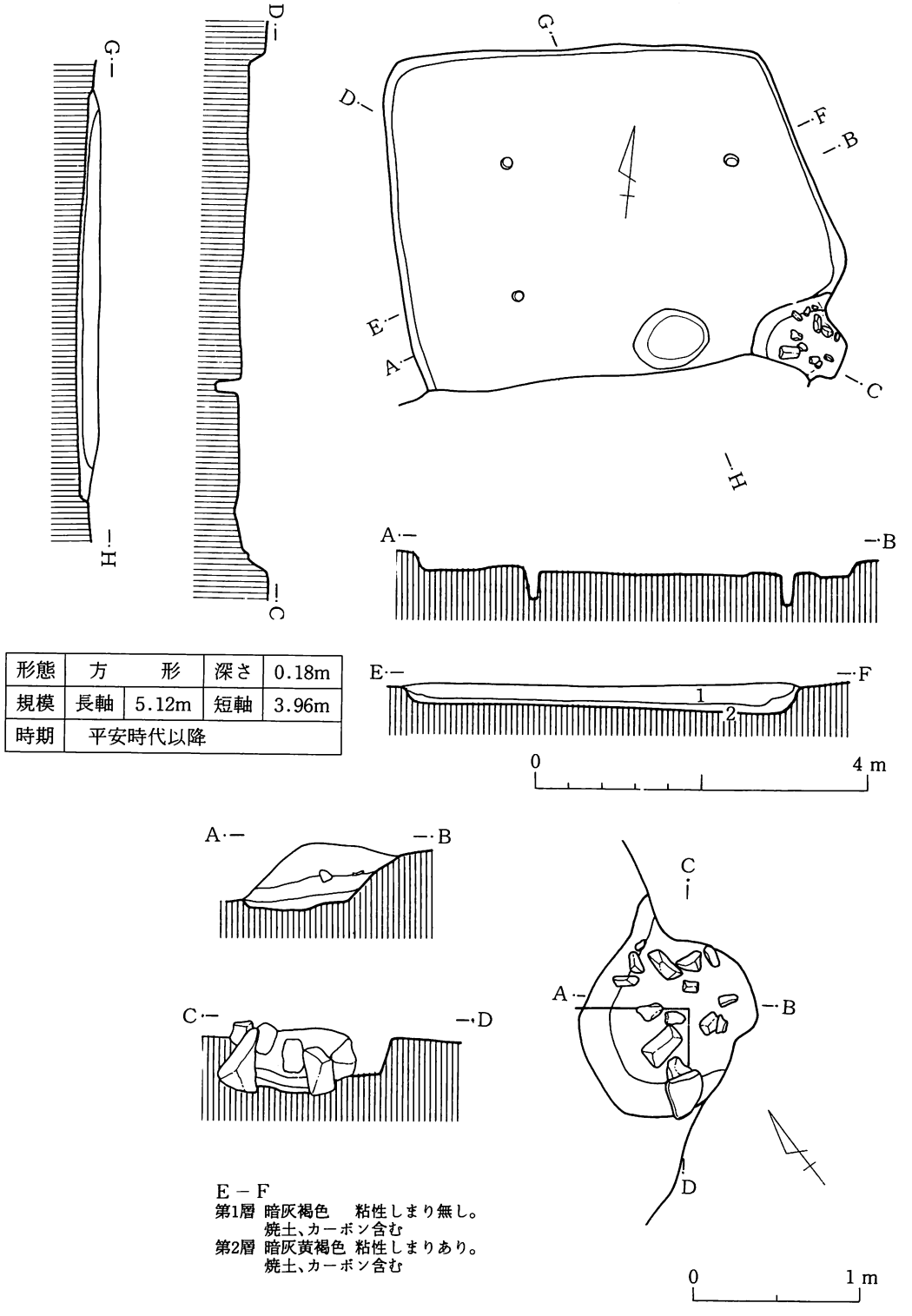


E−F
第1層 灰黒茶褐色 粘性しまり無し。緻密で赤色スコリア含む
第2層 灰黄茶褐色 粘性しまり有り。緻密で1層より黄色である
第3層 黄黒褐色 粘性しまり有り。黒色、黄褐色土の交互層
第4層 黄褐色 粘性しまり無し。緻密で黄色スコリア含む
第5層 灰黄褐色 粘性しまりなし。赤、黒スコリアふくむ

A−B
第1層 灰黒茶褐色 粘性無し。しまり有り。緻密で赤色スコリア含む
第2層 灰黄茶褐色 粘性しまりあり。緻密で黄色スコリア含む
第3層 黄黒褐色 粘性しまり有り。黄褐色と黒色土の交互層
第4層 暗黄褐色 粘性しまり有り。緻密で黄色スコリア含む
第5層 灰黒褐色 粘性しまり有り。黄、赤色スコリア含む

形態	方　　形		深さ	0.28m
規模	長軸	5.12m	短軸	4.2m
備考	ベット状遺構		時期	平安以降

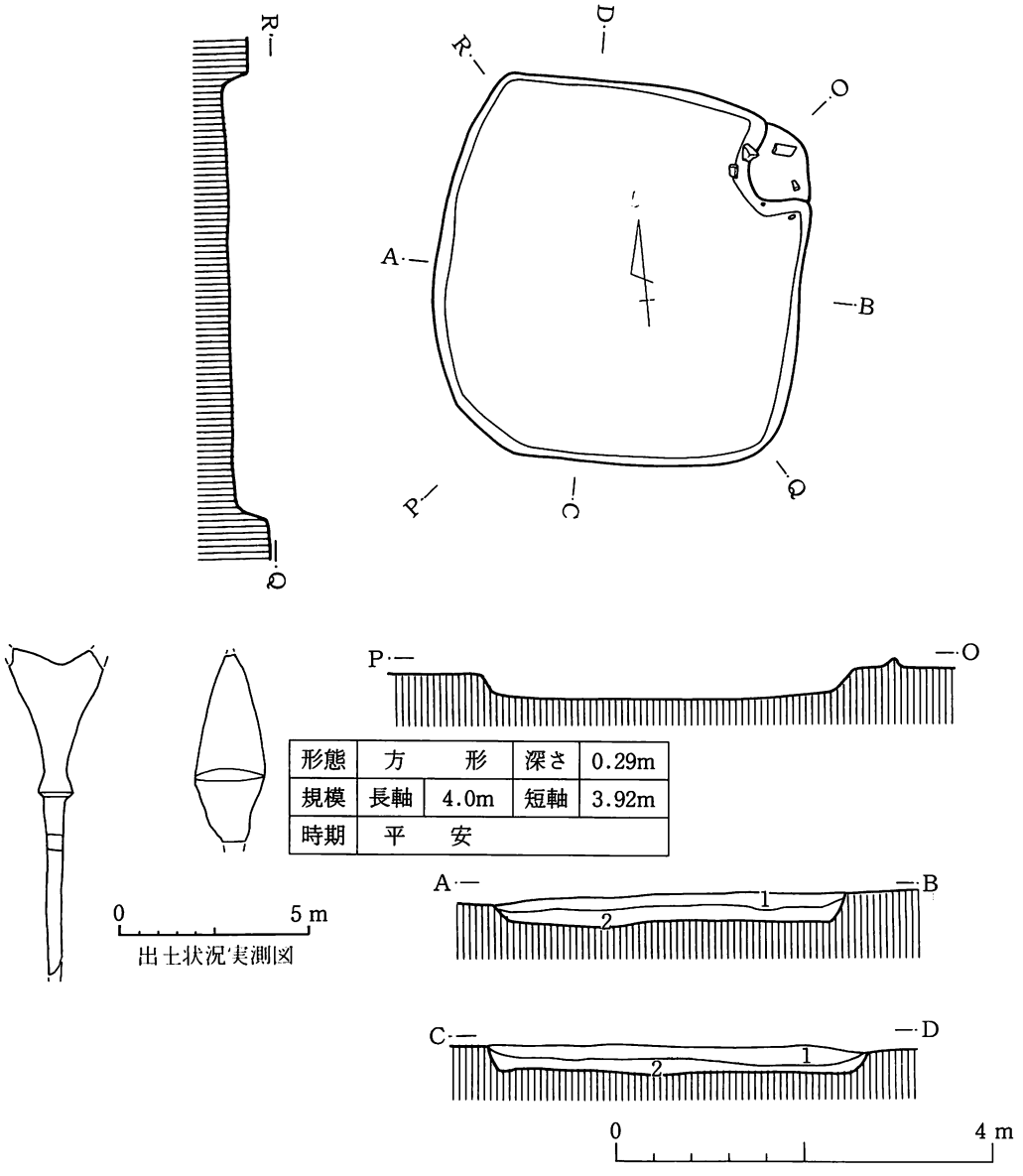
第78図　Ｈ１号住居址実測図



形態	方　　形		深さ	0.18m
規模	長軸	5.12m	短軸	3.96m
時期	平安時代以降			

E－F
第1層 暗灰褐色　粘性しまり無し。
焼土、カーボン含む
第2層 暗灰黄褐色 粘性しまりあり。
焼土、カーボン含む

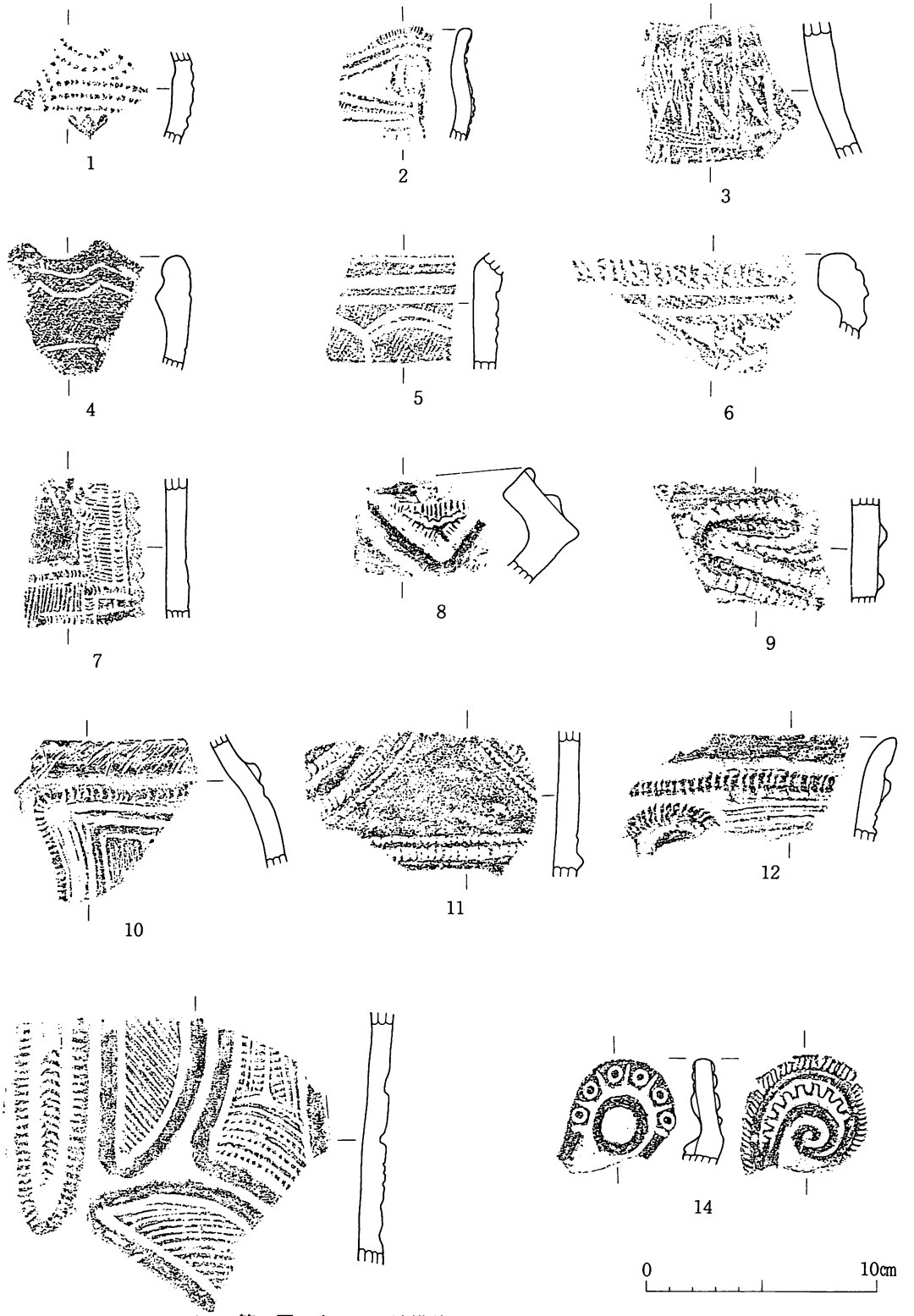
第79図　Ｈ２号住居址実測図



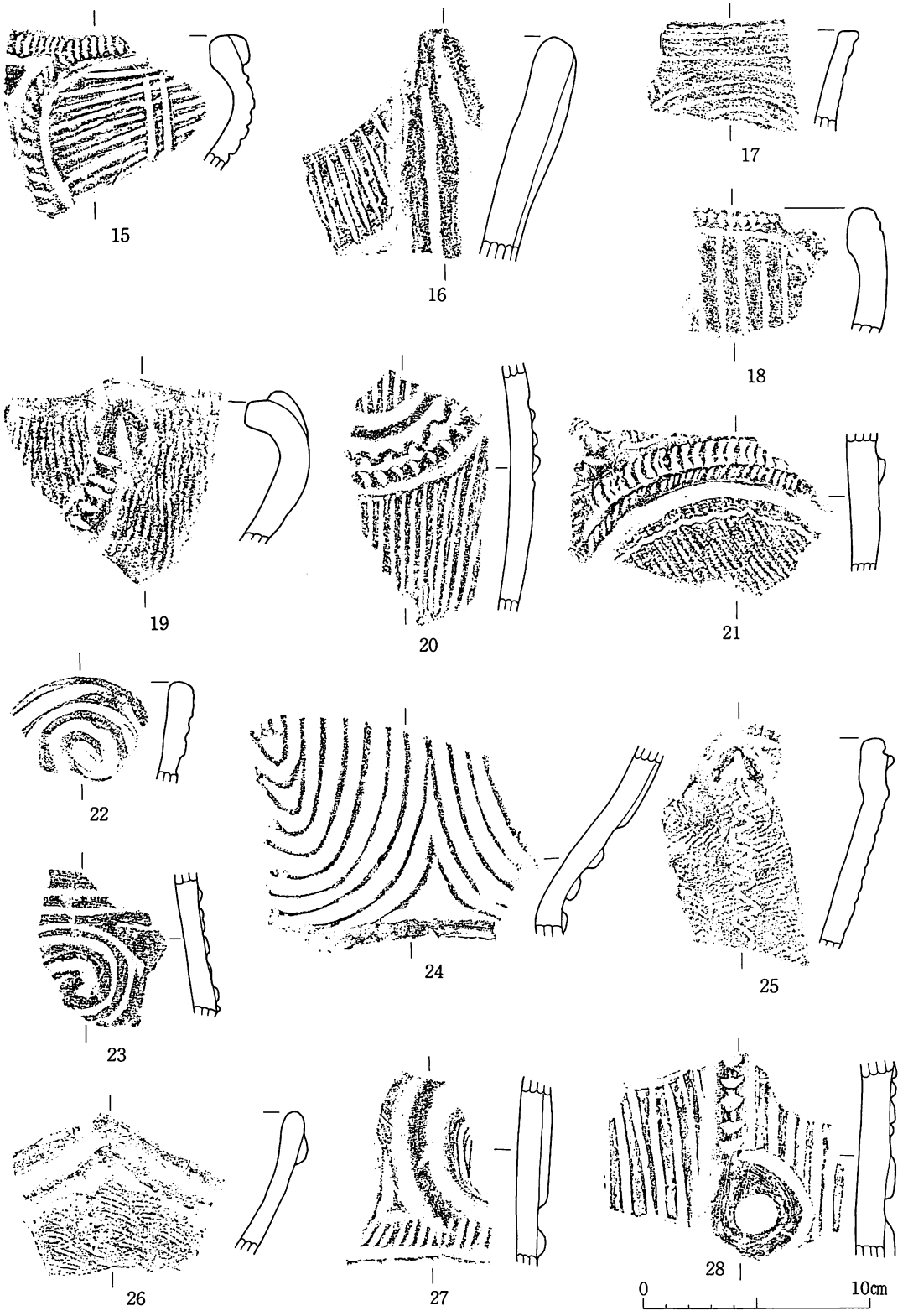
形態	方　　形		深さ	0.29m
規模	長軸	4.0m	短軸	3.92m
時期	平　　安			

A−B
第1層 暗灰色 粘性しまりやや有り。焼土、カーボン含む
第2層 暗灰色 粘性無し。しまり有り。カーボン、黄色スコリア含む
C−D
第1層 暗灰色　 粘性しまり有り。カーボン、焼土ふくむ
第2層 暗黄灰色 粘性無し。しまり有り。カーボン、焼土含む

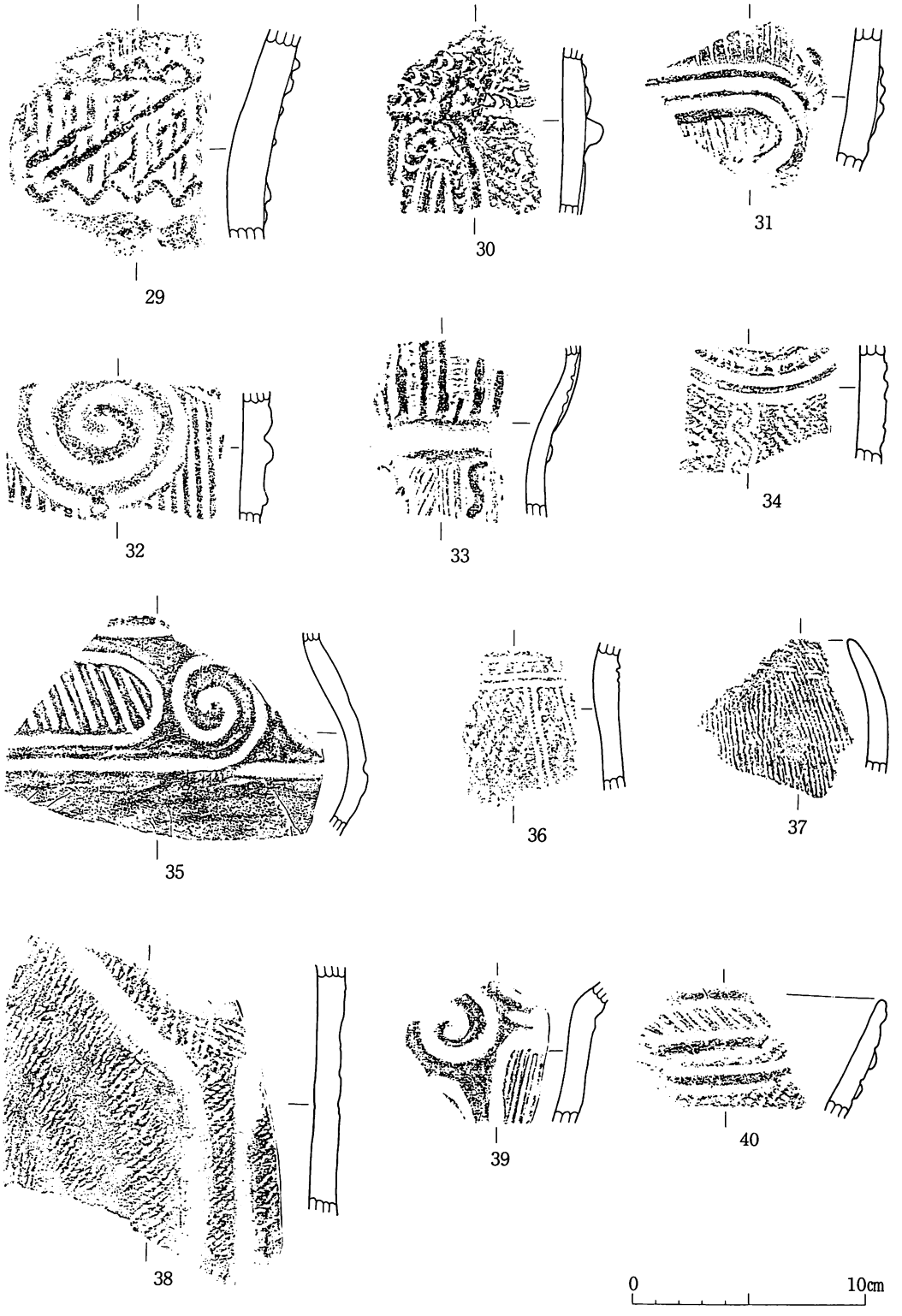
第80図　Ｈ３号住居址測図



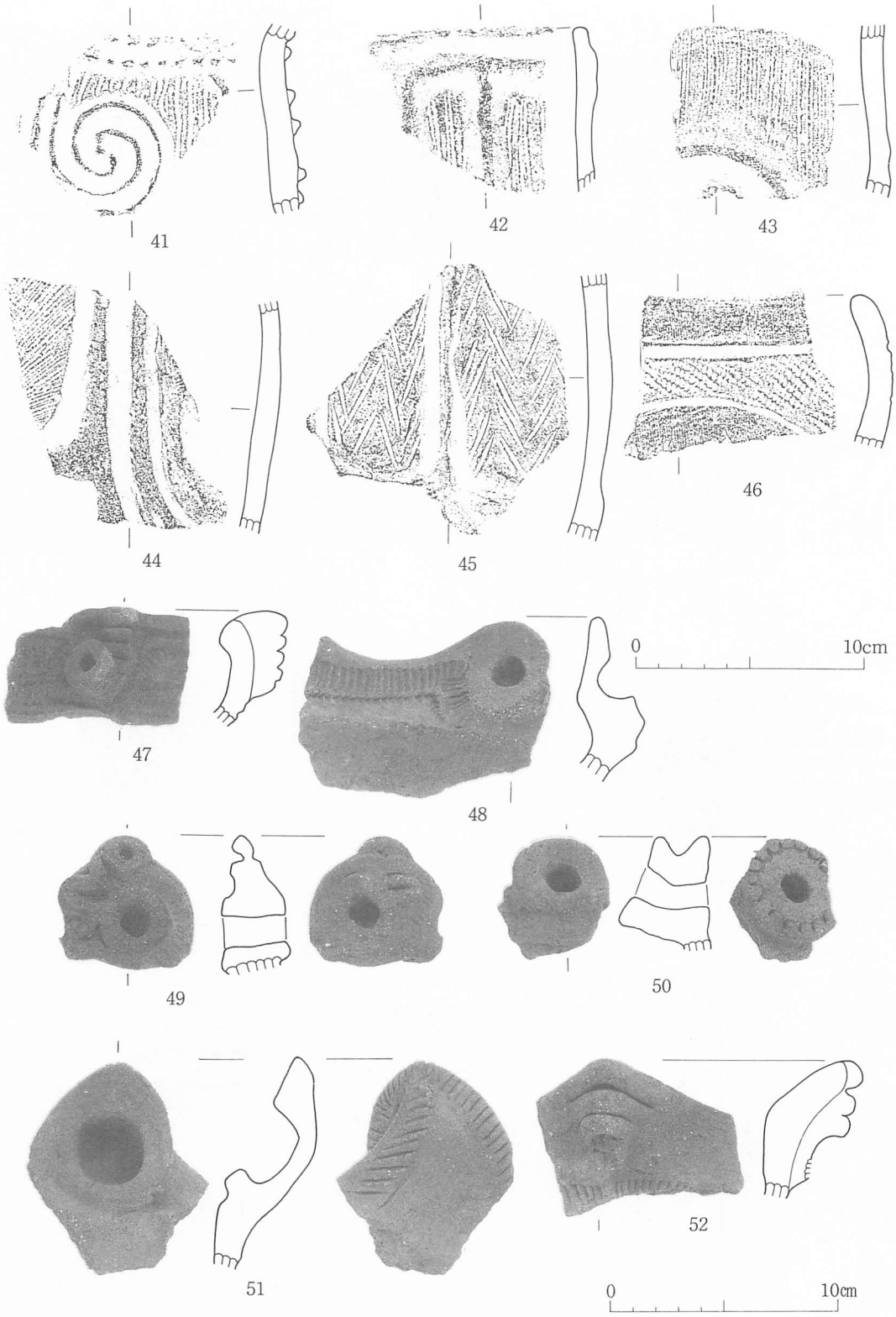
第81図　上の平・遺構外出土土器縄文時代（その１）



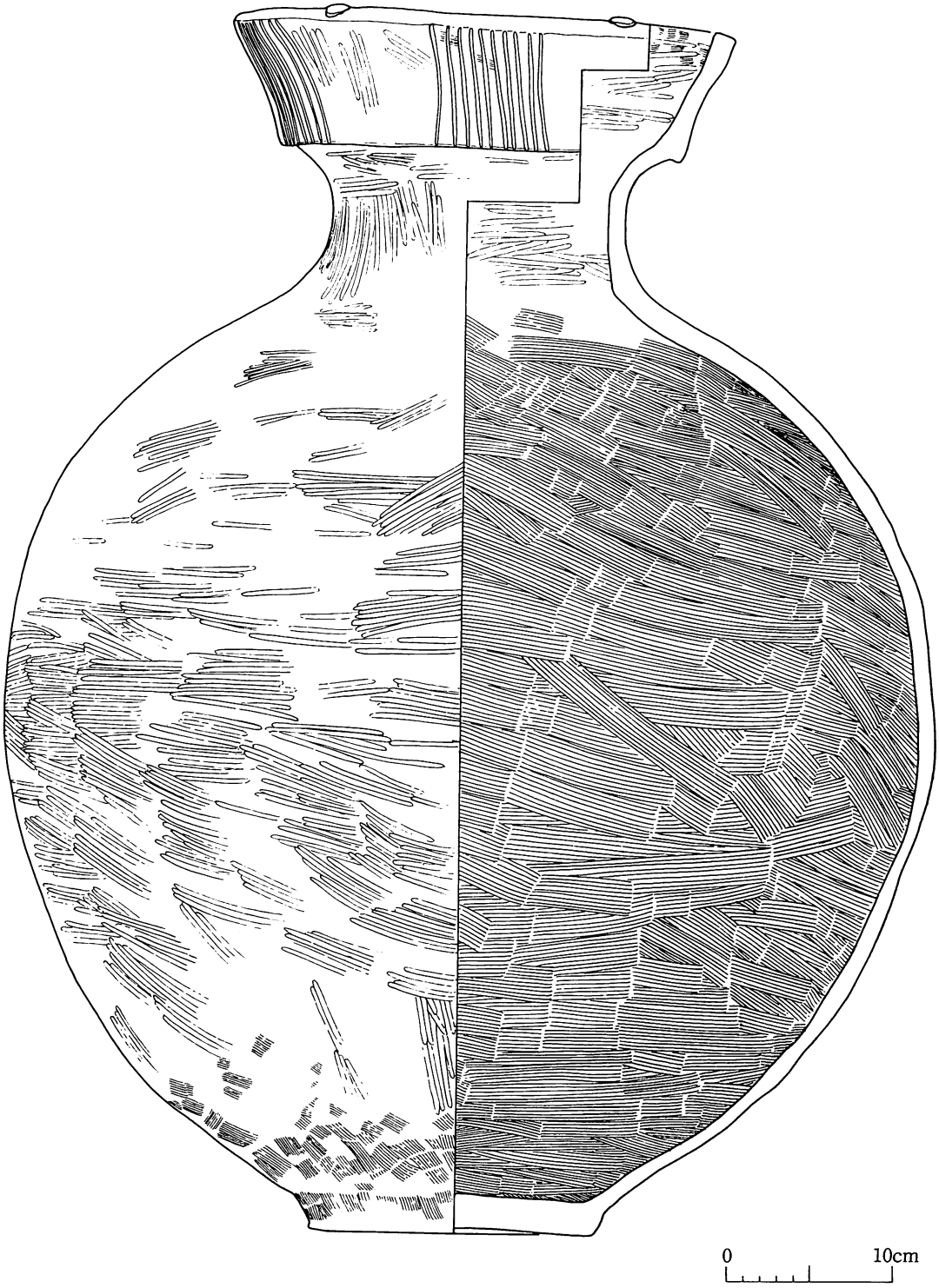
第82図　上の平・遺構外出土土器縄文時代（その２）



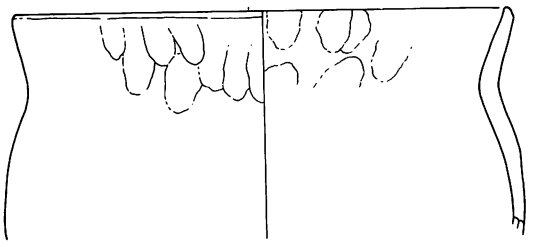
第83図　上の平・遺構外出土土器縄文時代（その３）



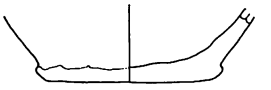
第84図　上の平・遺構外出土土器縄文時代（その４）



第85図　第１号方形周溝墓出土土器

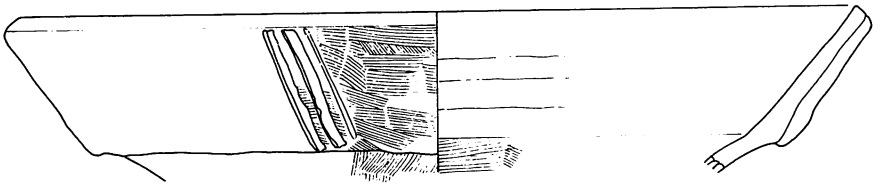


1（S1−2）

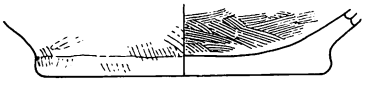


2（S1−3）

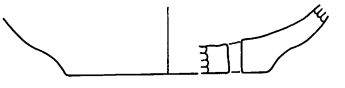
3（S2−1）

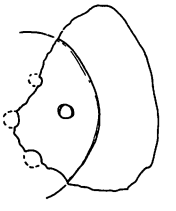


4（S5−1）

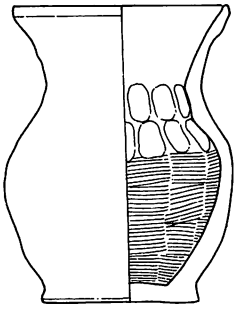


5（S5−2）

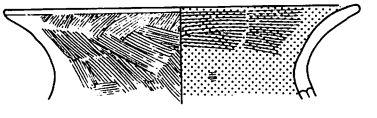




6（S5−3）



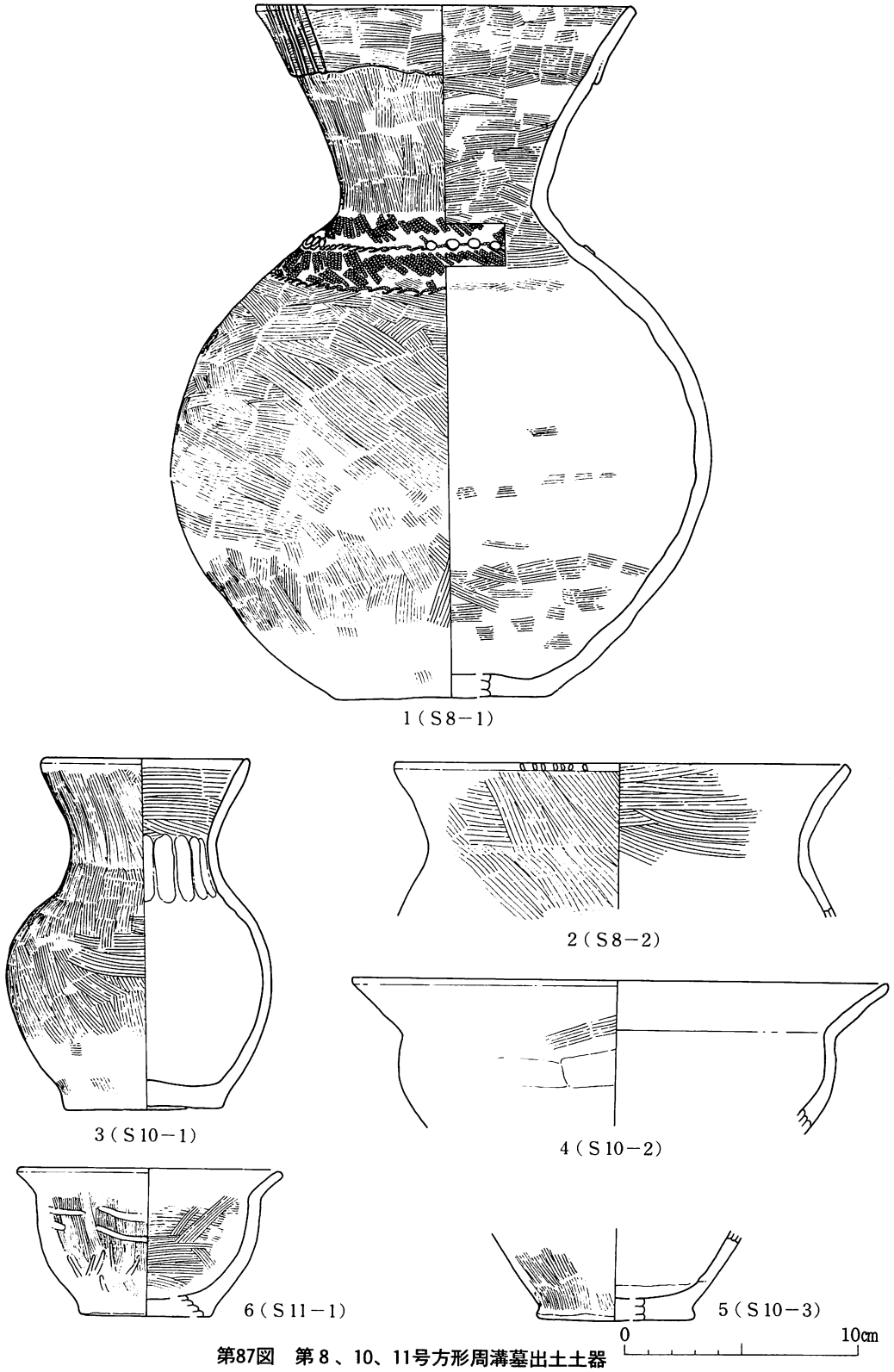
8（S7−1）



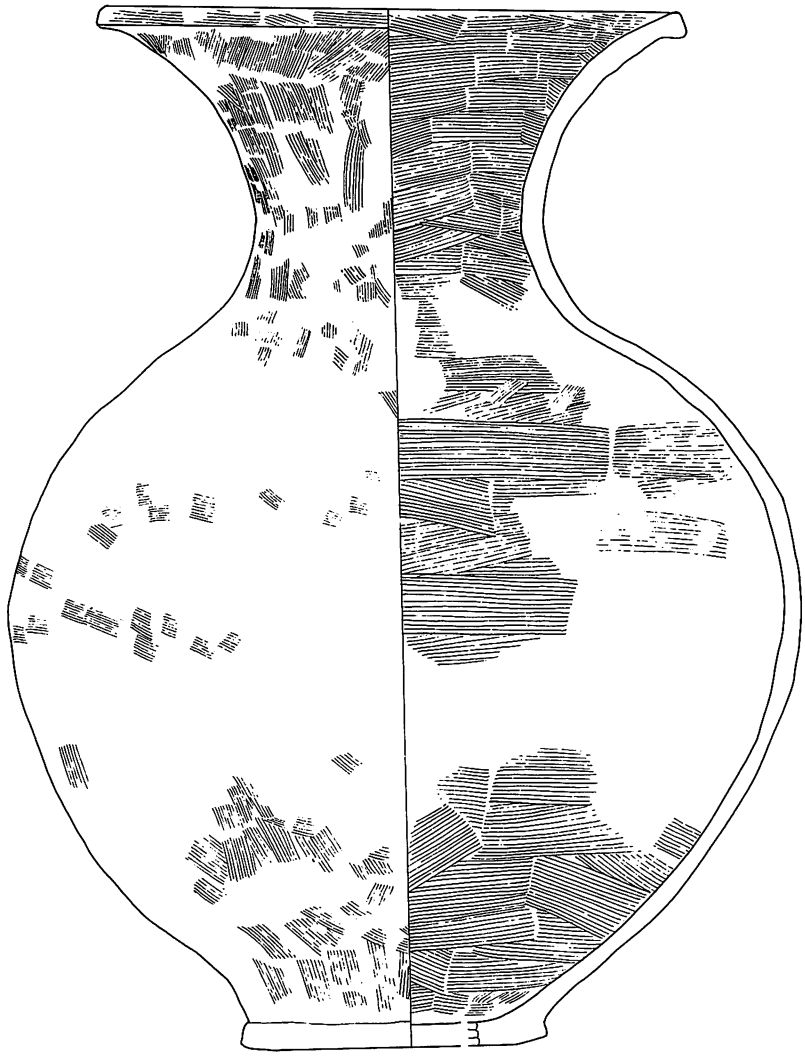
7（S5−4）

0　10cm

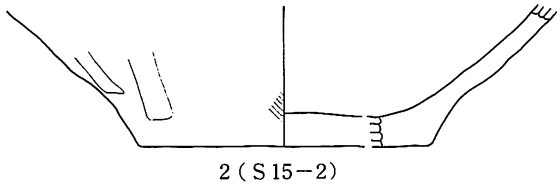
第86図　第1、2、5、7号方形周溝墓出土土器



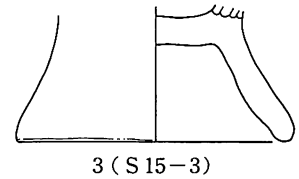
第87図　第８、10、11号方形周溝墓出土土器



1（S 15－1）



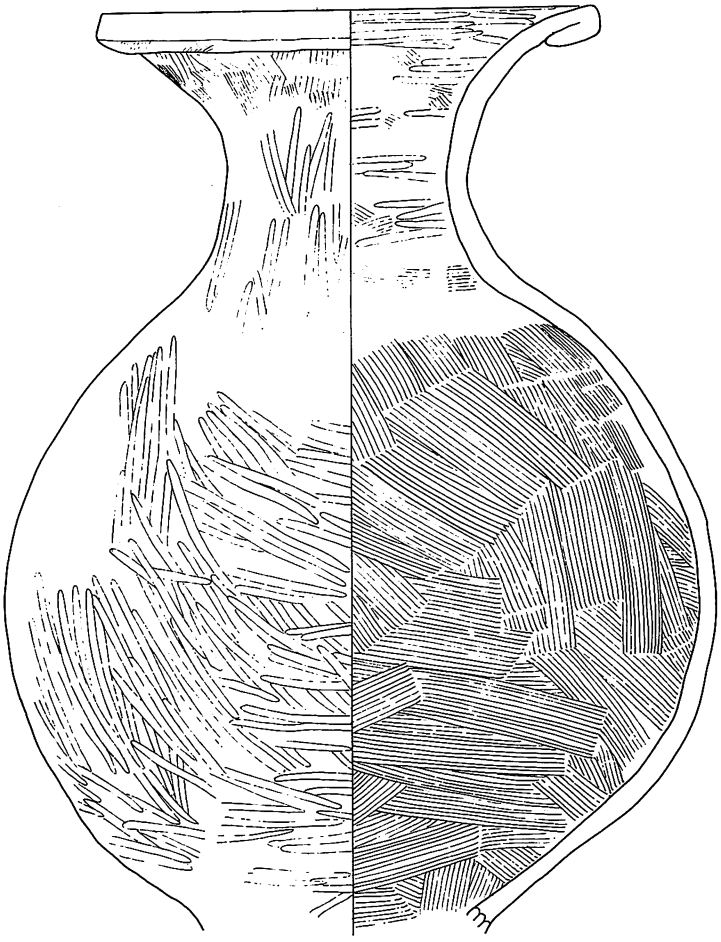
2（S 15－2）



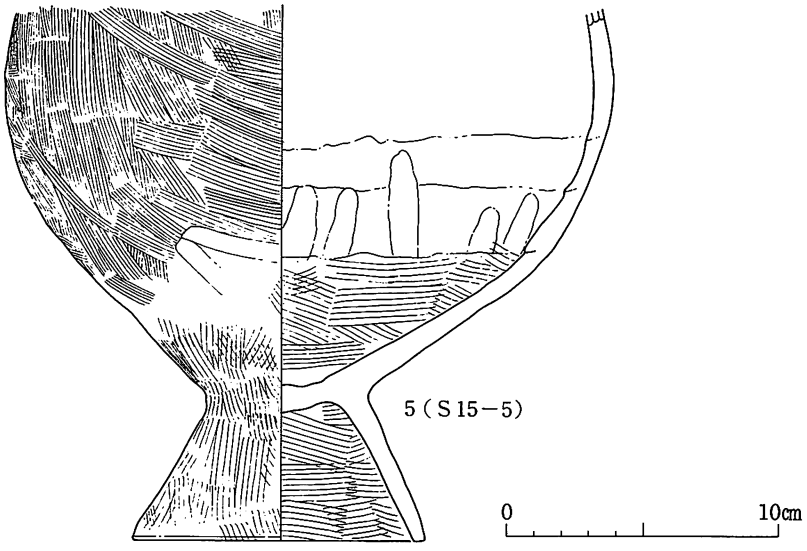
3（S 15－3）

0　10cm

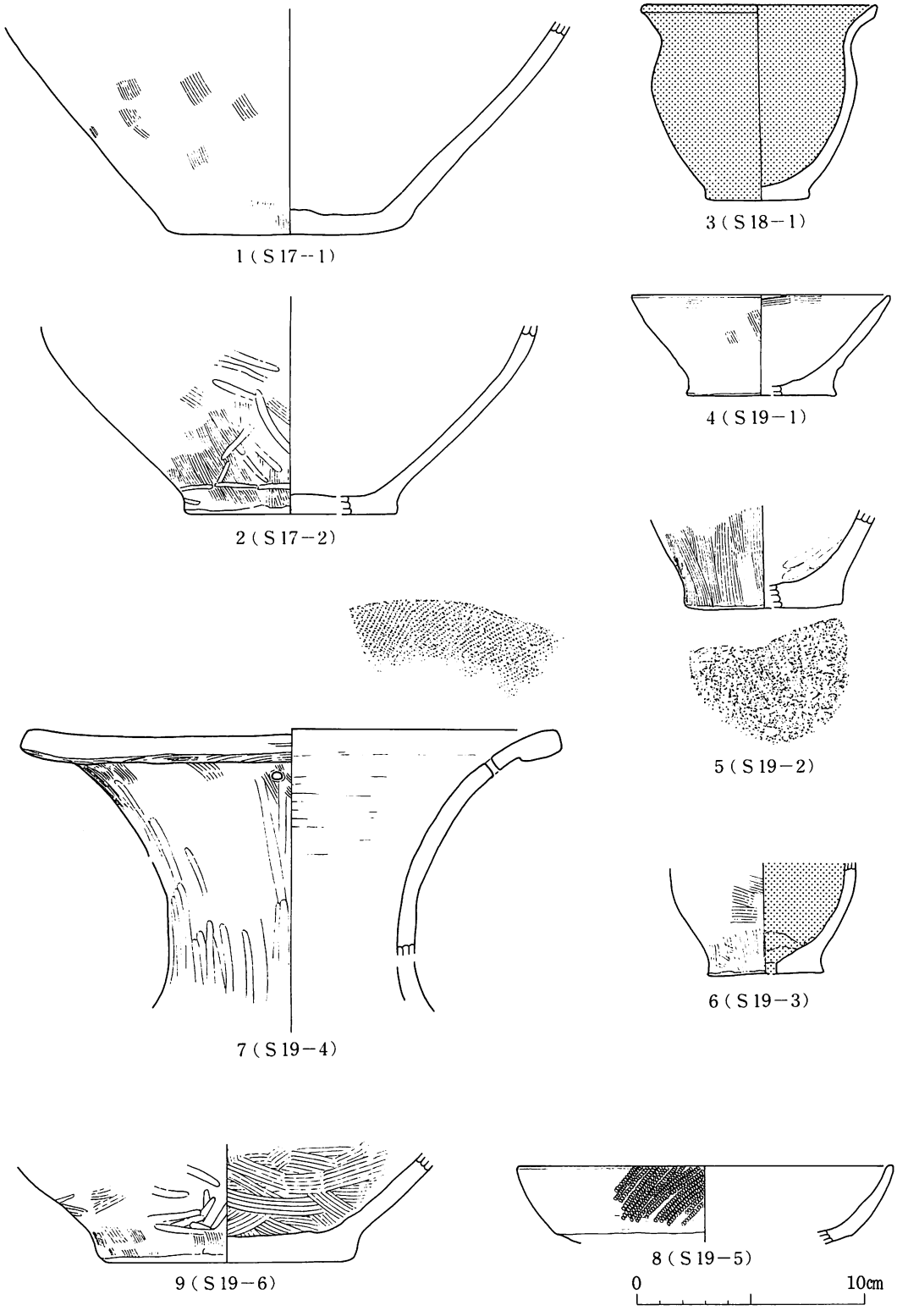
第88図　第15号方形周溝墓出土土器



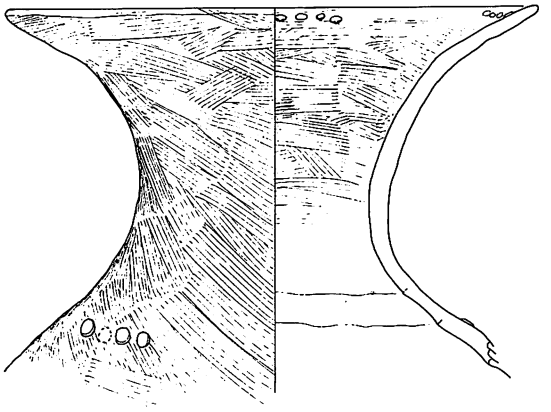
4（S 15－4）



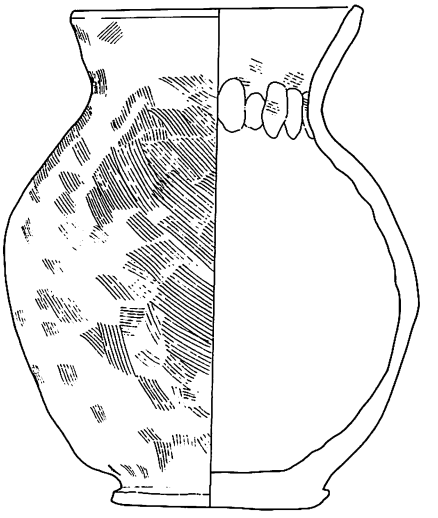
第89図　第15号方形周溝墓出土土器

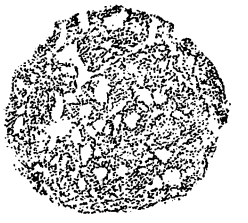


第90図　第17、18、19号方形周溝墓出土土器

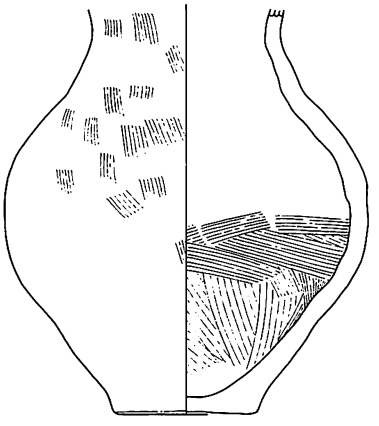


1（S17－3）



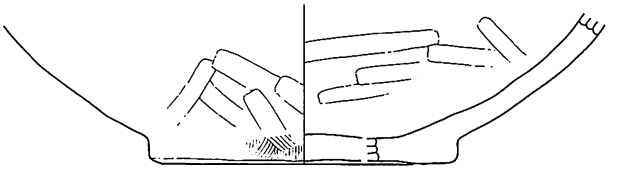


2（S20－1）



3（S20－2）

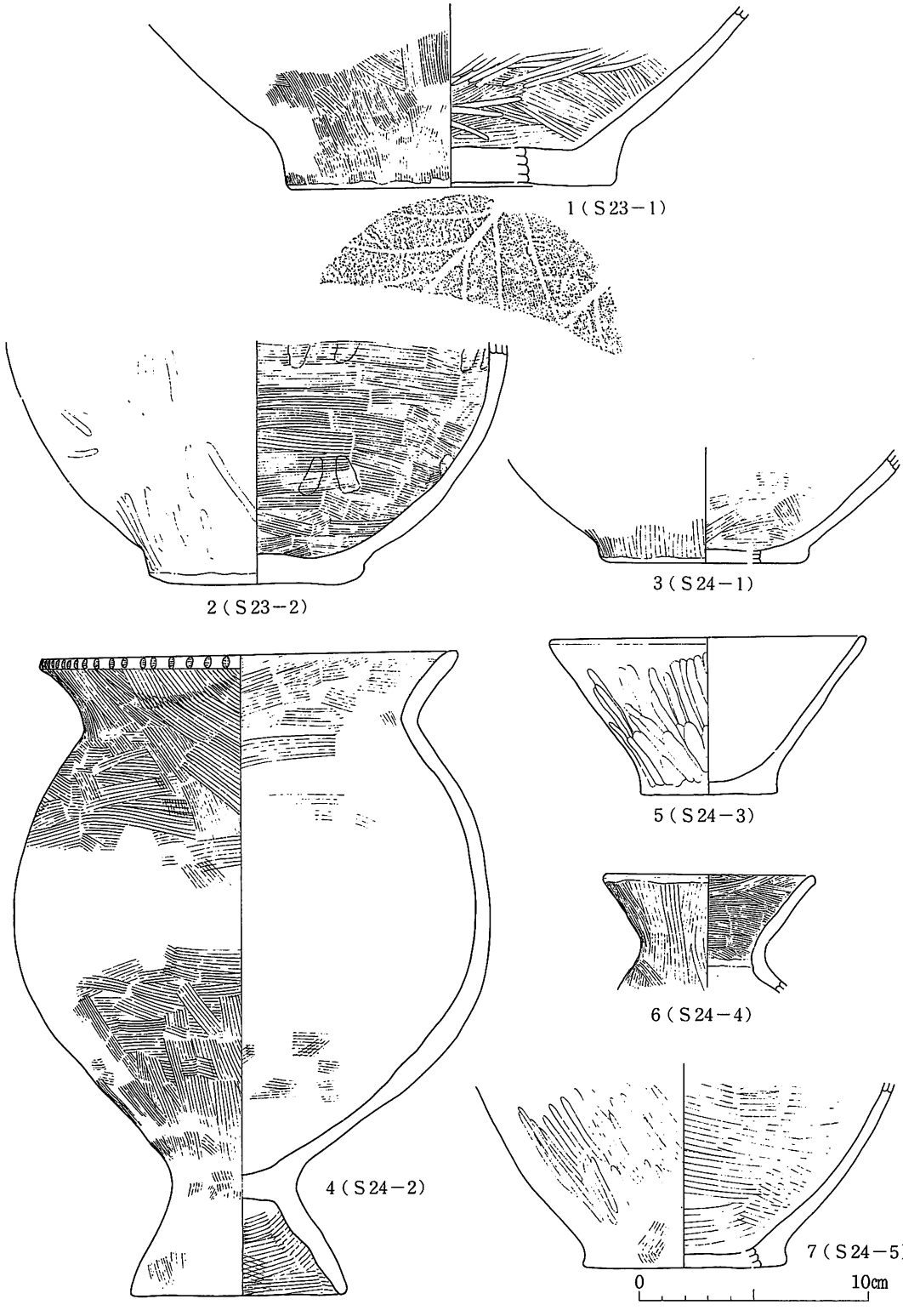
4（S20－3）



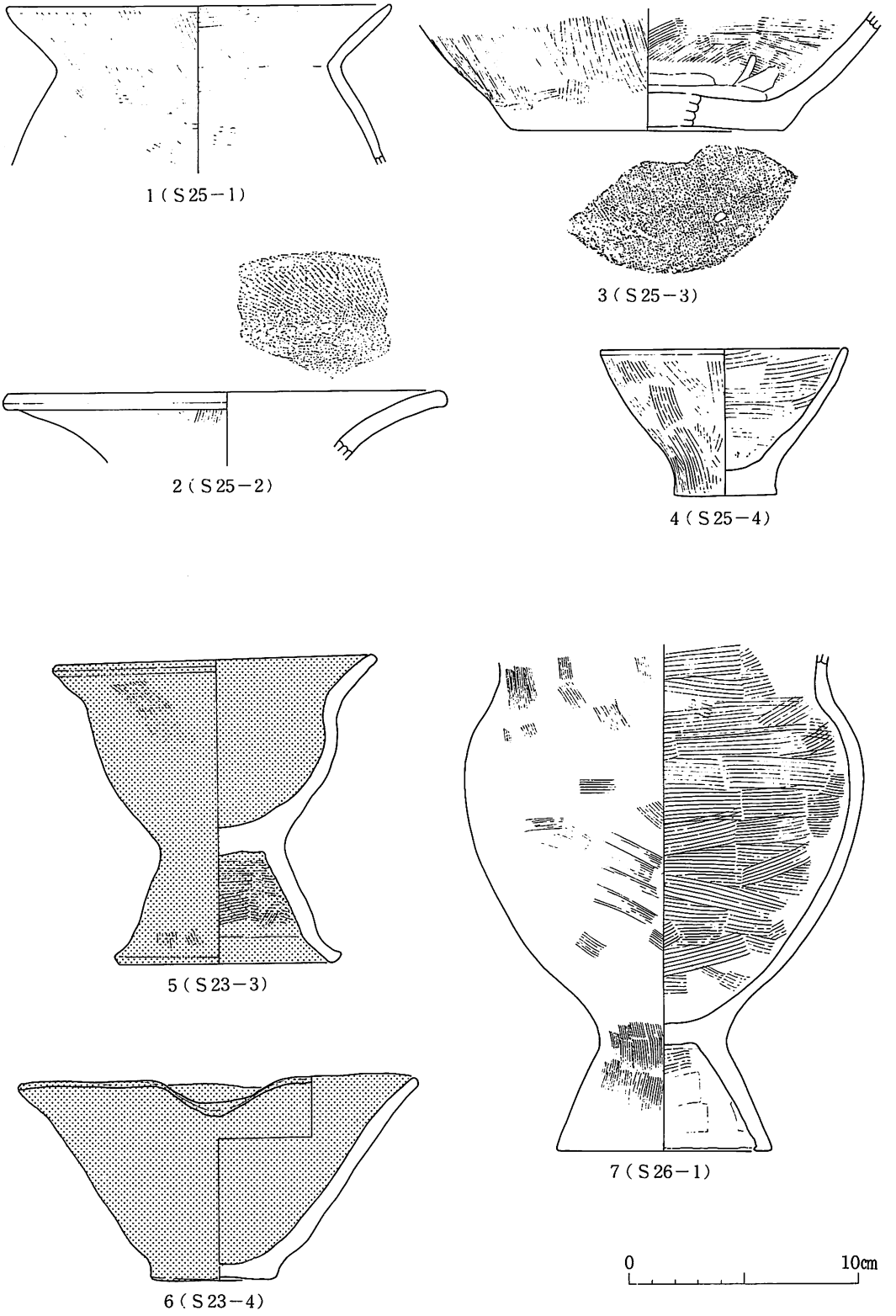
5（S21－1）

0　10cm

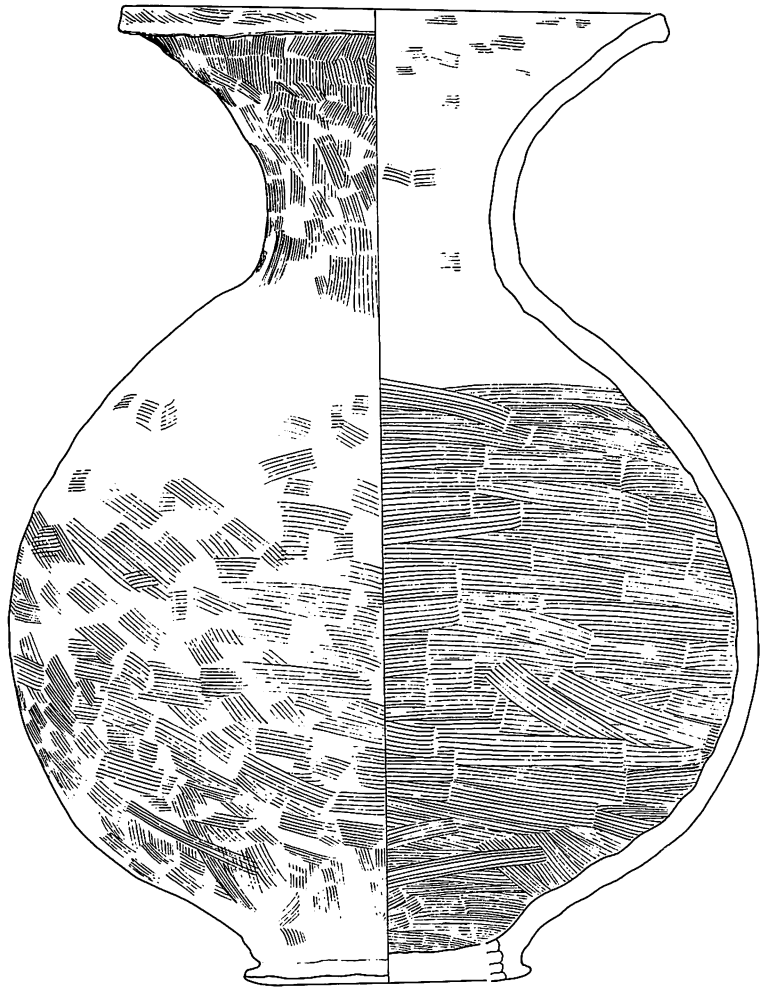
第91図　第17、20、21号方形周溝墓出土土器



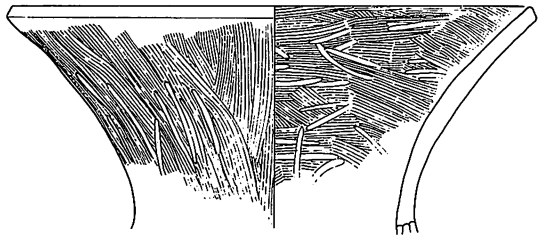
第92図　第23、24号方形周溝墓出土土器



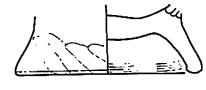
第93図　第23、25、26号方形周溝墓出土土器



1（S27－1）



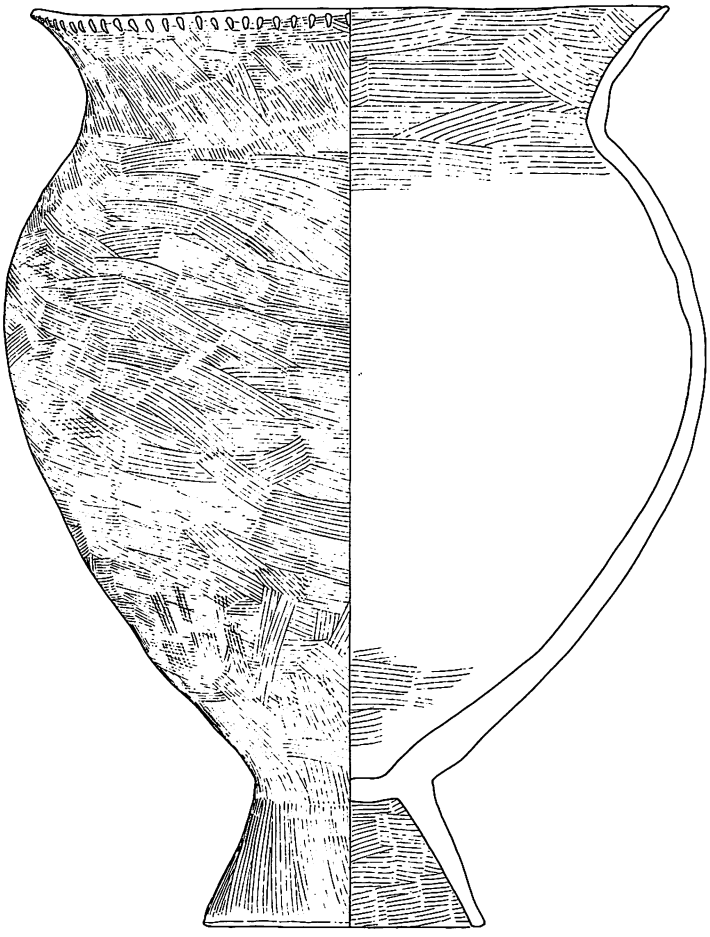
3（S27－3）



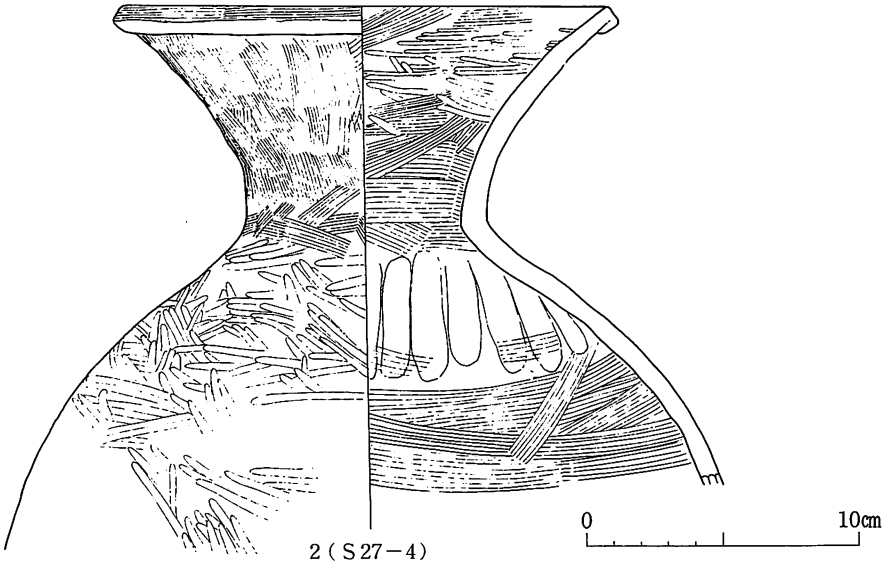
2（S27－2）

0　10cm

第94図　第27号方形周溝墓出土土器

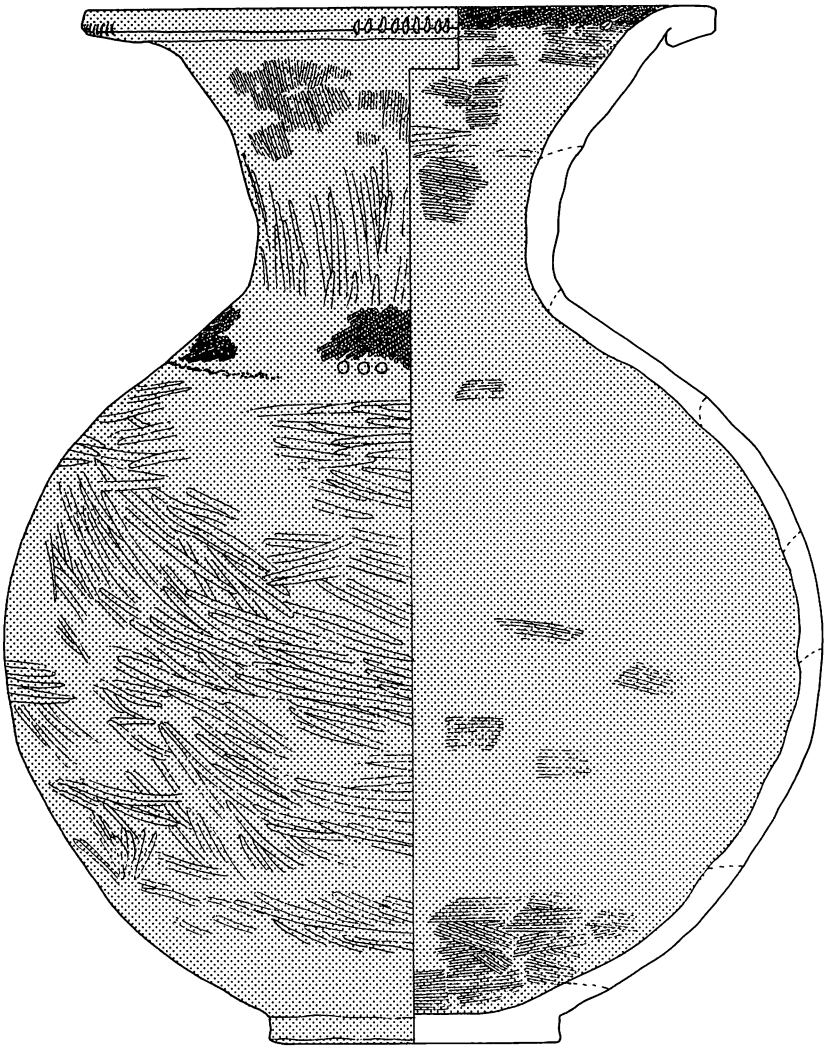


1（S34－1）

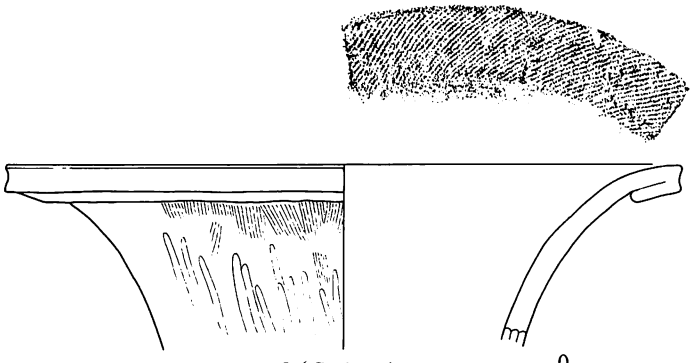


2（S27－4）

第95図　第27、34号方形周溝墓出土土器



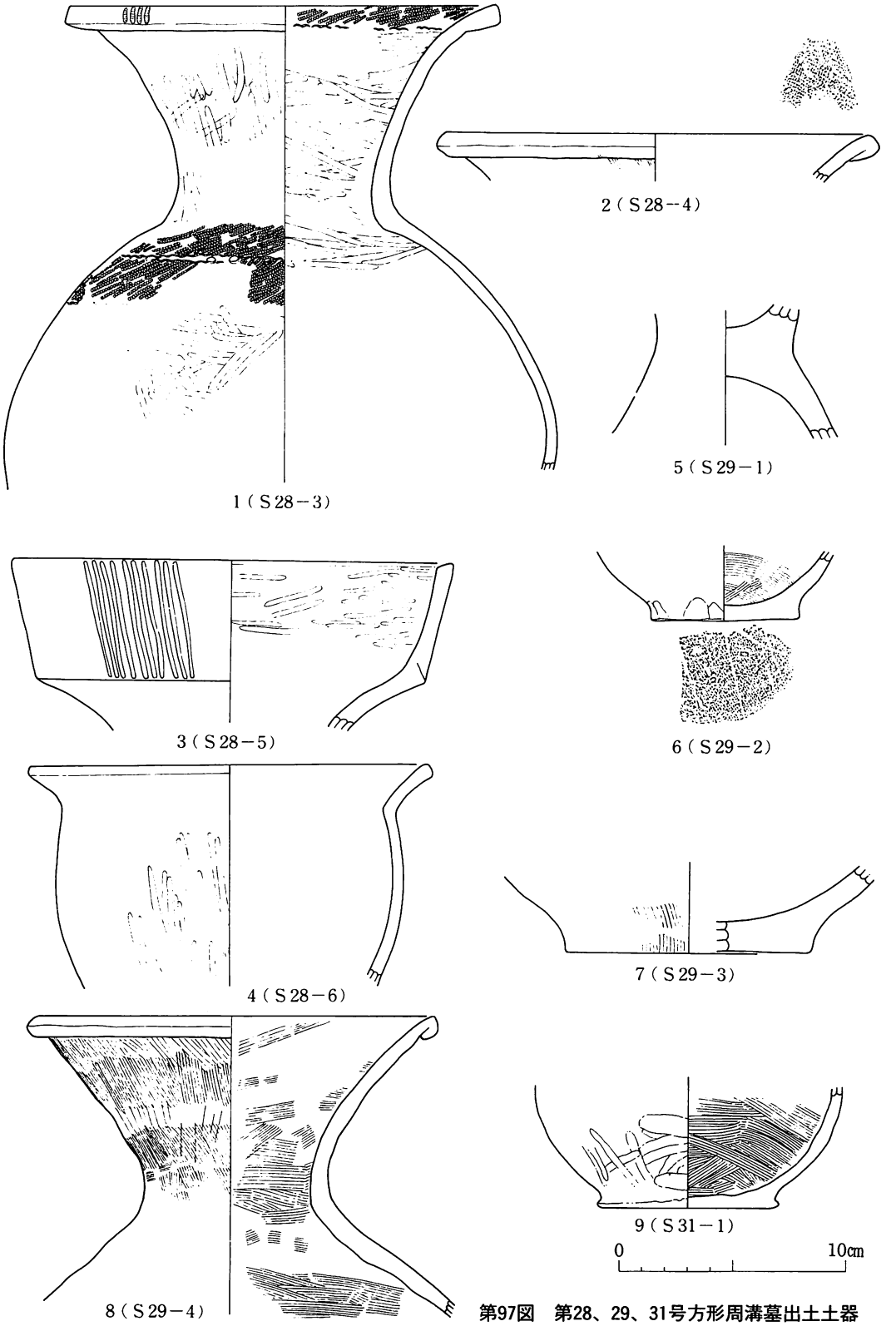
1（S28－1）



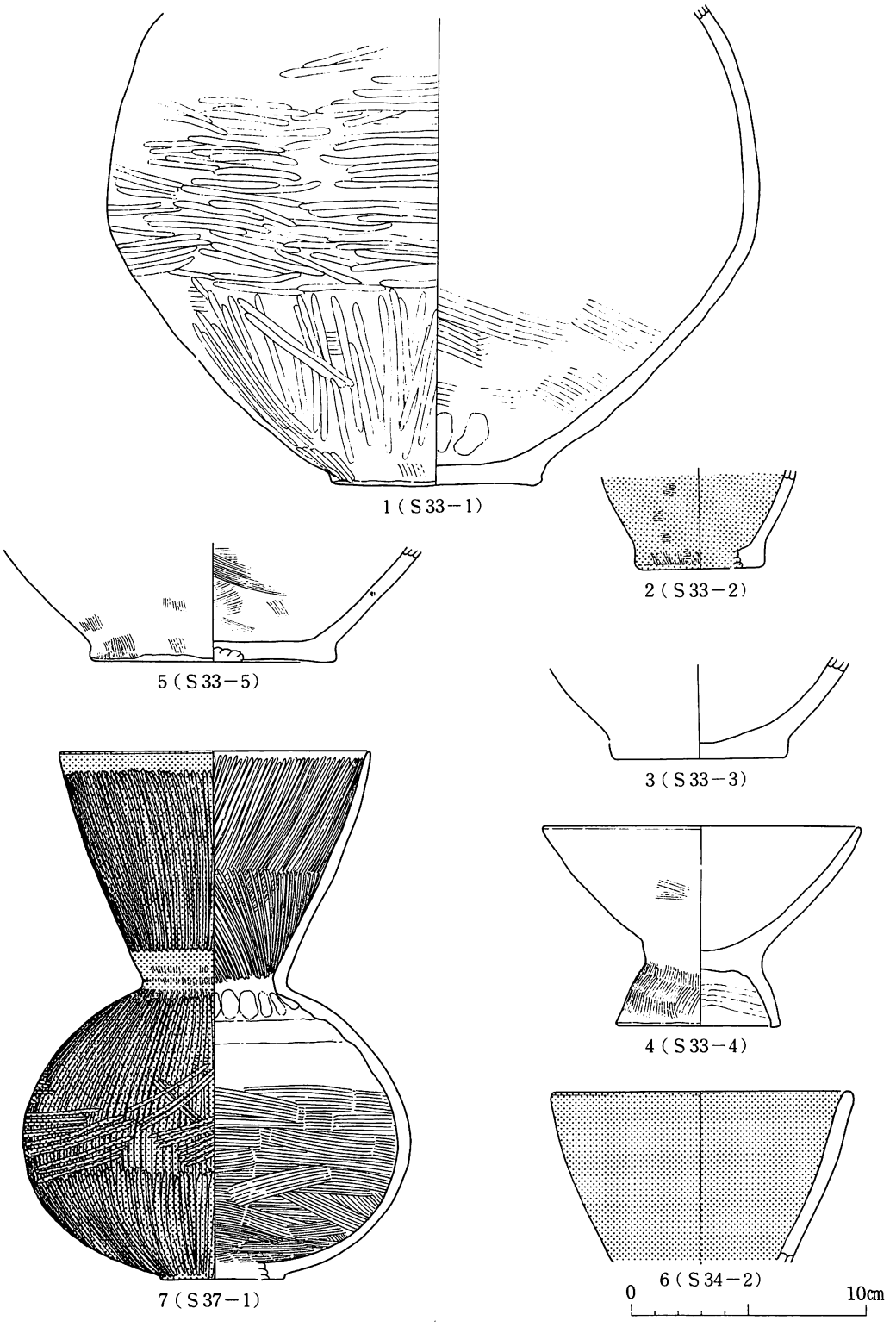
2（S28－2）

0　10cm

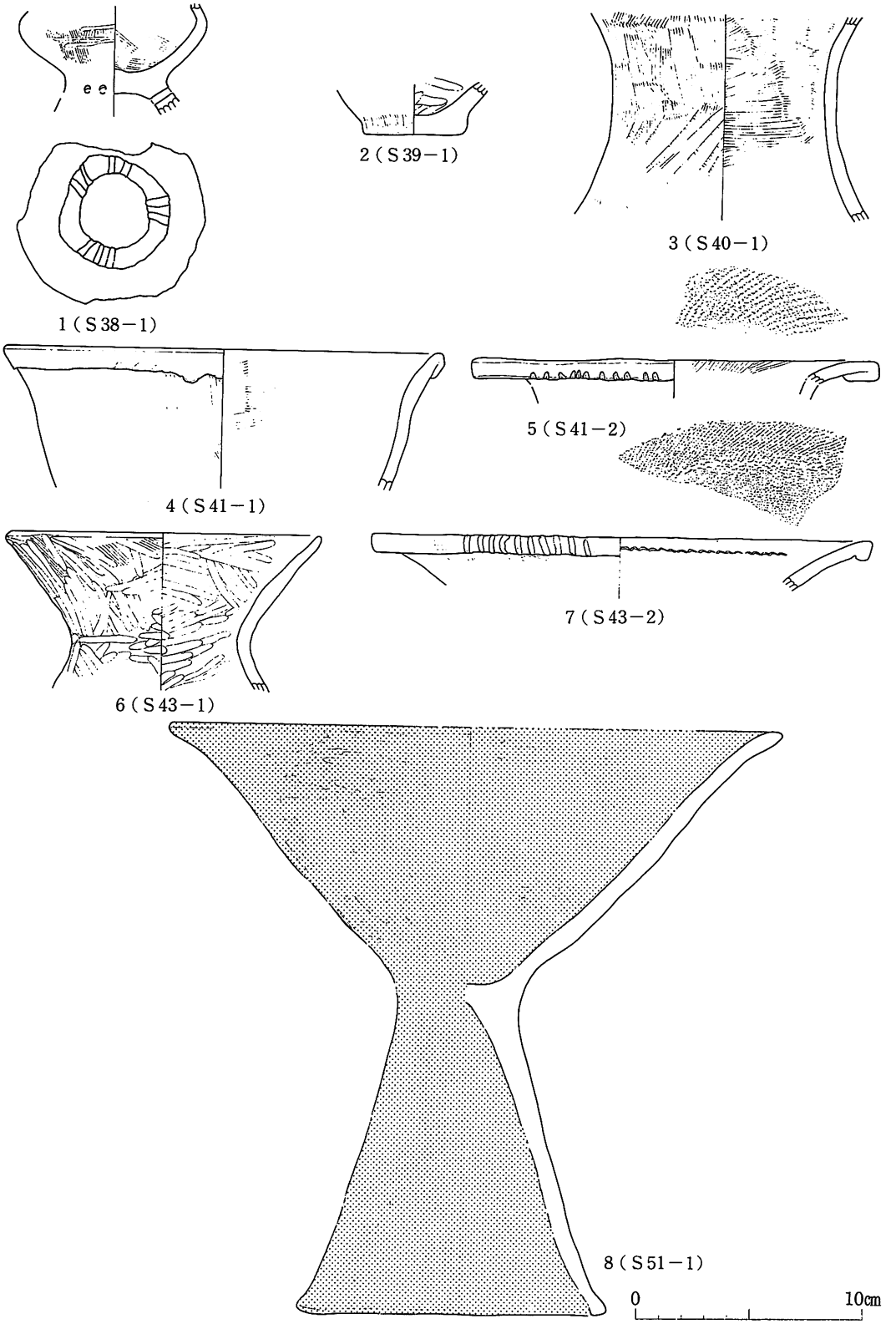
第96図　第28号方形周溝墓出土土器



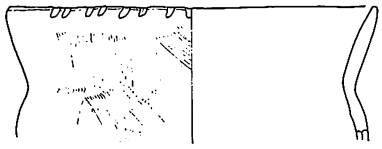
第97図　第28、29、31号方形周溝墓出土土器



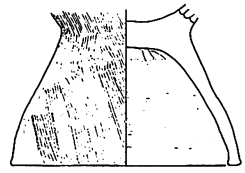
第98図　第33、34、37号方形周溝墓出土土器



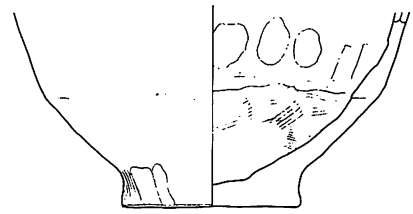
第99図　第38、39、40、41、43、51号方形周溝墓出土土器



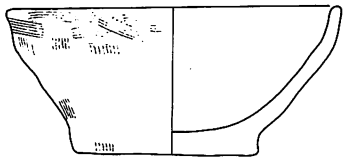
1（S47－1）



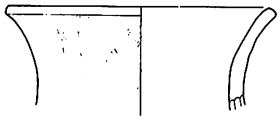
2（S47－2）



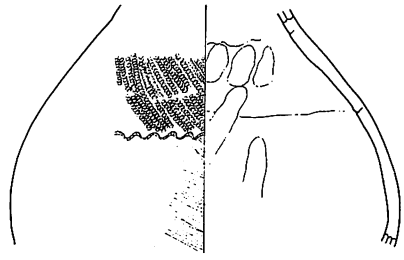
3（S47－3）



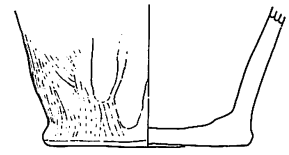
4（S47－4）

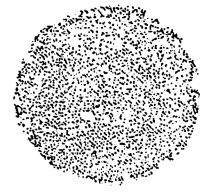


5（S47－5）

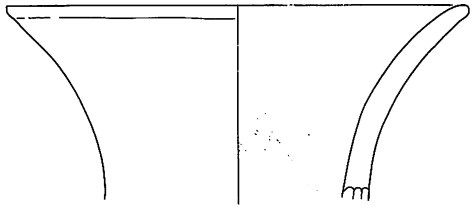


6（S47－6）

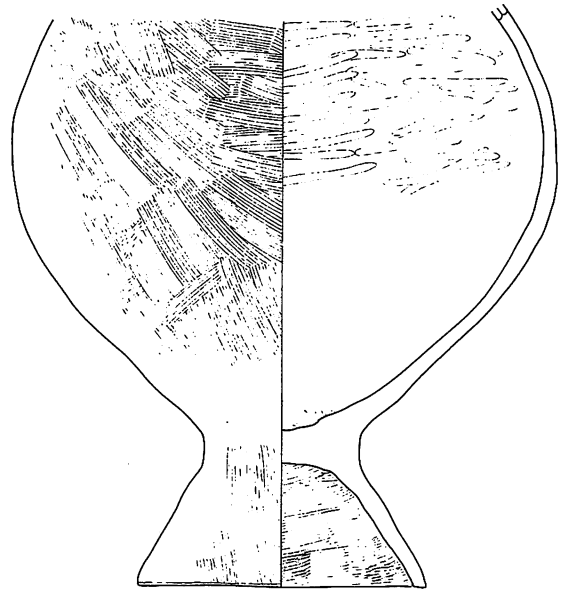




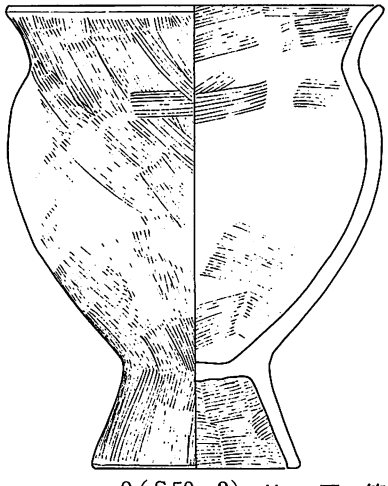
7（S47－7）



8（S50－1）



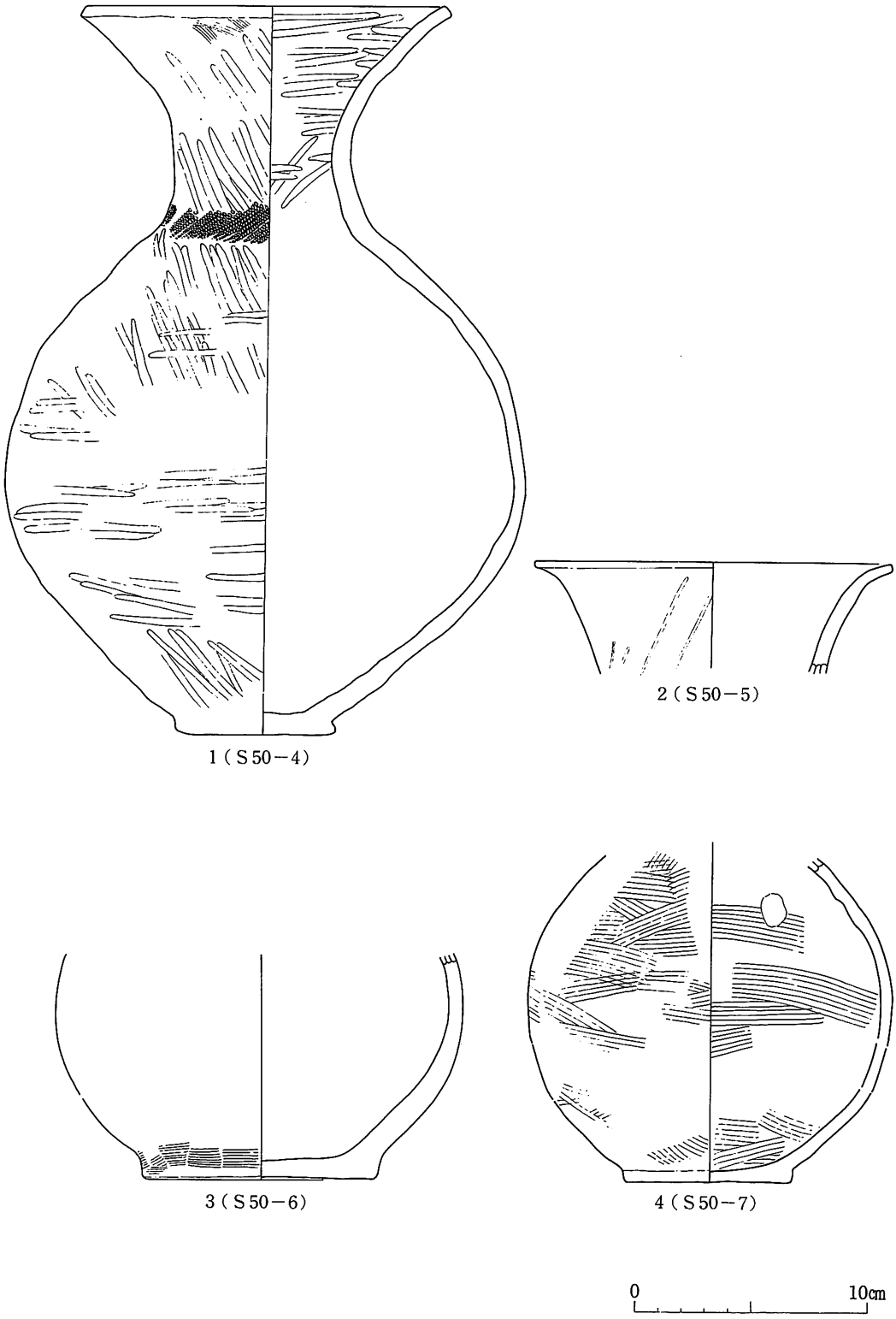
10（S50－3）



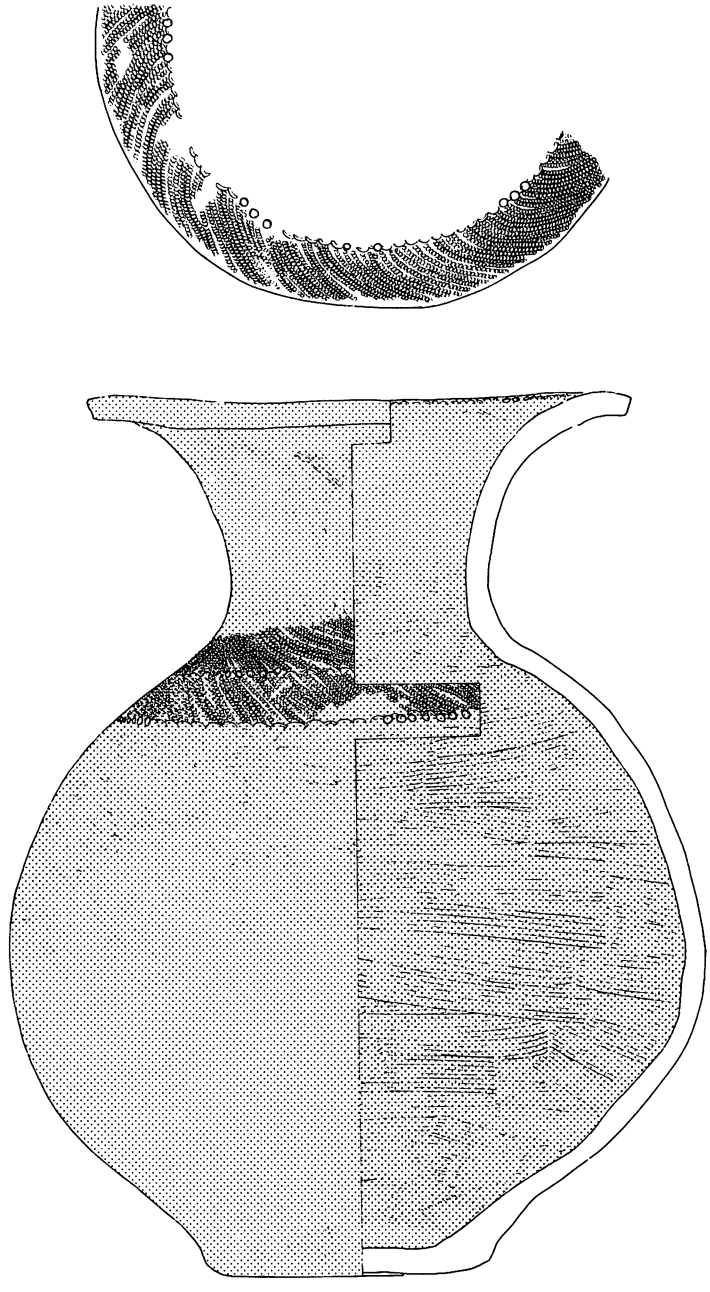
9（S50－2）

0　10cm

第100図　第47、50号方形周溝墓出土土器



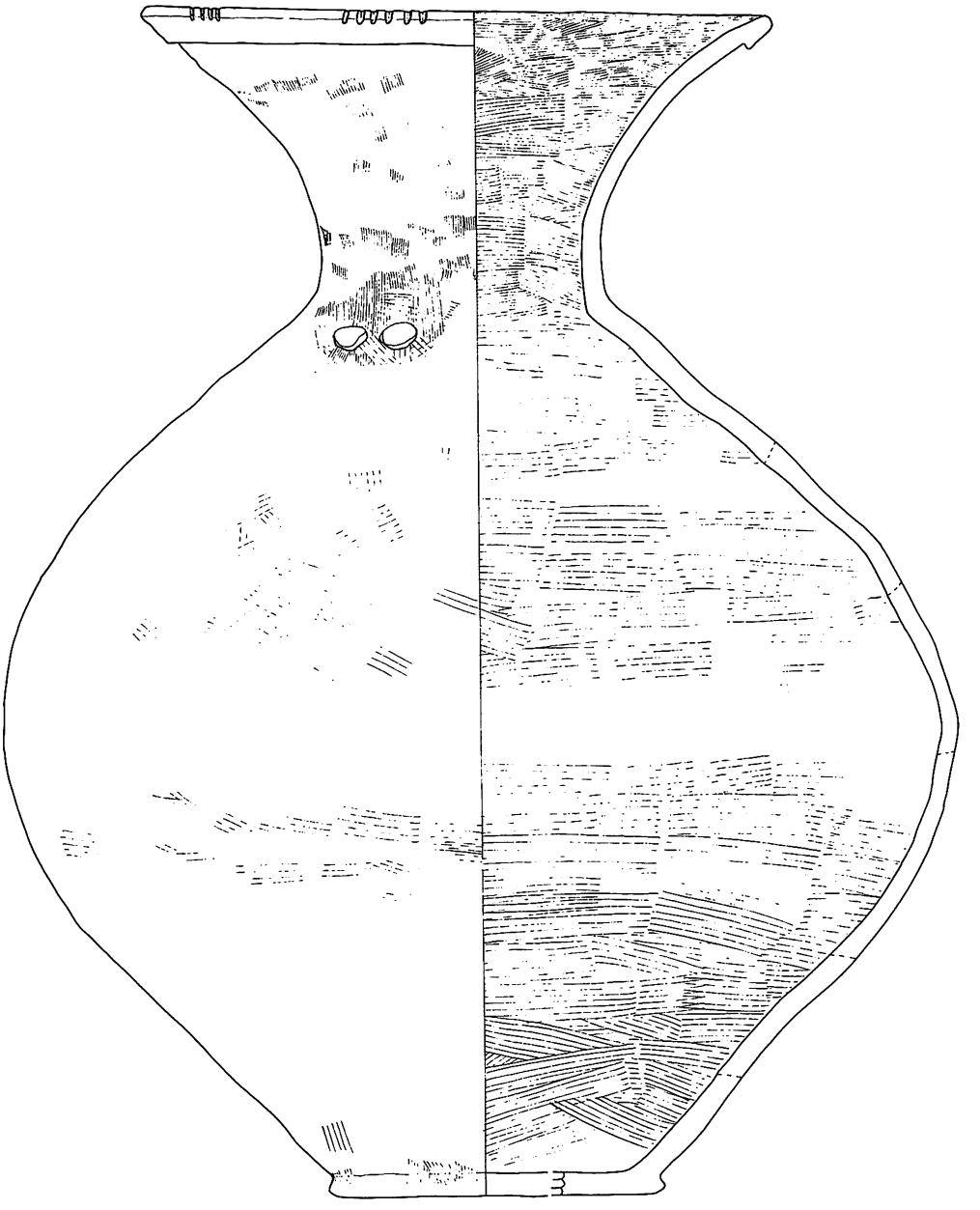
第101図　第50号方形周溝墓出土土器



1（S50－8）

0　10cm

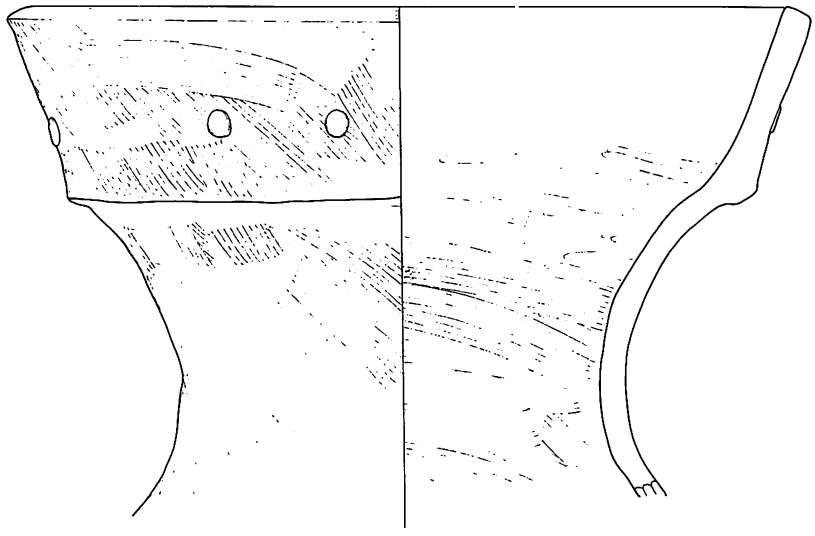
第102図　第50号方形周溝墓出土土器



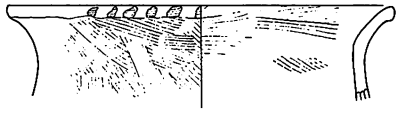
1（S50－9）

0　10cm

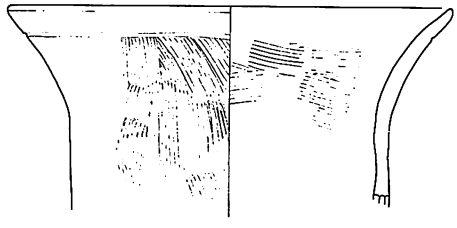
第103図　第50号方形周溝墓出土土器



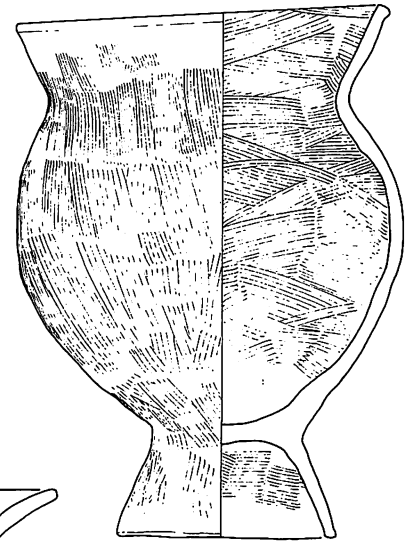
1（S58－1）



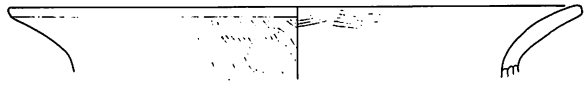
2（S58－2）



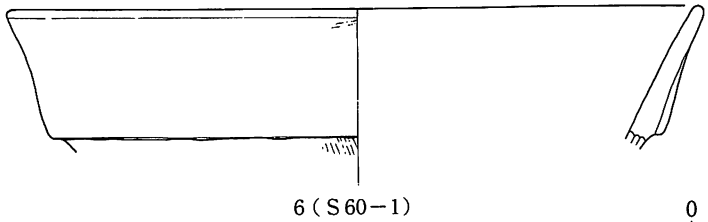
3（S58－3）



4（S58－4）



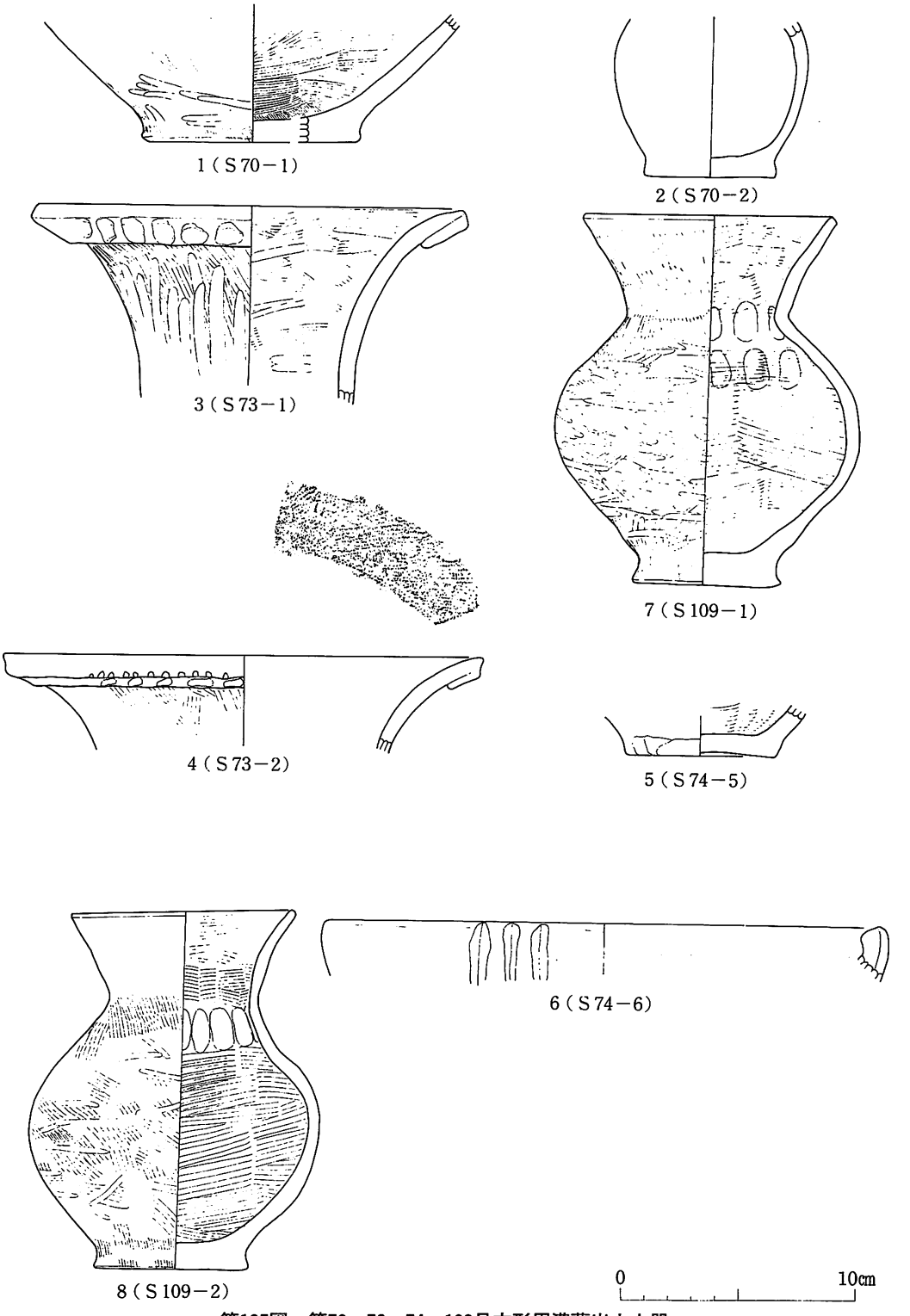
5（S58－5）



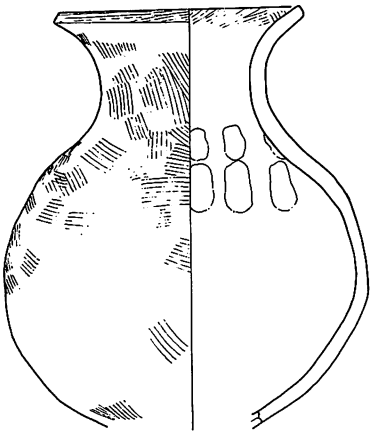
6（S60－1）

0　10cm

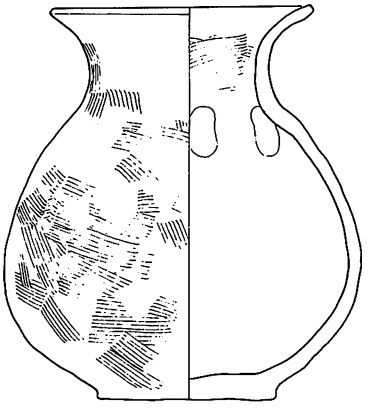
第104図　第58、60号方形周溝墓出土土器



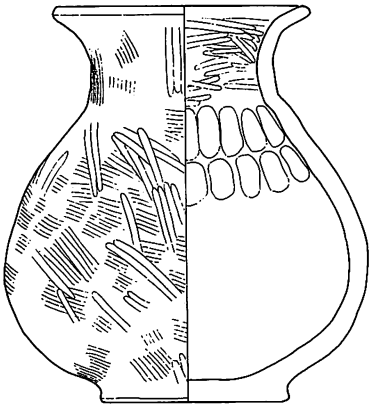
第105図　第70、73、74、109号方形周溝墓出土土器



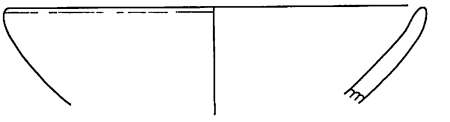
1（S74－1）



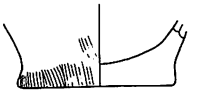
2（S74－2）



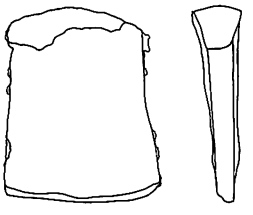
3（S74－3）



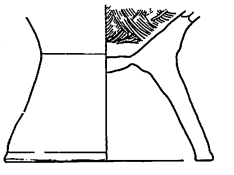
5（S117－1）



6（S117－2）



4（S74－4）

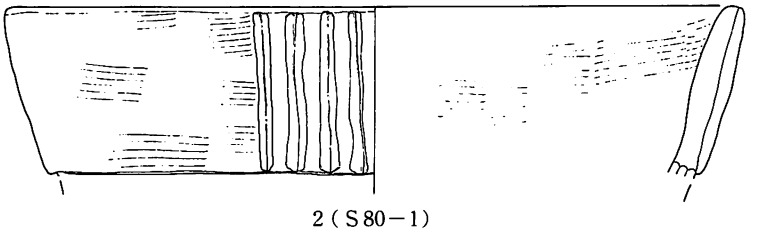


7（S117－3）

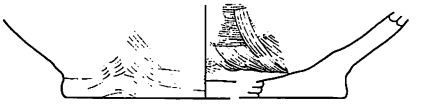
0　10cm

第106図　第74、117号方形周溝墓出土土器

1（S78－1）



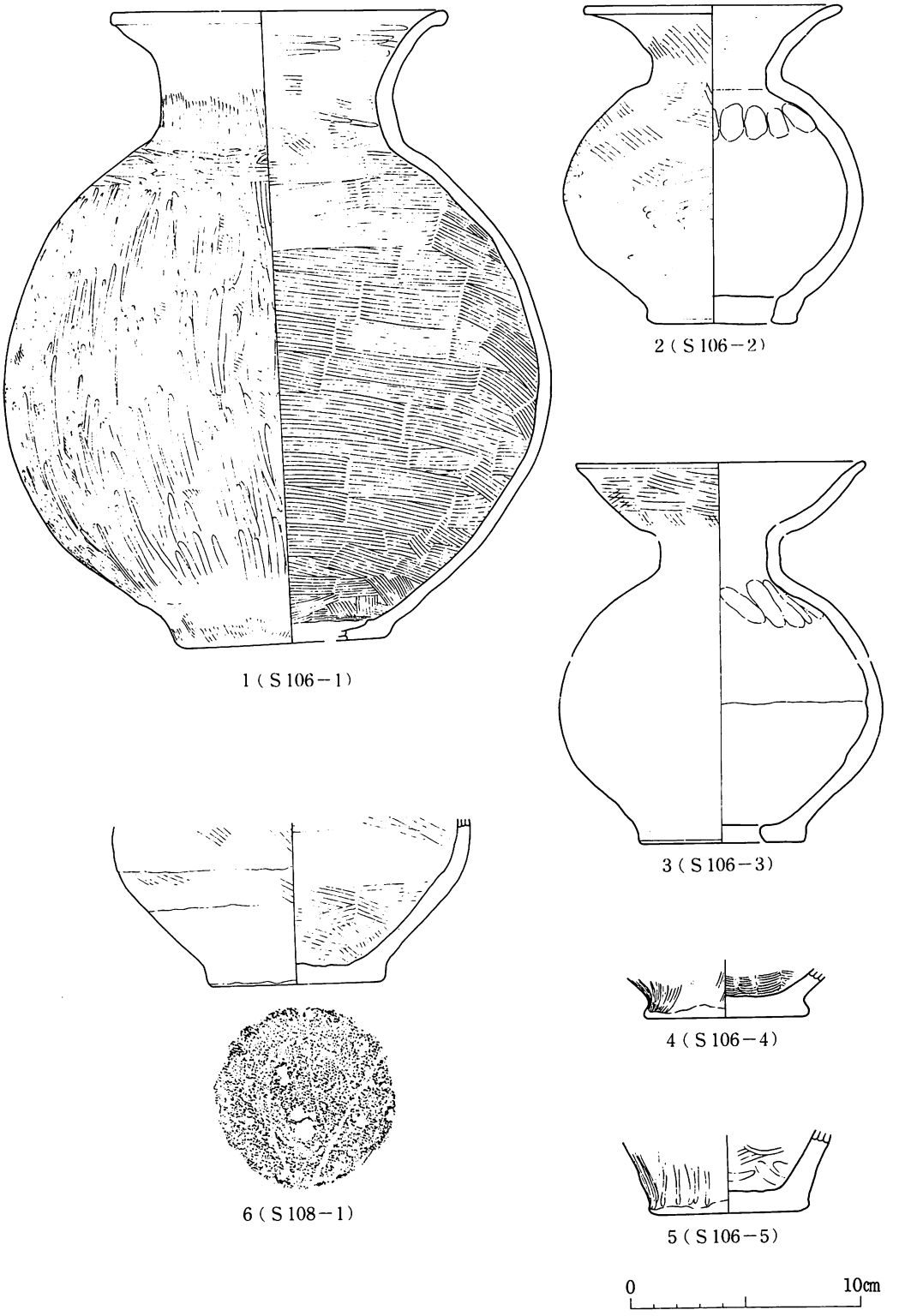
2（S80－1）



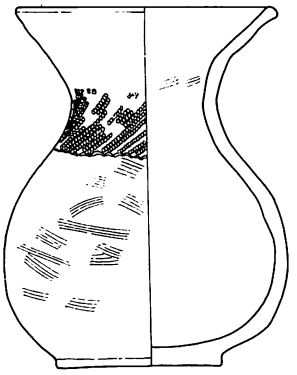
3（S104－1）

0　10m

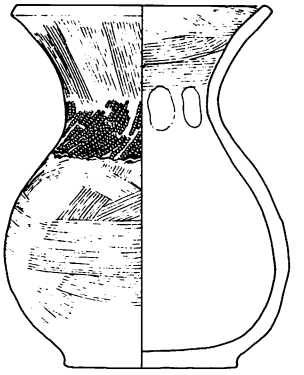
第107図　第78、80、104号方形周溝墓出土土器



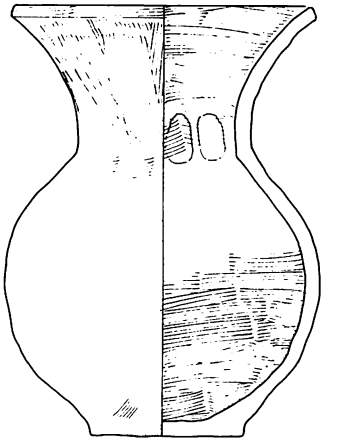
第108図　第106、108号方形周溝墓出土土器



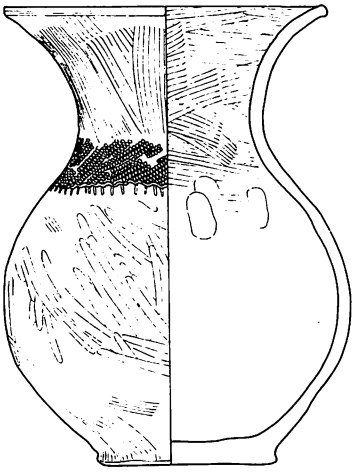
1（S 109－3）



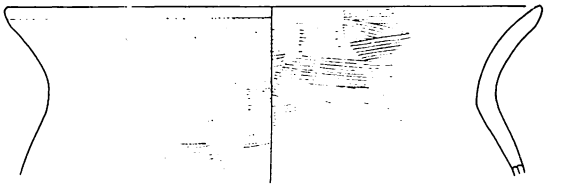
2（S 109－4）



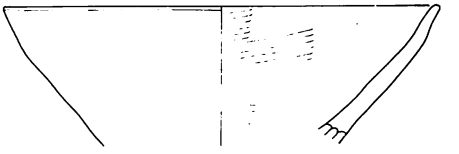
3（S 109－5）



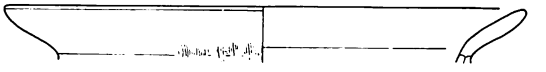
4（S 109－6）



5（S 109－7）

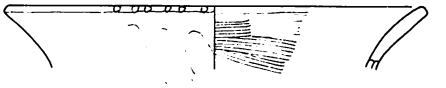


6（S 109－8）



7（S 109－9）

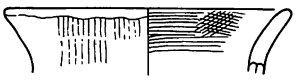
8（S 109－10）



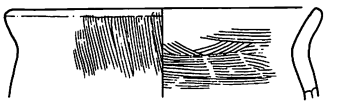
9（S 109－11）

0　10cm

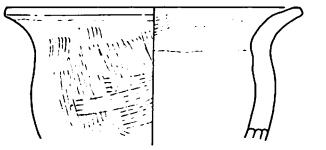
第109図　第109号方形周溝墓出土土器



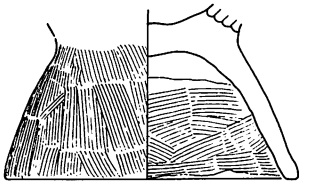
1（S110－1）



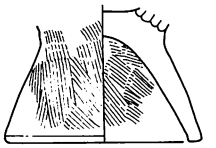
2（S110－2）



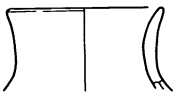
3（S110－3）



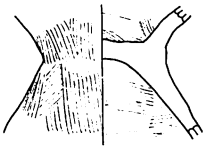
4（S110－4）



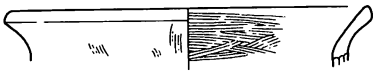
5（S110－5）



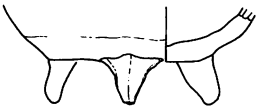
6（S110－6）



7（S110－7）

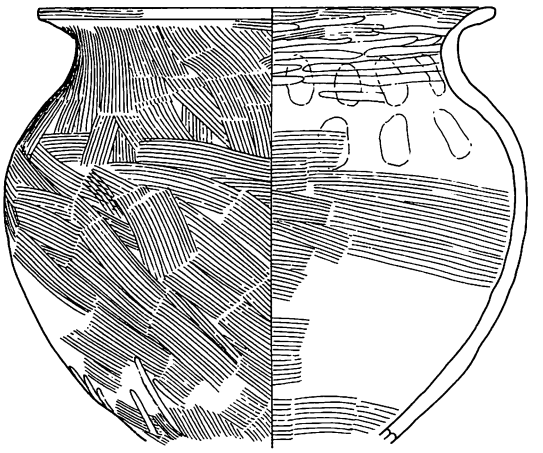


8（S110－8）

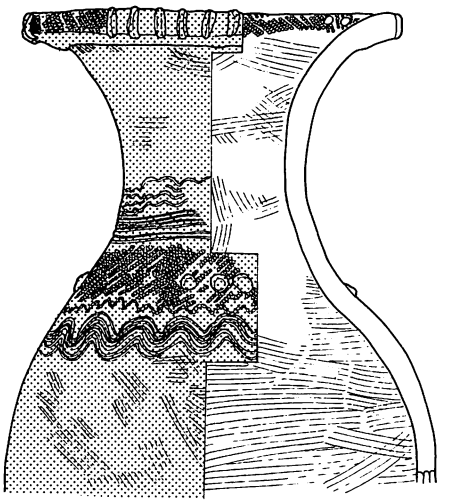


9（S110－9）

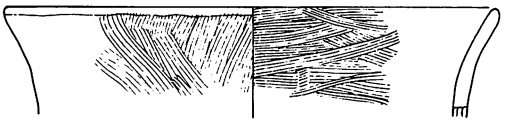
10（S110－10）



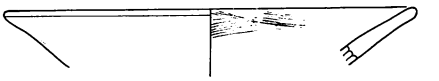
11（S110－11）



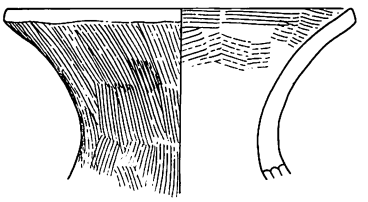
12（S110－12）



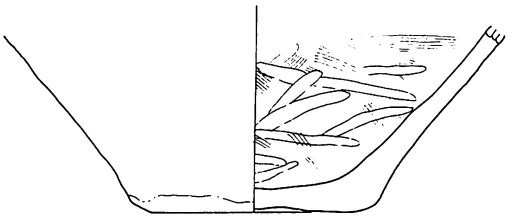
13（S110－13）



14（S110－14）



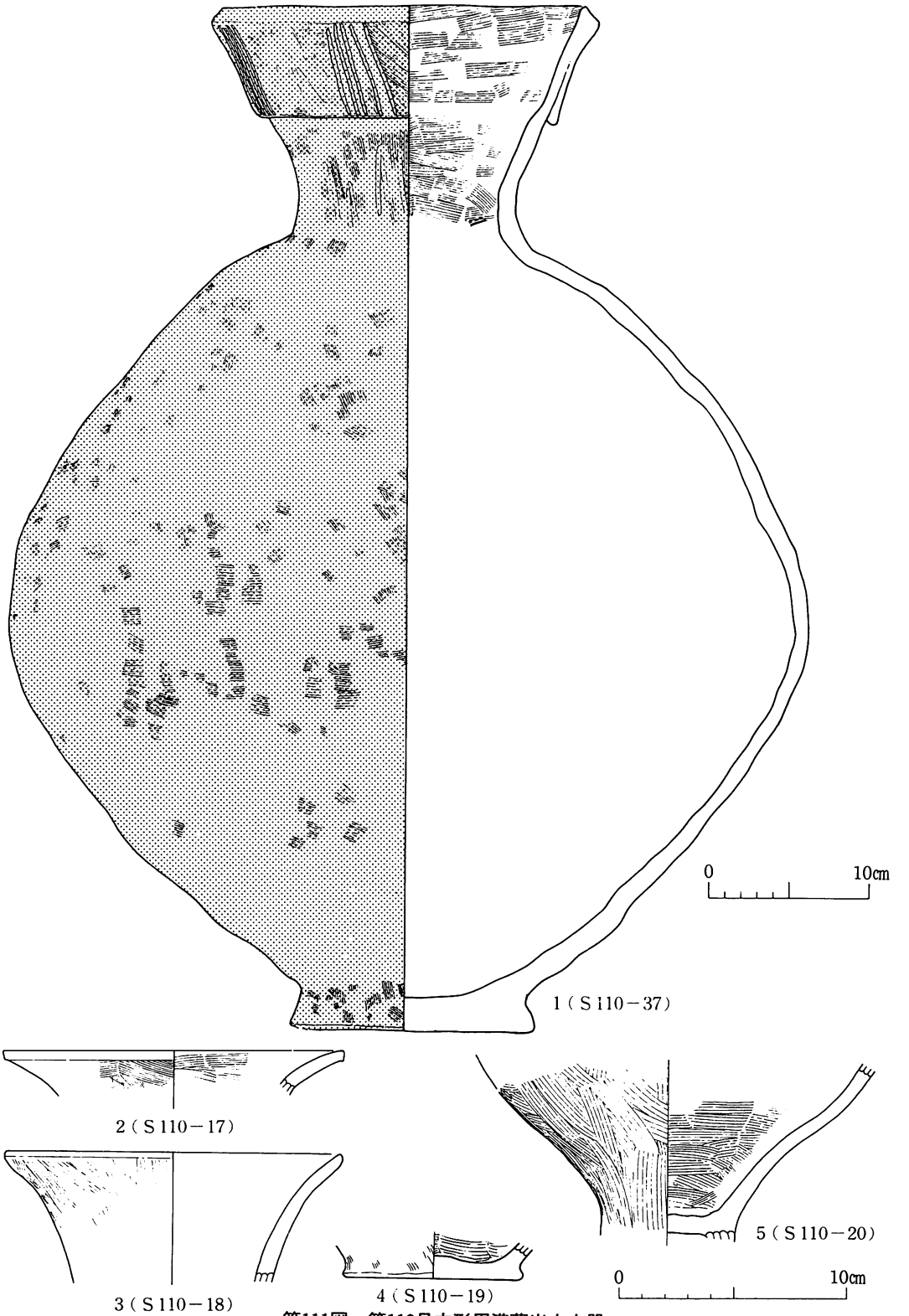
15（S110－15）



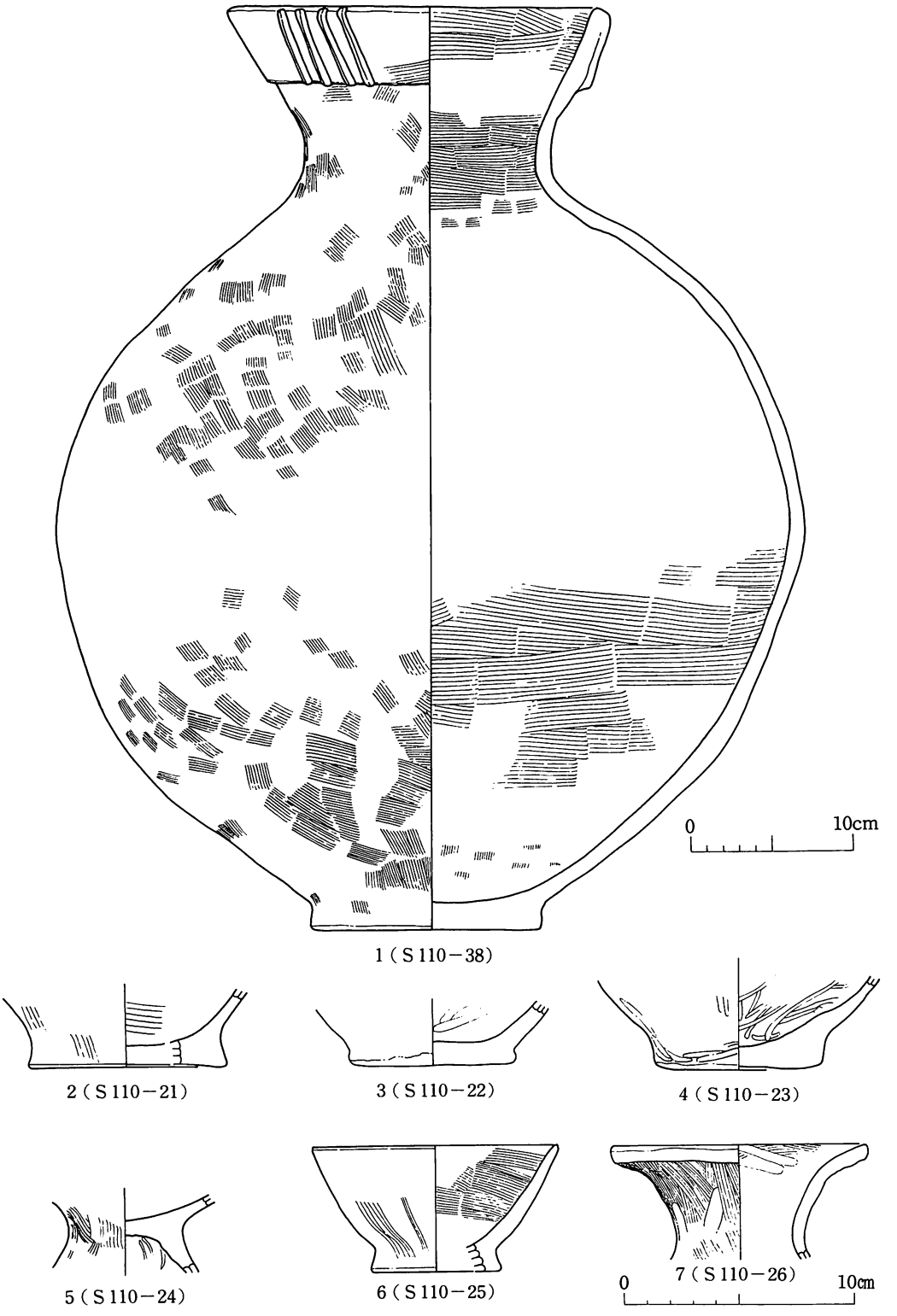
16（S110－16）

0　10cm

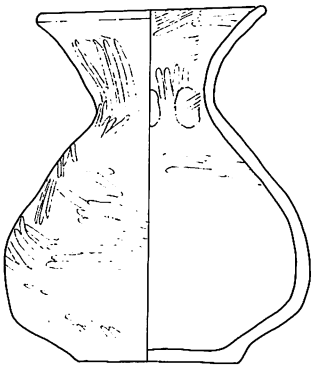
第110図　第110号方形周溝墓、出土土器



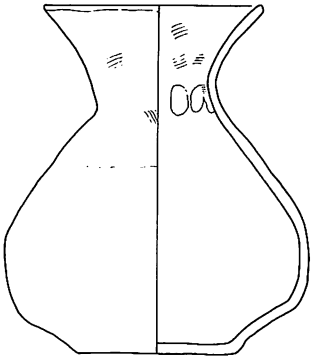
第111図　第110号方形周溝墓出土土器



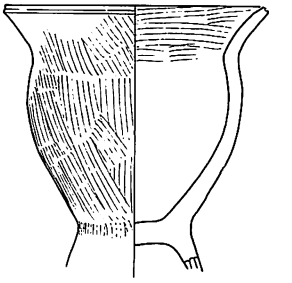
第112図　第110号方形周溝墓出土土器



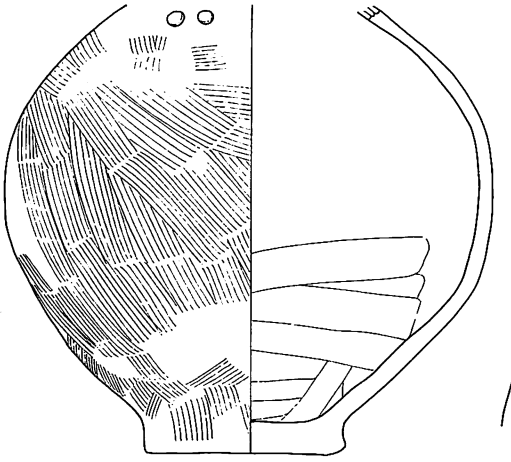
1（S110－27）



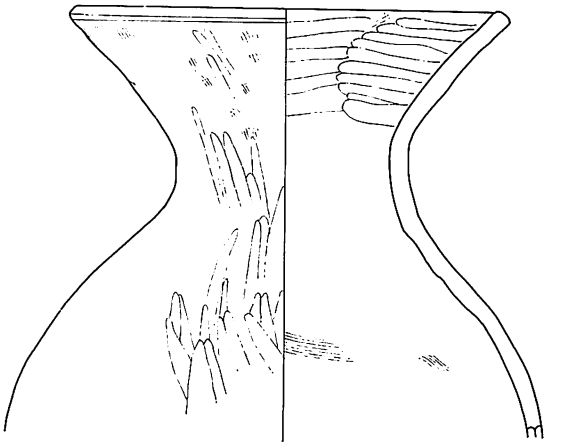
2（S110－28）



3（S110－29）

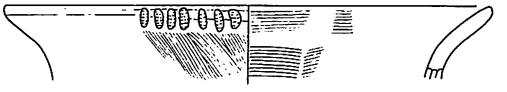


4（S110－30）

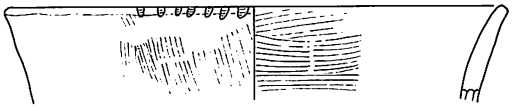


5（S110－31）

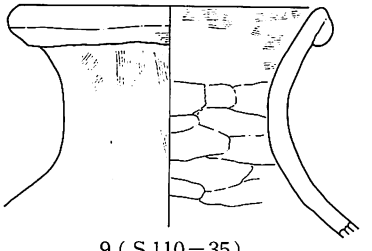
6（S110－32）



7（S110－33）



8（S110－34）

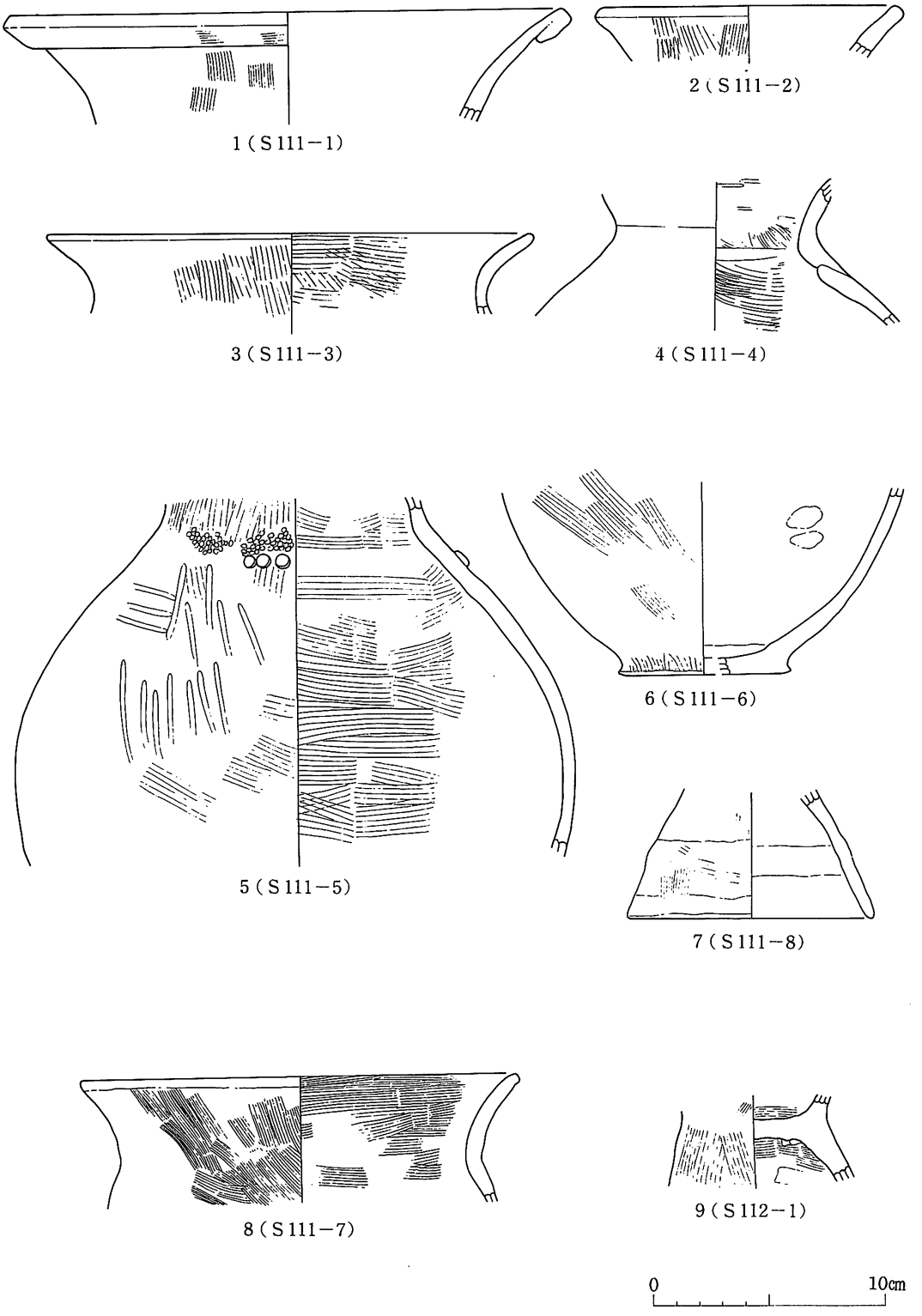


9（S110－35）

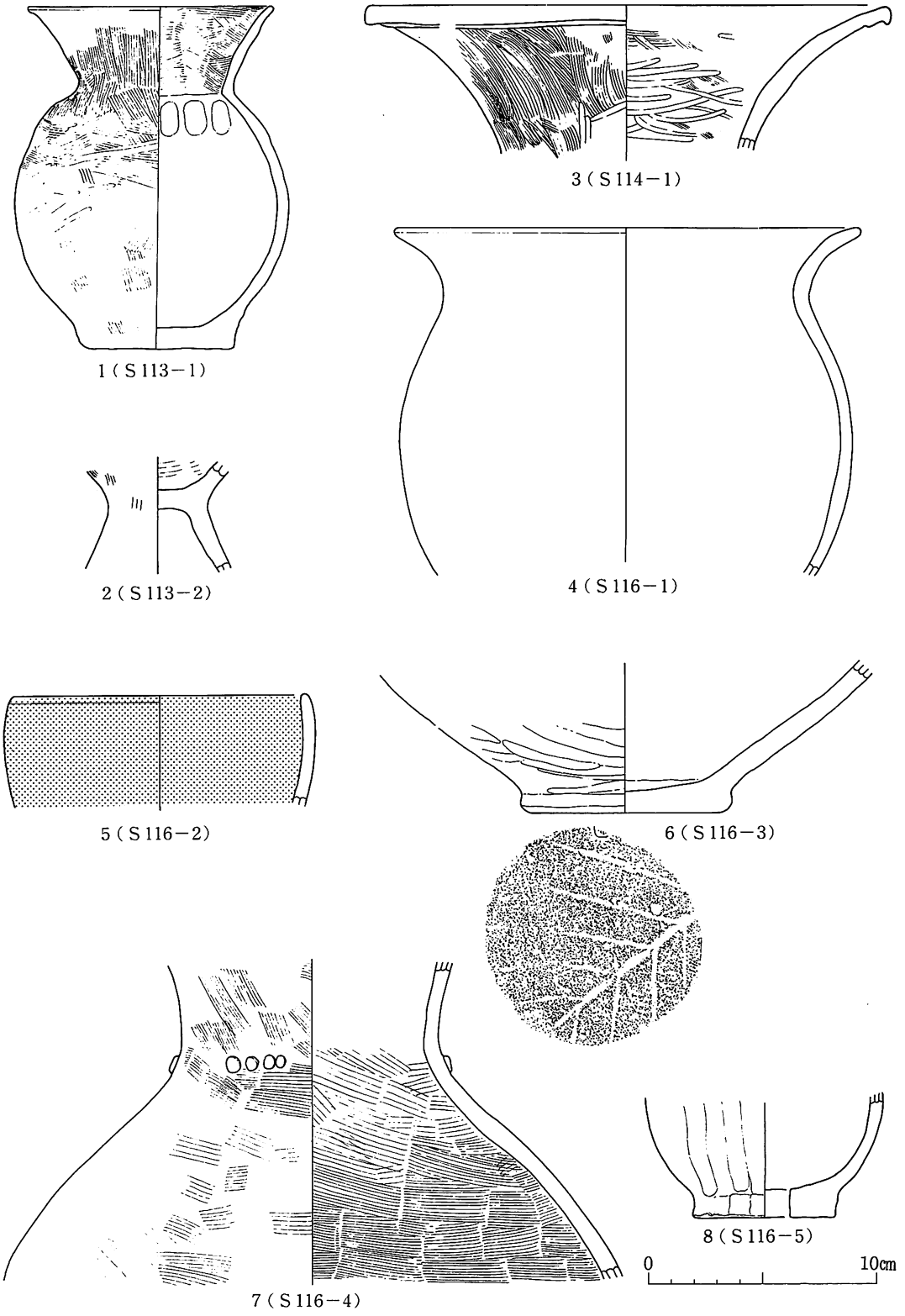
10（S110－36）

0　10cm

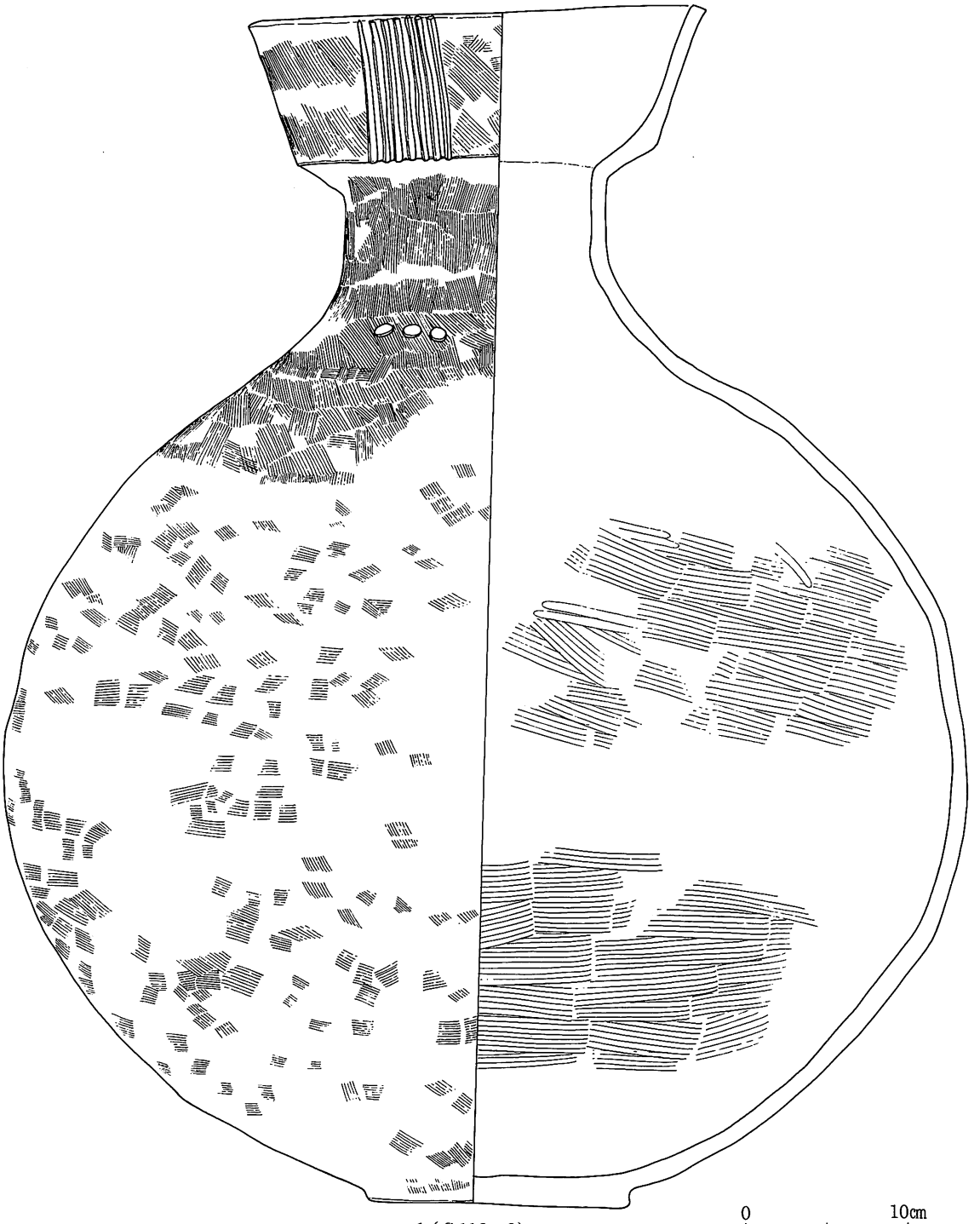
第113図　第110号方形周溝墓出土土器



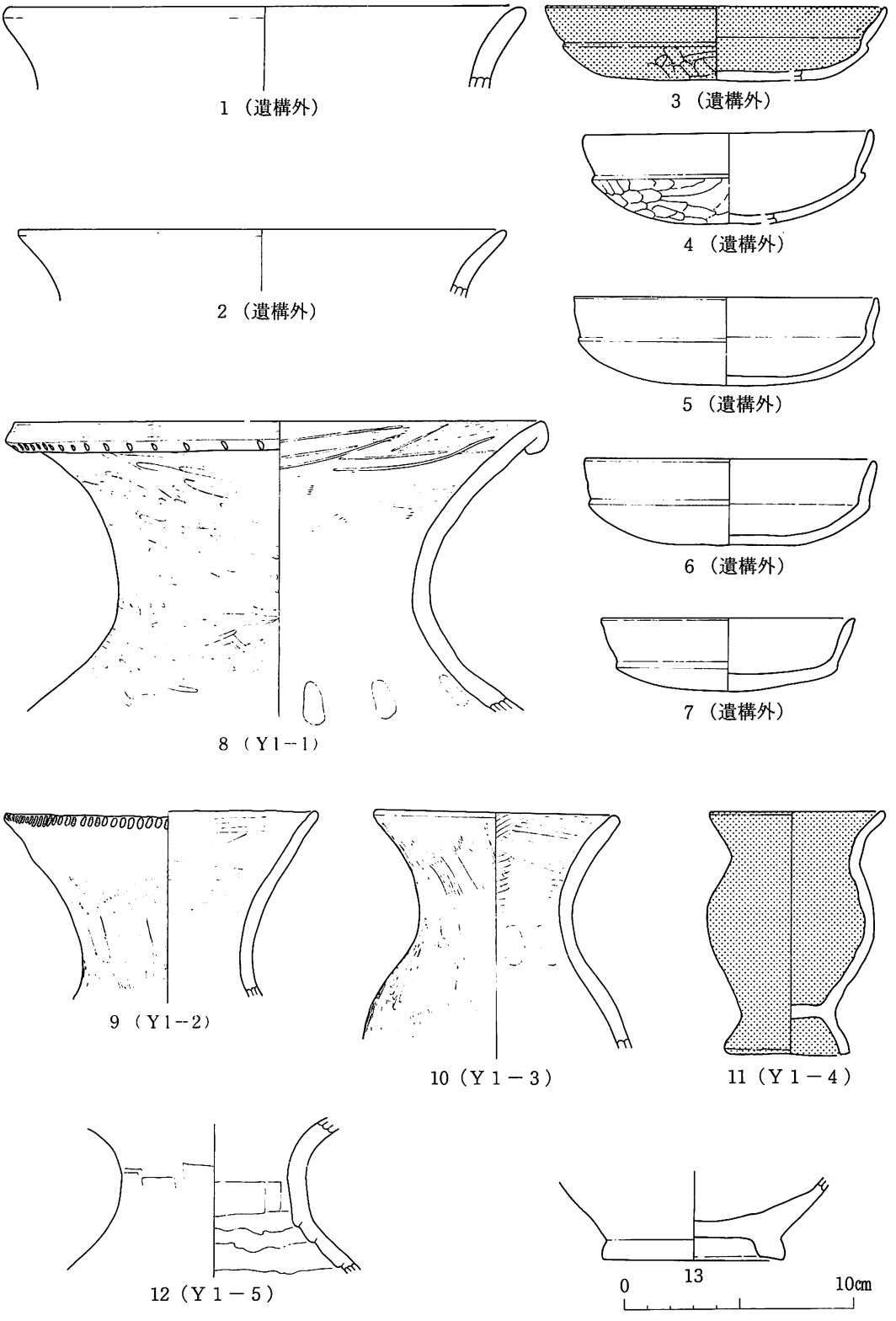
第114図　第111、112号方形周溝墓出土土器



第115図　第113、114、116号方形周溝墓出土土器



第116図　第116号方形周溝墓出土土器



第117図　上の平、グリット及、Y－1号住居出土遺物

第６章　発掘調査のまとめ

第１節　方形周溝墓出土土器

本遺跡より出土した土器類は、弥生後期後半から古墳時代初頭を主体とするもので方形周溝墓１基より出土する土器類は１～２点と少くセット関係を示す例は少い。本遺跡に続く宮の上遺跡、立石遺跡では、上の平遺跡関連の住居址、方形周溝墓等が検出されておりこれらの整理をまって時期区分を行うとして、ここでは土器分類に止める。

壺Ａ類

複合口縁をなし、口頸部から外反して直線的に開く。口縁部下半面に粘土帯を貼り複合口縁の段を形成する。

壺Ａ１類：口縁部に棒状浮文を施すもので、胴部は球状を呈する。頸部は極端に外反して、直線的に開く口縁部となる。口径は17.8cmから30cm以上を計測して大形壺に属するものが総てである。調整は外面刷毛調整後篦磨、内面刷毛調整である。また外面には赤色塗彩が施される例が認められる。

壺Ａ２類：口縁部に縦列沈線を施すもので、胴は球形を呈する。頸部から口縁部の形態は、胴部上部のつなぎから口縁まで直線を呈するものと、Ａ１類と共通するものとに分かれる。

調整は内外面共に、刷毛調整で中には篦磨きが認められる。８－１は、肩部外面に２条の結節縄文を施し、その中間帯に円形浮文を貼付する。

壺Ａ３類：上記のＡ１、Ａ２以外のものをまとめた。口縁が無文もしくは円形浮文を貼付する例が認められている。形態は基本的にはＡ１類に属する。整形は、内外刷毛調整後、篦磨きが施される。

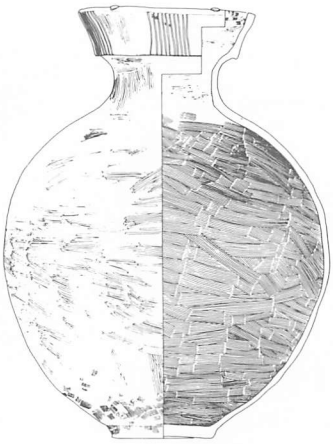
壺Ｂ類

壺Ｂ１類：折り返し口縁をもち、胴部は球形を呈する。胴部つなぎから口縁部にかけては曲線を描きながら外反し横方向に開く。口唇部断面は方形状を呈する。整形は外面刷毛調整後篦磨き、内面刷毛調整を主体とする。本遺跡では、完形品は少なく底部欠損、胴部以下欠損等故意に破損された痕跡をもつものが多い。

壺Ｂ２類：折り返し口縁をもち、胴部は球形を呈する。胴部つなぎから口縁部にかけてＢ１類に類似する。外面口唇部に刻目、肩部には地文を施し縄文に円形浮文を貼付する。胴部では刷毛調整後篦磨きが施される。内面では、口縁部に縄文が施される例がある。胴部では刷毛調整後篦磨きを施す例が主体である。

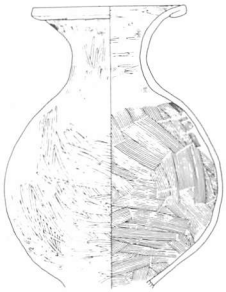
壺Ｂ３類：折り返し口縁で、口縁部がわずかに外反する。折り返し部の下部では、指頭痕による調整が認められる例もある。整形は、外面で刷毛調整後篦磨き、内面でも刷毛調整後篦磨きが施される。

壺Ｂ４類：単純口縁で、胴部は球形を呈する。胴つなぎから口縁部での形態はＢ１に類似する

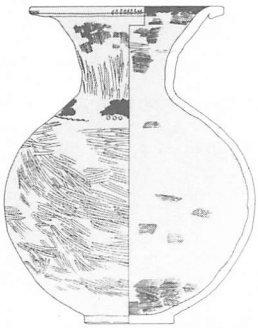


壺A１類

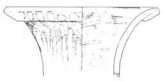
壺A２類



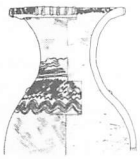
壺B１類



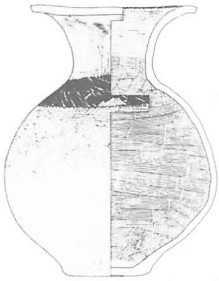
壺B２類



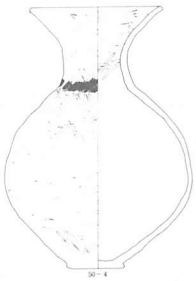
壺B３類



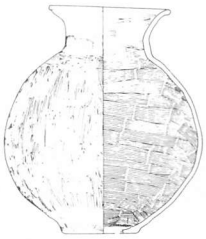
壺D類



壺B４類

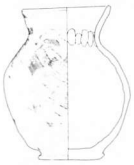


壺B５類



壺C類

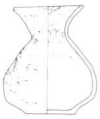
壺E類



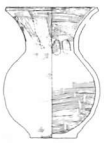
壺F類

壺G類

小形壺A類

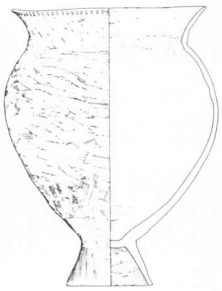


小形壺B類



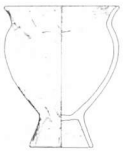
小形壺C類

小形壺D類

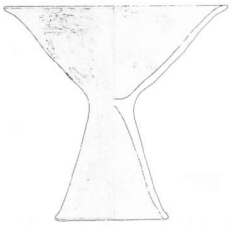


甕A１類

甕A１類



甕A３類



高坏

小形土器A

小形土器B

小形土器C

第118図　土器の分類

が、つなぎ部近辺で直立し、口縁では極端に横に開く。肩部には結節縄文が施され、その下部には円形浮文が貼付される。整形は、外面で刷毛調整後篦磨きが施される。また外面では、赤色塗彩が全面に認められる。

壺Ｂ５類：単純口縁で、胴部球形を呈する。胴つなぎから頸部では直立し極端に口縁で外反する。外面肩部では斜縄文が施されたものや、口縁部と肩部に円形浮文を貼付するものがある。整形は内外面ともに刷毛調整後篦磨きが施されるもの、内外共に粗い刷毛調整のみを残すものなどがある。

壺Ｃ類：単純口縁で胴部は球形を呈する。胴つなぎから頸部では直立して口縁部でわずかに外反する。整形は、外面で刷毛調整後丁寧な篦磨き、内面胴部では刷毛調整、頸部より上位は刷毛調整後篦磨きが施される。

壺Ｄ類：頸部は胴部より緩やかに上方に伸び口縁部で横方向に広がる。口縁では棒状浮文、頸部下部から肩部にかけては櫛描による波状文→（斜縄文＋円形浮文）→波状文が施される。

整形は刷毛調整が施された後、外面に赤色塗彩が認められる。

壺Ｅ類

壺Ｅ１類：単純口縁で胴部は球形を呈する。胴つなぎから口縁にかけて極端に開く形態である。整形は外面刷毛調整後篦磨きが施され、内面は刷毛調整が、つなぎ部では指頭痕調整がある。焼成前の底部穿孔土器である。

壺Ｅ２類：単純口縁であるが口縁部下部で段を意識する。胴部は球形でつなぎは直立する。外面刷毛調整、内面つなぎ部に指頭痕調整を行う。焼成前の底部穿孔土器である。

壺Ｆ類：単純口縁で口縁部が短かく、胴部は球形を呈する。整形は外面刷毛調整で内面は指頭痕調整が認められる。

壺Ｇ類：単純口縁で胴部は球形を呈する。胴上部のつなぎ部からは長く上方にまっすぐ伸びる口縁をもつ。整形は外面では刷毛調整後篦磨き、内面では胴部は刷毛、口縁部は刷毛→篦磨きが施される。

小形壺

小形壺Ａ類：単純口縁で胴部は肩張で、口縁部はわずかに外反する。整形は、内外共に刷毛調整後篦磨きが施される。内面胴上部のつなぎでは指頭痕調整がある。

小形壺Ｂ類：単純口縁で胴部下部張で、頸部から口縁にかけて外反する。肩部に縄文を有するＢ１と、無文のＢ２類に分けた。整形はＢ１では内外面に刷毛調整が、Ｂ２類では内外面に刷毛調整後丁寧な篦磨きが施される。

小形壺Ｃ類：単純口縁で胴部は球形を呈する。胴つなぎから口縁にかけて極端に外反する。肩部に縄文を有するＣ１、無文をＣ２とした。整形は外面刷毛調整後篦磨き、内面は刷毛調整後つなぎ部に指頭痕を施すのが主体である。

小形壺Ｄ類：単純口縁で胴部は下張を呈する。胴つなぎから短い頸部が直に立ち上がる。口縁で外反しており、壺Ｃ類の頸部から口縁部のカーブに近似する。整形は外面で刷毛調整後篦磨き、内面は刷毛調整、篦磨きが施され、つなぎ部は指頭痕が施される。

甕　類

甕Ａ１類：単純口縁の台付甕で肩部に最大径をもつ。口唇部に刻目、内外面共に刷毛調整を施す。

甕Ａ２類：単純口縁の台付甕で胴部に最大径をもつ。口唇部に刻目、内外面刷毛調整を施す。

甕Ａ３類：単純口縁の小形台付甕で胴中央上部に最大径をもつ。内外刷毛調整を施す。

高　坏

坏部は基部からほぼ直線的に斜め上方に伸び口縁上端で極端に横に伸びる。内外赤色塗彩で、篦磨きを施す。

小形土器

小形土器Ａ類：小形壺で口縁が短かく開く、小坩である。内外赤色塗彩を施す。

小形土器Ｂ類：底より外上方に伸びるいわゆる鉢形土器である。整形は篦磨き、刷毛調整等がある。まれに口縁部に注ぎ口を１カ所設ける片口が存在する。

小形土器Ｃ類：台付の鉢形土器である。鉢部は基部より外反しながら上方に伸びる。

第２節　墓群の設定

上の平遺跡Ａ地区

30×24mの最大規模を有する方形周溝墓を含め、方形周溝墓ばかり55基が密集し、周溝相互の重複が夥しく墓域としては飽和状態である。しかし、周溝内部である方台部におよぶ重複例はなく、近似した年代が想定できるが、周溝の切り合いの新旧関係は二～四段階まで認められた。プランは周溝の途切れる陸橋部が一隅に位置するものが大部分を占めるが、その方向は一定でない。主軸の方向は北西－南東か、それと直交し地形も一定している。調査区域も桑園として深く耕され、方台部の盛土や埋葬主体部の検出は不可能であった。遺物は周溝内よりの出土例がすべてで、土器の出土を欠く周溝墓も多く、遺構数の割りには土器の量は少ない。大形壺の中には有段口縁部に縦列沈線、棒状浮文が施され胴部は無文で丹塗が残るものもある。周溝墓の規模と軸を一にするかのように、大形周溝墓出土品の中には胴部径50cmを越える巨大なものさえ残る例もある。甕はいずれも台付甕で刷毛調整で口縁に刻目するものや、煤の付着の著しい例が見られた。そのほか小形壺で刷毛調整で口縁に刻目するものや、煤の付着の著しい例が見られた。そのほか小形壺、鉢には台付きや片口もある。これらの遺物は主として周溝底面より浮上して発見されるが、台付土器・片口土器のセット関係を示した第23号例のように溝底出土例も認める。

上の平遺跡Ｂ地区

Ａ地区の北側で農業道により隔てられ、その間が未調査である。そのため周溝墓の空白部が存在するように見えるが、この部分にも周溝墓が続き、Ａ地区の墓群の北縁部を形成するようである。傾斜が急になるため、周溝が一周しない例もあるが、陸橋部はすべて１隅である。本地区の特徴は小形周溝墓がなく、規模が揃っていることである。土器は若干少ないが、鉄楔１点が検出されたことは特筆される。

上の平遺跡Ｃ地区

A地区の西の延長上に位置するが、主軸の方向が異なり別にグルーピングが可能である。規模はA地区の最大のものに次ぐ大規模な方形周溝墓から小形のものまで、プランも陸橋部が一隅に位置するものを始め、一辺の両端、四隅とバラエティに富む。また本地区は周溝相互の重複が少ない。遺物は特に少なく、台付甕の小形品が1点と若干の土器片が検出されたに過ぎない。

上の平遺跡D地区

C地区の西に続き、北半分はC地区同様に規模に変化が大きく独立しているが、南縁部は総てが重複関係をもち陸橋部は一隅に位置する。本地区は周溝墓調査は実施されず、遺物は僅少である。

上の平遺跡E地区

C地区の西北側に続く位置にあり両側の谷が迫り平坦面が最も狭くなる。調査区の北東側は傾斜が急で周溝が完全に確認できない例もあるが、陸橋部は一隅に位置する例が多く、大形墓は重複関係を有する。本地区では周溝墓以外に住居址が検出され、平安時代に下るものが主であるが、一基は周溝に切られ、弥生時代終末期に属する可能性が認められた。遺物はA～D地区に比べ豊富で大形墓2基はいずれも半分が調査区外で未調査となったが、多くの土器が認められた。特に南東側の周溝墓は周溝内に土器片が密集し、大形壺2個が出土した。この壺は有段口縁で、棒状浮文、縦列沈線が施文されている。また小形壺口縁部破片は、重複関係の無い隣接の周溝墓の土器片と接合関係が確認された。

第3節　墓群の構造

上の平方形周溝墓群は主軸方向から、A，B地区のⅠ群、C，D地区のⅡ群、E地区のⅢ群に大別されたが第Ⅳとして、未報告の宮の上遺跡が上げられる。結果的にこれらの墓群の集合体と見ることが出来る。各墓群はグループ内での規模の差が著しく、Ⅰ、Ⅱ群では最大級の1基を頂点にピラミッド状に集約される。特にⅠ群では規模の差を除くと、形態、内容的に近似し重複しながら100m以上も続く。Ⅲ群は地形の制約上大規模な墓域の立地は望めない。これら墓群中に認められる周溝墓の形態はブリッジをコーナーの一隅に有するものが大部分を占めるが、中には四隅が途切れた例、溝がコ字状を呈する例、溝コーナーの2隅が途切れる例などがあるが、これらはいずれも小形周溝墓に限定され、遺存する溝も浅くなっているのが現状である。大形墓の中には周溝底部の隅が高くなる場合を考慮すれば、周溝の大半が削られ四隅では消滅したとも考えられ、総てが陸橋部とは限らないことになり、墓群の斉一性はさらに高くなる。

最大規模を有するⅠ群の周溝墓は、周溝幅が最大4.5mと広く、周溝内を縦横に土層観察用のセクションを残すことができた。これによると、ローム層を掘削した周溝の内壁は、四方ともほぼ直立し一部は1mを越えるが、外壁は傾斜が緩い。周溝内の堆積土は下層ほどローム・ブロックが増加し、壁側に厚く中央に薄くU字状を呈する。方台部には本来盛土が存在したことは他の遺跡の状況から当然予測されるが、直立する周溝内壁上に土砂を盛り上げたとしても、その崩壊にはさほど時間は要さないであろう。とすれば築造時の姿は、発掘完了時のそれとは異なった可能性が指摘される。周溝内縦のセクション端部、すなわち周溝のコーナーではローム・ブロック

層の堆積が厚く、他の周溝墓にも同様なものや周溝隅が浅くなる例も多い。四隅に陸橋部をもつ周溝の墳丘復元からは、四隅突出墳に近い外形が想定される。上の平周溝墓群の陸橋部は一隅のみが多いが、他の隅にも突出部の存在を予測できる状況にある。しかしこれらは周溝内に包含され、外部への通路は陸橋部の一カ所に限定される。

第4節　上の平遺跡と古墳群

上の平遺跡の乗る東山北西の斜面は、甲府盆地内でも最古のしかも最大級の古墳が分布する地域として著名である。東山山頂より見れば、山頂部には小円墳を主体に小規模低丘墳11基、南東に上の平方形周溝墓群、北方には斜面上の隆起を利用した大丸山古墳、さらには斜面を下った傾斜変換線付近に茶塚古墳が、また北西には斜面上の小形古墳数基、傾斜変換付近に銚子塚古墳、丸山塚古墳が占地する。東山と谷を隔てた南東方向の丘陵米倉山の斜面には小平沢古墳、南方には天神山古墳が位置する。これらはいずれも東山山頂より1㎞に満たない至近距離にあり、盆地内の主要古墳の大半が本地域に集中する。天神山古墳、茶塚古墳は新しい様相がみとめられ、前期に位置付けられるのは銚子塚古墳、丸山塚古墳、大丸山古墳、小平沢古墳であり、盆地内ではこれらに先行する古墳は現在のところ知られない。この中では丸山塚古墳が新しく、銚子塚古墳、大丸山古墳の新旧については古くより議論されてきた。銚子塚古墳は竪穴石室で同笵鏡を有し、全長170m弱を計る県内最大の前方後円墳である。大丸山古墳は石棺上に石室を乗せる特殊な主体部で、同笵鏡の他に農工具の副葬に特徴が見られ、全長120m前後の前方後円墳である。小平沢古墳は舶載鏡片1面が知られる他は内容が不明であるが、全長50m弱の前方後方墳であることが判明してからは、墳形から最古の位置づけが可能となり、また近年の埴輪研究の進展からは銚子塚古墳が再評価されている。このように、甲府盆地における古墳の成立は、上述の三基と上の平方形周溝墓群が重要な鍵を握る事は明らかである。上の平遺跡における重複関係は順次大型化の傾向をたどり、ついには1号墓の規模に見られた強大な権力を出現させる農業共同体内の動向が想定される。

1号のような大形周溝墓は世帯共同体家長層より傑出した首長、族長層が当てられ、1号は平面規模に限れば中小古墳と大差はない。このような大形周溝墓の被葬者の連合体としての地域集団の頂点に立つ首長が、古墳に表される権力を体現したものとして在地的な発展の諸段階が跡づけられている。大形周溝墓→古墳の図式に従えば、まさに上の平1号墓は古墳成立前夜の様相を呈する観がある。ゆえに1号方形周溝墓と周辺の古墳の新旧は今後の土器編年が必要であろう。先に記した三基の古墳の前後関係も古墳成立時の背景を理解するうえでも重要であろう。また古墳と周溝墓の懸隔はなんらかの外的契機の介在が想定される、纒向遺跡等にみられた地域間交渉の成果による人的交流等の技術基盤をも視点におく必要があろう。

総　　括

3年次におよぶ調査により確認された遺構は、方形周溝墓117基、弥生時代住居址1軒、平安

時代住居址３軒となる。このほかには、遺構は伴なわないが旧石器時代、縄文時代関係の遺物が検出されている。

以下に主要な遺構、遺物について簡単に記述しておく。

１　旧石器時代：ローム層の掘り下げは行っておらず、方形周溝墓の確認、及び掘り下げ時に偶然採集されたものであるが、今回の発見により武蔵野編年Ⅱｂ層相当の広がりが本台地にも拡散されることが明らかとなった。台地の続きに乗る宮ノ上、立石遺跡では小規模ではあるがＡＴ下位に２枚の文化層が確認されており、今後、石器群の層位関係の把握が可能である。

２　縄文時代：旧石器時代と同様に遺構の掘り下げは行っておらず正確な住居の軒数の把握は行っていないが、遺物量は多く、遺構確認、遺構掘り下げ時に採取したものだけで、プラ箱60箱以上に及ぶものであった。その年代は縄文中期初頭のものから中期最終末に集中するようである。出土範囲は、方形周溝墓群Ａ地区に集中して、１万㎡の全域にしかも周溝墓の溝部壁面からの観察からは住居址等が何軒も重複して存在することより、大規模集落が想定されるところである。

３　方形周溝墓群：３年次にわたり２万㎡以上にわたる調査を行った訳であるが、調査区内では方形周溝墓117基が調査区全域に検出され一大墓域群の存在が明らかとなった。この方形周溝墓出土の土器は例外を除き、いずれも接近したものであり短期間に多数の方形周溝墓が相継いで造営されたことが確認された。築造の初現期は弥生後期と考えられた該期に属する土器が３基の方形周溝墓より認められ、東海系、箱清水系と複雑である。残る大部分のものは弥生時代終末から古墳時代前半期に集中する。出土土器は、壺の文様は肩部に縄文を施し、刷毛、篦磨きを主体とするもので東海地方からの影響が窺えるものである。また複合口縁壺は実用の域を脱して供献専用と考えられ、発生期古墳に見られる巨大化した円筒埴輪に類する性格も考えられる。また胎土が精製され他の土器と様相を異にする壺Ｇは搬入品と考えられ纒向Ⅲ期に近いものである。以上よりこれら方形周溝墓の築造時期は弥生後半期～古墳時代前半期に位置づけられる。

さて今回の調査では、方形周溝墓の造営集団の痕跡である集落址は、宮の上、立石で少数の住居址が検出されている程度で、巨大な墓群に対応する集落址は検出されなかった。盆地北西部の金の尾遺跡では17基の周溝墓と37基の住居址が確認され、櫛描文が主流で長野方面との類似が指摘されている。また曾根丘陵台地の南縁部での上野遺跡では環濠内に９軒の集落と２基の方形周溝墓、環濠外に３基の方形周溝墓がみとめられ、出土土器から本遺跡同様の東海系であることが判明している。

方形周溝墓は集落の全構成員を被葬者としたものでないことは、弥生中期の神奈川県大塚歳勝土遺跡をはじめ、金の尾遺跡でも明らかである。上の平遺跡では時代も下がり被葬者はさらに淘汰され少なくなったことであろう。この反面方形周溝墓群は巨大で築造が短期間に限定されることからも、とうてい一集落のものとは考えられず、上の平地域の諸集落さらに広範囲の集団の墓域が想定される。

これらの問題については、上の平遺跡に続く宮の上、立石遺跡の整理を進める中で、検討する予定である。

（小林　広和、里村　晃一）

参考文献

富士宮市教育委員会　月の輪遺跡群　1981

沼津市教育委員会　八兵衛洞遺跡群発掘調査報告書　1981

富士市教育委員会　三新田遺跡発掘調査報告書　1983

近藤義郎　共同体と単位集団　1959

金井塚良一　古代集落構成　歴史教育15－3　1967

大参義一　弥生土器から土師器へ―東海地方の場合―名古屋大学文学部研論集XL　1968

岩崎卓也　古式土師器再考―前期古墳出土の土師器をめぐって　東京教育大学文学部紀要　1973

小野真一他　沼津市大廓発見の住居址と土器　歴史科学20　1969

横浜市埋蔵文化財調査委員会　歳勝土遺跡　1975

櫛形町教育委員会　六科丘遺跡　1985

韮崎市教育委員会　坂井南　1988

三珠町教育委員会　一条氏館跡遺跡　1988

三珠町教育委員会　上野遺跡　1989

甲西町教育委員会　住吉遺跡　1981

第5回三県シンポジュウム　古墳出現における地域性　1984

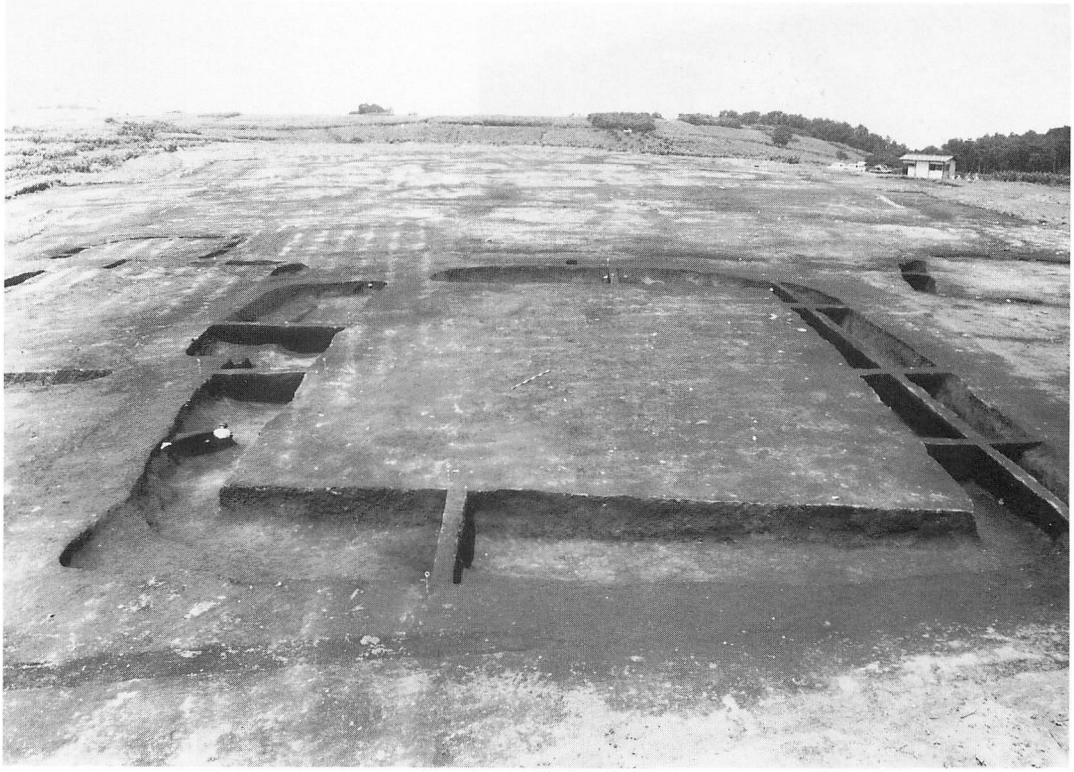
中山聖二甲府盆地における古墳出現期の土器様相　山梨考古学論集Ⅰ　1986

小林広和、里村晃一　上の平遺跡　日本歴史384　1980

山梨県教育委員会　上の平　1980

小林広和、里村晃一　山梨県上の平遺跡　日本考古学年報　1982

図　　版



第 1 号方形周溝墓全景

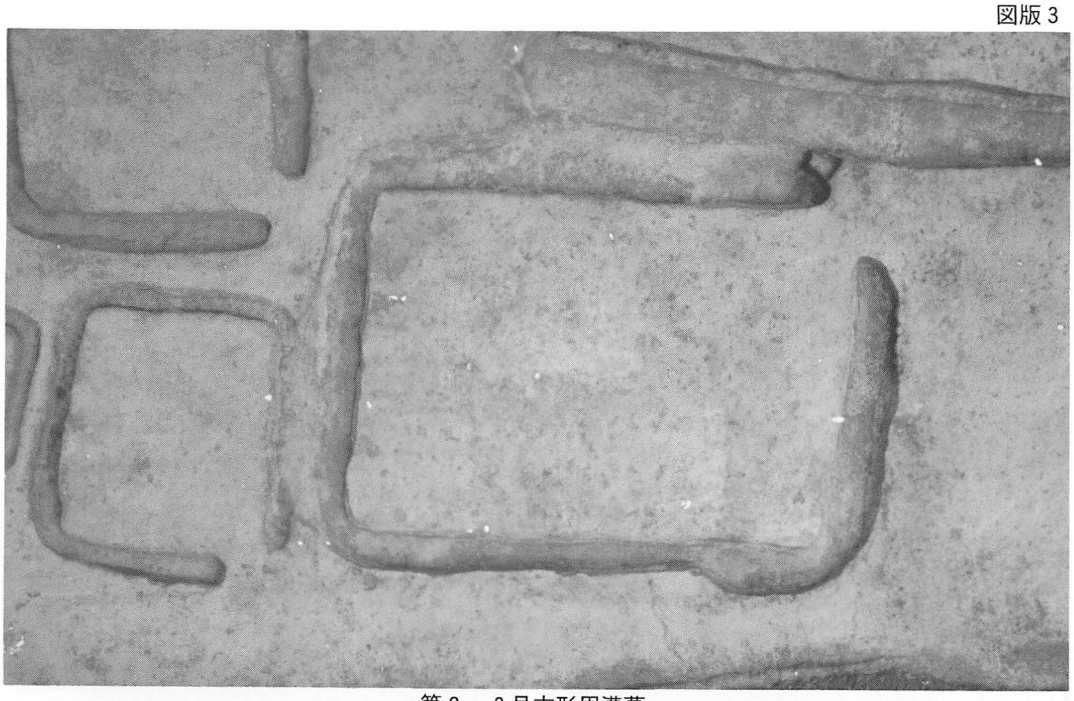
第 1 号方形周溝墓全景（セクション付）

図版 2

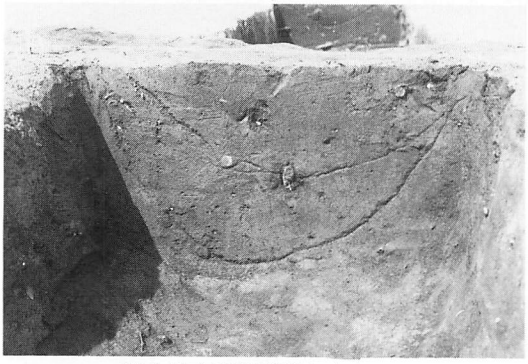
第１号方形周溝墓遺物出土状況

第1号方形周溝墓堆積状況（その1）

第1号方形周溝墓堆積状況（その2）



第 2 、 3 号方形周溝墓

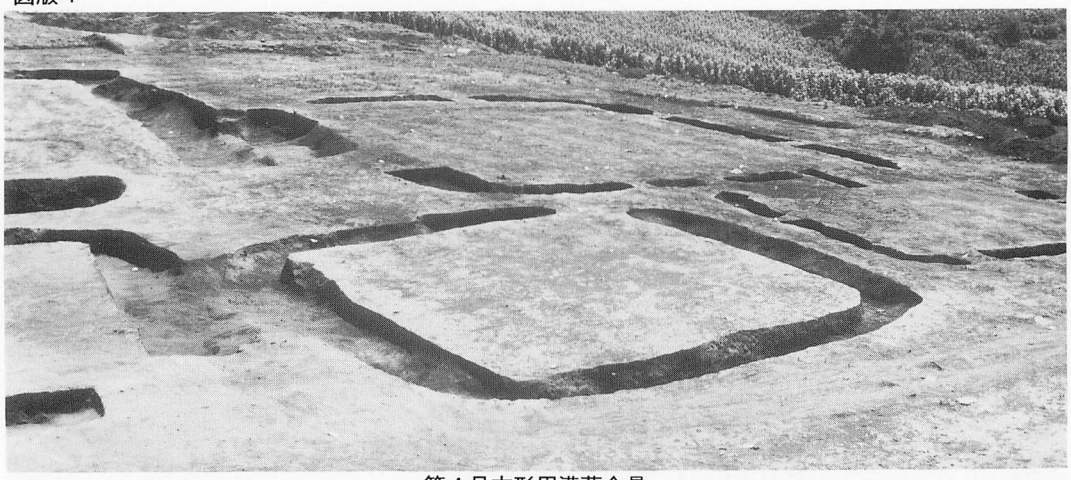


第 2 号方形周溝墓セクション

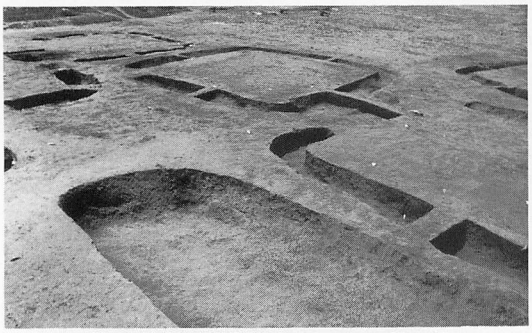
第 3 号方形周溝墓セクション

第 3 号方形周溝墓セクション

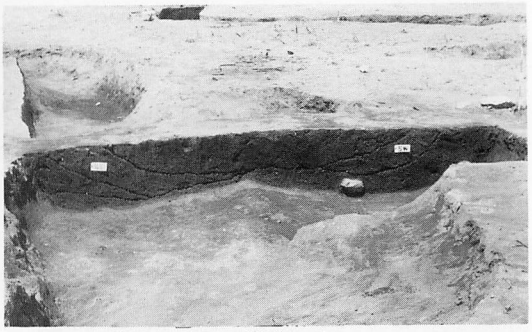
図版 4



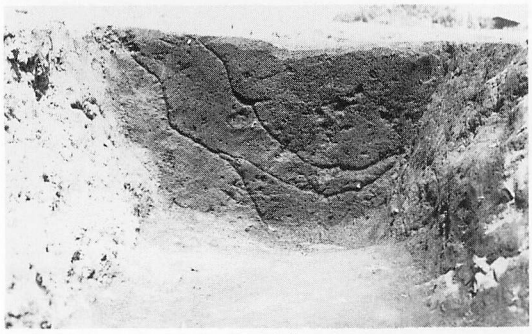
第 4 号方形周溝墓全景



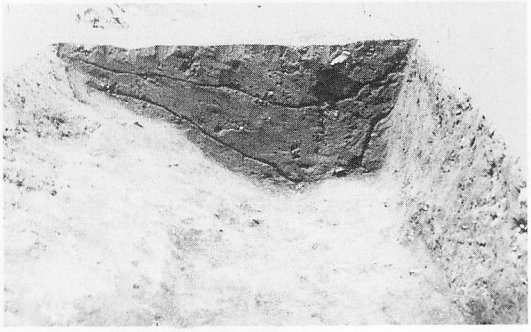
第 4 号方形周溝墓セクション付全景



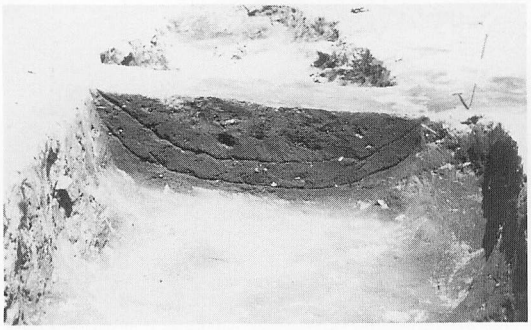
第 4 号方形周溝墓セクション



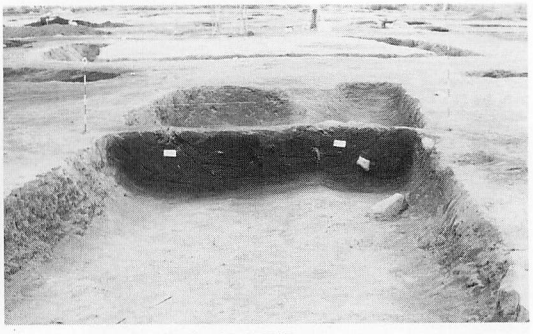
第 4 号方形周溝墓セクション



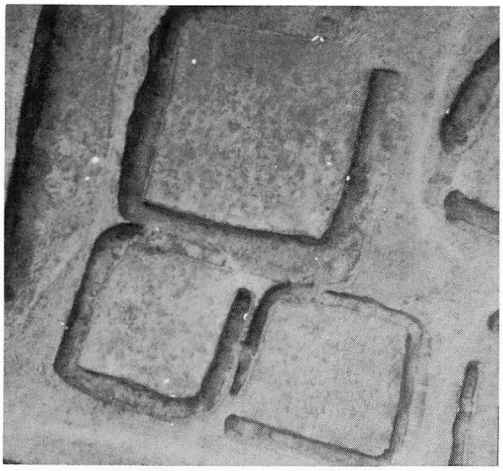
第 4 号方形周溝墓セクション



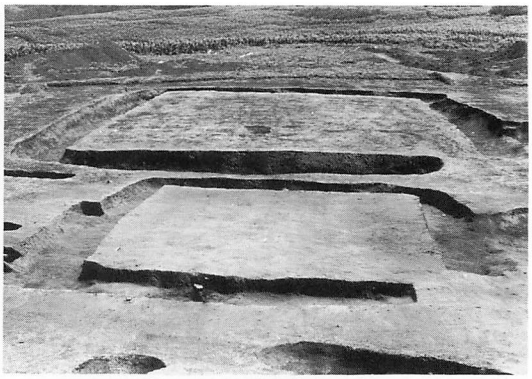
第 4 号方形周溝墓セクション



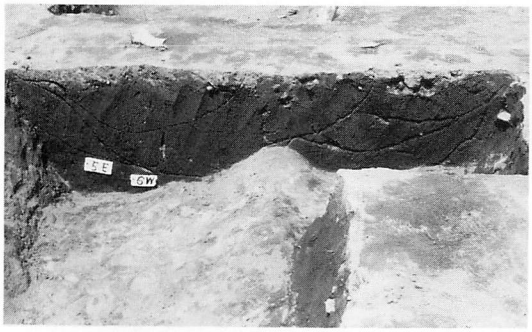
第 4 号方形周溝墓セクション



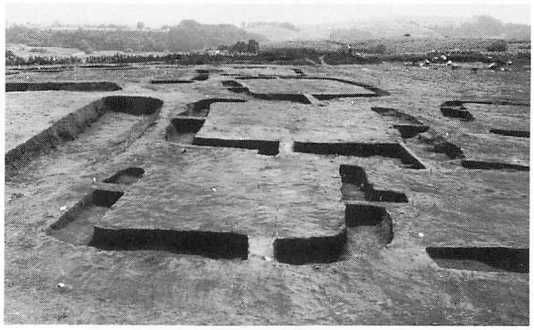
第 5 、 6 号方形周溝墓



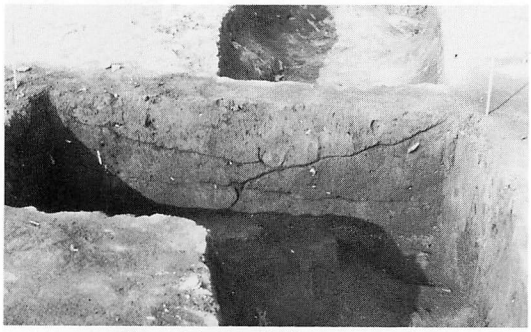
第 5 号方形周溝墓全景



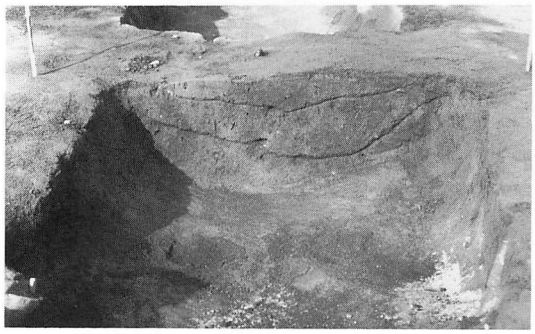
第 5 号方形周溝墓セクション



第 6 号方形周溝墓全景



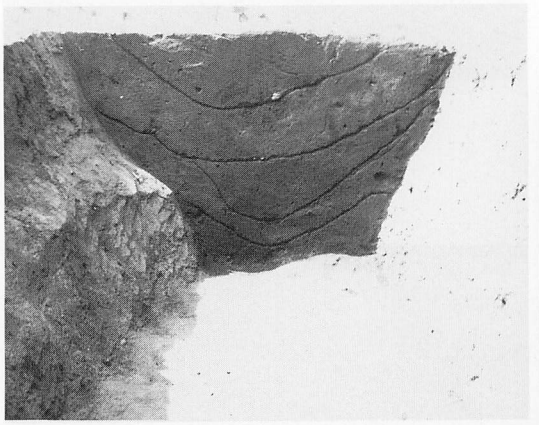
第 6 号方形周溝墓セクション



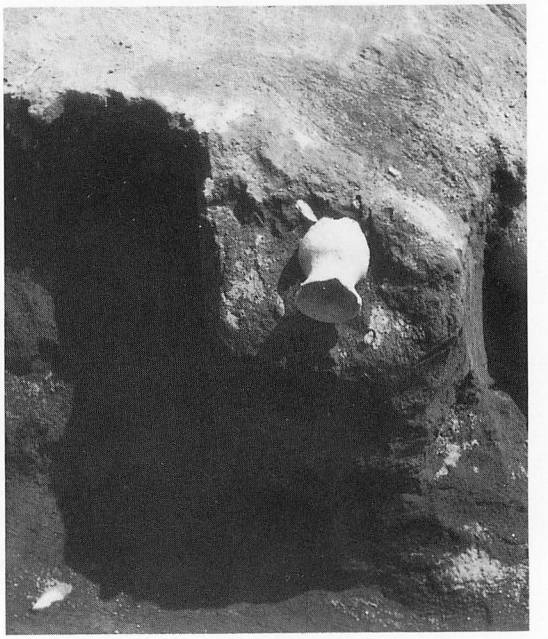
第 6 号方形周溝墓セクション

図版 6

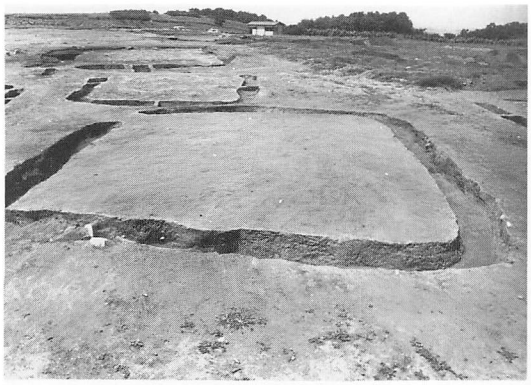
第 7 号方形周溝墓平面



第 7 号方形周溝墓セクション

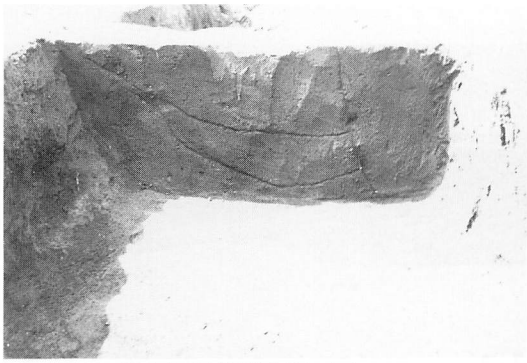


第 7 号方形周溝墓遺物出土状況



第 8 号方形周溝墓全景

第 8 号方形周溝墓遺物出土状況



第 8 号方形周溝墓セクション

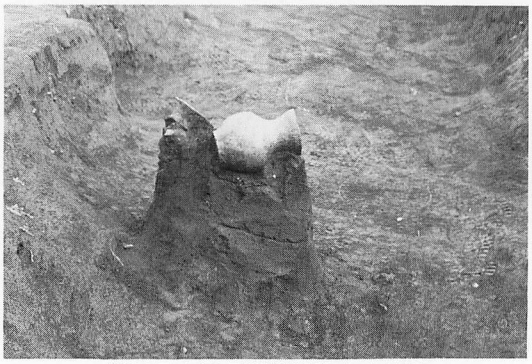
第 8 号方形周溝墓セクション

第 8 号方形周溝墓セクション

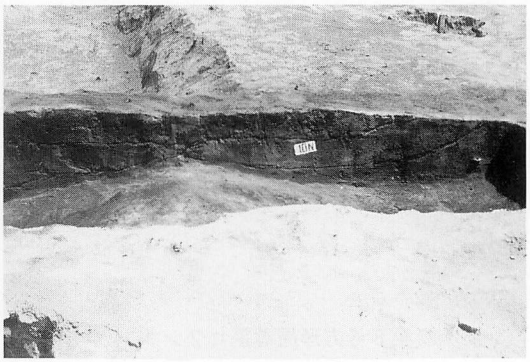
第 9 号方形周溝墓全景

図版 8

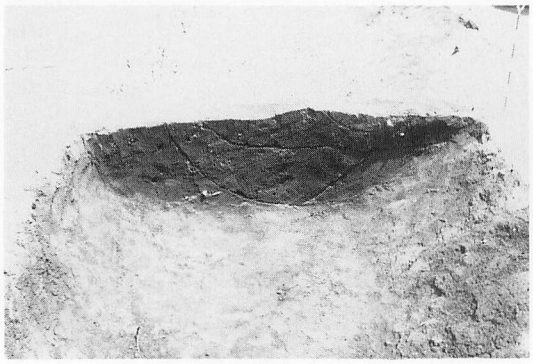
第10号方形周溝墓全景



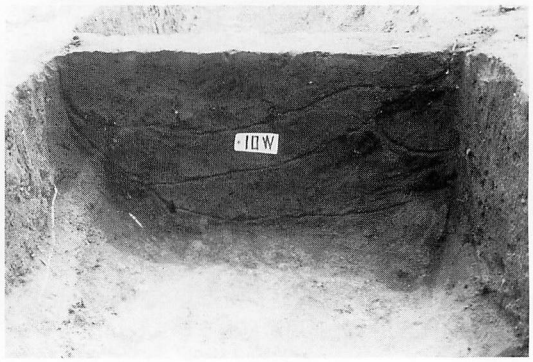
第10号方形周溝墓遺物出土状況



第10号方形周溝墓セクション

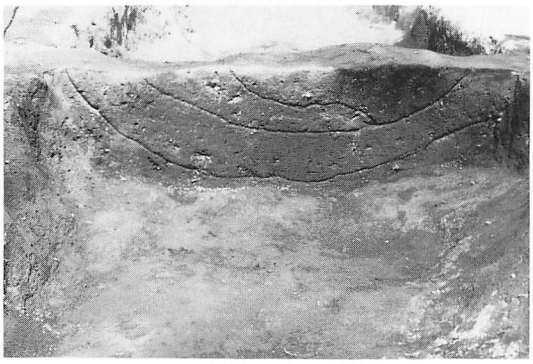


第10号方形周溝墓セクション

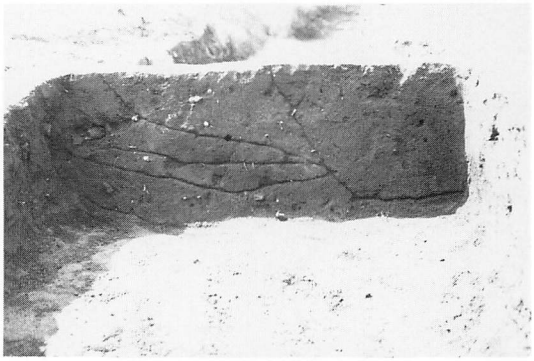


第10号方形周溝墓セクション

第11号方形周溝墓全景

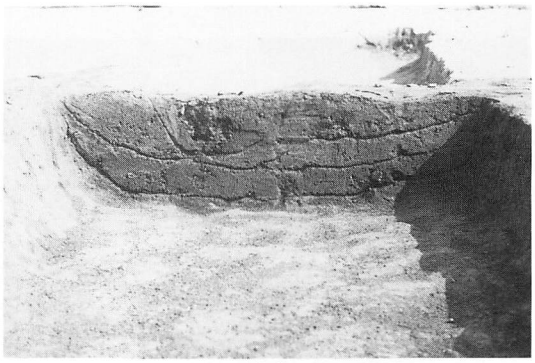


第11号方形周溝墓セクション



第11号方形周溝墓セクション

第11号方形周溝墓セクション



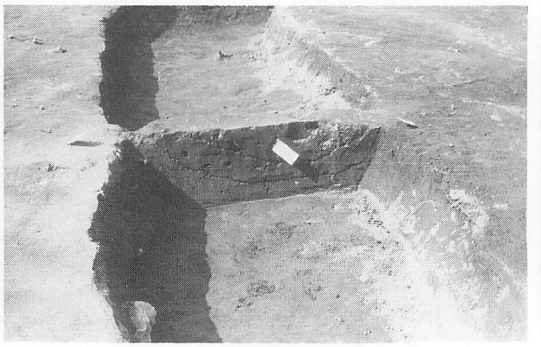
第11号方形周溝墓セクション

図版10

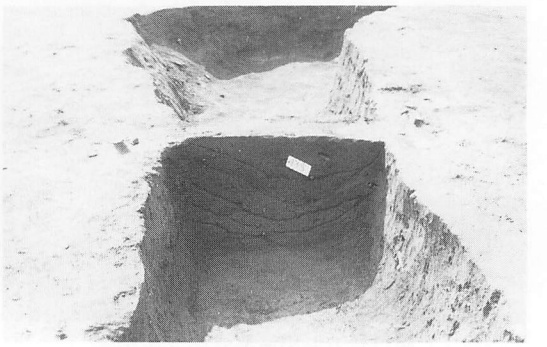
第12号方形周溝墓全景

第13号方形周溝墓全景

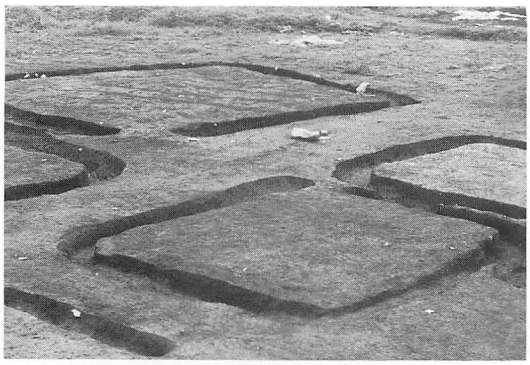
第13号方形周溝墓セクション



第13号方形周溝墓セクション

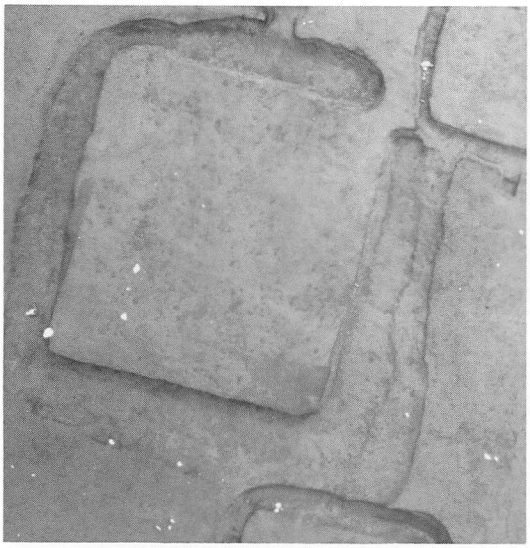


第13号方形周溝墓セクション



第14号方形周溝墓全景

第14号方形周溝墓セクション付



第15号方形周溝墓全景

第15号方形周溝墓セクション

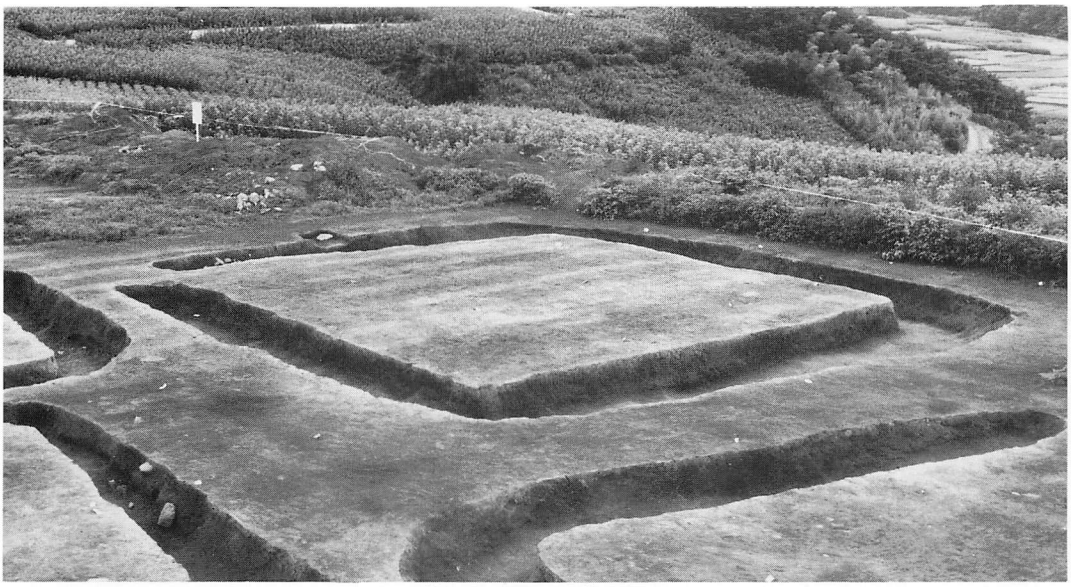
第15号方形周溝墓セクション

第15号方形周溝墓遺物出土状況

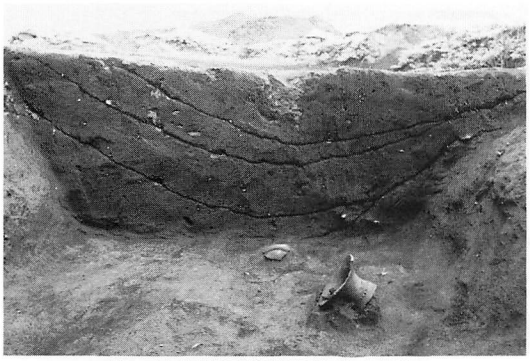
図版12

第16号方形周溝墓全景

第16号方形周溝墓セクション

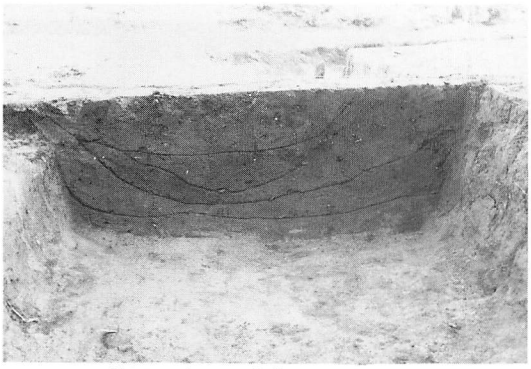


第17号方形周溝墓全景



第17号方形周溝墓遺物出土状況

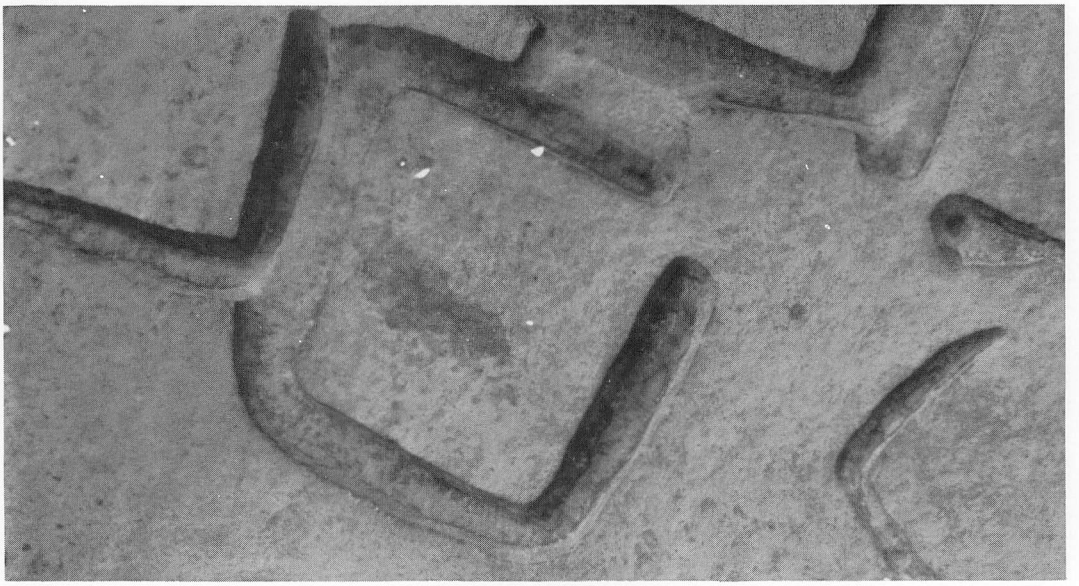
第17号方形周溝墓セクション



第17号方形周溝墓セクション

第17号方形周溝墓セクション

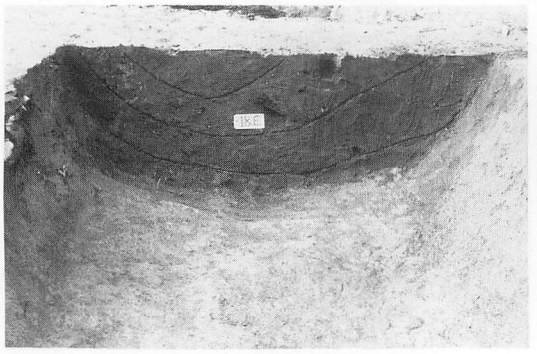
図版14



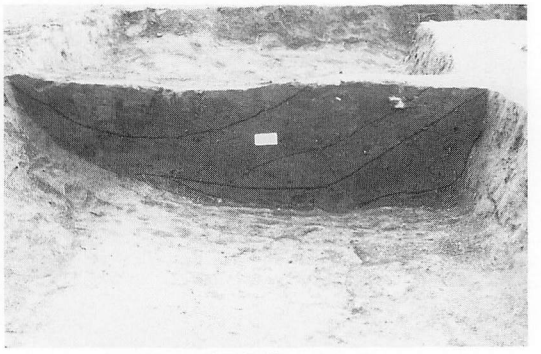
第18号方形周溝墓全景

第18号方形周溝墓遺物出土状況

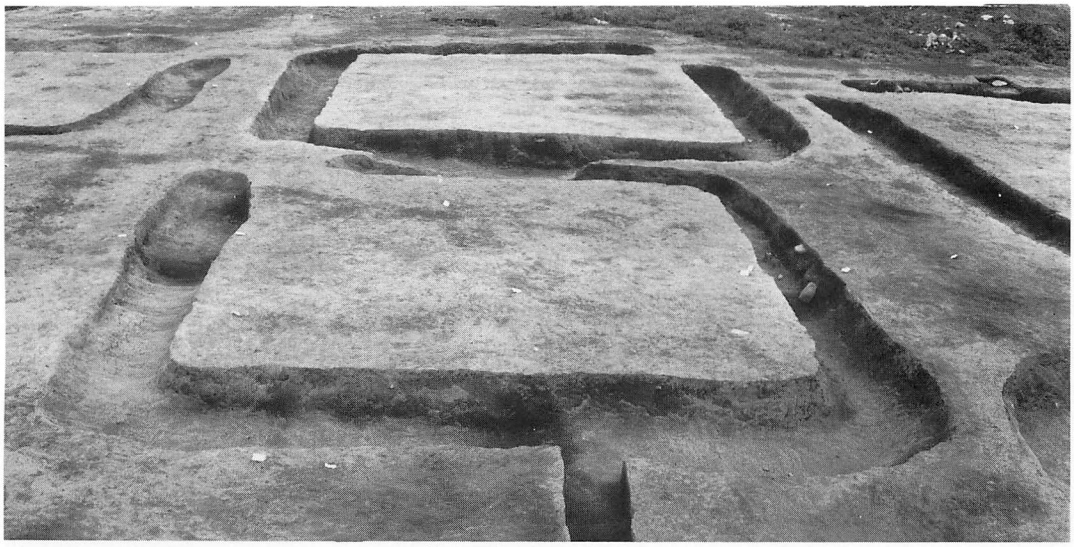
第18号方形周溝墓セクション



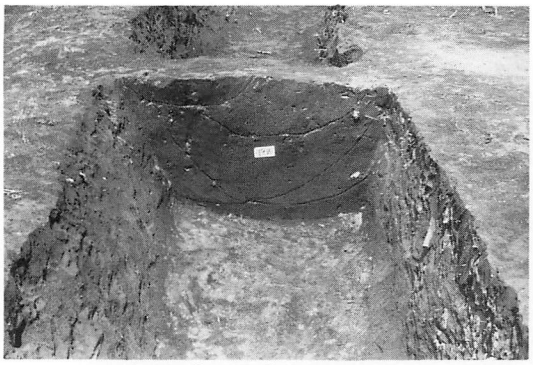
第18号方形周溝墓セクション



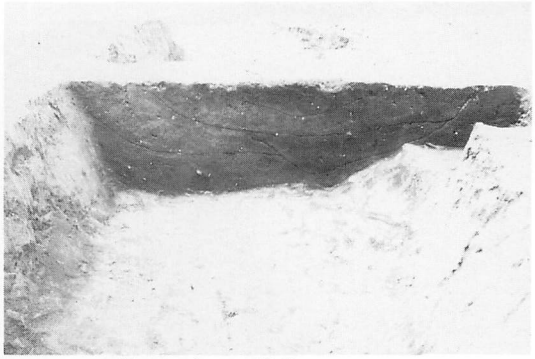
第18号方形周溝墓セクション



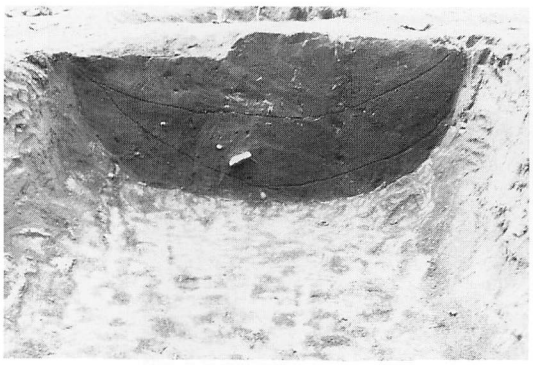
第19号方形周溝墓全景



第19号方形周溝墓セクション



第19号方形周溝墓セクション



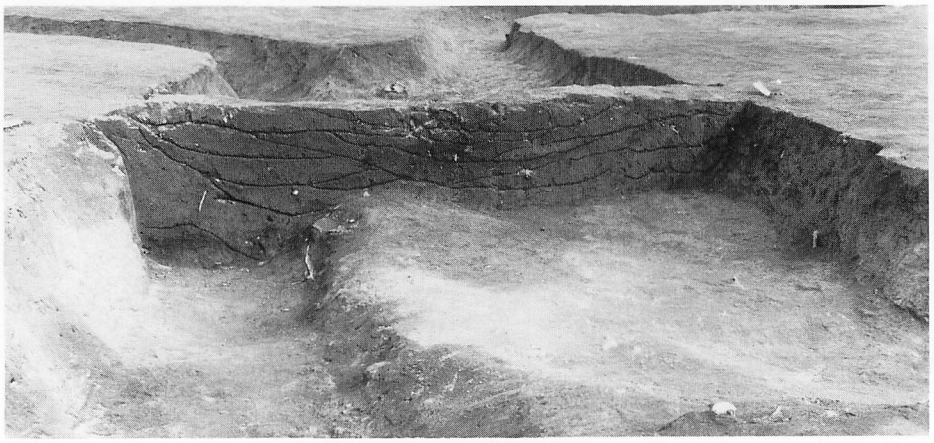
第19号方形周溝墓セクション

第19号方形周溝墓セクション

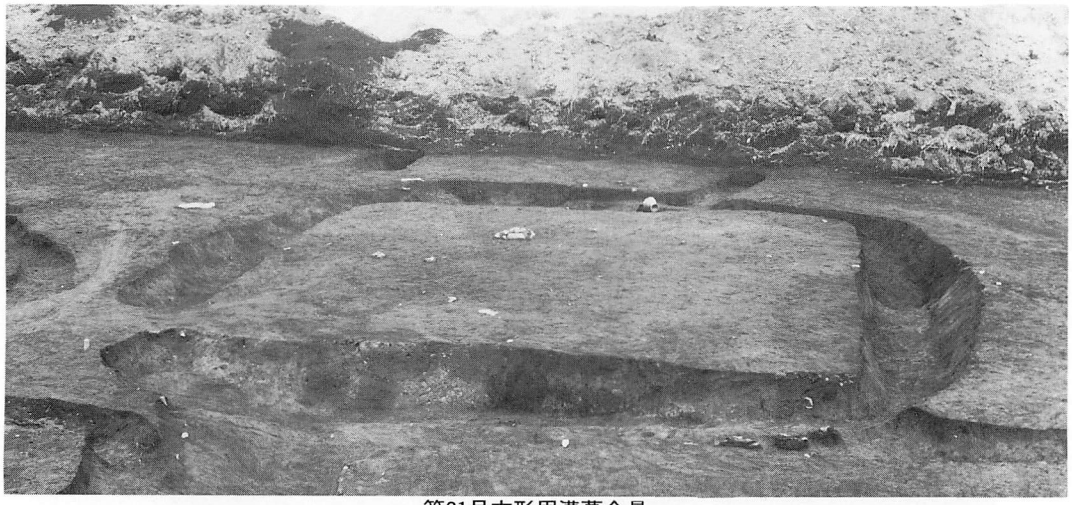
図版16

第20号方形周溝墓全景

第20号方形周溝墓セクション



第20号方形周溝墓セクション



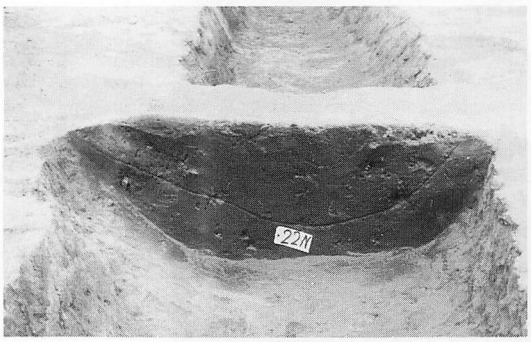
第21号方形周溝墓全景

第21号方形周溝墓セクション

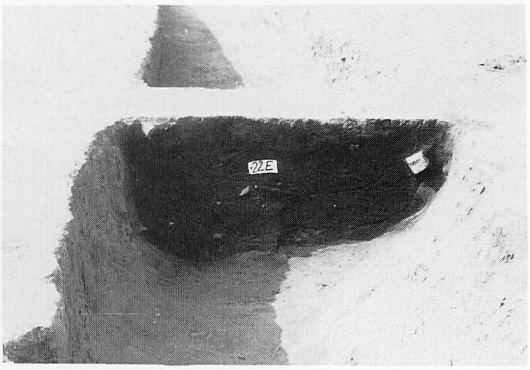
第21号方形周溝墓セッション

図版18

第22号方形周溝墓全景

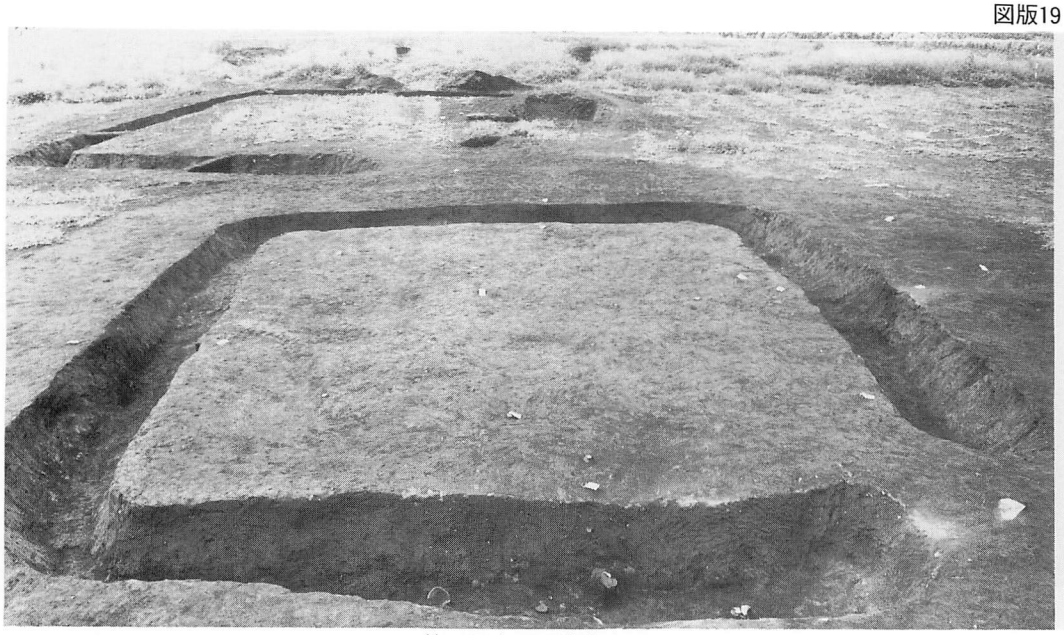


第22号方形周溝墓セクション



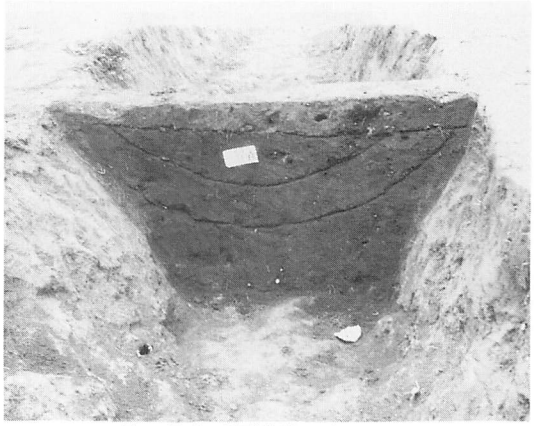
第22号方形周溝墓セクション

第22号方形周溝墓セクション

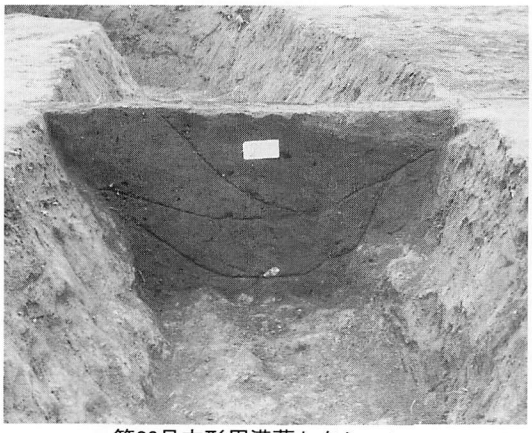


第23号方形周溝墓全景

第23号方形周溝墓遺物出土状況



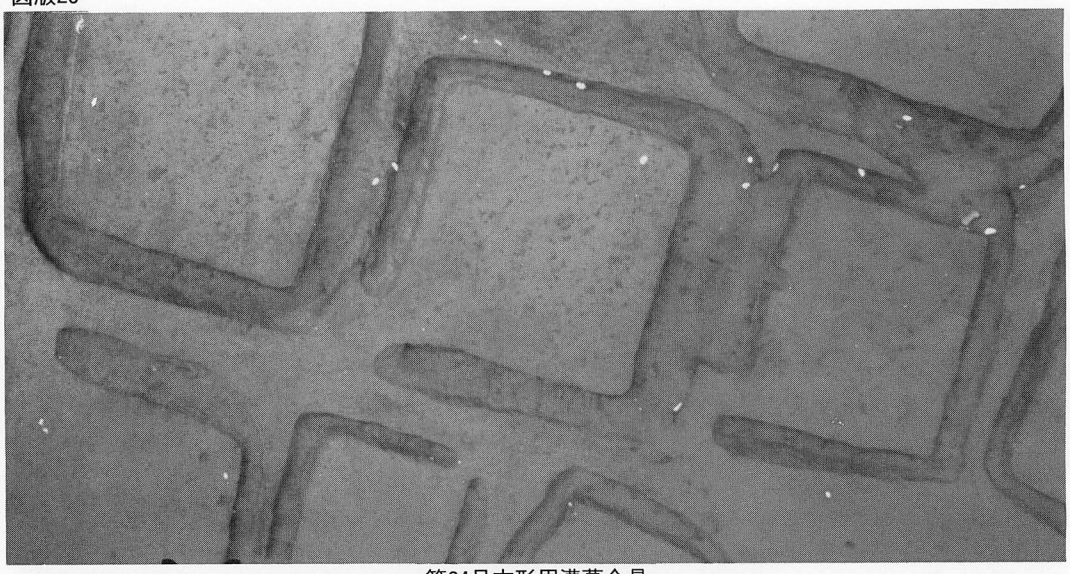
第23号方形周溝墓セクション



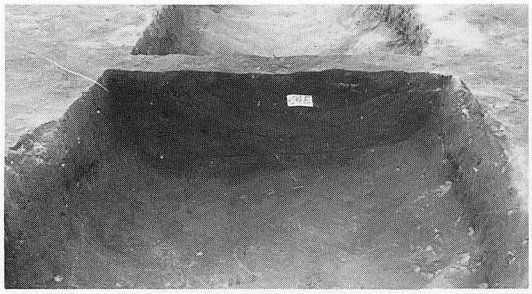
第23号方形周溝墓セクション

第23号方形周溝墓セクション

図版20



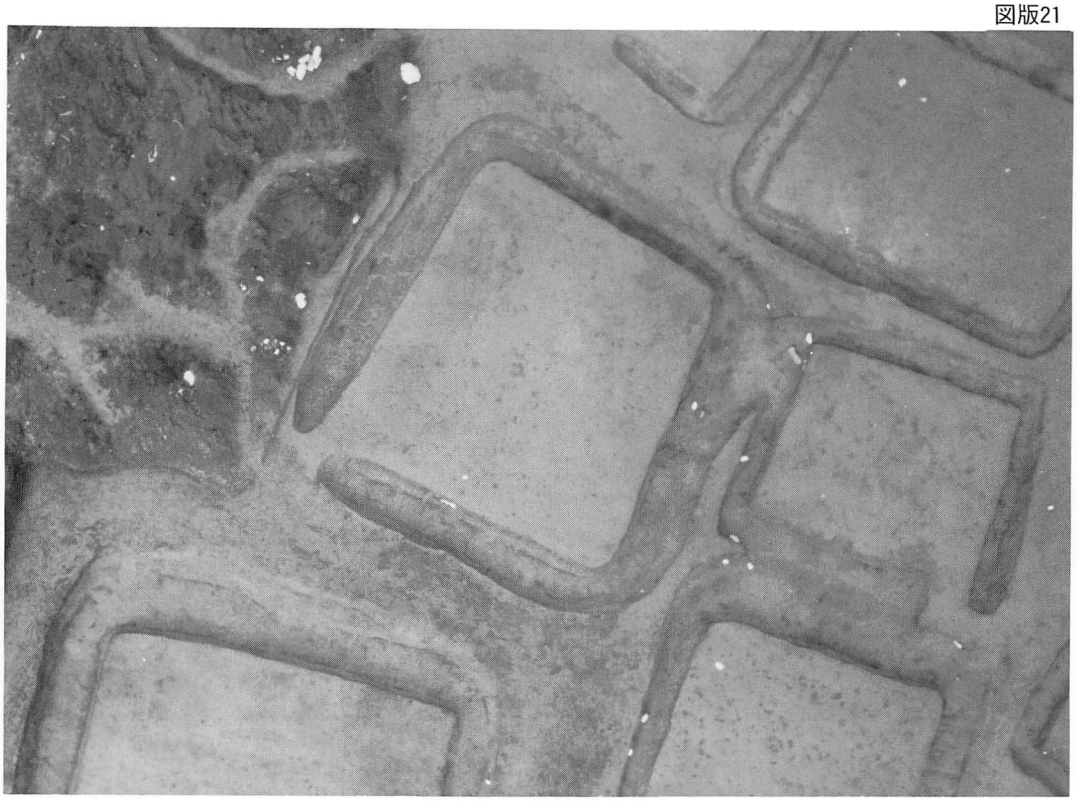
第24号方形周溝墓全景



第24号方形周溝墓セクション

第24号方形周溝墓セクション

第24号方形周溝墓セクション



第25号方形周溝墓全景

第26号方形周溝墓全景

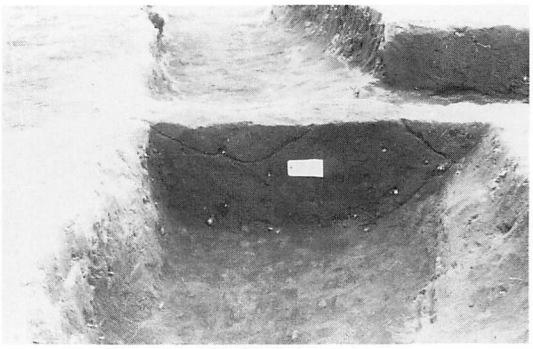
図版22

第27号方形周溝墓全景

第27号方形周溝墓遺物出土状況

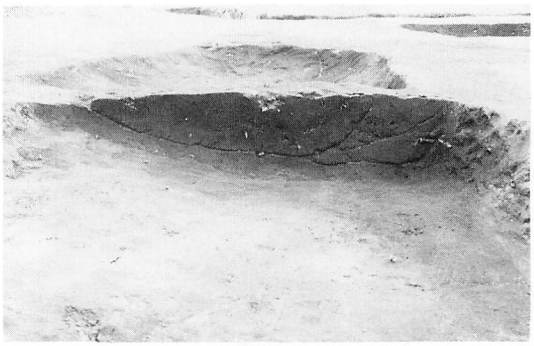
第28号方形周溝墓全景

第28号方形周溝墓セクション



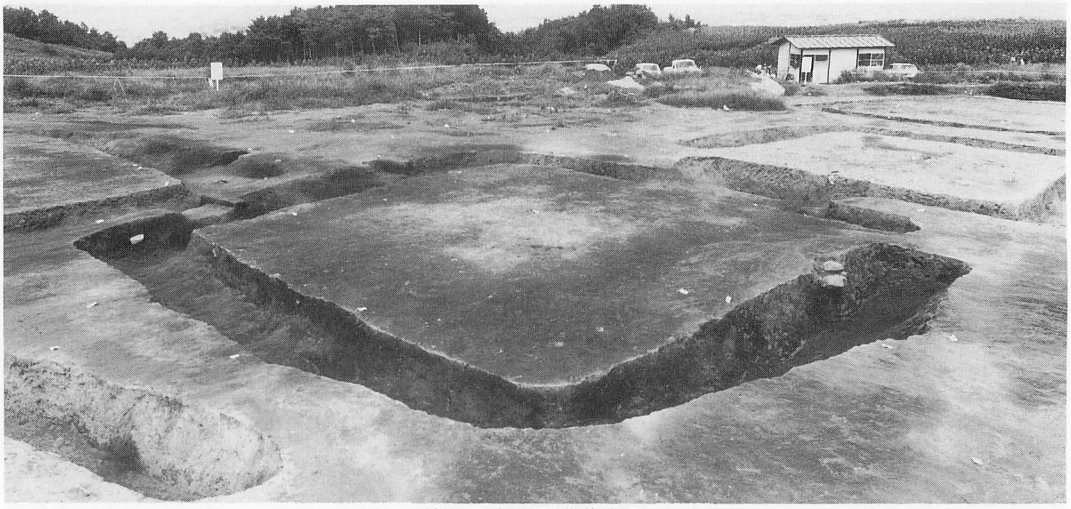
第28号方形周溝墓セクション

第28号方形周溝墓セクション



第28号方形周溝墓セクション

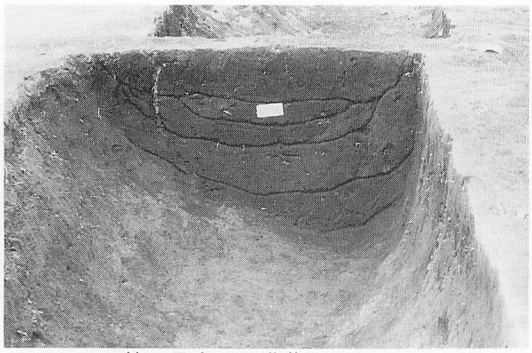
図版24



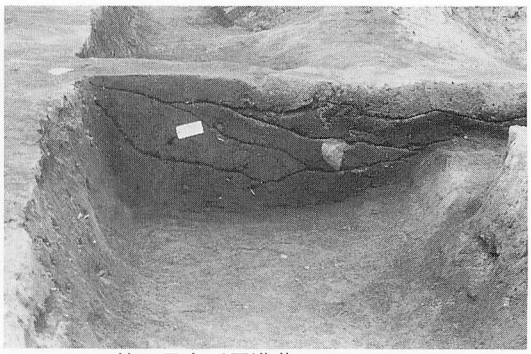
第29号方形周溝墓全景

第29号方形周溝墓セクション

第29号方形周溝墓セクション



第29号方形周溝墓セクション

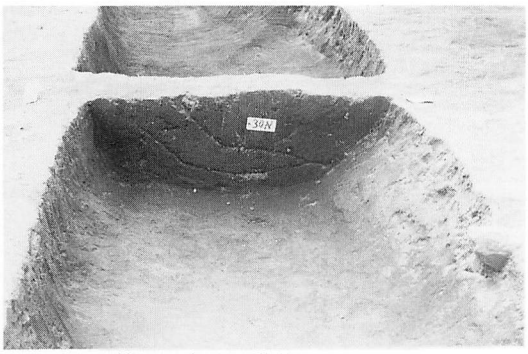


第29号方形周溝墓セクション

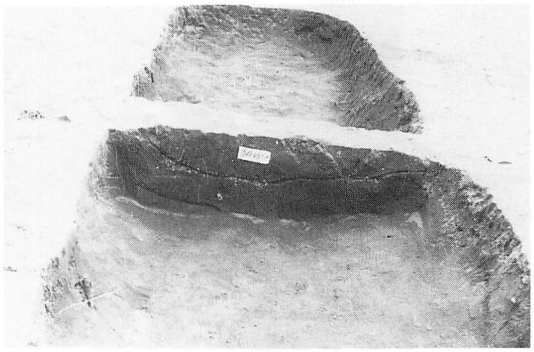
第30号方形周溝墓全景

第30号方形周溝墓セクション

第30号方形周溝墓セクション

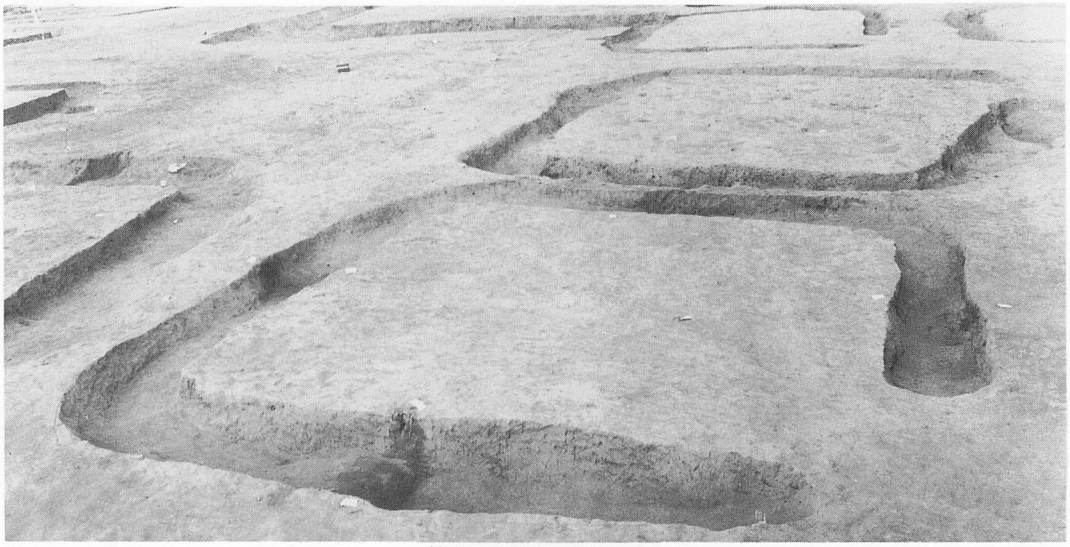


第30号方形周溝墓セクション



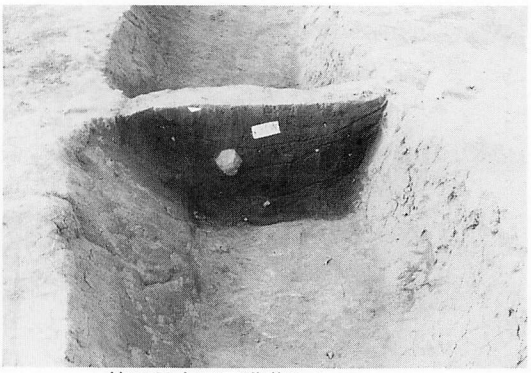
第30号方形周溝墓セクション

図版26

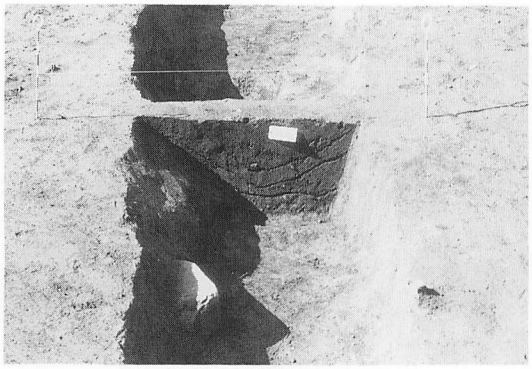


第31号方形周溝墓全景

第31号方形周溝墓セクション



第31号方形周溝墓セクション



第31号方形周溝墓セクション

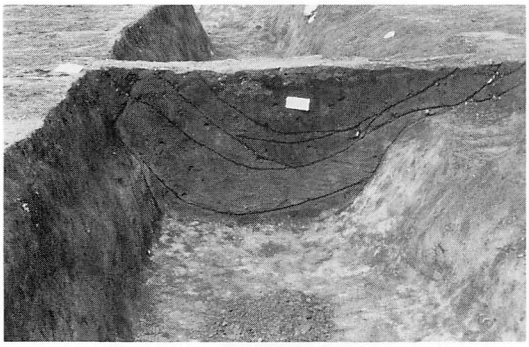
第31号方形周溝墓セクション

第32号方形周溝墓全景

第33号方形周溝墓全景

第33号方形周溝墓セクション

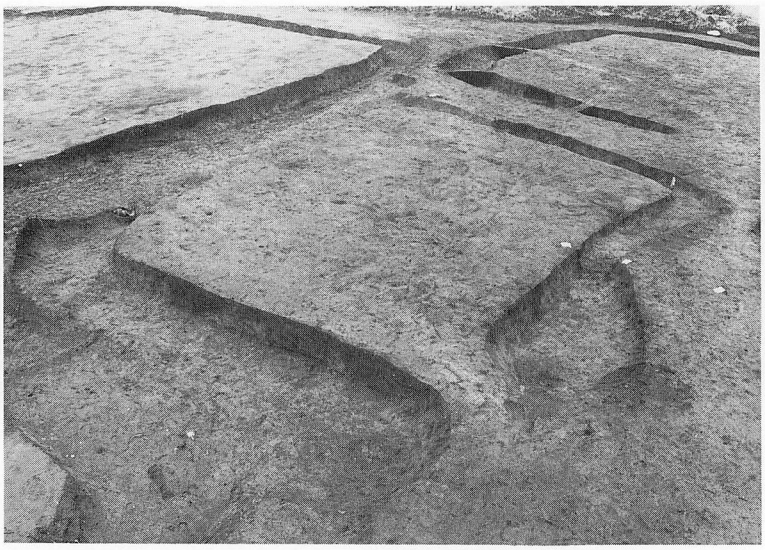
第33号方形周溝墓セクション



第33号方形周溝墓セクション

第33号方形周溝墓セクション

図版28

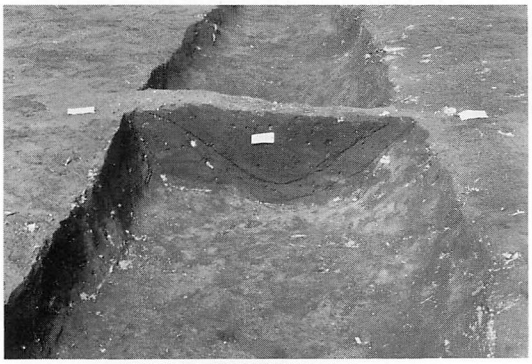


第34号方形周溝墓全景

第34号方形周溝墓遺物出土状況（台付甕）

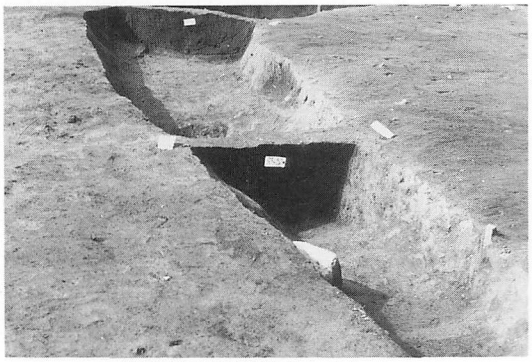
第34号方形周溝墓セクション

第35号方形周溝墓全景



第35号方形周溝墓セクション

第35号方形周溝墓セクション

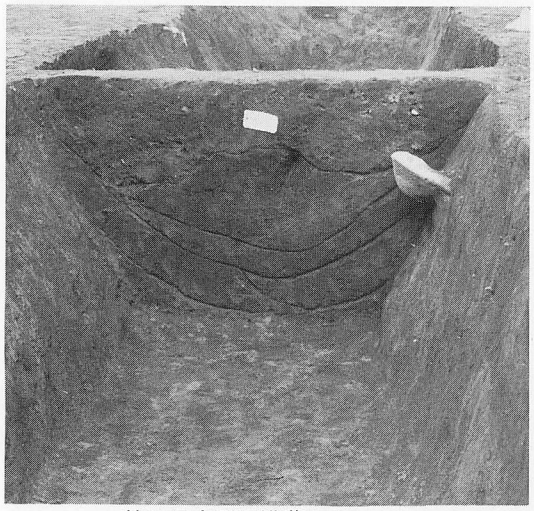


第35号方形周溝墓セクション

第35号方形周溝墓セクション

図版30

第36号方形周溝墓全景



第36号方形周溝墓セクション

第36号方形周溝墓セクション

第37号方形周溝墓全景

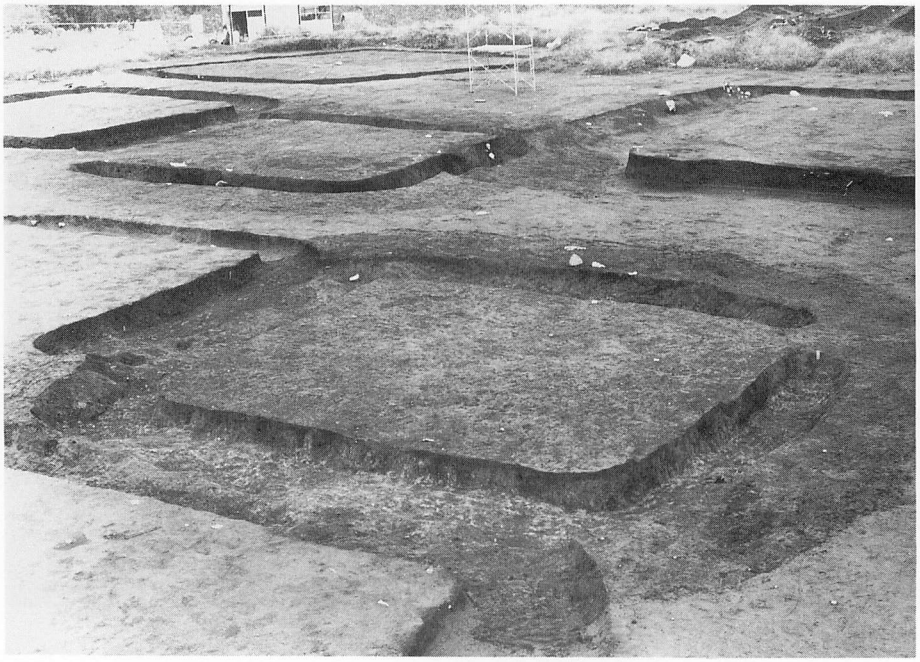
第37号方形周溝墓遺物出土状況

第37号方形周溝墓遺物出土状況

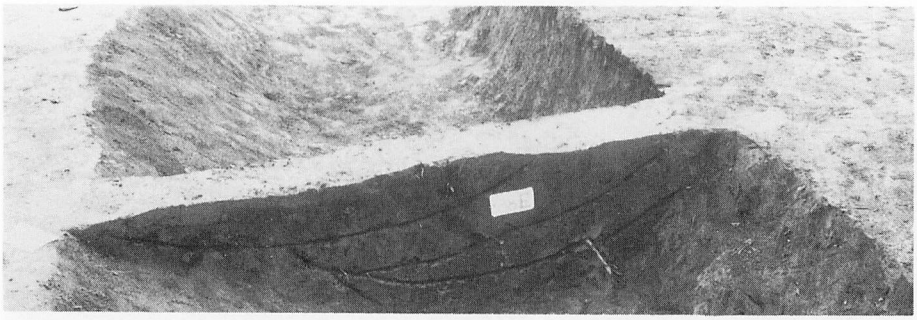
第37号方形周溝墓セクション

第37号方形周溝墓セクション

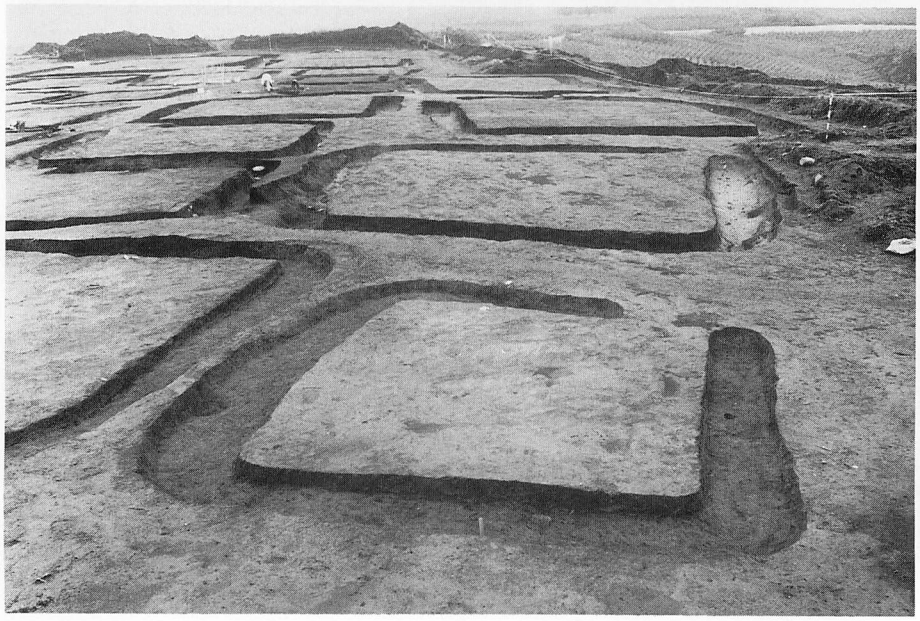
図版32



第38号方形周溝墓全景

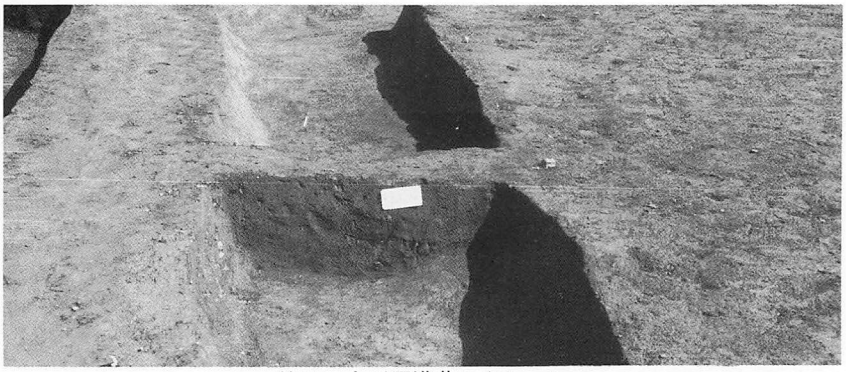


第38号方形周溝墓セクション



第39号方形周溝墓全景

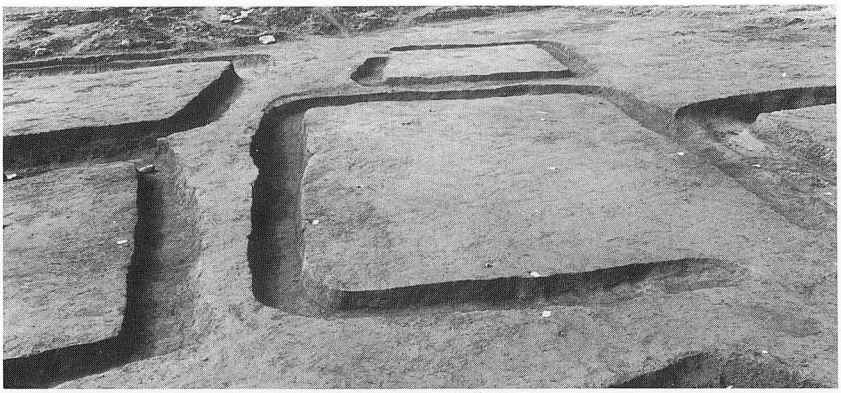
第40号方形周溝墓全景



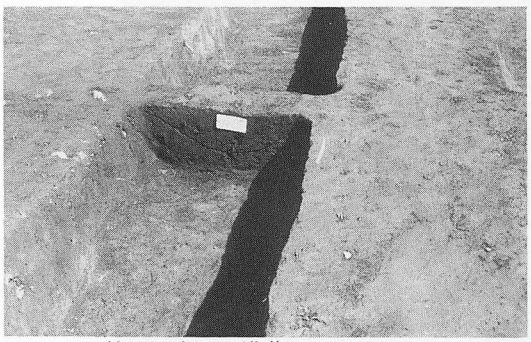
第40号方形周溝墓セクション

第40号方形周溝墓セクション

図版34

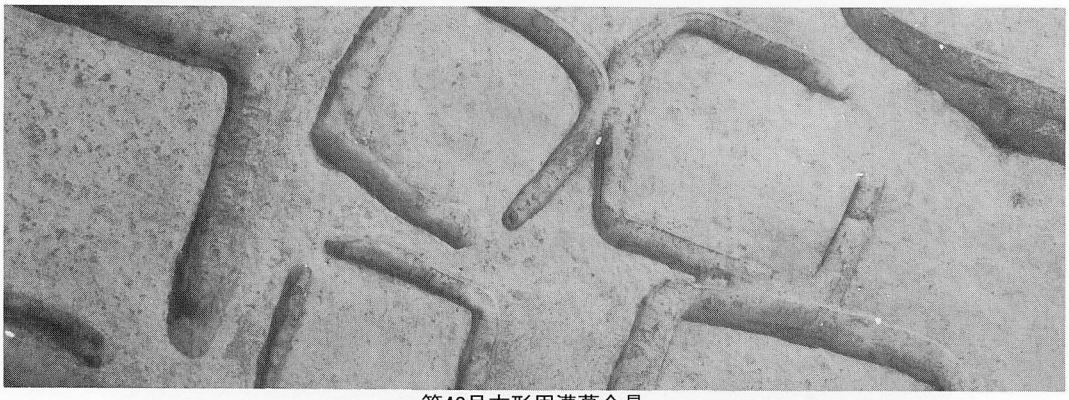


第41号方形周溝墓全景

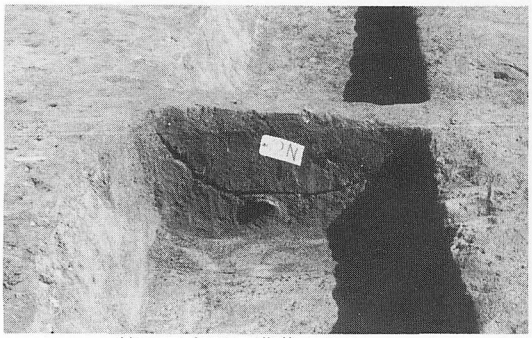


第41号方形周溝墓セクション

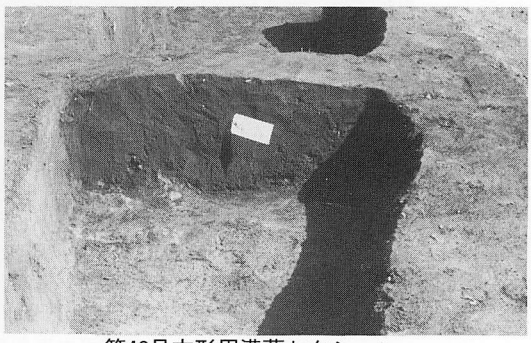
第41号方形周溝墓セクション



第42号方形周溝墓全景



第42号方形周溝墓セクション



第42号方形周溝墓セクション

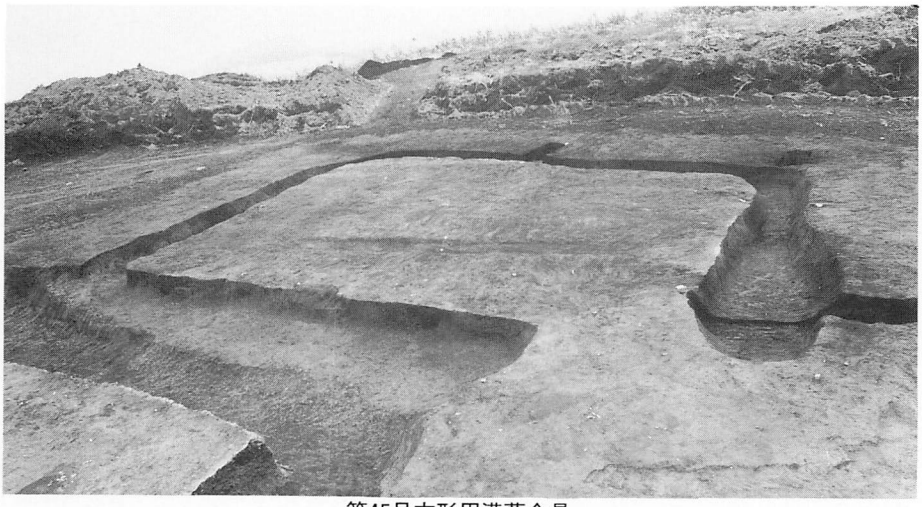
第43号方形周溝墓全景

第43号方形周溝墓セクション

第43号方形周溝墓セクション

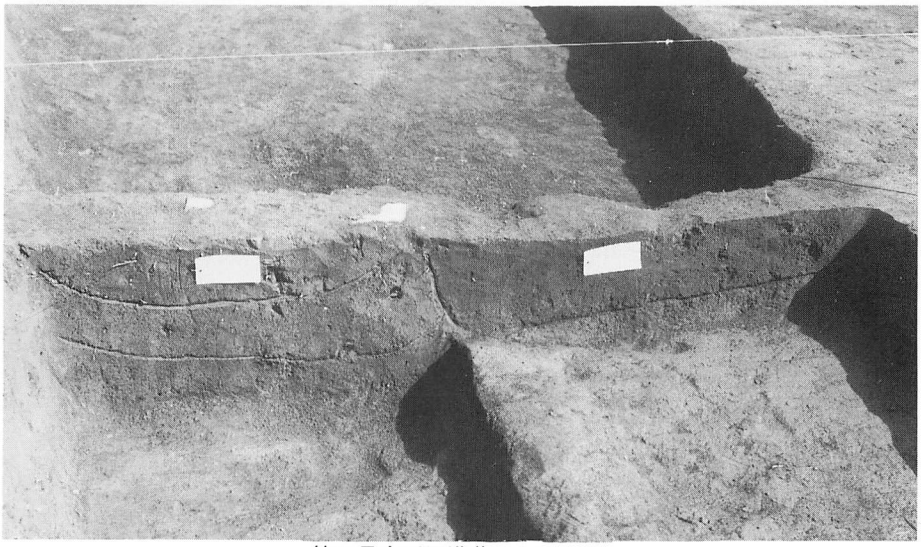
第44号方形周溝墓全景

第44号方形周溝墓セクション



第45号方形周溝墓全景

第46号方形周溝墓全景



第46号方形周溝墓セクション

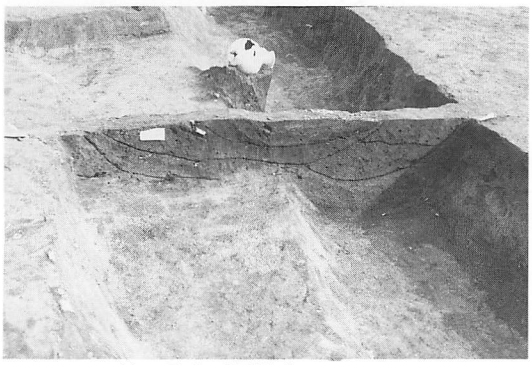
図版38

第47号方形周溝墓全景

第47号方形周溝墓セクション

第49号方形周溝墓全景

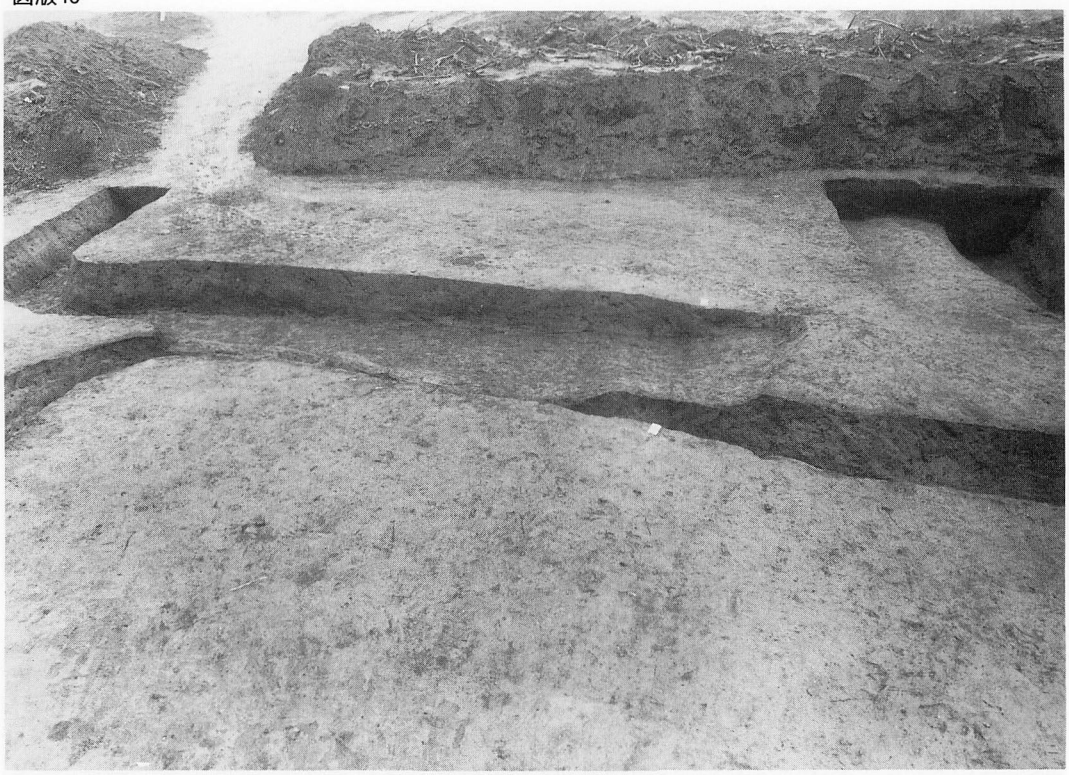
第50号方形周溝墓全景



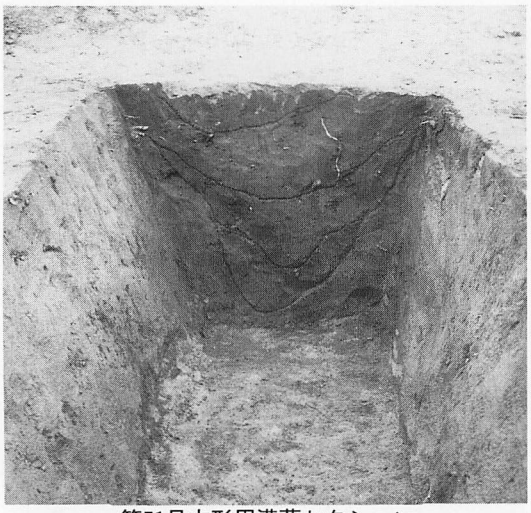
第50号方形周溝墓セクション

第50号方形周溝墓遺物出土状況

図版40



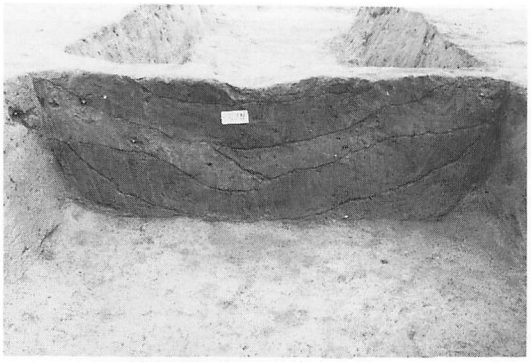
第51号方形周溝墓全景



第51号方形周溝墓セクション

第51号方形周溝墓セクション

第52号方形周溝墓全景



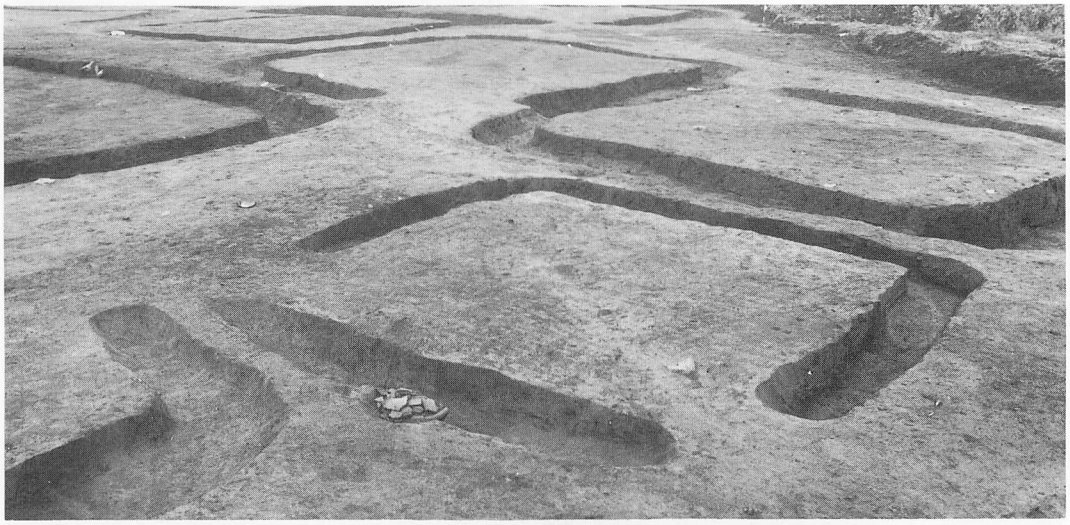
第52号方形周溝墓セクション

第52号方形周溝墓セクション

第53号方形周溝墓全景

図版42

第54号方形周溝墓全景



第55号方形周溝墓全景

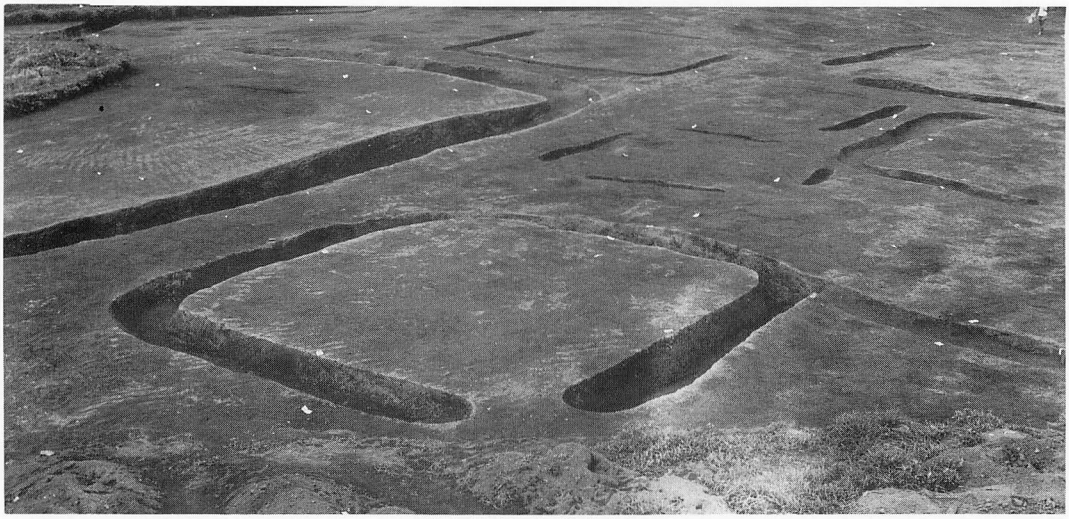
第55号方形周溝墓セクション

第55号方形周溝墓セクション

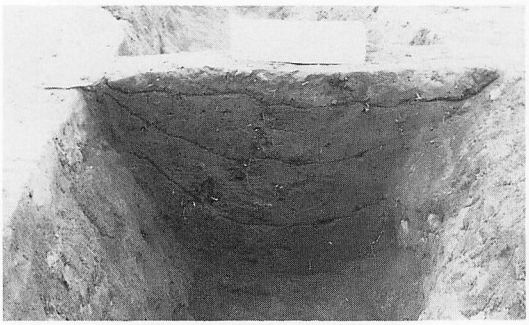
第56号方形周溝墓全景

第56号方形周溝墓セクション

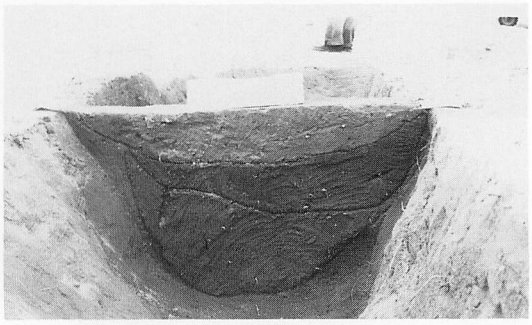
図版44



第57号方形周溝墓全景



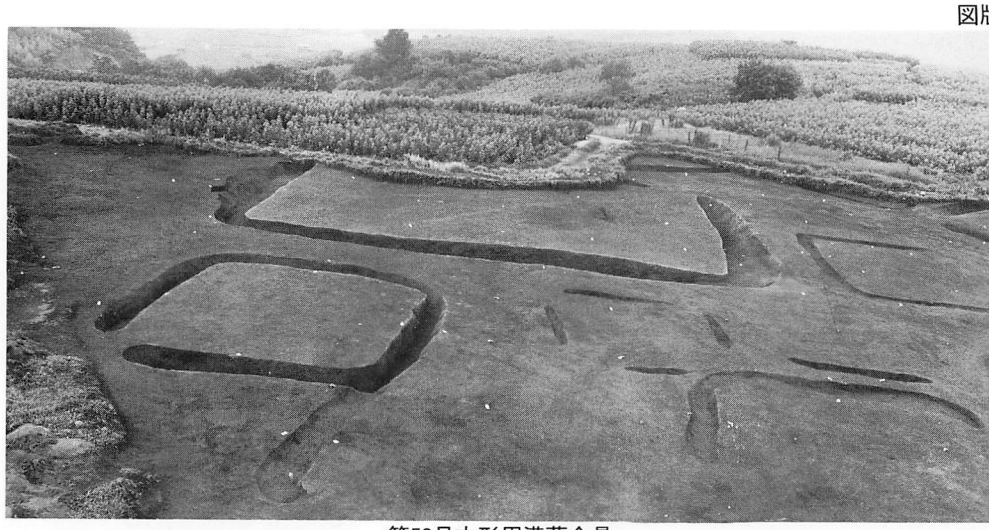
第57号方形周溝墓セクション



第57号方形周溝墓セクション

第57号方形周溝墓セクション

第57号方形周溝墓セクション

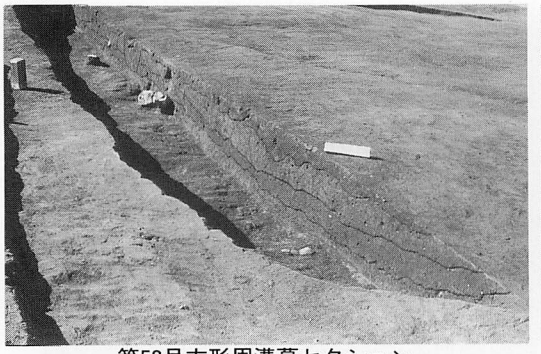


第58号方形周溝墓全景

第58号方形周溝墓全景

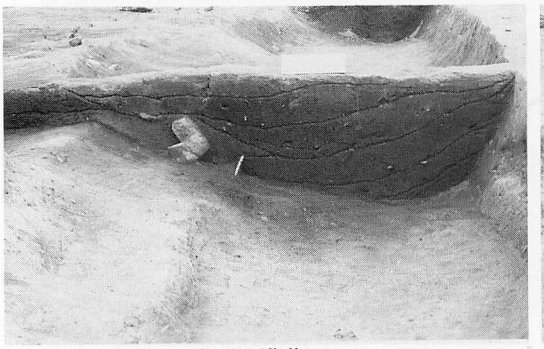
第58号方形周溝墓遺物出土状況

図版46



第58号方形周溝墓セクション

第58号方形周溝墓セクション



第58号方形周溝墓セクション

第58号方形周溝墓セクション

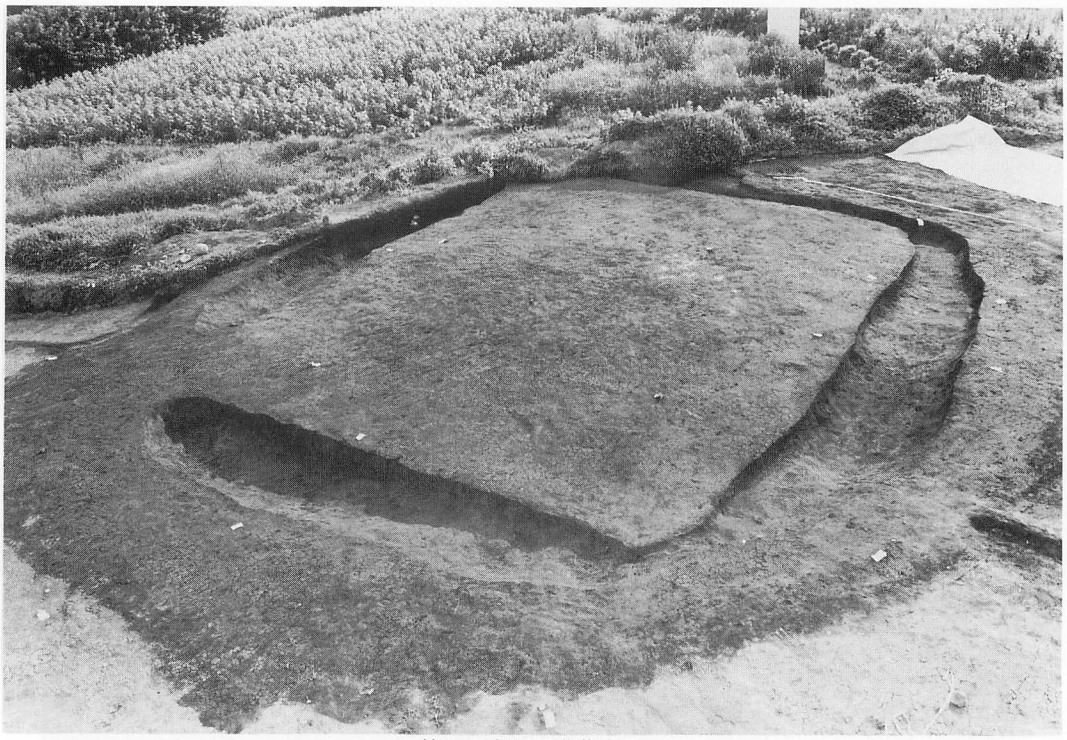
第59号方形周溝墓全景

第60号方形周溝墓全景

第61号方形周溝墓全景

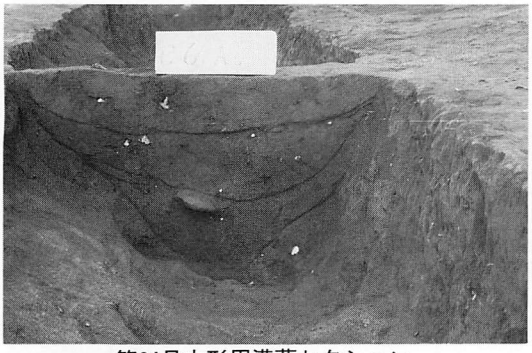
図版48

第62号方形周溝墓全景

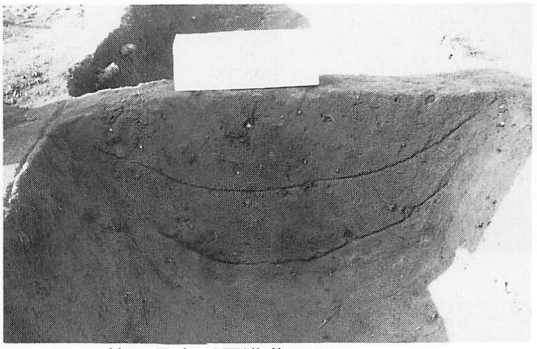


第63号方形周溝墓全景

第64号方形周溝墓全景



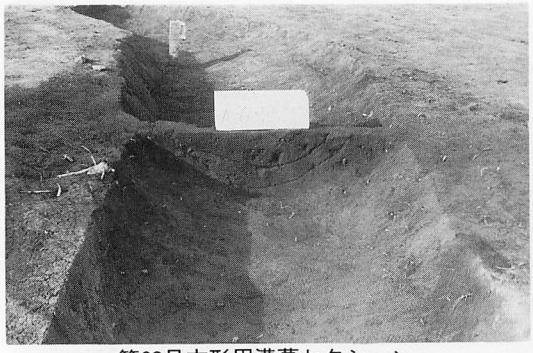
第64号方形周溝墓セクション



第64号方形周溝墓セクション

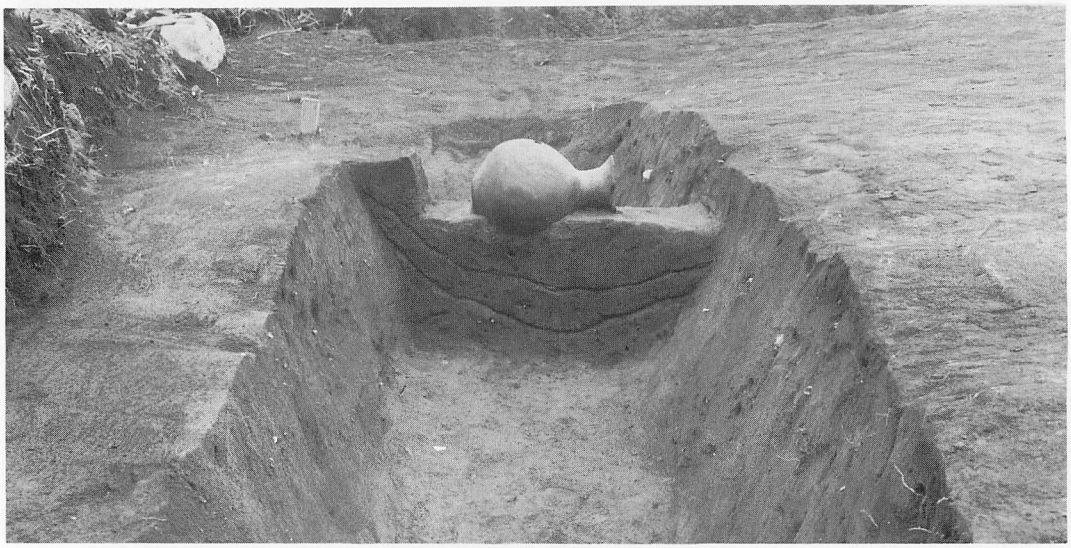
第65号方形周溝墓セクション

図版50



第68号方形周溝墓セクション

第71号方形周溝墓セクション



第73号方形周溝墓遺物出土状況

第73号方形周溝墓遺物出土状況

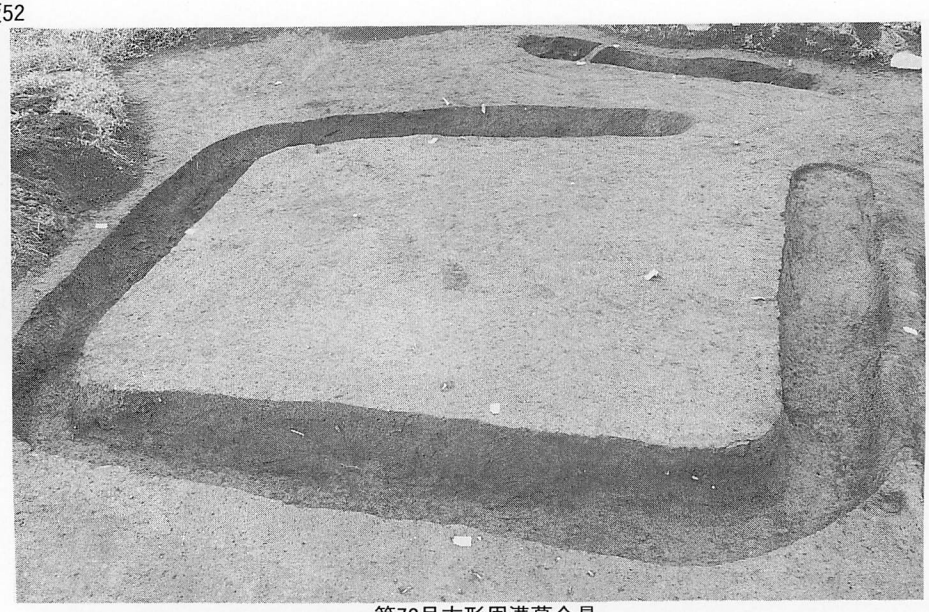
第67号方形周溝墓全景

第67号方形周溝墓セクション

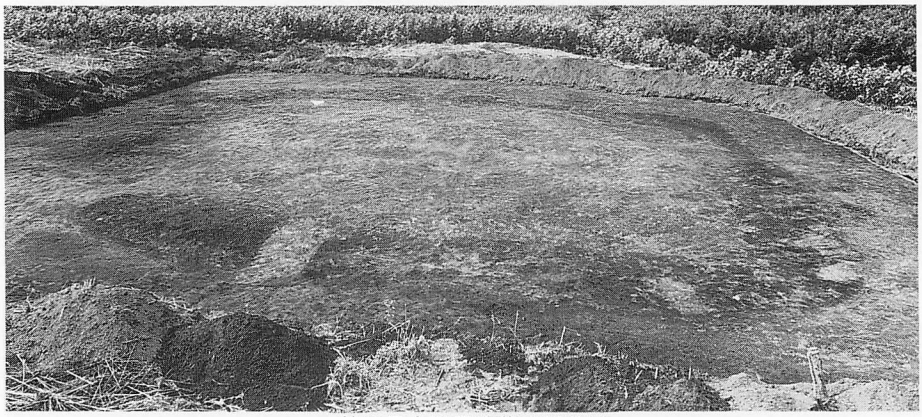
第70号方形周溝墓セクション

第70号方形周溝墓全景

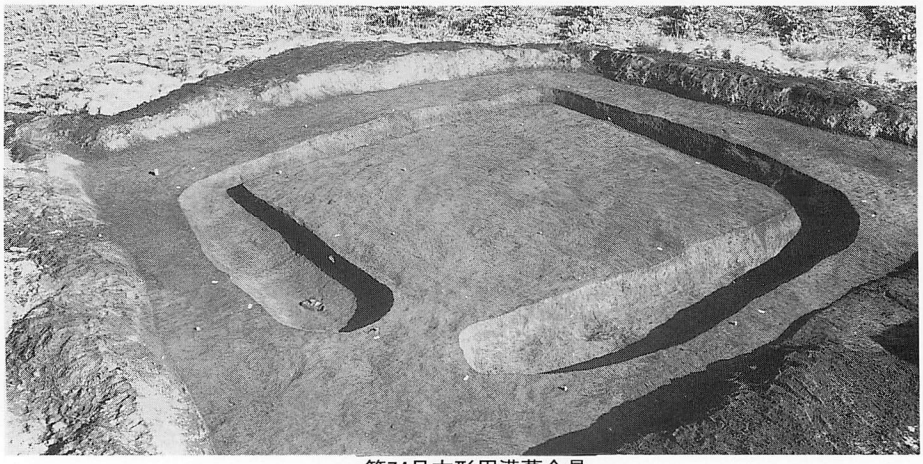
図版52



第72号方形周溝墓全景



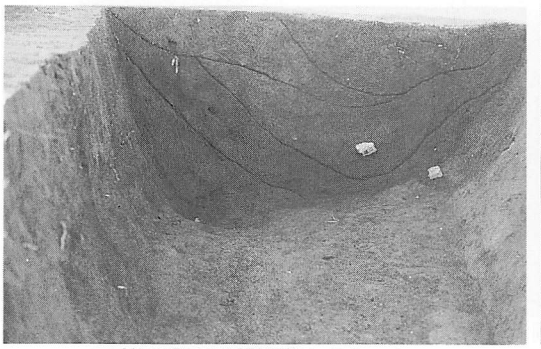
第74号方形周溝墓確認状況



第74号方形周溝墓全景

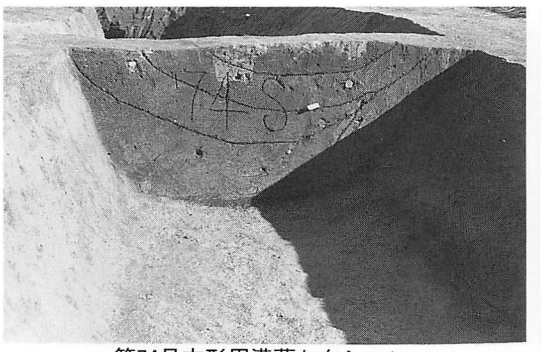
第74号方形周溝墓鉄楔出土状況

第74号方形周溝墓土器出土状況



第74号方形周溝墓セクション

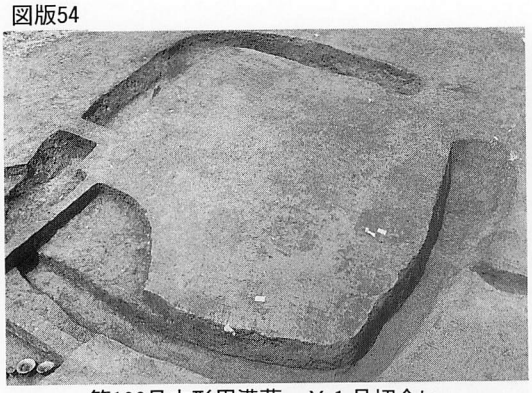
第74号方形周溝墓セクション



第74号方形周溝墓セクション

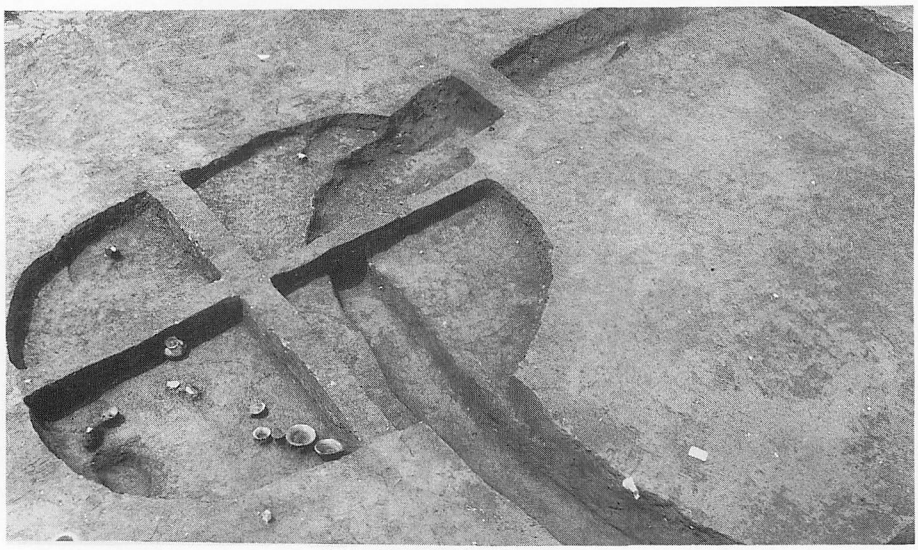
第74号方形周溝墓セクション

図版54

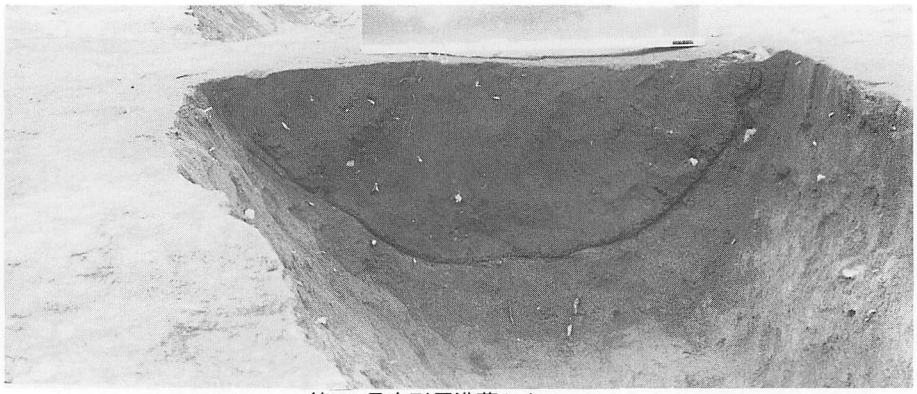


第106号方形周溝墓・Ｙ１号切合い

Ｙ１号住居址・セクション・遺物出土状況



第106号方形周溝墓セクション



第106号方形周溝墓セクション

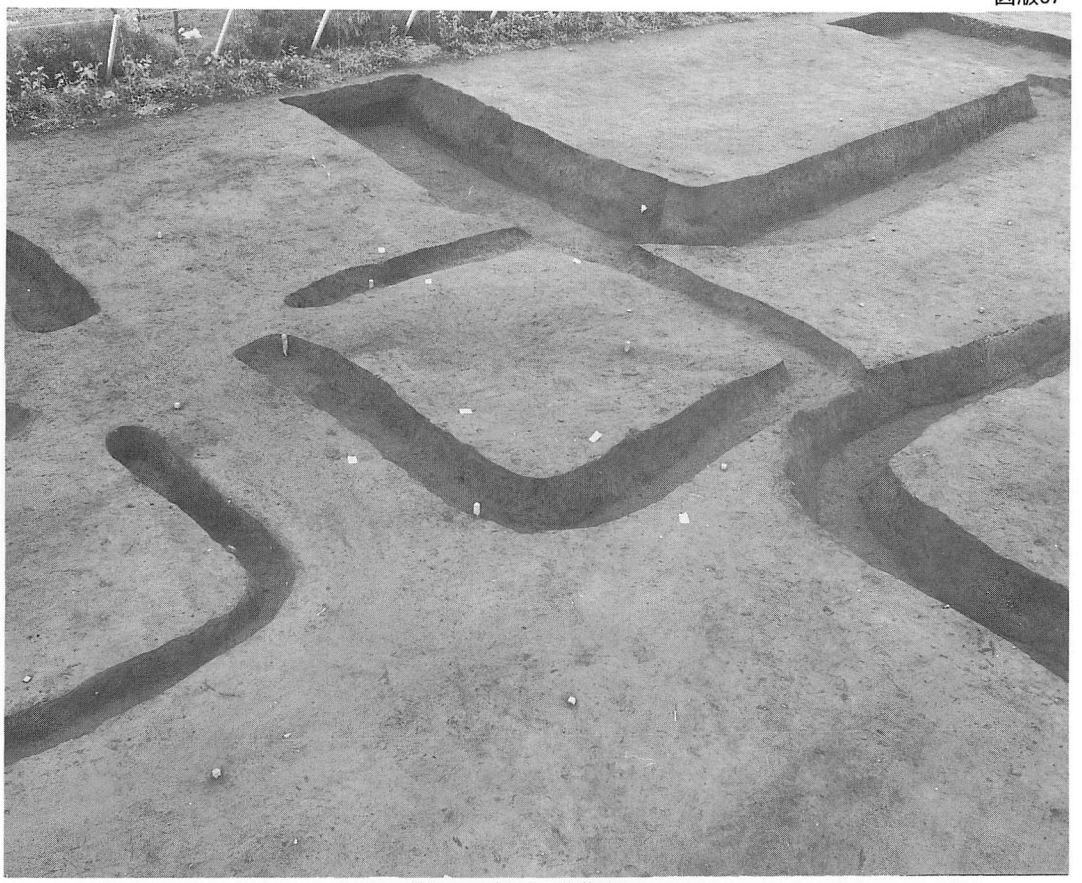
第106、107号方形周溝墓

第107号方形周溝墓全景

図版56

第107号方形周溝墓遺物出土状況

第107号方形周溝墓セクション

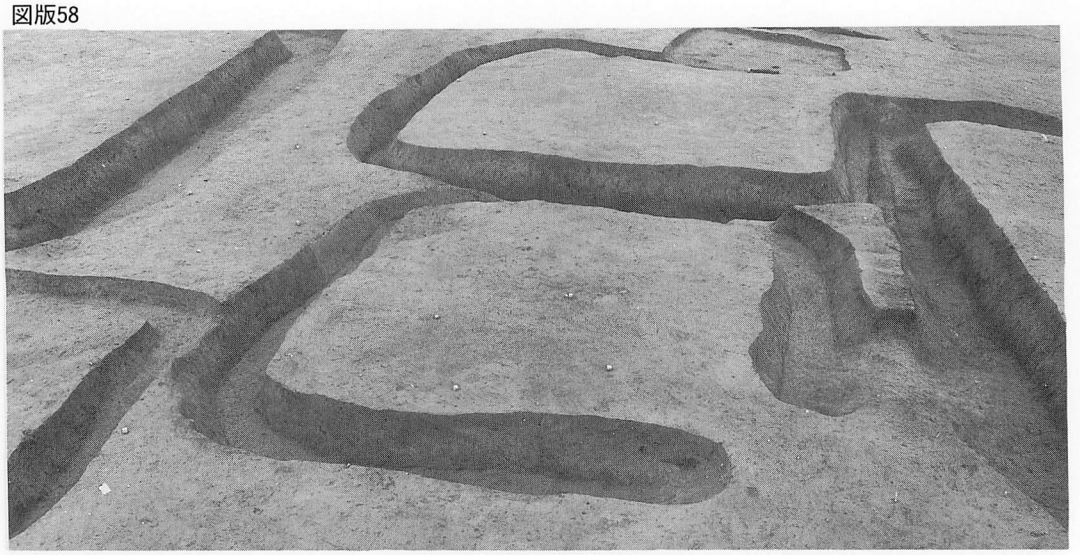


第108号方形周溝墓全景

第108号方形周溝墓全景

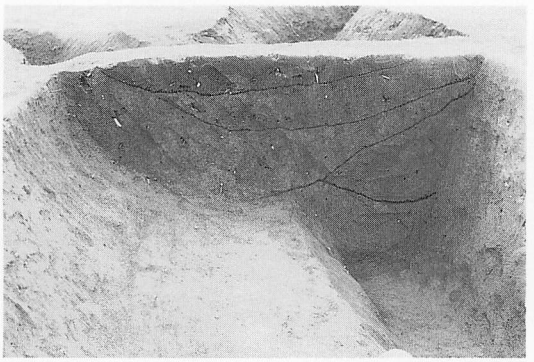
第108号方形周溝墓セクション

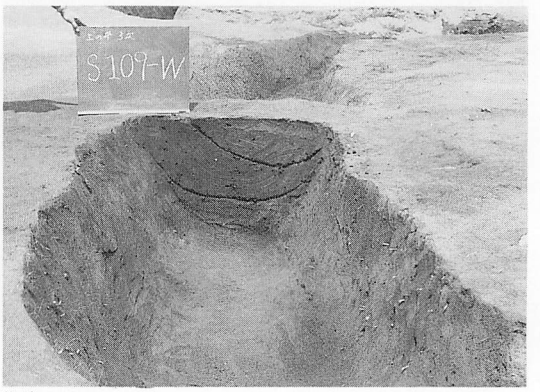
図版58



第109号方形周溝墓全景

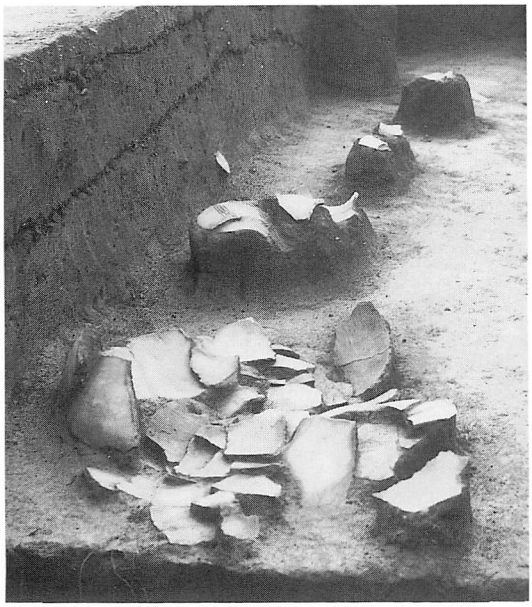
第109号方形周溝墓遺物出土状況





第109号方形周溝墓セクション

第110号方形周溝墓全景



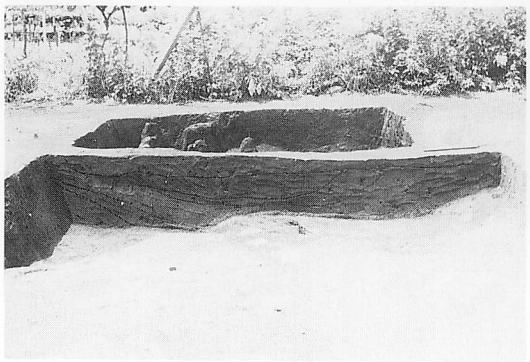
第110号方形周溝墓遺物出土状況（大形壺）

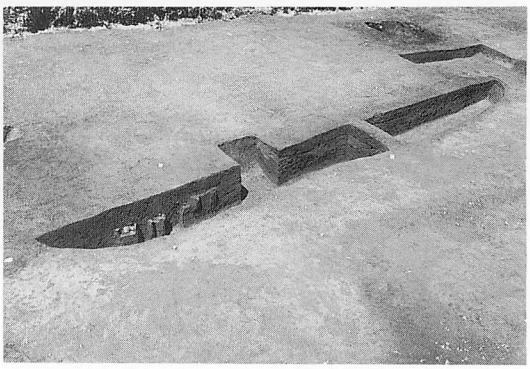
第110号方形周溝墓大形壺出土状況

図版60

第110号方形周溝墓大形壺出土状況

南溝出土状況



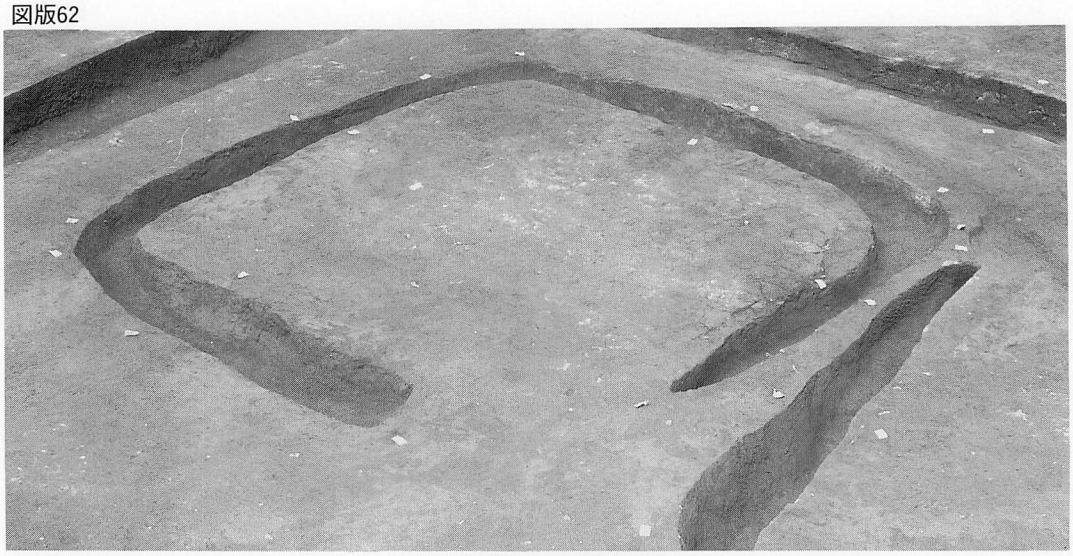


第110号方形周溝墓遺物出土状況

第111号方形周溝墓全景

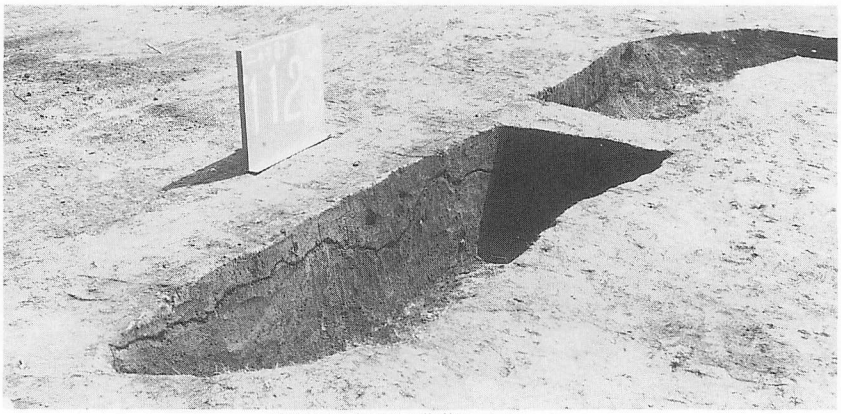
第111号方形周溝墓セクション

図版62



第112号方形周溝墓全景

第112号方形周溝墓セクション



第112号方形周溝墓セクション

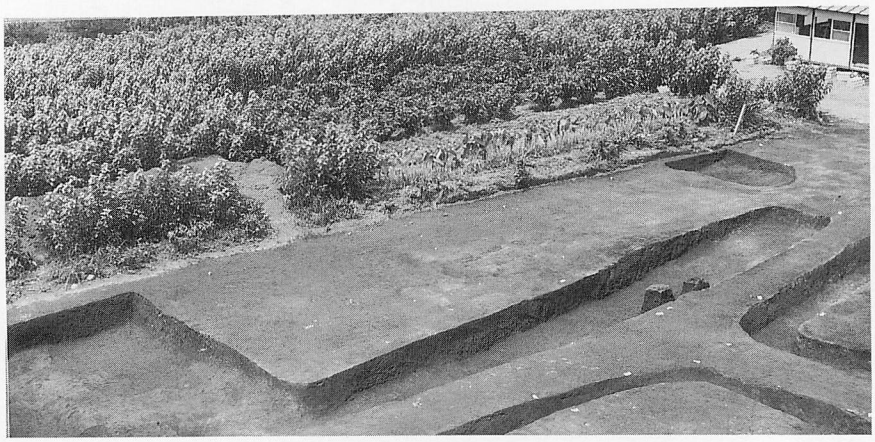
第112号方形周溝墓全景

第112号方形周溝墓セクション

第112号方形周溝墓セクション

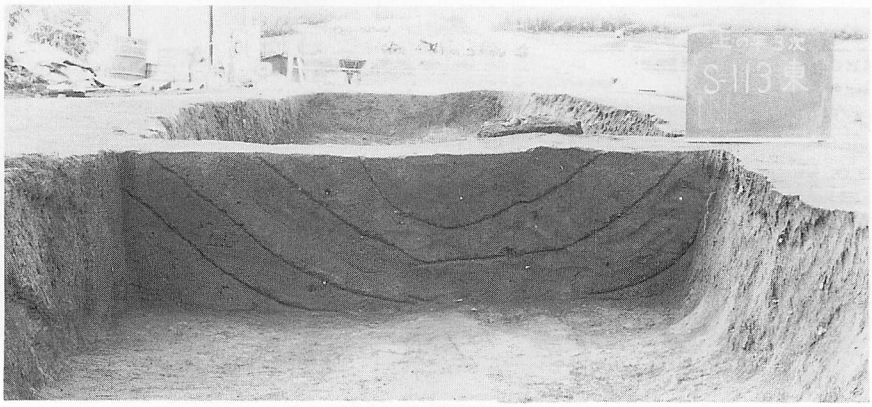
第112号方形周溝墓セクション

第112号方形周溝墓セクション



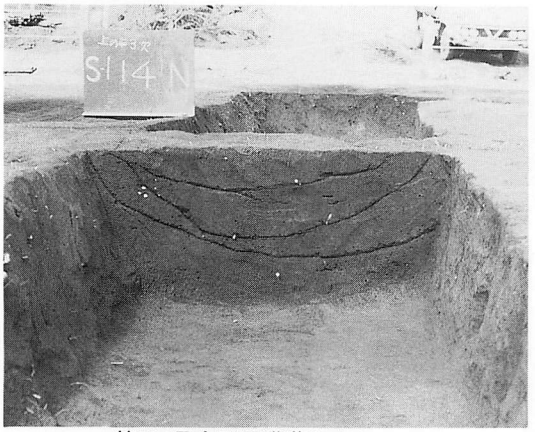
第113号方形周溝墓全景

第113号方形周溝墓セクション



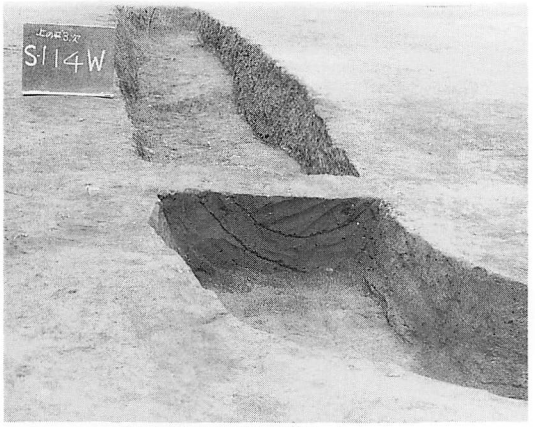
第113号方形周溝墓セクション

第114号方形周溝墓全景



第114号方形周溝墓セクション

第114号方形周溝墓セクション

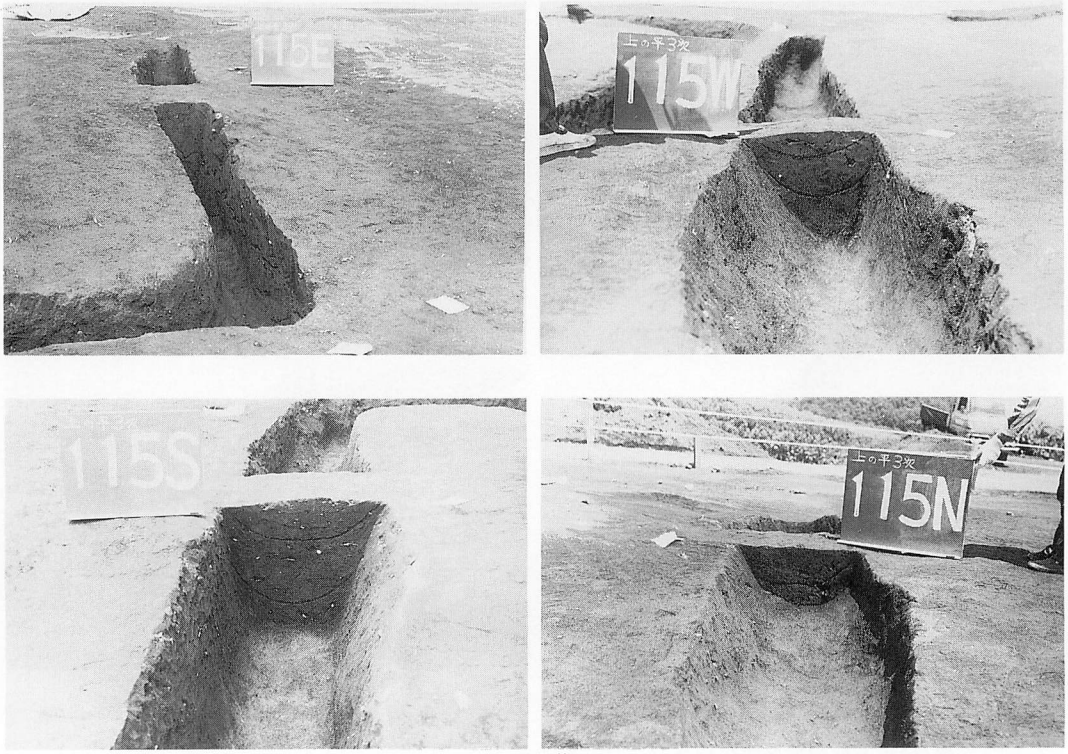


第114号方形周溝墓セクション

第114号方形周溝墓セクション

図版66

第115号方形周溝墓全景



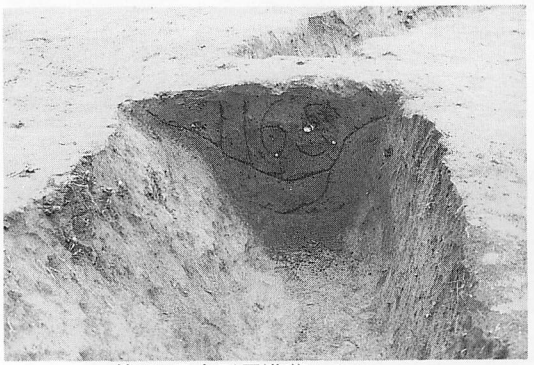
第115号方形周溝墓セクション

第116号方形周溝墓全景

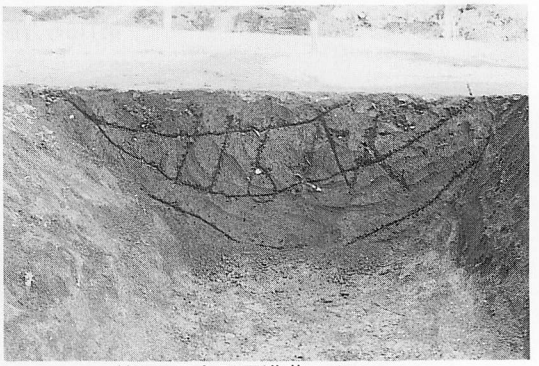
第116号方形周溝墓遺物出土状況

図版68

第116号方形周溝墓遺物出土状況



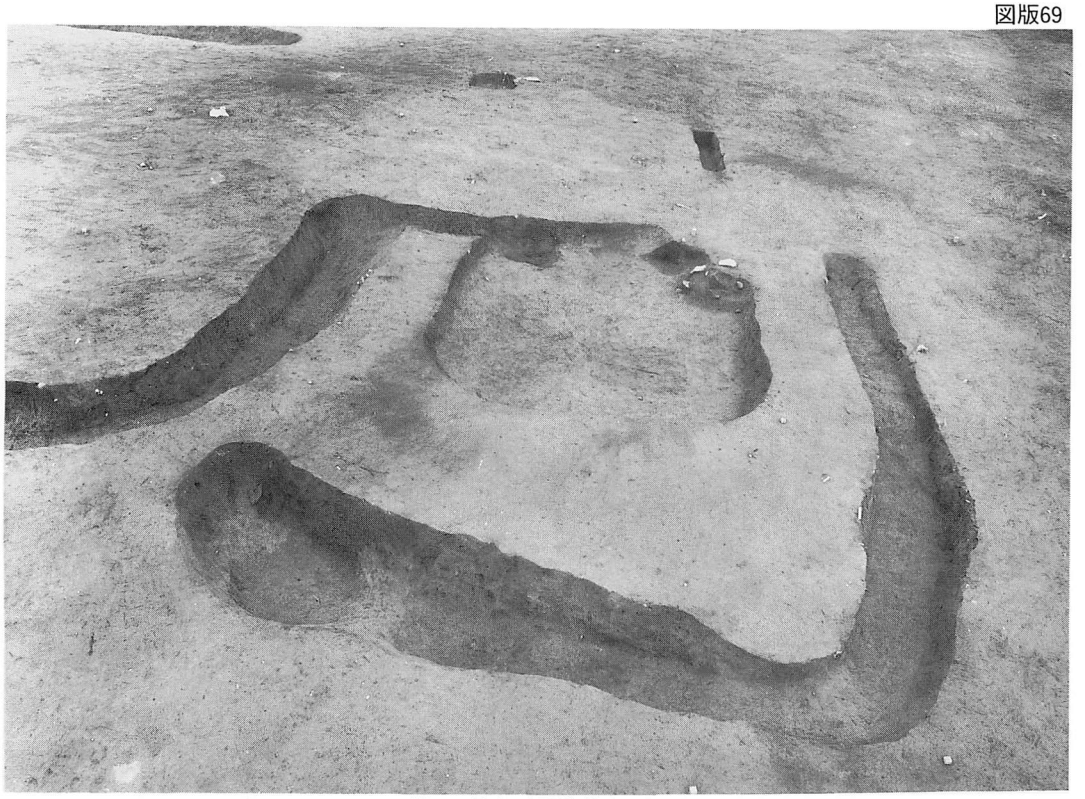
第116号方形周溝墓セクション



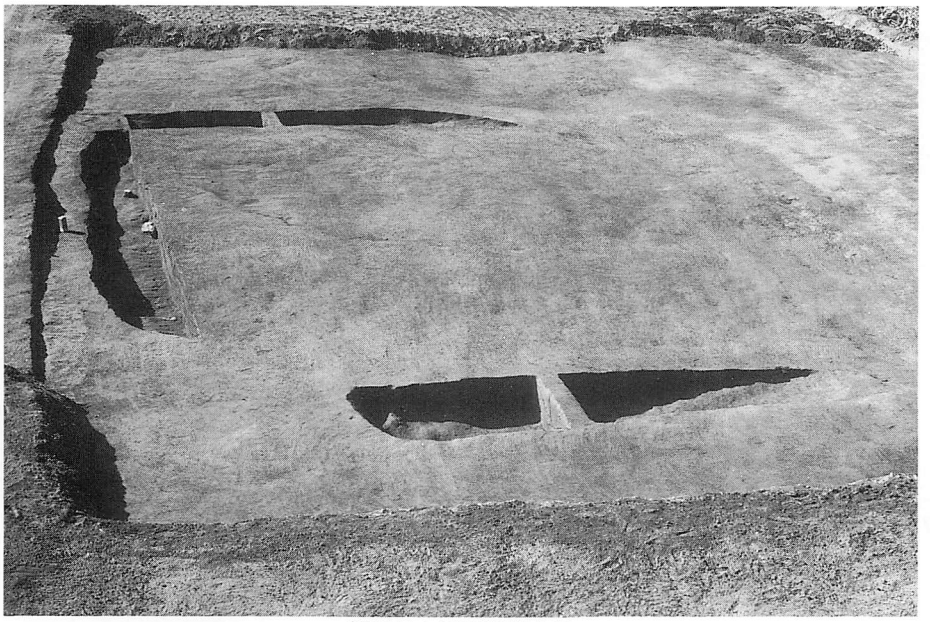
第116号方形周溝墓セクション

第116号方形周溝墓セクション

第116号方形周溝墓セクション



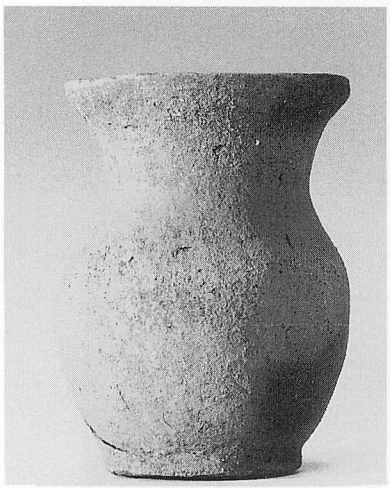
第117号方形周溝墓全景



第80号方形周溝墓全景

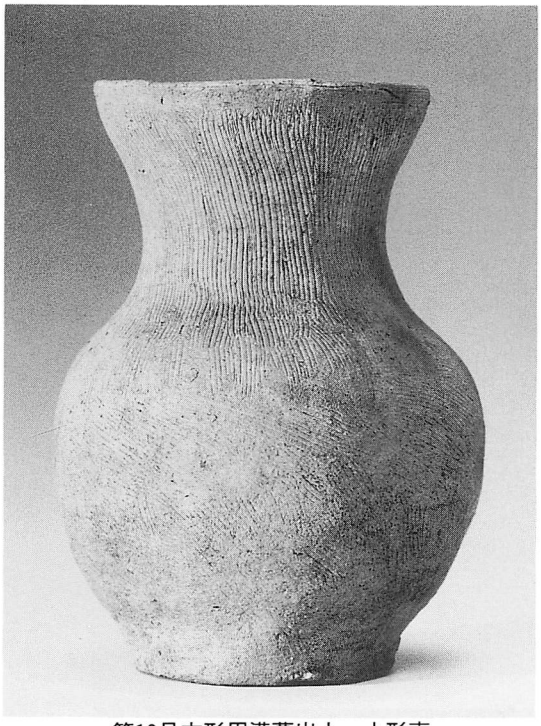
図版70

第１号方形周溝墓出土・大形壺



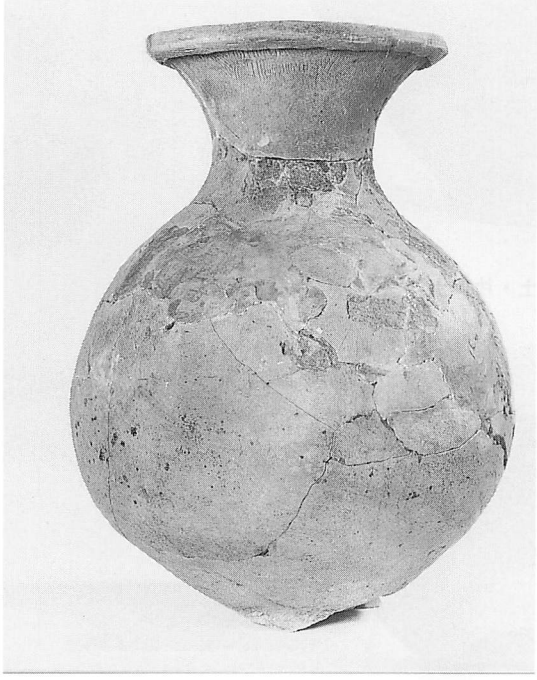
第７号方形周溝墓出土・小形壺

第８号方形周溝墓出土・壺

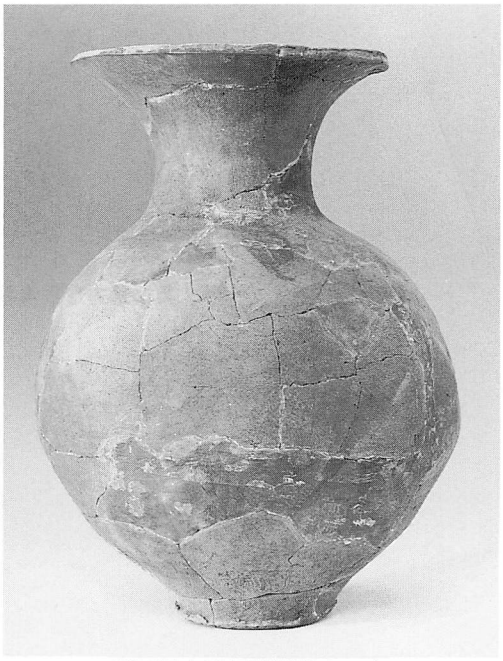


第10号方形周溝墓出土・小形壺

第18号方形周溝墓出土・小形甕

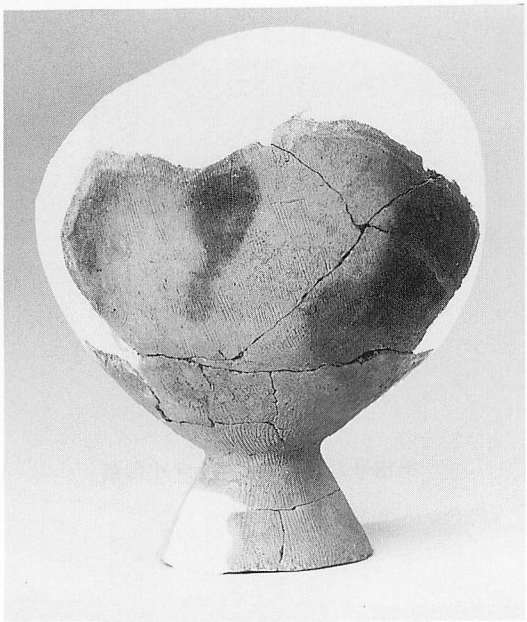


第15号方形周溝墓出土・壺



第15号方形周溝墓出土・壺

図版72

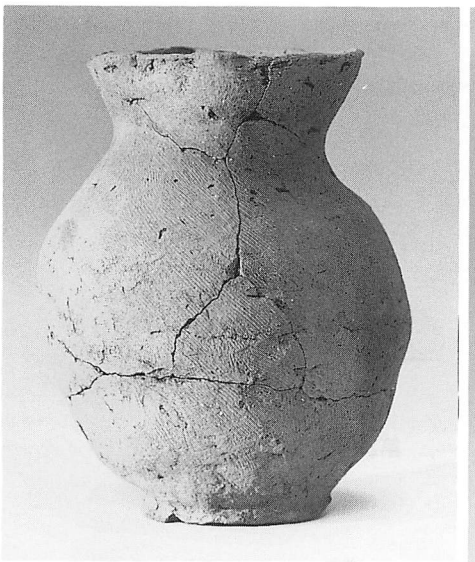


第15号方形周溝墓出土・台付甕

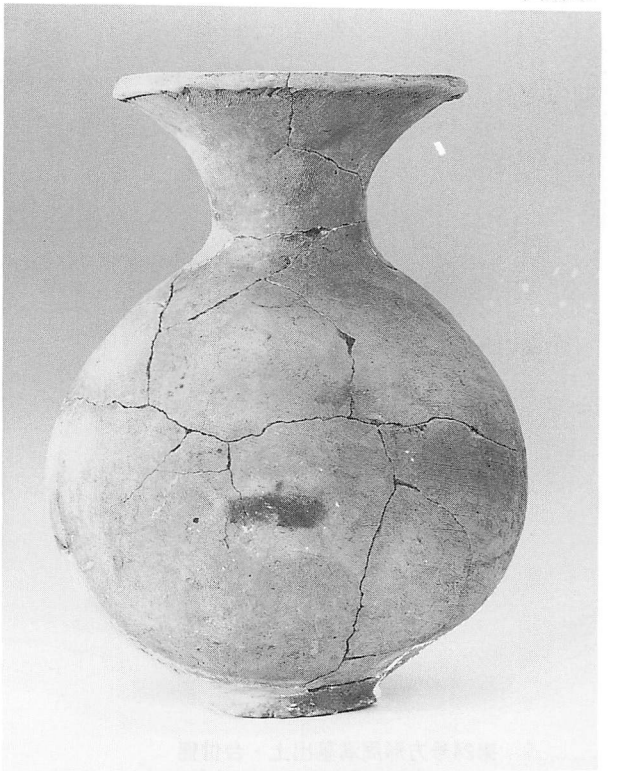
第23号方形周溝墓出土・台付甕

第23号方形周溝墓出土・片口土器（正面）

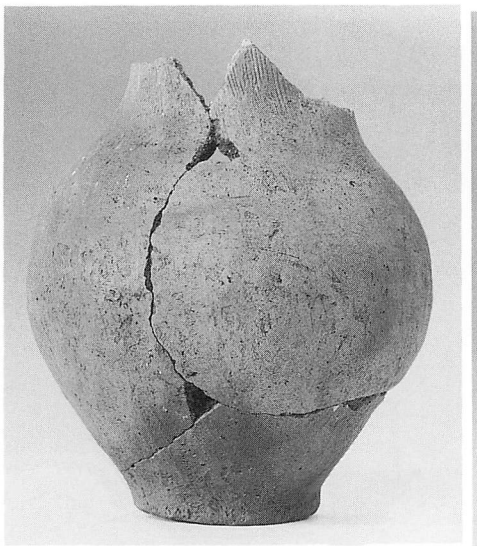
第23号方形周溝墓出土・片口土器（側面）



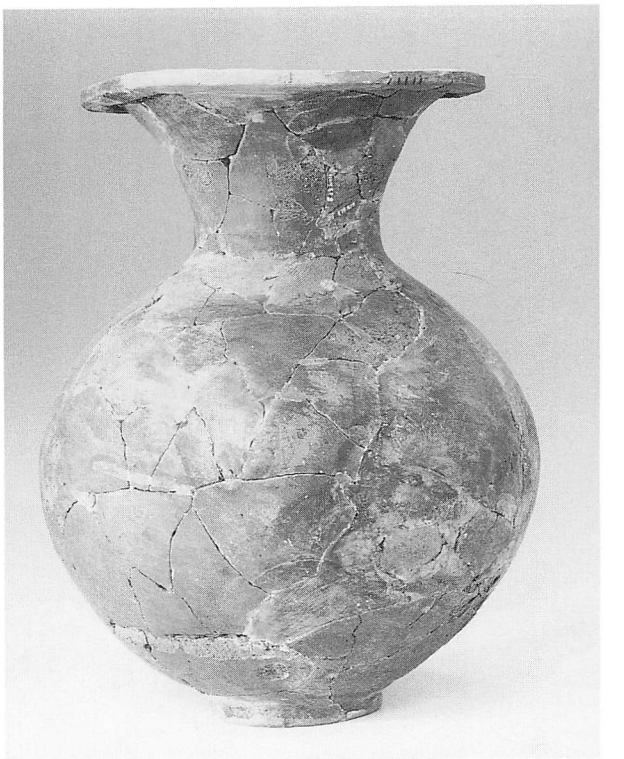
第20号方形周溝墓出土・壺



第27号方形周溝墓出土・壺

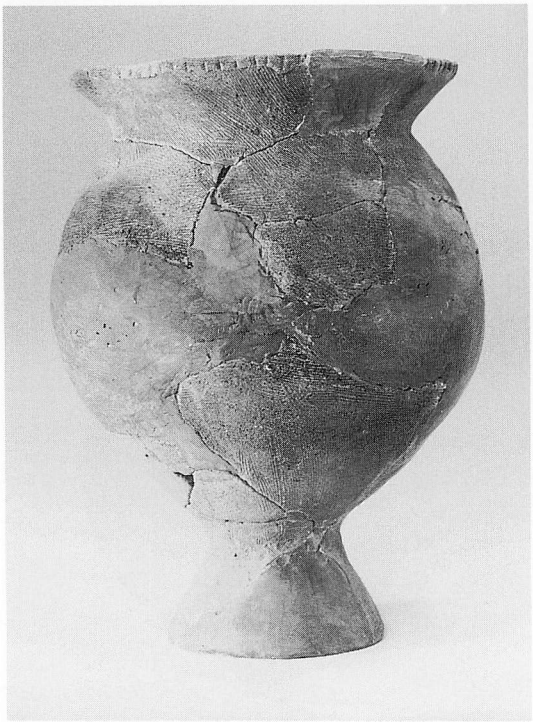


第20号方形周溝墓出土・壺



第28号方形周溝墓出土・壺

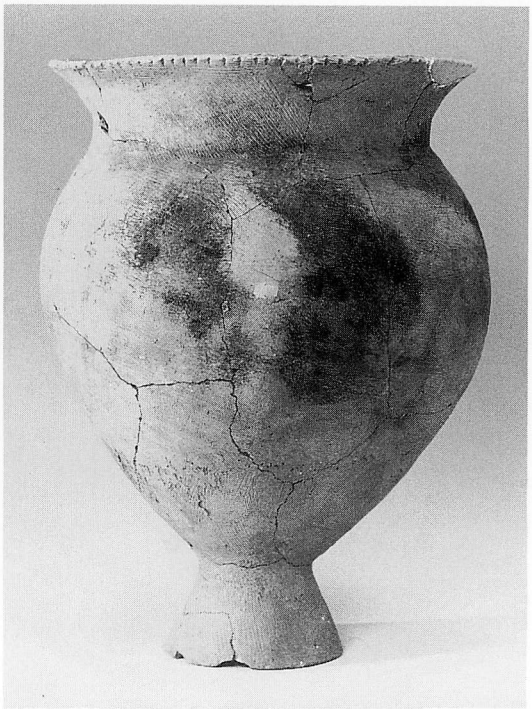
図版74



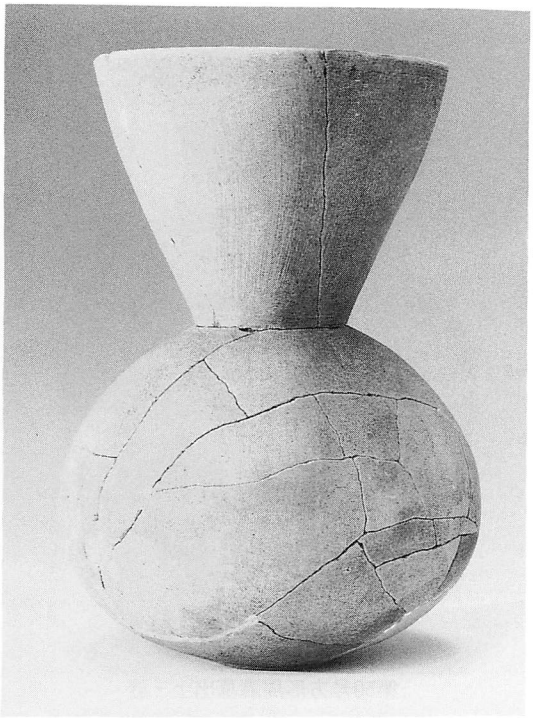
第24号方形周溝墓出土・台付甕

第29号方形周溝墓出土・壺

第34号方形周溝墓出土・台付鉢形土器



第34号方形周溝墓出土・台付甕



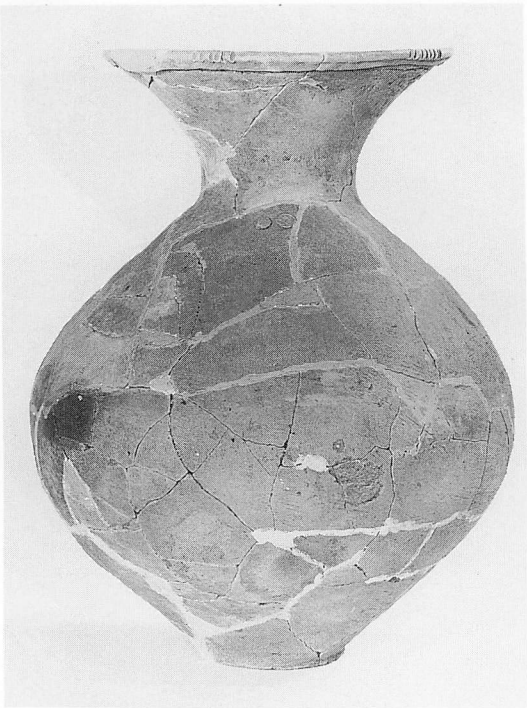
第37号方形周溝墓出土・長頸壺

第47号方形周溝墓出土・小形鉢形土器

第51号方形周溝墓出土・高坏

第58号方形周溝墓出土・甕

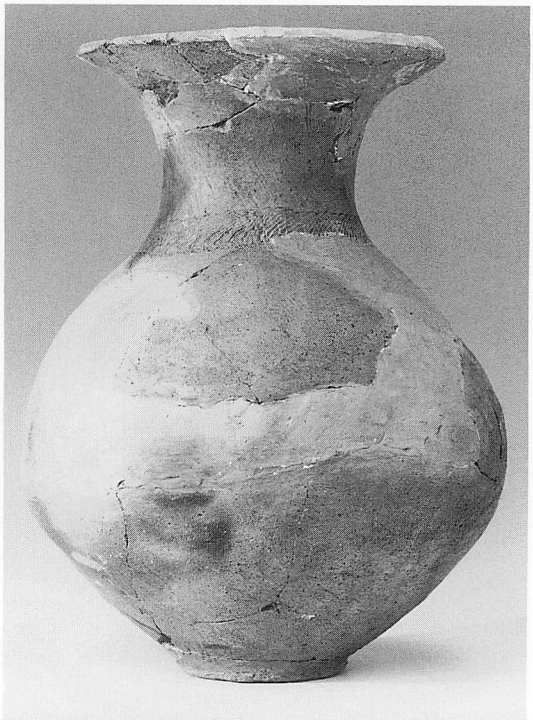
図版76



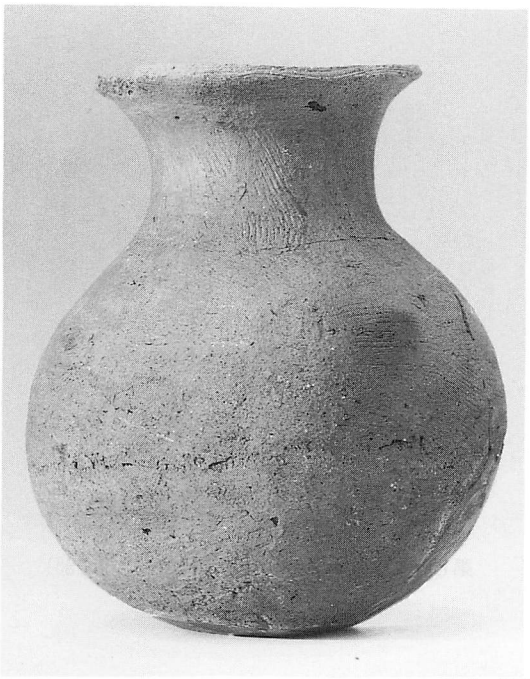
第50号方形周溝墓出土・壺

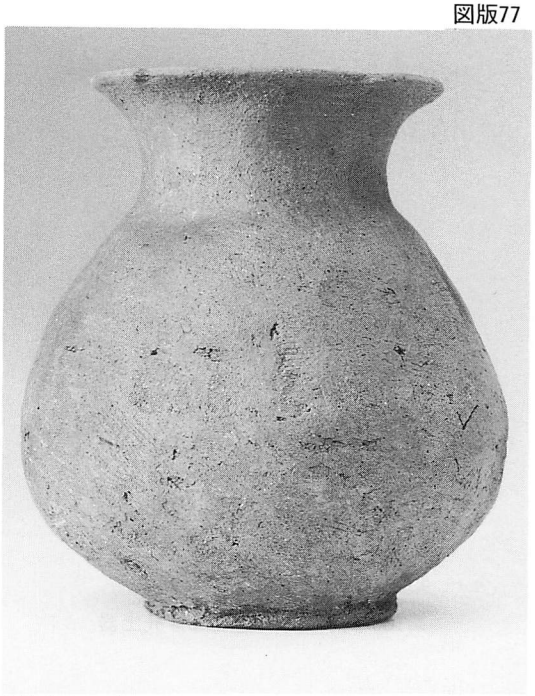
第50号方形周溝墓出土・壺

第50号方形周溝墓出土・壺

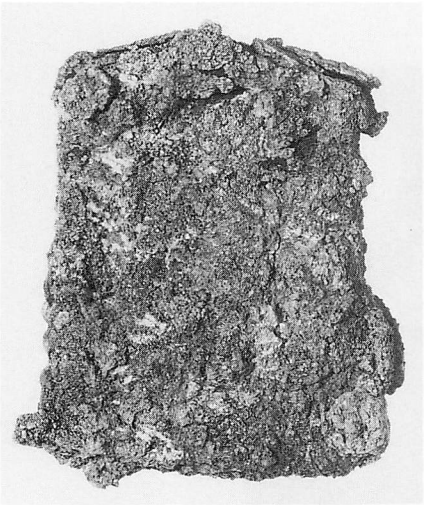


第50号方形周溝墓出土・壺

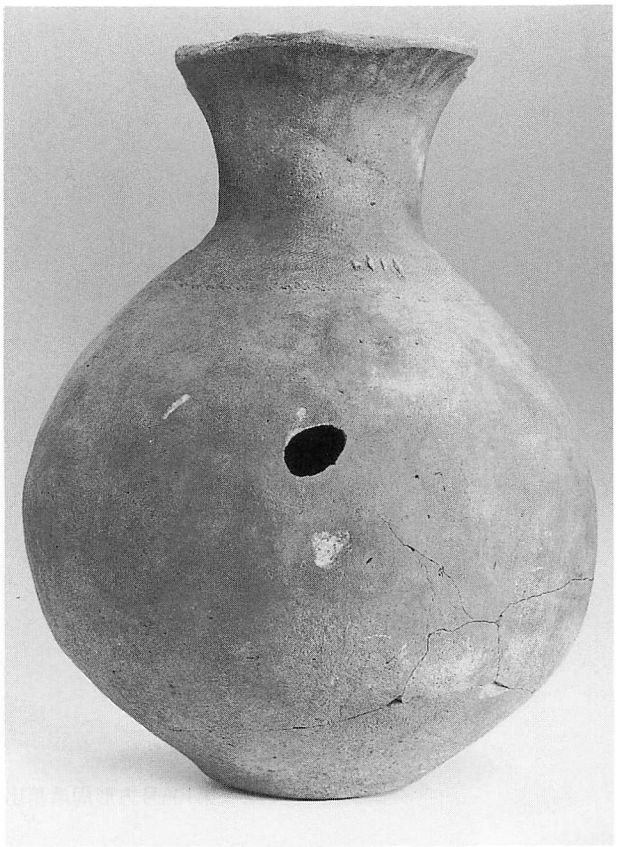




第74号方形周溝墓出土・壺

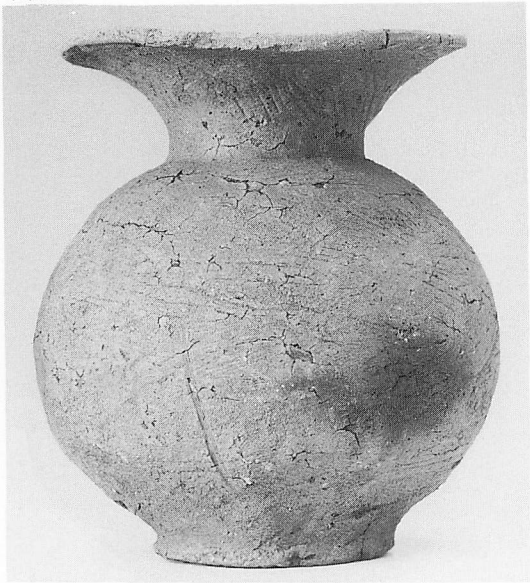


第74号方形周溝墓出土・鉄楔



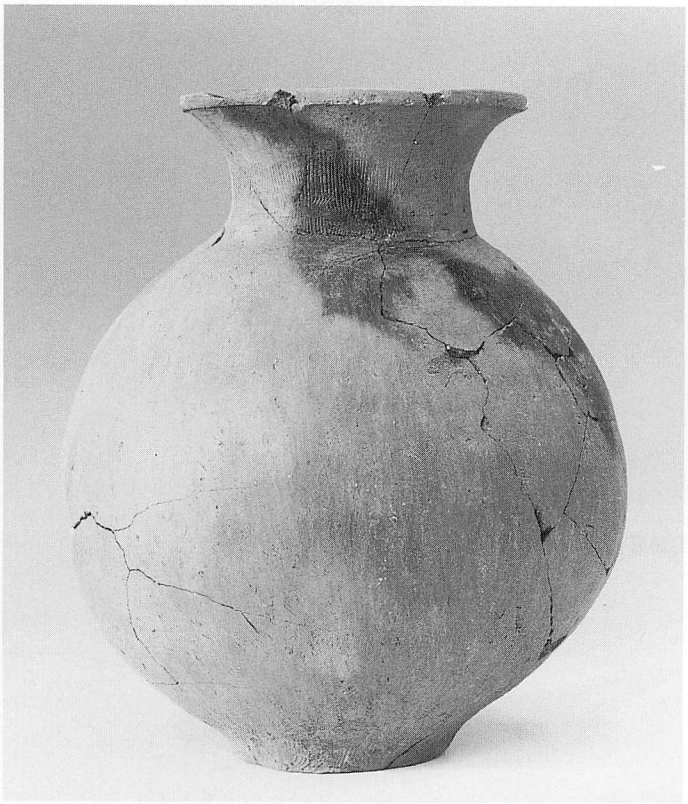
第74号方形周溝墓出土・壺

図版78



第106号方形周溝墓底部穿孔土器

第106号方形周溝墓出土土器（左図の底部）

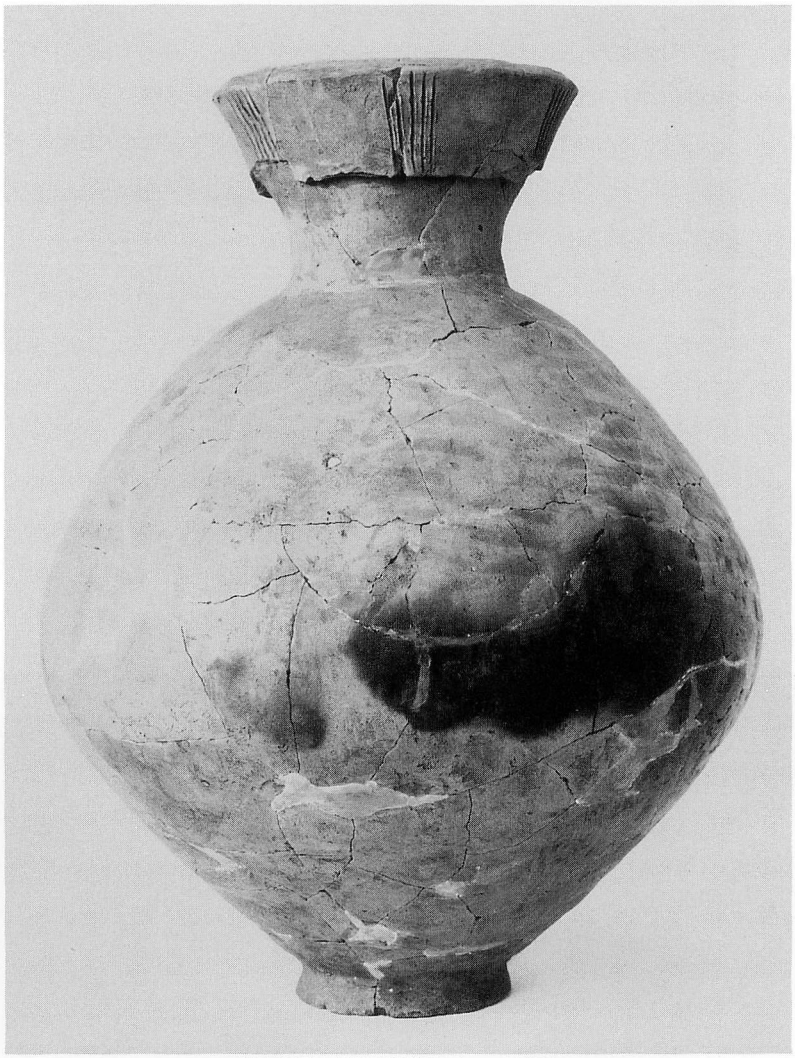


第106号方形周溝墓出土・壺

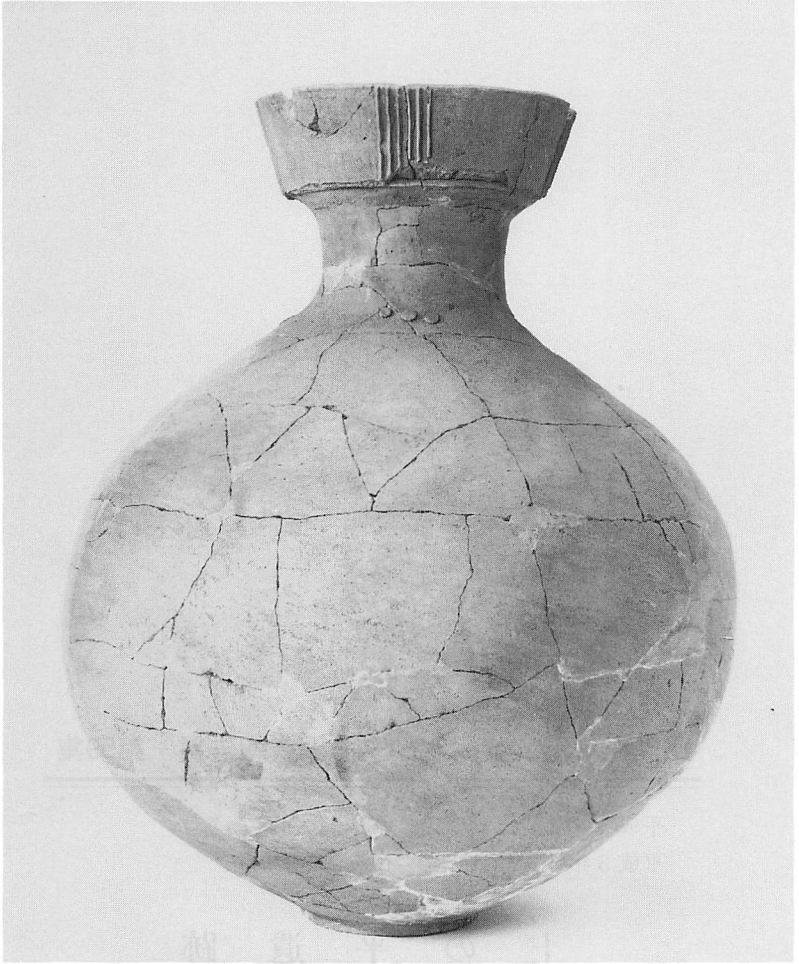
第110号方形周溝墓出土・大形壺

第110号方形周溝墓出土・壺

第110号＋109号方形周溝墓出土・壺（接合資料・正面肩部より胴部破片110号他は109号）



第110号方形周溝墓出土・大形壺



第116号方形周溝墓出土土器

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第59集

平成３年２月25日　印　刷
平成３年３月30日　発　行

上　の　平　遺　跡

編集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923

発行　山梨県教育委員会

印刷　株式会社　少国民社